

平成 28 年度 (2016)

シラバス

科目等履修生・授業公開受講生用

筑波学院大学

日本の祭礼と芸能	1
プレゼンテーション	2
華道	3
スポーツA	4
スポーツB	5
人文科学科目A（西洋史）	6
人文科学科目B（人権思想）	7
人文科学科目C（地理）	8
自然科学科目B（エネルギー科学）	9
自然科学科目C（環境科学）	10
自然科学科目C（地球の過去・現在・未来）	11
社会科学科目A（日本国憲法）	12
社会科学科目A（法学）	13
社会科学科目A（民法）	14
社会科学科目B（政治学）	15
学際科目D（華道）	16
日本語A①（再履修）	17
日本語A②（再履修）	18
日本語A③（再履修）	19
日本語B①	20
日本語B②	21
日本語B③	22
情報倫理（留学生対象）	23
情報倫理	24
世界史	25
日本史（留学生対象）	26
現代の思想	27
地理	28
地理学	29
社会と科学技術	30
環境科学	31
地球と資源	32
日本国憲法	33
法律の基礎	34
政治の基礎	35

心理学	36
情報科学入門【2014年度以降入学生対象】	37
情報基礎C（インターネット）④	38
情報科学入門【2013年度以前入学者】	39
データ分析と統計1	40
情報数理解析	41
日本語リテラシーA①	42
日本語リテラシーA②	43
日本語リテラシーA③	44
日本語リテラシーB①	45
日本語リテラシーB②	46
日本語リテラシーB③	47
経営と情報	48
フードシステム1	49
ユニバーサルデザイン1	50
ライフスパンと認知心理	51
メディアと文化	52
映像編集・制作A	53
映像編集・制作B	54
世界遺産A	55
世界遺産B	56
機械CAD1	57
機械CAD2	58
アルゴリズム	59
情報数学	60
ビジネス実務	61
経営戦略	62
会社法	63
経営財務	64
経済と社会A1	65
経済と社会A2	66
経済と社会C1	67
国際観光情報論	68
ホスピタリティマネジメント1	69
ホスピタリティマネジメント2	70

観光情報 1	71
観光情報 2	72
経済安全保障 1	73
民法	74
仕事のための基礎数理 1	75
仕事のための基礎数理 2	76
色彩学	77
レポート・メールの技術	78
クラウドワーキング	79
グラフィックデザインA	80
グラフィックデザインB	81
デザイン基礎A①	82
デザイン基礎A②	83
デザイン基礎B①	84
デザイン基礎B②	85
アニメと映像A	86
アニメと映像B	87
アニメーションA	88
アニメーションB	89
映像と文化A	90
組込コンピューティングA	91
組込コンピューティングB	92
情報調査法A	93
情報調査法B	94
マーケティングA	95
マーケティングB	96
簿記会計A	97
簿記会計B	98
航空ビジネスA	99
航空ビジネスB	100
ホテルマネジメントA	101
ホテルマネジメントB	102
スポーツ産業A	103
スポーツ産業B	104
経営戦略 1	105

経営戦略2	106
アメリカ社会と政治経済	107
経済安全保障	108
簿記会計C	109
簿記会計D	110
スポーツマネジメントA	111
スポーツマネジメントB	112
国際コミュニケーションの基礎1	113
現代社会と地域文化	114
現代社会と地域文化1	115
国際社会と文化A	116
国際社会と文化B	117
交通産業	118
航空ビジネス	119
PR 広報戦略	120
国際協力・社会支援	121
セラピー論	122
メディアリテラシー	123
映像サウンド表現A	124
アニメーション基礎	125
映像と文化	126
マンガ表現A	127
ビジュアルライジングプログラミング	128
自立生活デザイン	129
ユニバーサルデザインA	130
ユニバーサルデザインB	131
CAD基礎1	132
CAD基礎2	133
eラーニング	134
組込コンピューティング	135
フィジカルコンピューティング1	136
フィジカルコンピューティング2	137
博物館概論	138
日本の文化と歴史	139
ヨーロッパの文化と歴史	140

コンピュータシステム	141
観光ビジネス	142
卒業研究	143
観光ビジネス1	144
観光ビジネス2	145
フィジカルコンピューティングの活用1	146
フィジカルコンピューティングの活用2	147
キャリアデザインA BA・BB 2016年入学生	148
キャリアデザインA BA・BB 2016年入学生	149
キャリアデザインA BA・BB 2015年入学生	150
キャリアデザインA BC・BD 2015年入学生	151
キャリアデザインB	152
国際コミュニケーションの基礎	153
博物館経営論	154
教育心理学	155
教育社会学	156
情報科教育法1	157
情報科教育法2	158
情報教育概論	159
道徳教育	160
視聴覚教育法	161
教育方法論	162
教育相談	163
情報科教材研究	164

授 業 科 目	日本の祭礼と芸能		担 当 教 員	坂本 要	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	月曜3時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	進路支援科目群 資格科目（学芸員資格科目）				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力, ローカル・グローバルセンス				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	日本祭礼芸能史日本の祭り ¹ と芸能についての知識を学ぶ。神社・寺院等の基本的な知識と民間宗教者、民俗芸能について講ずる。日本各地には多くの祭礼と芸能がある。祭礼と芸能は多くは風流化し見せるためのものとなっているため、観光資源として活用されている。これらの各地の祭礼と芸能を紹介するとともに、祭礼・芸能の本来の意味をさぐり、祭礼の構造、芸能の分類またそれらの歴史的経緯をさぐり、祭礼芸能の理解を深めるように学習する。				
授業の到達目標	文化的な知識を養う。日本の宗教や文化を深く、多角的にとらえられるようにする。一般的な教養を深めるとともに、博物館学芸員資格の関連科目として設定されている。【問題発見力】難しい語句がおおいので、授業後辞書で確認することが必要である。				
授 業 計 画	1回 1 民間信仰と芸能 2回 2 神社と祭礼 3回 3 祭礼の構造 4回 4 民間宗教者 5回 5 巫女と神楽 6回 6 聖と山伏 7回 7 伎楽・雅楽 8回 8 呪師と芸能 9回 9 陰陽師と祝福芸 10回 10 田楽と獅子舞 11回 11風流と盆踊り 12回 12語り物 13回 13 猿楽と能 14回 14 念仏芸能 15回 15沖縄の芸能				
評 価 方 法	レポート				
テ キ ス ト	プリント				
参 考 文 献	授業時にプリントで配布する				
備 考	【資格対象科目：観光ビジネス実務士】 【博物館学芸員資格】				

授 業 科 目	プレゼンテーション		担 当 教 員	二井矢 由美子	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・実習	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	集中科目	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 共通科目[2014年度以降入学生]、専門基礎科目群 共通科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格	上級情報処理士, 上級ビジネス実務士, 観光ビジネス実務士, 実践キャリア実務士				
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 実行力/チャレンジ精神, 言語運用力				
履 修 条 件	特になし。演習形式のため、履修人数が25名を超える場合は、教職課程専攻者を優先し、残りの枠は抽選とする。				
授 業 概 要	ネットワークやワークステーションの普及により、これまでは考えられなかったような多種多様なコミュニケーションが行なわれつつある。本講義では専門や所属、年齢を超えて人と係わるためのヒューマンスキルの必要性について認識し、自己表現力、コミュニケーション力を付けることを目標とし、実践を通して効果的なプレゼンテーションの知識と技能を学ぶ。さらに、将来、教員またはインストラクターとしてプレゼンテーション技法を教えるために必要な考え方や指導法、評価方法についても体験しながら学ぶ。				
授業の到達目標	受講生が、各自プレゼンテーションを実際に準備し、披露するプロセスを通じて、1. 課題の発見や仮説を立てる技術、2. それらを他人に伝える際に必要なコミュニケーション技術、を身につけること。更にそのスキルを今後の様々なプレゼンテーションの場にて応用するやる気を養うこと。				
授 業 計 画	1回 1 情報伝達のための手段 2回 2 情報表現：文章表現と図による表現 3回 3 情報ネットワーク時代のプレゼンテーションの役割 4回 4 プレゼンテーションのためのコミュニケーション能力 5回 5 メディアによる情報伝達の違いと効果 6回 6 効果的な情報伝達について議論 7回 7 テーマを決めて効果的なプレゼンテーションのための設計1（ストーリー、資料の作成） 8回 8 テーマを決めて効果的なプレゼンテーションのための設計2（マルチメディアの活用） 9回 9 テーマを決めて効果的なプレゼンテーションのための設計3（マルチメディアの活用） 10回 10 プレゼンテーションの評価の観点（実例を題材に） 11回 11 プレゼンテーションの実施と相互評価1（グループごとの活動） 12回 12 プレゼンテーションの実施と相互評価2（グループごとの活動） 13回 13 プレゼンテーションの改善活動 14回 14 プレゼンテーションの実施 15回 15 まとめ				
評 価 方 法	出席、授業態度、プレゼンテーションの結果を総合的に判断する。				
テ キ ス ト	特に指定テキストはなし。				
参 考 文 献	マルチメディアと企画+提案+プレゼンテーションの技術、牧島真一、産能大学出版部				
備 考					

授 業 科 目	華道		担 当 教 員	安中 みふゆ	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	木曜3時限、木曜4時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	総合教養科目群 教養科目[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	自己表現力/実行分析力, ローカル・グローバルセンス				
履 修 条 件	なし				
授 業 概 要	自ら草木に触れ実習していく事で、華道に興味を持ってもらい、伝統文化華道の精神・歴史・技術を伝える。また華道は、海外においても「いけばな」として高く評価されており、国際交流の手段のひとつになっています。そこで、現代感覚に適した「いけばな」も取り入れ、国際社会に通じる豊かな感性と教養を育てる。				
授業の到達目標	温暖で四季折々の自然に恵まれた風土の中で生まれた華道の精神・歴史・様式(自由花・生花)を理解する。其々の様式でお花を生ける事が出来るようにする。また日本の伝統文化を学ぶと同時に、他の国々の伝統文化についても考えグローバルセンスを養う。さらに草木の命を感じながら作品をいける事で、自己表現力を身につける。				
授 業 計 画	1回 いけばなの様式 2回 いけばなのはじまり 3回 自由花の特質 4回 生花の基本的花形 5回 生花の本質 6回 自由花の表現内容とその手法 7回 いけばなの歴史1 室町時代 8回 いけばなの歴史2 安土桃山時代～現代 9回 生花の発生と変遷 10回 現代の住環境に適応した自由花 11回 現代生活と生花の適応性1 三種生け 12回 花伝書を読む 13回 現代生活と生花の適応性2 新風体 14回 自然美と造形美を組み合わせた自由花 15回 まとめ		実習：各花形のデモンストレーション・華道具の説明 実習：個性の表現 実習：自己表現のための花材の組み合わせ手法 実習：生花一種いけ 実習：生花二種いけ 実習：花器と花材を素材として構成する自由花 実習：生花 実習：異質物・加工素材と花材との出会いを楽しむ自由花 実習：生花 実習：ミニチュア自由花(自作の花器にいける) 実習：生花三種生け 実習：季節感のある自然的自由花 実習：生花新風体 実習：紙・ビン・ペットボトル等で花器を作る(レリーフ) 実習：生花		
評 価 方 法	平常点60点・レポート40点				
テ キ ス ト	図録いけばなの流れ・各花形の専門書(日本華道社)から、必要に応じてテキストを作り配布				
参 考 文 献	華道古書集成(思文閣出版)、池坊生花研究「浮雲」(日本華道社)、花守人のいけばな(日本華道社)				
備 考	シラバスは木曜3時限目のみと表示されていますが、2コマ連続開講となります。(木曜3、4時限目)希望者は華道免許を取得することができます。				

授 業 科 目	スポーツA		担 当 教 員	苦瓜 一斉	
授業ナンバリング		授 業 形 態	実習	単 位 数	1単位
学 期	前期	曜 日 時 限	金曜2時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	総合教養科目群 教養科目[2014年度以降入学生]、総合教養科目群 教養基礎科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神				
履 修 条 件	<ul style="list-style-type: none"> ・授業一回目のオリエンテーションに出席すること ・競技ルール、および授業ルールを遵守できること ・運動できる服装に着替えて授業に参加すること ・室内を利用する際には、必ず室内履きを用意すること 				
授 業 概 要	この授業では、フライングディスク、バレーボール、サッカー、バドミントン、バスケットボール、ソフトボール、ボクシングなど、さまざまなスポーツを行います。そして、スポーツを通して、ルールを守ること、人とコミュニケーションをはかること、協力して目的を達成することなどを学んでいきます。授業は、体育館および屋外を利用します。参加する際には、運動のできる服装（高校時代の体操服でもかまいません）に着替え、体育館においては、室内履き用シューズを必ず使用してください。				
授業の到達目標	スポーツルールを理解し、身体を動かす楽しさを理解すること。また、様々なスポーツ種目を通して、コミュニケーション能力や協調性、表現力、問題解決能力、チャレンジ精神を養うことを目的とします。				
授 業 計 画	<p>1回 オリエンテーション教室については、掲示します。授業の取り組み方や目的について説明します。</p> <p>2回 実技：フライングディスク 基礎技術の習得</p> <p>3回 実技：フライングディスク 基礎技術の習得及びチーム練習</p> <p>4回 実技：フライングディスク 基礎技術の習得及びチーム戦術</p> <p>5回 実技：フライングディスク 基礎技術の習得及びチーム戦術</p> <p>全体ディスカッション</p> <p>6回 実技：フライングディスク 試合</p> <p>7回 実技：バスケットボール 基礎技術の習得</p> <p>8回 実技：バスケットボール 基礎技術の習得及びチーム練習</p> <p>9回 実技：バスケットボール 基礎技術の習得及びチーム戦術</p> <p>10回 実技：バスケットボール 基礎技術の習得及びチーム戦術</p> <p>全体ディスカッション</p> <p>11回 実技：バスケットボール 試合</p> <p>12回 実技：フットサル 基礎技術の習得</p> <p>13回 実技：フットサル 基礎技術の習得及びチーム練習、チーム戦術</p> <p>14回 実技：フットサル 基礎技術の習得及びチーム戦術</p> <p>15回 実技：フットサル 試合授業全体のまとめ</p> <p style="text-align: right;">戦術に関する 戦術に関する全 戦術に関する全体ディスカッション</p>				
評 価 方 法	ルールを守ることができているか、協調性があるか、積極的に参加しているかについて、総合的に評価します。				
テ キ ス ト	特になし				
参 考 文 献	特になし				
備 考	授業第一回目に、オリエンテーションを行い、授業のルールや目的を説明します。受講希望者は、必ず、このオリエンテーションに出席してください。また、希望者多数の場合は、用具、場所の関係から人数制限を行う場合もあります。実技の内容や種目は、環境や進行状況に応じて変更になる場合があります。				

授 業 科 目	スポーツB		担 当 教 員	苦瓜 一斉	
授業ナンバリング		授 業 形 態	実習	単 位 数	1単位
学 期	後期	曜 日 時 限	金曜2時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	総合教養科目群 教養科目[2014年度以降入学生]、総合教養科目群 教養基礎科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神				
履 修 条 件	・授業一回目のオリエンテーションに出席すること・競技ルール、および授業ルールを遵守できること・運動できる服装に着替えて授業に参加すること・室内を利用する際には、必ず室内履きを用意すること				
授 業 概 要	この授業では、フライングディスク、バレーボール、サッカー、バドミントン、バスケットボール、ソフトボール、ボクシングなど、さまざまなスポーツを行います。そして、スポーツを通して、ルールを守ること、人とコミュニケーションをはかること、協力して目的を達成することなどを学んでいきます。授業は、体育館および屋外を利用します。参加する際には、運動のできる服装（高校時代の体操服でもかまいません）に着替え、体育館においては、室内履き用シューズを必ず使用してください。				
授業の到達目標	スポーツルールを理解し、身体を動かす楽しさを理解すること。また、様々なスポーツ種目を通して、コミュニケーション能力や協調性、表現力、問題解決能力、チャレンジ精神を養うことを目的とします。				
授 業 計 画	<p>1回 オリエンテーション教室については、掲示します。授業の取り組み方や目的について説明します。</p> <p>2回 実技：フライングディスク 基礎技術の習得</p> <p>3回 実技：フライングディスク 基礎技術の習得及びチーム練習</p> <p>4回 実技：フライングディスク 基礎技術の習得及びチーム戦術</p> <p>5回 実技：フライングディスク 基礎技術の習得及びチーム戦術</p> <p>全体ディスカッション</p> <p>6回 実技：フライングディスク 試合</p> <p>7回 実技：バレーボール 基礎技術の習得</p> <p>8回 実技：バレーボール 基礎技術の習得及びチーム練習</p> <p>9回 実技：バレーボール 基礎技術の習得及びチーム戦術</p> <p>10回 実技：バレーボール 基礎技術の習得及びチーム戦術</p> <p>全体ディスカッション</p> <p>11回 実技：バレーボール 試合</p> <p>12回 実技：フットサル 基礎技術の習得</p> <p>13回 実技：フットサル 基礎技術の習得及びチーム練習、チーム戦術</p> <p>14回 実技：フットサル 基礎技術の習得及びチーム戦術</p> <p>全体ディスカッション</p> <p>15回 実技：フットサル 試合授業全体のまとめ</p>				
評 価 方 法	ルールを守ることができているか、協調性があるか、積極的に参加しているかについて、総合的に評価します。				
テ キ ス ト	特になし				
参 考 文 献	特になし				
備 考	授業第一回目に、オリエンテーションを行い、授業のルールや目的を説明します。受講希望者は、必ず、このオリエンテーションに出席してください。また、希望者多数の場合は、用具、場所の関係から人数制限を行う場合もあります。実技の内容や種目は、環境や進行状況に応じて変更になる場合があります。				

授 業 科 目	人文科学科目 A (西洋史)		担 当 教 員	小松 進	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	火曜 4 時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	総合教養科目群 総合教養科目 [2013年度以前入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	ローカル・グローバルセンス				
履 修 条 件	西洋文明に関心があること。				
授 業 概 要	西洋文化の揺籃の地となったのは古代の地中海世界であった。西洋文化の二大源流とも言うべきヘレニズムとヘブライズムのいずれもがこの古代地中海世界で胚胎する。両源流を生み出す母胎となった古代ギリシアのポリス社会と古代イスラエル文明、古代イスラエルの伝統を引き継ぎながらも世界宗教へと脱皮するキリスト教、ヘレニズムとヘブライズムの両伝統を包摂しそれをヨーロッパへと橋渡しするローマ帝国、地中海を舞台として展開するこうした歴史的事象を概観しながら西洋文化の成り立ちを考える。				
授業の到達目標	現代の国際社会に広く行き渡っている文化的価値観や政治・経済・社会システムの形成に多大な影響を及ぼしたのは西洋文明である。その西洋文明の根源にあるものへの理解を深めるとともに、今後西洋文明を学ぶための基礎知識を身につけさせる。				
授 業 計 画	1回 授業へのガイダンス：ヨーロッパ世界の特質 2回 古代地中海世界の特質 3回 重装歩兵ポリスとしてのスパルタ 4回 民主政市民ポリスとしてのアテネ 5回 ローマ帝国の形成過程 6回 ローマ帝国の構造 7回 ローマ帝国の衰退 8回 古代イスラエル民族の形成過程 9回 古代イスラエル国家の歴史 10回 古代イスラエル国家の崩壊 11回 ユダヤ民族とユダヤ教団の形成 12回 ヘレニズムとユダヤ教団 13回 ローマ帝国支配下のユダヤ社会 14回 14 キリスト教団の成立 15回 15 ローマ帝国とキリスト教				
評 価 方 法	授業にのぞむ姿勢と試験で評価する。				
テ キ ス ト	特に指定しない。				
参 考 文 献	興味をおぼえた学生には、要望があればいつでも参考文献を紹介する。				
備 考					

授 業 科 目	人文科学科目B (人権思想)		担 当 教 員	井 桁 碧	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	火曜2時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	総合教養科目群 総合教養科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格	日本語教員, 観光ビジネス実務士				
キ ー ワ ー ド	自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, ローカル・グローバルセンス, 言語運用力				
履 修 条 件	①「考える」という作業に関心をもっていること。②第一回授業(イントロダクション)に出席し、指示される注意事項を遵守すること③配布資料、参考文献等を活用、工夫してノートを作成すること④討議時間を設けるので、積極的に参加すること⑤課題レポートを作成し、口頭での報告を行うとともに提出すること。				
授 業 概 要	本講では、産業化・工業化を推進し、植民地支配を自明視した欧米中心の近代世界を支えた思想、近代化の過程において西欧を普遍とみなす思想を問題化した20世紀後半以降の現代思想の視点、中心的論点を概観する。なお、履修条件③④⑤は、受講者にとって授業前後の学習が必須課題であることを意味します。* 受講者による討論の展開、また問題提起(歓迎します)等によって、授業計画には変更を加える可能性があります。				
授業の到達目標	受講者は「履修条件」、とくに③④⑤を遂行することによって、現代社会において注目すべき思想、論点に関する基礎的知識を修得し、「ローカル・グローバルセンス」を身につけることができる。また、私たち自身がどのような人間観、人間関係観、世界観をもって他者と関わっているのかを理解することができる。さらに、自身の社会・国際関係について考察し、言語化する作業を通して「言語運用力」を向上させること、および討議に参加することによって「自己表現力/自己分析力」を磨くことができる。				
授 業 計 画	1回 イントロダクション 2回 「私」とは何か 個々人が使う一人称としての「私」は、どのようにして獲得されるのか、されたのかを考える。 3回 西欧近代思想における「人間」とは誰のことか① 西欧近代思想において、「人間」は、「自由にしてかつ平等なものとして生まれた」とされる。「人権思想」の根底をなすこの「人間」観が、近代世界においてどのように実践されたのかについて。 4回 西欧近代思想における「人間」とは誰のことか② 5回 まとめ・補足 6回 西欧近代の「他者」① 植民地支配の「他者」 西欧近代世界内部の「人間」観が、西欧世界の外部すなわちアフリカ・アジア等を植民地化する過程とどのような関係にあったのかについて。 7回 西欧近代の「他者」② 未開/野蛮という視点 西欧近代世界内部の「人間」観を構成した、西欧世界の外部すなわちアフリカ・アジア等を未開/野蛮とみなす視点について。 8回 西欧近代の「他者」③ 文化人類学成立と展開の背景 西欧近代において成立した学問領域の一つとしての文化人類学がどのようにして成立したのか、そのh背後にあった「人間」観について。 9回 西欧近代の「他者」④ 文化人類学の「他者」 10回 まとめ・補足 11回 10現代思想の論点① 植民地支配と「知」 近代西欧諸国によるアフリカ・アジアに対する植民地支配を可能にした、あるいは自己正当化を可能にした「人間」観、思想のあり方について。 12回 1現代思想の論点② 『オリエンタリズム』 近現代世界において成立し、普遍化された諸学問の偏向を問い直す視点について。 13回 現代思想の論点③ 「権力」という視点 人間と人間との関係、社会のあり方を問い直す視点について。 14回 1413現代思想の論点④ 「権力」と「知」 15回 15 まとめ・補足				
評 価 方 法	履修条件①②④⑤によって総合的に評価します。				
テ キ ス ト	とくに定めない。				
参 考 文 献	授業内で適宜紹介していきます。				
備 考					

授 業 科 目	人文科学科目C (地理)		担 当 教 員	岩田 隆一	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	金曜3時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	総合教養科目群 総合教養科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	ローカル・グローバルセンス				
履 修 条 件	世界の地理や歴史に関心がある人が望ましい。				
授 業 概 要	数千年に渡って世界史の中心舞台となっている地中海沿岸地域の歴史と地理や文化を学習する。ビデオ等ビジュアル資料を利用して受講生の理解度を高める。				
授業の到達目標	地中海沿岸諸国の状況が理解できる。授業のキーワード「地中海地域の地理と歴史の概略理解」毎回1時間程度の復習を求めたい。				
授 業 計 画	1回 授業計画と評価方法の説明 2回 地中海沿岸の人文地理と各国の概要説明 3回 エジプトの地理と歴史 4回 ギリシャ文明とエーゲ海 5回 ローマ文化圏の地理と歴史 (共和政ローマ時代) 6回 ローマ文化圏の地理と歴史 (ローマ帝国時代1) 北アフリカ諸国の紹介 (モロッコ、チュニジア、アルジェリア、リビア) 7回 ローマ文化圏の地理と歴史 (ローマ帝国時代2) イタリアの紹介 8回 ローマ文化圏の地理と歴史 (ローマ帝国時代3) イタリアの紹介 9回 ローマ文化圏の地理と歴史 (ローマ帝国時代4) 10回 ビザンツ文化圏の地理と歴史 トルコおよびバルカン半島諸国(1) 11回 ビザンツ文化圏の地理と歴史 トルコおよびバルカン半島諸国(2) 12回 フランスの地中海沿岸地域(1) 13回 フランスの地中海沿岸地域(2) 14回 地中海の島々 (マルタ島その他) 15回 スペインの時代 (レコンキスタからスペイン帝国の滅亡まで)				
評 価 方 法	筆記試験の点数で評価する。				
テ キ ス ト	なし。ただし地中海沿岸の地図があれば理解が進む。				
参 考 文 献	授業の中で説明する。				
備 考	授業計画は変更になることがあります。				

授 業 科 目	自然科学科目B (エネルギー科学)		担 当 教 員	久保田 善彦	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	月曜4時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	総合教養科目群 総合教養科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 言語運用力, 情報スキル				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	現代社会は科学技術に支えられている。さらに次々と新たな科学的知見や科学技術が登場し、私達の社会が大きく変化することも数多い。この授業では、社会と科学技術の関係を多方面より探り、科学や科学技術の社会的な意味や価値について考察する。本授業はアクティブラーニングである。各自が社会と科学技術に関するテーマを決め、探究活動を行う。探究した成果を使い、ゲーム教材(主にカードゲームやボードゲーム)を製作・試用する。互いにゲームをすることで、他者の探究内容を理解する。探究活動は、授業時間以外(予習)に取り組む必要がある。				
授業の到達目標	(1)科学技術の社会における意義を理解できる、科学・科学技術の功罪について考察できる。(2)科学技術の活用方法について意見を述べるができる。(3)科学技術と社会について調査した内容を、わかりやすく説明することができる。				
授 業 計 画	1回 科学技術とは何か？ 2回 環境行動ゲームの設計・制作・評価(カードゲーム)① 3回 環境行動ゲームの設計・制作・評価(ボードゲーム)② 4回 社会と科学技術の理解①(宇宙科学, 地球温暖化, 遺伝子組み換え, 情報科学, その他) 5回 社会と科学技術の理解②(宇宙科学, 地球温暖化, 遺伝子組み換え, 情報科学, その他) 6回 社会と科学技術の理解とテーマの決定③(宇宙科学, 地球温暖化, 遺伝子組み換え, 情報科学, その他) 7回 科学技術ゲーム教材の設計①(各種ゲームの意義と手法の理解) 8回 科学技術ゲーム教材の設計②(重要語句, 概念の抽出) 9回 科学技術ゲーム教材の設計③(中間発表会・相互評価) 10回 科学技術ゲーム教材の開発① 11回 科学技術ゲーム教材の開発② 12回 科学技術ゲーム教材の開発③(開発教材の発表・相互評価) 13回 科学技術ゲーム教材の再設計 14回 科学技術ゲーム教材の再開発① 15回 科学技術ゲーム教材の再開発②(開発教材の発表・相互評価)				
評 価 方 法	小テスト、レポート、開発教材などの結果を総合的に判断し評価する				
テ キ ス ト	特になし。				
参 考 文 献	授業中に紹介する				
備 考	第1回講義にて、授業の進め方および小テストの実施方法、評価方法について説明する。履修者は必ず出席すること。各回の授業において欠席する場合は、担当教員にメールにて連絡をすること。				

授 業 科 目	自然科学科目C (環境科学)		担 当 教 員	飯泉 佳子	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	金曜 4時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	総合教養科目群 総合教養科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神, ローカル・グローバルセンス				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	我々を取巻く自然環境には、様々な物質が存在している。これらの物質は、自然に由来するものや人間が作り出したものなど多種多様である。近年、人間活動の増大によって物質循環のバランスが崩れ、グローバルやローカルな環境問題が発生しており、問題を解決するための取組みが各所で行われている。こうした視野のもとで、人間の活動を支えるエネルギーの循環と、地球の中での物質の循環を中心に、人間と自然との関わりや、環境問題について講義する。				
授業の到達目標	地球環境の成り立ちと変遷が理解できる、環境・資源問題について自然科学の立場から理解できる、持続可能な社会を築くために自ら考えて行動できる。【キーワード】問題発見力/問題解決力、実行力/チャレンジ精神、ローカル・グローバルセンス【予習・復習について】予習10分、復習20分を確保することが望ましい。				
授 業 計 画	1回 地球環境の成り立ち 2回 環境とエネルギー (1) エネルギー科学の基礎 3回 環境とエネルギー (2) 非再生可能エネルギー 4回 環境とエネルギー (3) 再生可能エネルギー 5回 地球科学の基礎 6回 大気環境 7回 酸性雨 8回 気候変動 9回 生態系と環境 10回 土壌環境 11回 水環境 12回 生物の多様性 13回 化学物質による汚染 14回 環境と資源 15回 持続可能な地球環境のためにできること				
評 価 方 法	出席状況、小テスト、レポート、期末試験などの結果を総合的に判断し評価する				
テ キ ス ト	なし				
参 考 文 献	授業中に紹介する				
備 考					

授 業 科 目	自然科学科目C (地球の過去・現在・未来)		担 当 教 員	松岡 東香	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	火曜2時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	総合教養科目群 総合教養科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力, ローカル・グローバルセンス, マネジメントセンス				
履 修 条 件	なし。				
授 業 概 要	本講義は、人類の生存基盤である地球と資源の関わりを科学的に理解することを目的とする。宇宙のはじまりから現在までの宇宙史、地球史を概観し、身近な地球の性質・活動(地震、火山、プレートテクトニクス、大気、気象・気候、海洋など)を学んでゆく。また、地球環境の変動と生物の大量絶滅、人類活動が地球環境にもたらす影響にも言及し、地球と資源を一つの大きなシステムとして捉える。				
授業の到達目標	宇宙のはじまりから人類出現までのストーリーを時系列で語る。また、地球環境と生物の関係、人類が直面している環境/資源問題について事例を挙げて説明できる。				
授 業 計 画	1回 自然界の不思議について考えよう(予習:0分, 復習:20分) 2回 宇宙はどこから生まれたのか(予習:10分, 復習:30分)○自己学習の目標:「宇宙の始まりを説明できる」 3回 宇宙の構造はどうなっているのか(予習:10分, 復習:30分)○自己学習の目標:「宇宙の構造を説明できる」 4回 太陽系はどのように誕生したのか(予習:10分, 復習:30分)○自己学習の目標:「太陽の誕生について説明できる」 5回 太陽と惑星の歴史と個性を知ろう(予習:10分, 復習:30分)○自己学習の目標:「太陽系の歴史と惑星の特徴について説明できる」 6回 地球と月はどのようにしてできたのか(予習:10分, 復習:20分)○自己学習の目標:「地球と月の誕生について説明できる」 7回 生まれたての地球の姿はどうだったのか(予習:10分, 復習:20分)○自己学習の目標:「初期地球について説明できる」 8回 プレートテクトニクスはいつはじまったのか(予習:10分, 復習:30分)○自己学習の目標:「プレートテクトニクスの影響について説明できる」 9回 超大陸の出現と気候変動の歴史を知ろう(予習:10分, 復習:30分)○自己学習の目標:「超大陸の出現が地球環境に与えた影響について説明できる」 10回 全球凍結というドラマティックなイベントから地球システムについて学ぼう(予習:10分, 復習:30分)○自己学習の目標:「全球凍結の由来と効能について説明できる」 11回 生物の大量絶滅はなぜ起こったのか(予習:10分, 復習:40分)○自己学習の目標:「各時代の大量絶滅の原因について説明できる」 12回 地球の変動システム(熱の収支/輸送と気象現象)を知ろう(予習:10分, 復習:30分)○自己学習の目標:「地球を1つのシステムとしてとらえ、熱収支や環境について説明できる」 13回 人類の水資源/水環境について考えよう(予習:10分, 復習:20分)○自己学習の目標:「地球の水環境について説明できる」 14回 地球の未来(温暖化・環境汚染・資源)を予測しよう(予習:10分, 復習:30分)○自己学習の目標:「地球の未来について自分なりの見解を述べられる」 15回 総括				
評 価 方 法	平常点40点、期末テスト60点の配点で評価する。				
テ キ ス ト	なし。重要事項を簡潔にまとめられるよう、穴埋め式のプリントを毎回配布する。				
参 考 文 献	必要に応じ、講義において提示する。				
備 考	ICカードリーダーを使って出欠を確認するので、受講する際は学生証を携帯すること。				

授 業 科 目	社会科学科目 A (日本国憲法)		担 当 教 員	牧野 力也	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	水曜 3 時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	総合教養科目群 教養科目 [2014年度以降入学生]、総合教養科目群 総合教養科目 [2013年度以前入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, ローカル・グローバルセンス				
履 修 条 件	特に条件はありませんが、選択する以上は多少なりとも憲法に関心を持って来てくれることを望みます。憲法を「学ぶ」というより、憲法の考え方を理解するつもりで、肩の力を抜いてきてください。				
授 業 概 要	講義中心です。内容理解の補助としてスライドを使います。学生参加型の講義をすることが目標なので、皆さんが積極的に意見を述べることのできる雰囲気を作りたいと思っています。授業前にレジュメを配布しますので、教室に来たら各自レジュメを受け取って着席してください。				
授業の到達目標	憲法は「国家の基本法」という言葉が示すように、極めて重要な法です。ただ、他の多くの法律とは異なり、皆さん自身が憲法と直接関わる場面というのはいま一つありません。それは、通常の法律が皆さんの「できること」「できないこと」などを定めるものであるのに対して、憲法はもともと国家の「できること」「できないこと」を定めたものであるからです。憲法は、例えば「戸籍法」や「道路交通法」のように皆さん一人一人の生活に直接関わることはありませんが、その理念は、日本という民主主義社会に生きる全ての人が「より良く生きる」ためにあるものです。同時に、その理念は、ただ学び、知るだけではなく、民主主義社会の担い手である皆さん自身が「自分の意見」として再構成することではじめて大きな意味を持つこととなります。したがって、この講義の目的は、「受講生の皆さんが知識として憲法を学ぶだけでなく、憲法を通して社会の在り方について考える機会を提供する」ということとなります。皆さん自身にとっては、どんな形でも良いので、「憲法の学びを通じて自分なりの意見を持つ」ことが講義の到達点となります。				
授 業 計 画	1回 ガイダンス・・・授業のスタイル、注意事項、成績評価基準の説明【総論】 「憲法」を学ぶ前に知っておくと良いこと 2回 【総論】 憲法の歴史と日本国憲法の位置付け 3回 【人権論】 人権の種類と範囲、人権の主体 4回 【人権論】 幸福追求権と自己決定権 5回 【人権論】 平等について考える 6回 【人権論】 精神的自由権 ⇒思想・良心の自由、信教の自由 7回 【人権論】 精神的自由権 ⇒表現の自由 8回 【人権論】 精神的自由権 ⇒学問の自由、集会・結社の自由 9回 【人権論】 経済的自由権 ⇒職業選択の自由、営業の自由、財産権 10回 【人権論】 社会権 11回 【統治機構論】 権力の分立とその原理 12回 【統治機構論】 選挙権と選挙制度 13回 【統治機構論】 国会の地位と行政の役割 14回 【統治機構論】 司法権と裁判所、違憲審査制度 15回 【統治機構論】 地方自治と憲法試験に関する説明				
評 価 方 法	期末試験のほかに、レポート課題の提出(1回)試験の形式や配転など、詳しいことは第1回講義で説明します。レポート課題の提出に関しては、6月18日に本学で開催される参院選候補者との公開討論会に参加して感想を提出することで代替可能とします。出席は毎回とります。5回以上欠席した場合、試験を受ける資格を失いますので気をつけてください。				
テ キ ス ト	テキストは指定しません。				
参 考 文 献	大学で憲法を最初に学ぶとき、一般的に読まれる入門書は横田耕一・高見勝利編『ブリッジブック憲法』(2002、信山社)だと思われます。その他、筑波学院大学図書館に所蔵されているものとして、初宿正典『いちばんやさしい憲法入門』(有斐閣アルマ)渋谷秀樹『憲法への招待』(岩波書店)長谷部恭男『憲法とは何か』(岩波書店)等が読みやすいと思われます。				
備 考	第1回講義時に日本国憲法条文集を配布しますので、六法などの購入は特に必要ありません。				

授 業 科 目	社会科学科目 A (法学)		担 当 教 員	牧野 力也	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	水曜 4 時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	総合教養科目群 教養科目 [2014年度以降入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神, ローカル・グローバルセンス, 言語運用力, マネジメントセンス				
履 修 条 件	特にありませんが、対話形式の授業なので、自分の意見を考えてもらう機会が結構あります。ただ、意見が無いからと言って注意したり減点したりするようなことはありません。				
授 業 概 要	対話形式の講義を中心とします。講師は教室の中をぐるぐる歩き回って一人一人と意見交換していきます。例年かなりリラックスした自由な雰囲気での授業になっています。なお、下記の授業計画は暫定的なものです。「食品偽装問題」や「少年法」など数ある法的テーマの中から、できるだけ皆さんが関心のある問題を選んで授業をしていきたいと思ひます。				
授業の到達目標	「法律学」にはただ一つの正解というものがありません。社会科学としての法律学は、数学や物理のように、「真理」を発見する学問ではなく、様々な個性を持った人間が生きる今の社会にどんなふうに秩序を与えればよいのかを考える学問だと言えます。つまり、正解や結論というものは人の数だけある(はずなのです)。法学にとって大事なことは結論ではなく、「自分の考えた結論について、どのように他人を説得するか」という根拠づけ、あるいは正当化のプロセスです。ただし、独りよがりな結論が人に受け入れられるのは難しいでしょうし、「好きだから」とか「不快だから」といった感情的な正当化理由は簡単に反論されてしまうでしょう。自分の結論こそが最もふさわしいと主張するためには、まず前提として問題を発見し、正確に把握することが必要であり、続いて多くの人に受け入れられそうな根拠や、一般的な事実を使って自説を展開していくことが重要になります。したがって、この講義では、皆さんの「どこに、どのような問題があるのかを発見する」瞬間と、「自分の意見を可能な限り正当化する」プロセスを大事にしていきたいと思ひています。				
授 業 計 画	1回 【ガイダンス】法律学を学ぶ前に ⇒ケーキの分け方について考える 2回 法律は何のためにあるのだろうか ⇒法の目的・機能について考える 3回 法と道徳 ⇒モラルはどうやって守るのか 4回 法と正義 ⇒法は誰にとってのどんな価値を実現するのだろうか 5回 法と裁判 ⇒誰かと争いになってしまったら 6回 法と家族 ⇒家族を法律で定める意味は 7回 法と家族 ⇒同性愛から同性婚へ 8回 高齢社会の訪れを前に考えるべきこと 9回 死刑廃止の可否 10回 安全保障について考えてみよう 11回 地方分権と過疎 ⇒「離島」問題を考えよう 12回 社会と外国人、そして法 ⇒外国人の権利、外国人を受け入れる社会について 13回 災害と法 ⇒地震の経験から学ぶ 14回 「責任能力」ってなんだろう? ⇒刑法 15回 まとめ				
評 価 方 法	レポート提出か期末試験の実施か、皆さんの意見を聞いたうえで決定します。				
テ キ ス ト	テキストは特に指定しません。				
参 考 文 献	法律学的なものの考え方を、比較的わかりやすく表現している本として、長谷川晃・角田猛之編『ブリッジブック法哲学』(2004、信山社)を挙げておきます。				
備 考					

授 業 科 目	社会科学科目 A (民法)		担 当 教 員	星野 豊	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	金曜 4 時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	総合教養科目群 総合教養科目 [2013年度以前入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力, 言語運用力, 情報スキル				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	現行民法について基本的な知識を解説し、社会常識的な観点との差について検討する。受講者の希望により、具体的な問題点に特化して講義を行うこともありうる。				
授業の到達目標	必ずしも法律学を専門としないことを前提として、社会常識的な観点と法律ないし法律学上のものの見方との間とのずれを認識する。【常識的直観】 【論理的思考力】 【権威に対する批判能力】				
授 業 計 画	1回 講義全体の説明、概説 2回 民法各分野の解説・問題点の検討 3回 同上 4回 同上 5回 同上 6回 同上 7回 同上 8回 同上 9回 同上 10回 同上 11回 同上 12回 民法関連分野における応用的な問題点の解説・検討 13回 同上 14回 同上 15回 同上				
評 価 方 法	レポートによる。				
テ キ ス ト	特に使用しない。六法を持っていれば便利なこともあるが、携帯している必要はない。				
参 考 文 献	授業中に適宜指示する。				
備 考					

授 業 科 目	社会科学科目 B (政治学)		担 当 教 員	木村 卓司	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	水曜 3 時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	総合教養科目群 総合教養科目 [2013年度以前入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力				
履 修 条 件	政治学の学習、もしくは政治参加に関心があること。				
授 業 概 要	政治学の基本概念である政治制度、政治参加、政治変動、政治体制、政治権力などについて、日本とアメリカ合衆国の事例も適宜紹介しながら概説する。また近年注目を集めている圧力団体、利益団体、世論、メディアなどの主要な政府外アクターとの関係についてもあわせて考察する予定。一般教養としての政治に関する基礎知識を身につけるだけでなく、政権交代を経験した日本政治を見る視点もあわせて養ってゆきたい。				
授業の到達目標	政治学の基礎知識を習得し、政治に対する関心を高め、併せて政治参加への意識を向上させるとともに、日本政治がはらむ様々な問題を発見し解決する能力を身につける。履修者は毎回、前回の授業内容を十分理解するとともに、シラバスを参考の上、次回の授業内容について内容を十分把握したうえで授業に臨むこと。キーワード：問題発見力、問題解決力				
授 業 計 画	1回 1 イントロダクション 2回 2 政治学の基本概念 (1) : 政治制度 3回 3 政治学の基本概念 (2) : 政治参加 (選挙) とマニフェスト 4回 4 政治学の基本概念 (3) : 政治体制 5回 5 政治学の基本概念 (4) : 政党と圧力・利益団体 6回 6 政治学の基本概念 (5) : 政治権力とリーダーシップ 7回 7 政治学の基本概念 (6) : 政治変動 8回 8 日本の政治 (1) : 戦後政治の変遷 9回 9 日本の政治 (2) : 「55年体制」以前と社会党政権 10回 10 日本の政治 (3) : 「55年体制」の誕生 11回 11 日本の政治 (4) : 自民党単独政権の時代 12回 12 日本の政治 (5) : 「55年体制」崩壊と連立政権の時代 13回 13 日本の政治 (6) : 民主党政権の誕生と崩壊 14回 14 政治とメディア 15回 15 まとめ: 18歳選挙権にむけて				
評 価 方 法	(1) 平常点、(2) レポート (政策マニフェストの作成) を総合して行う。				
テ キ ス ト	使用しない。				
参 考 文 献	授業の中で適宜紹介する。				
備 考					

授 業 科 目	学際科目D (華道)		担 当 教 員	安中 みふゆ	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	木曜3時限、木曜4時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	総合教養科目群 教養科目[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	自己表現力/実行分析力, ローカル・グローバルセンス				
履 修 条 件	なし				
授 業 概 要	自ら草木に触れ実習していく事で、華道に興味を持ってもらい、伝統文化華道の精神・歴史・技術を伝える。また華道は、海外においても「いけばな」として高く評価されており、国際交流の手段のひとつになっています。そこで、現代感覚に適した「いけばな」も取り入れ、国際社会に通じる豊かな感性と教養を育てる。				
授業の到達目標	温暖で四季折々の自然に恵まれた風土の中で生まれた華道の精神・歴史・様式(自由花・生花)を理解する。其々の様式でお花を生ける事が出来るようにする。また日本の伝統文化を学ぶと同時に、他の国々の伝統文化についても考えグローバルセンスを養う。さらに草木の命を感じながら作品をいける事で、自己表現力を身につける。				
授 業 計 画	1回 いけばなの様式 2回 いけばなのはじめ 3回 自由花の特質 4回 生花の基本的花形 5回 生花の本質 6回 自由花の表現内容とその手法 7回 いけばなの歴史1 室町時代 8回 いけばなの歴史2 安土桃山時代～現代 9回 生花の発生と変遷 10回 現代の住環境に適応した自由花 11回 現代生活と生花の適応性1 三種生け 12回 花伝書を読む 13回 現代生活と生花の適応性2 新風体 14回 自然美と造形美を組み合わせた自由花 15回 まとめ		実習：各花形のデモンストレーション・華道具の説明 実習：個性の表現 実習：自己表現のための花材の組み合わせ手法 実習：生花一種いけ 実習：生花二種いけ 実習：花器と花材を素材として構成する自由花 実習：生花 実習：異質物・加工素材と花材との出会いを楽しむ自由花 実習：生花 実習：ミニチュア自由花(自作の花器にいける) 実習：生花三種生け 実習：季節感のある自然的自由花 実習：生花新風体 実習：紙・ビン・ペットボトル等で花器を作る(レリーフ) 実習：生花		
評 価 方 法	平常点60点・レポート40点				
テ キ ス ト	図録いけばなの流れ・各花形の専門書(日本華道社)から、必要に応じてテキストを作り配布				
参 考 文 献	華道古書集成(思文閣出版)、池坊生花研究「浮雲」(日本華道社)、花守人のいけばな(日本華道社)				
備 考	シラバスは木曜3時限目のみと表示されていますが、2コマ連続開講となります。(木曜3、4時限目)希望者は華道免許を取得することができます。				

授 業 科 目	日本語A① (再履修)		担 当 教 員	金久保 紀子	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習		単 位 数
学 期	前期	曜 日 時 限	水曜1時限		2単位 科目等履修 受入可
科 目 区 分	専門科目(入門)				
対 象 資 格	日本語教員, 上級情報処理士, 上級ビジネス実務士, 実践キャリア実務士				
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 言語運用力				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	日本語の豊かな使い手になるために、話す力と書く力を伸ばすためのトレーニングを行う。大学生活に欠かせないアカデミックな場面を想定した練習を通じて、聞き手を意識しながら目的に応じた話をする力や、語彙や表現に注意しながら読み手を意識した文章を書く力を身につける。また、日本語検定4級以上の取得を目指し、検定試験に沿った内容も取り入れる。当科目を履修する学生は、授業での活動に加え、各回の授業内容に即した事前準備や復習など、授業外での自己学習に週3時間以上取り組むこと(予習・復習の内容については授業時に指示する)。				
授業の到達目標	①自分の「話す力」「書く力」を自覚し、不足している部分を伸ばす。②聞き手を意識して日本語を話したり書いたりすることができるようになる。③日本語検定(特定非営利活動法人日本語検定委員会主催、文部科学省等後援)4級以上の取得を目指す。				
授 業 計 画	1回 オリエンテーション、ウォーミングアップ 2回 図書館ガイダンス 3回 自己紹介活動 4回 ことばについて考える 5回 日本語検定準備①(模擬試験) 6回 日本語検定準備②(分野別解説) 7回 メールの書き方 8回 テーマに沿って意見を述べる 9回 デイバート①(準備) 10回 デイバート②(活動) 11回 デイバート③(活動の続きとまとめ) インタビュー活動①(準備) 12回 インタビュー活動②(インタビュー) 13回 インタビュー活動③(振り返り) 評価の説明 14回 インタビュー記事の検討 15回 まとめ				
評 価 方 法	授業で実施する課題の提出状況40% 最終課題40% 授業への取り組み20%				
テ キ ス ト	教員が用意するプリント等を使用。				
参 考 文 献	必要に応じ、授業内で紹介する。				
備 考	・第1回目の授業時に、授業の内容やスケジュール、評価方法等についての説明を行うので、必ず出席すること。 ・授業内の課題(含:宿題)は必ず提出すること。				

授 業 科 目	日本語A② (再履修)		担 当 教 員	亀田 千里	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	水曜1時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	総合教養科目群 教養基礎科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格	日本語教員, 上級情報処理士, 上級ビジネス実務士, 実践キャリア実務士				
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 言語運用力				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	日本語の豊かな使い手になるために、話す力と書く力を伸ばすためのトレーニングを行う。大学生活に欠かせないアカデミックな場面を想定した練習を通じて、聞き手を意識しながら目的に応じた話をする力や、語彙や表現に注意しながら読み手を意識した文章を書く力を身につける。また、日本語検定4級以上の取得を目指し、検定試験に沿った内容も取り入れる。当科目を履修する学生は、授業での活動に加え、各回の授業内容に即した事前準備や復習など、授業外での自己学習に週3時間以上取り組むこと（予習・復習の内容については授業時に指示する）。				
授業の到達目標	①自分の「話す力」「書く力」を自覚し、不足している部分を伸ばす。②聞き手を意識して日本語を話したり書いたりすることができるようになる。③日本語検定（特定非営利活動法人日本語検定委員会主催、文部科学省等後援）4級以上の取得を目指す。				
授 業 計 画	1回 オリエンテーション、ウォーミングアップ 2回 自己紹介活動 3回 図書館ガイダンス 4回 ことばについて考える 5回 日本語検定準備①（模擬試験） 6回 日本語検定準備②（分野別解説） 7回 メールの書き方 8回 テーマに沿って意見を述べる 9回 ディベート①（準備） 10回 ディベート②（活動） 11回 ディベート③（活動の続きとまとめ）インタビュー活動①（準備） 12回 インタビュー活動②（インタビュー） 13回 インタビュー活動③（振り返り）評価の説明 14回 インタビュー記事の検討 15回 まとめ				
評 価 方 法	授業で実施する課題の提出状況40% 最終課題40% 授業への取り組み20%				
テ キ ス ト	教員が用意するプリント等を使用。				
参 考 文 献	必要に応じ、授業内で紹介する。				
備 考	・第1回目の授業時に、授業の内容やスケジュール、評価方法等についての説明を行うので、必ず出席すること。 ・授業内の課題（含：宿題）は必ず提出すること。				

授 業 科 目	日本語A③ (再履修)		担 当 教 員	亀田 千里	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	水曜2時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	総合教養科目群 教養基礎科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格	日本語教員, 上級情報処理士, 上級ビジネス実務士, 実践キャリア実務士				
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 言語運用力				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	日本語の豊かな使い手になるために、話す力と書く力を伸ばすためのトレーニングを行う。大学生活に欠かせないアカデミックな場面を想定した練習を通じて、聞き手を意識しながら目的に応じた話をする力や、語彙や表現に注意しながら読み手を意識した文章を書く力を身につける。また、日本語検定4級以上の取得を目指し、検定試験に沿った内容も取り入れる。当科目を履修する学生は、授業での活動に加え、各回の授業内容に即した事前準備や復習など、授業外での自己学習に週3時間以上取り組むこと（予習・復習の内容については授業時に指示する）。				
授業の到達目標	①自分の「話す力」「書く力」を自覚し、不足している部分を伸ばす。②聞き手を意識して日本語を話したり書いたりすることができるようになる。③日本語検定（特定非営利活動法人日本語検定委員会主催、文部科学省等後援）4級以上の取得を目指す。				
授 業 計 画	1回 オリエンテーション、ウォーミングアップ 2回 図書館ガイダンス 3回 自己紹介活動 4回 ことばについて考える 5回 日本語検定準備①（模擬試験） 6回 日本語検定準備②（分野別解説） 7回 メールの書き方 8回 テーマに沿って意見を述べる 9回 デイバート①（準備） 10回 デイバート②（活動） 11回 デイバート③（活動の続きとまとめ）インタビュー活動①（準備） 12回 インタビュー活動②（インタビュー） 13回 インタビュー活動③（振り返り）評価の説明 14回 インタビュー記事の検討 15回 まとめ				
評 価 方 法	授業で実施する課題の提出状況40% 最終課題40% 授業への取り組み20%				
テ キ ス ト	教員が用意するプリント等を使用。				
参 考 文 献	必要に応じ、授業内で紹介する。				
備 考	・第1回目の授業時に、授業の内容やスケジュール、評価方法等についての説明を行うので、必ず出席すること。 ・授業内の課題（含：宿題）は必ず提出すること。				

授 業 科 目	日本語B①		担 当 教 員	亀田 千里	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	水曜2時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	総合教養科目群 教養基礎科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格	日本語教員, 上級情報処理士, 上級ビジネス実務士, 実践キャリア実務士				
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 言語運用力				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	日本語の豊かな使い手になるために、話す力と書く力を伸ばすためのトレーニングを行う。大学生生活に欠かせないアカデミックな場面を想定した練習を通じて、聞き手を意識しながら目的に応じた話をする力や、語彙や表現に注意しながら読み手を意識した文章を書く力を身につける。また、日本語検定4級以上の取得を目指し、検定試験に沿った内容も取り入れる。当科目を履修する学生は、授業での活動に加え、各回の授業内容に即した事前準備や復習など、授業外での自己学習に週3時間以上取り組むこと（予習・復習の内容については授業時に指示する）。				
授業の到達目標	①自分の「話す力」「書く力」を自覚し、不足している部分を伸ばす。②聞き手を意識して日本語を話したり書いたりすることができるようになる。③日本語検定（特定非営利活動法人日本語検定委員会主催、文部科学省等後援）4級以上の取得を目指す。				
授 業 計 画	1回 オリエンテーション目標の再設定ビブリオバトルの説明 2回 日本語検定準備（模擬試験） 3回 ビブリオバトル 4回 本の紹介文を書く 5回 外部講師による講義 6回 履歴書、自己紹介文を書く 7回 テーマに沿って意見を述べる 8回 作文を書く①（意見文） 9回 作文を読む①（意見文） 10回 作文を書く②（根拠を明らかにした意見文） 11回 作文を読む②（根拠を明らかにした意見文） 12回 インタビュー活動①（準備）評価の説明 13回 インタビュー活動②（インタビュー） 14回 インタビュー活動③（振り返り、インタビュー記事を読む） 15回 まとめ				
評 価 方 法	授業で実施する課題の提出状況と内容30% 最終課題40% 授業への取り組み20% 日本語検定4級以上の取得10%				
テ キ ス ト	教員が用意するプリント等を使用。				
参 考 文 献	必要に応じ、授業内で紹介する。				
備 考	第1回目の授業時に、授業の内容やスケジュール、評価方法等についての説明を行うので、必ず出席すること。 ・授業内の課題（含：宿題）は必ず提出すること。				

授 業 科 目	日本語B②		担 当 教 員	金久保 紀子	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習		単 位 数
学 期	後期	曜 日 時 限	水曜2時限		2単位 科目等履修 受入可
科 目 区 分	専門科目(入門)				
対 象 資 格	日本語教員, 上級情報処理士, 上級ビジネス実務士, 実践キャリア実務士				
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 言語運用力				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	日本語の豊かな使い手になるために、話す力と書く力を伸ばすためのトレーニングを行う。大学生活に欠かせないアカデミックな場면을想定した練習を通じて、聞き手を意識しながら目的に応じた話をする力や、語彙や表現に注意しながら読み手を意識した文章を書く力を身につける。また、日本語検定4級以上の取得を目指し、検定試験に沿った内容も取り入れる。当科目を履修する学生は、授業での活動に加え、各回の授業内容に即した事前準備や復習など、授業外での自己学習に週3時間以上取り組むこと(予習・復習の内容については授業時に指示する)。				
授業の到達目標	①自分の「話す力」「書く力」を自覚し、不足している部分を伸ばす。②聞き手を意識して日本語を話したり書いたりすることができるようになる。③日本語検定(特定非営利活動法人日本語検定委員会主催、文部科学省等後援)4級以上の取得を目指す。				
授 業 計 画	1回 オリエンテーション目標の再設定ビブリオバトルの説明 2回 日本語検定準備(模擬試験) 3回 ビブリオバトル 4回 本の紹介文を書く 5回 外部講師による講義 6回 履歴書、自己紹介文を書く 7回 テーマに沿って意見を述べる 8回 作文を書く①(意見文) 9回 作文を読む①(意見文) 10回 作文を書く②(根拠を明らかにした意見文) 11回 作文を読む②(根拠を明らかにした意見文) 12回 インタビュー活動①(準備)評価の説明 13回 インタビュー活動②(インタビュー) 14回 インタビュー活動③(振り返り、インタビュー記事を読む) 15回 まとめ				
評 価 方 法	授業で実施する課題の提出状況と内容30% 最終課題40% 授業への取り組み20% 日本語検定4級以上の取得10%				
テ キ ス ト	教員が用意するプリント等を使用。				
参 考 文 献	必要に応じ、授業内で紹介する。				
備 考	第1回目の授業時に、授業の内容やスケジュール、評価方法等についての説明を行うので、必ず出席すること。 ・授業内の課題(含:宿題)は必ず提出すること。				

授 業 科 目	日本語B③		担 当 教 員	金久保 紀子	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習		単 位 数
学 期	後期	曜 日 時 限	水曜1時限		2単位 科目等履修 受入可
科 目 区 分	専門科目(入門)				
対 象 資 格	日本語教員, 上級情報処理士, 上級ビジネス実務士, 実践キャリア実務士				
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 言語運用力				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	日本語の豊かな使い手になるために、話す力と書く力を伸ばすためのトレーニングを行う。大学生活に欠かせないアカデミックな場면을想定した練習を通じて、聞き手を意識しながら目的に応じた話をする力や、語彙や表現に注意しながら読み手を意識した文章を書く力を身につける。また、日本語検定4級以上の取得を目指し、検定試験に沿った内容も取り入れる。当科目を履修する学生は、授業での活動に加え、各回の授業内容に即した事前準備や復習など、授業外での自己学習に週3時間以上取り組むこと(予習・復習の内容については授業時に指示する)。				
授業の到達目標	①自分の「話す力」「書く力」を自覚し、不足している部分を伸ばす。②聞き手を意識して日本語を話したり書いたりすることができるようになる。③日本語検定(特定非営利活動法人日本語検定委員会主催、文部科学省等後援)4級以上の取得を目指す。				
授 業 計 画	1回 オリエンテーション目標の再設定ビブリオバトルの説明 2回 日本語検定準備(模擬試験) 3回 ビブリオバトル 4回 本の紹介文を書く 5回 外部講師による講義 6回 履歴書、自己紹介文を書く 7回 テーマに沿って意見を述べる 8回 作文を書く①(意見文) 9回 作文を読む①(意見文) 10回 作文を書く②(根拠を明らかにした意見文) 11回 作文を読む②(根拠を明らかにした意見文) 12回 インタビュー活動①(準備)評価の説明 13回 インタビュー活動②(インタビュー) 14回 インタビュー活動③(振り返り、インタビュー記事を読む) 15回 まとめ				
評 価 方 法	授業で実施する課題の提出状況と内容30% 最終課題40% 授業への取り組み20% 日本語検定4級以上の取得10%				
テ キ ス ト	教員が用意するプリント等を使用。				
参 考 文 献	必要に応じ、授業内で紹介する。				
備 考	第1回目の授業時に、授業の内容やスケジュール、評価方法等についての説明を行うので、必ず出席すること。 ・授業内の課題(含:宿題)は必ず提出すること。				

授 業 科 目	情報倫理 (留学生対象)		担 当 教 員	山野井 一夫		
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2単位	
学 期	前期	曜 日 時 限	月曜 4 時限	科 目 等 履 修	受入可	
科 目 区 分	専門科目 (入門)					
対 象 資 格						
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 問題発見力/問題解決力, 情報スキル					
履 修 条 件	留学生を対象にしております。					
授 業 概 要	特になし					
授業の到達目標	電子メールを利用してメールの送受信ができる。情報モラルについて解説できる。EvernoteとDropboxの主な使い方を説明できる。Googleフォームでアンケートを作成できる。					
授 業 計 画	1回 大学のネットワークについて 2回 電子メールの使い方 3回 Google classroomの使い方と電子メールでの添付ファイルの方法 4回 情報モラルについて 5回 Google検索とAPIについて 6回 Googleアンケートについて 7回 スマホの活用について 8回 Evernoteの登録と基本的な使い方 9回 Evernoteの応用的な使い方 10回 OneDriveとOnline Officeについて 11回 OneDriveとOnline Officeについて 12回 Dropboxについて 13回 著作権について 14回 デジタルコンテンツについて 15回 電子証明書について					
評 価 方 法	小テストとレポート					
テ キ ス ト	特になし					
参 考 文 献	特になし					
備 考	ICカードリーダーを使って出欠を確認するので、受講する際は学生証を携帯すること。遅刻は30分を限度とし、それ以降は欠席とします。遅刻3回で欠席1回として扱いますので遅刻しないようにしてください。					

授 業 科 目	情報倫理		担 当 教 員	松岡 東香	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	月曜4時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	入門科目群[2014年度以降入学生]、情報入門科目群 情報基礎科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格	高等学校教諭一種免許状（情報），上級情報処理士，ウェブデザイン実務士，上級ビジネス実務士				
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性，問題発見力/問題解決力，言語運用力，情報スキル，マネジメントセンス				
履 修 条 件	なし。				
授 業 概 要	本講義は、情報倫理を通し、電子メディアが切り開いた新しいIT社会を、安全かつ創造的に生き抜く術と考え方を身に付けることを目的とする。コンピュータやインターネットの誕生からTwitterやFacebookといった最新のSNSまでを対象に、サイバー空間の特質や著作権侵害などについて具体的な事例を多く採りあげ、今日のIT社会におけるマナーや防衛策の体得と、新たな文化の創造に貢献できる実践力の養成を目指す。				
授業の到達目標	1. インターネットの誕生からTwitterやFacebook登場までの歴史を語れる。2. サイバー空間の3原則やサイバーリテラシーに基づき、ブログやSNSを安全に運用できる。3. 著作物の定義や著作権者の権利について説明できる。4. インターネットや著作権の意義を理解し、情報系学部出身者として文化の発展に貢献できる。				
授 業 計 画	1回 情報のマネジメント（整理と活用の重要性）（予習：0分，復習：40分）○自己学習の目標：「情報の整理と活用の重要性を具体的に記述する」 2回 情報のマネジメント（整理と活用）（予習：0分，復習：120分）○自己学習の目標：「情報の整理および活用の具体的方策を理解し，情報環境を整備する」 3回 コンピュータ/インターネットの起源と発達（予習：10分，復習：30分）○自己学習の目標：「インターネットの起源と初期発達を時系列で記述する」 4回 インターネットの変遷とつまずき（予習：10分，復習：30分）○自己学習の目標：「インターネットの普及が停滞した原因を記述する」 5回 サイバー空間の変容（自由と規制）（予習：10分，復習：30分）○自己学習の目標：「サイバー空間で発生した自由と規制の問題を，米国の裁判例を交えて記述する」 6回 ハッカー倫理とコピーレフト（予習：10分，復習：20分）○自己学習の目標：「インターネット黎明期を支えたハッカー精神について記述する」 7回 知的財産権と著作権の本質（予習：10分，復習：30分）○自己学習の目標：「著作権法が目指しているもの（目的）を記述する」 8回 著作物とは何か（予習：10分，復習：40分）○自己学習の目標：「著作物の定義を4つのポイントにまとめて記述する」 9回 言語・美術・建築・地図・写真・映画の著作物（予習：10分，復習：30分）○自己学習の目標：「さまざまな著作物の取り扱いについて具体例を交えて記述する」 10回 著作権者の権利（予習：10分，復習：30分）○自己学習の目標：「著作者に付与される権利とその権利が制限されるケースについて記述する」 11回 著作物・著作権の使い方（予習：10分，復習：30分）○自己学習の目標：「著作権が侵害された場合の対処方法を記述する」 12回 Web2.0の意義と恩恵（予習：10分，復習：40分）○自己学習の目標：「インターネットの普及停滞を打開した3大技術革新について記述する」 13回 現代のサイバーリテラシー（Twitter, Facebook, Google+他）（予習：10分，復習：20分）○自己学習の目標：「上記SNSの特徴と注意点を記述する」 14回 サイバー犯罪と情報セキュリティ[プライバシーと個人情報]（予習：10分，復習：30分）○自己学習の目標：「サイバー空間の3原則や情報のCIAについて記述する」 15回 総括				
評 価 方 法	平常点40点、期末テスト60点の配点で評価する。				
テ キ ス ト	なし。重要事項を簡潔にまとめられるよう、穴埋め式のプリントを毎回配布する。				
参 考 文 献	必要に応じ、補助教材を配付・配信する。				
備 考	この科目は経営情報学部では必修科目ですが、情報コミュニケーション学部では選択科目です。ICカードリーダーを使って出欠を確認するので、受講する際は学生証を携帯すること。				

授 業 科 目	世界史		担 当 教 員	小松 進	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	火曜 4時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	総合教養科目群 教養科目[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	ローカル・グローバルセンス				
履 修 条 件	西洋文明に関心があること。				
授 業 概 要	西洋文化の揺籃の地となったのは古代の地中海世界であった。西洋文化の二大源流とも言うべきヘレニズムとヘブライズムのいずれもがこの古代地中海世界で胚胎する。両源流を生み出す母胎となった古代ギリシアのポリス社会と古代イスラエル文明、古代イスラエルの伝統を引き継ぎながらも世界宗教へと脱皮するキリスト教、ヘレニズムとヘブライズムの両伝統を包摂しそれをヨーロッパへと橋渡しするローマ帝国、地中海を舞台として展開するこうした歴史的事象を概観しながら西洋文化の成り立ちを考える。				
授業の到達目標	現代の国際社会に広く行き渡っている文化的価値観や政治・経済・社会システムの形成に多大な影響を及ぼしたのは西洋文明である。その西洋文明の根源にあるものへの理解を深めるとともに、今後西洋文明を学ぶための基礎知識を身につけさせる。				
授 業 計 画	1回 授業へのガイダンス：ヨーロッパ世界の特質 2回 古代地中海世界の特質 3回 重装歩兵ポリスとしてのスパルタ 4回 民主政市民ポリスとしてのアテネ 5回 ローマ帝国の形成過程 6回 ローマ帝国の構造 7回 ローマ帝国の衰退 8回 古代イスラエル民族の形成過程 9回 古代イスラエル国家の歴史 10回 古代イスラエル国家の崩壊 11回 ユダヤ民族とユダヤ教団の形成 12回 ヘレニズムとユダヤ教団 13回 ローマ帝国支配下のユダヤ社会 14回 14 キリスト教団の成立 15回 15 ローマ帝国とキリスト教				
評 価 方 法	授業にのぞむ姿勢と試験で評価する。				
テ キ ス ト	特に指定しない。				
参 考 文 献	興味をおぼえた学生には、要望があればいつでも参考文献を紹介する。				
備 考					

授 業 科 目	日本史 (留学生対象)		担 当 教 員	坂本 要	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	水曜 4時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	進路支援科目群 資格科目 (学芸員資格科目)				
対 象 資 格	観光ビジネス実務士				
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力, ローカル・グローバルセンス				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	日本文化と歴史日本の歴史を簡単に追いながら、日本の文化や芸能を紹介していく。仏像・仏教絵画・庭園、茶道、能、歌舞伎などもっとも日本的文化とされていることを中国や周辺諸国 (韓国・ベトナム・沖縄) の文化と比較しながらの文化を考える。				
授業の到達目標	日本の文化にかんする知識を養う。アジアの宗教や文化と関連させながら、多角的にとらえられるようにする。 【ローカル・グローバルセンス】わからない用語が多いので授業後、辞書をひくなどの確認が必要です。				
授 業 計 画	1回 1 日本文化入門 2回 2 日本の地形 3回 3 日本の地図 4回 4 アジアの中の日本 5回 5 日本の歴史①、古代 6回 6 日本の歴史②奈良時代 7回 7 寺と神社 8回 8 日本の歴史③平安時代 貴族の文化 9回 9 日本の歴史④鎌倉時代 武士の文化 10回 1 0 日本の歴史⑤ 室町時代 禅宗の文化 11回 1 1 日本の芸能 能と狂言 12回 1 2 日本の文化 茶道と華道 13回 1 3 日本の歴史⑥ 江戸時代 14回 1 4 日本の芸能 歌舞伎 15回 1 5 日本の文化 俳句				
評 価 方 法	チェックレポート				
テ キ ス ト	プリント他				
参 考 文 献	プリントで指示				
備 考	専門的なことに及ぶので日本史の基礎的知識を必要とする。【資格対象科目：観光ビジネス実務士】				

授 業 科 目	現代の思想	担 当 教 員	井 桁 碧
授業ナンバリング		授 業 形 態	単 位 数 2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	火曜2時限 科目等履修 受入可
科 目 区 分	総合教養科目群 総合教養科目[2013年度以前入学生]		
対 象 資 格	日本語教員, 観光ビジネス実務士		
キ ー ワ ー ド	自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, ローカル・グローバルセンス, 言語運用力		
履 修 条 件	①「考える」という作業に関心をもっていること。②第一回授業(イントロダクション)に出席し、指示される注意事項を遵守すること③配布資料、参考文献等を活用、工夫してノートを作成すること④討議時間を設けるので、積極的に参加すること⑤課題レポートを作成し、口頭での報告を行うとともに提出すること。		
授 業 概 要	本講では、産業化・工業化を推進し、植民地支配を自明視する欧米中心の近代世界と、近代化の過程における「人間」観の変化およびその過程における宗教の機能について、また西欧を普遍とみならず思想を問題化しつつ展開してきた20世紀後半以降の現代思想の視点、代表的な現代思想家の論点を概観する。なお、履修条件③④⑤は、受講者にとって授業前後の学習が必須課題であることを意味します。* 受講者による討論の展開、また問題提起(歓迎します)等によって、授業計画には変更を加える可能性があります。		
授業の到達目標	受講者は「履修条件」、とくに③④⑤を遂行することによって、現代社会において注目すべき思想、論点に関する基礎的知識を修得し、「ローカル・グローバルセンス」を身につけることができる。また、私たち自身がどのような人間観、人間関係観、世界観をもって他者と関わっているのかを理解することができる。さらに、自身の社会・国際関係について考察し、言語化する作業を通して「言語運用力」を向上させること、および討議に参加することによって「自己表現力/自己分析力」を磨くことができる。		
授 業 計 画	1回 イントロダクション 2回 「私」とは何か 3回 西欧近代思想における「人間」とは誰のことか① 4回 西欧近代思想における「人間」とは誰のことか② 5回 まとめ・補足 6回 西欧近代の「他者」① 植民地支配の「他者」 7回 西欧近代の「他者」② 未開/野蛮という視点 8回 西欧近代の「他者」③ 文化人類学成立と展開の背景 9回 西欧近代の「他者」④ 文化人類学の「他者」 10回 まとめ・補足 11回 1現代思想の論点① 植民地支配と「知」 12回 1現代思想の論点② 『オリエンタリズム』 13回 現代思想の論点③ 「権力」という視点 14回 1413現代思想の論点④ 「権力」と「知」 15回 15 まとめ・補足		
評 価 方 法	履修条件①②④⑤によって総合的に評価します。		
テ キ ス ト	とくに定めない。		
参 考 文 献	授業内で適宜紹介していきます。		
備 考			

授 業 科 目	地理		担 当 教 員	岩田 隆一	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	金曜 3時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	総合教養科目群 教養科目[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	ローカル・グローバルセンス				
履 修 条 件	世界の地理や歴史に関心がある人が望ましい。				
授 業 概 要	数千年に渡って世界史の中心舞台となっている地中海沿岸地域の歴史と地理や文化を学習する。ビデオ等ビジュアル資料を利用して受講生の理解度を高める。				
授業の到達目標	地中海沿岸諸国の状況が理解できる。授業のキーワード「地中海地域の地理と歴史の概略理解」毎回1時間程度の復習を求める。				
授 業 計 画	1回 授業計画と評価方法の説明 2回 地中海沿岸の人文地理と各国の概要説明 3回 エジプトの地理と歴史 4回 ギリシャ文明とエーゲ海 5回 ローマ文化圏の地理と歴史（共和制ローマ時代） 6回 ローマ文化圏の地理と歴史（ローマ帝国時代1）北アフリカ諸国の紹介（モロッコ、チュニジア、アルジェリア、リビア） 7回 ローマ文化圏の地理と歴史（ローマ帝国時代2）イタリアの紹介 8回 ローマ文化圏の地理と歴史（ローマ帝国時代 3）イタリアの紹介 9回 ローマ文化圏の地理と歴史（ローマ帝国時代 4） 10回 ビザンツ文化圏の地理と歴史 トルコおよびバルカン半島諸国(1) 11回 ビザンツ文化圏の地理と歴史 トルコおよびバルカン半島諸国(2) 12回 フランスの地中海沿岸地域(1) 13回 フランスの地中海沿岸地域(2) 14回 地中海の島々（マルタ島その他） 15回 スペインの時代（レコンキスタからスペイン帝国の滅亡まで）				
評 価 方 法	筆記試験の点数で評価する。				
テ キ ス ト	今がわかる時代がわかる 2012年度版『世界地図』成美堂出版 ￥1680				
参 考 文 献	授業の中で説明する。				
備 考					

授 業 科 目	地理学		担 当 教 員	岩田 隆一	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	金曜3時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	総合教養科目群 総合教養科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	ローカル・グローバルセンス				
履 修 条 件	世界の地理や歴史に関心がある人が望ましい。				
授 業 概 要	数千年に渡って世界史の中心舞台となっている地中海沿岸地域の歴史と地理や文化を学習する。ビデオ等ビジュアル資料を利用して受講生の理解度を高める。				
授業の到達目標	地中海沿岸諸国の状況が理解できる。授業のキーワード「地中海地域の地理と歴史の概略理解」毎回1時間程度の復習を求めたい。				
授 業 計 画	1回 授業計画と評価方法の説明 2回 地中海沿岸の人文地理と各国の概要説明 3回 エジプトの地理と歴史 4回 ギリシャ文明とエーゲ海 5回 ローマ文化圏の地理と歴史（共和政ローマ時代） 6回 ローマ文化圏の地理と歴史（ローマ帝国時代1）北アフリカ諸国の紹介（モロッコ、チュニジア、アルジェリア、リビア） 7回 ローマ文化圏の地理と歴史（ローマ帝国時代2）イタリアの紹介 8回 ローマ文化圏の地理と歴史（ローマ帝国時代3）イタリアの紹介 9回 ローマ文化圏の地理と歴史（ローマ帝国時代4） 10回 ビザンツ文化圏の地理と歴史 トルコおよびバルカン半島諸国(1) 11回 ビザンツ文化圏の地理と歴史 トルコおよびバルカン半島諸国(2) 12回 フランスの地中海沿岸地域(1) 13回 フランスの地中海沿岸地域(2) 14回 地中海の島々（マルタ島その他） 15回 スペインの時代（レコンキスタからスペイン帝国の滅亡まで）				
評 価 方 法	筆記試験の点数で評価する。				
テ キ ス ト	なし。ただし地中海沿岸の地図があれば理解が進む。				
参 考 文 献	授業の中で説明する。				
備 考	授業計画は変更になることがあります。				

授 業 科 目	社会と科学技術		担 当 教 員	久保田 善彦	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	月曜 4時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	総合教養科目群 総合教養科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 言語運用力, 情報スキル				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	現代社会は科学技術に支えられている。さらに次々と新たな科学的知見や科学技術が登場し、私達の社会が大きく変化することも数多い。この授業では、社会と科学技術の関係を多方面より探り、科学や科学技術の社会的な意味や価値について考察する。本授業はアクティブラーニングである。各自が社会と科学技術に関するテーマを決め、探究活動を行う。探究した成果を使い、ゲーム教材(主にカードゲームやボードゲーム)を製作・試用する。互いにゲームをすることで、他者の探究内容を理解する。探究活動は、授業時間以外(予習)に取り組む必要がある。				
授業の到達目標	(1)科学技術の社会における意義を理解できる、科学・科学技術の功罪について考察できる。(2)科学技術の活用方法について意見を述べるができる。(3)科学技術と社会について調査した内容を、わかりやすく説明することができる。				
授 業 計 画	1回 科学技術とは何か？ 2回 環境行動ゲームの設計・制作・評価(カードゲーム)① 3回 環境行動ゲームの設計・制作・評価(ボードゲーム)② 4回 社会と科学技術の理解①(宇宙科学, 地球温暖化, 遺伝子組み換え, 情報科学, その他) 5回 社会と科学技術の理解②(宇宙科学, 地球温暖化, 遺伝子組み換え, 情報科学, その他) 6回 社会と科学技術の理解とテーマの決定③(宇宙科学, 地球温暖化, 遺伝子組み換え, 情報科学, その他) 7回 科学技術ゲーム教材の設計①(各種ゲームの意義と手法の理解) 8回 科学技術ゲーム教材の設計②(重要語句, 概念の抽出) 9回 科学技術ゲーム教材の設計③(中間発表会・相互評価) 10回 科学技術ゲーム教材の開発① 11回 科学技術ゲーム教材の開発② 12回 科学技術ゲーム教材の開発③(開発教材の発表・相互評価) 13回 科学技術ゲーム教材の再設計 14回 科学技術ゲーム教材の再開発① 15回 科学技術ゲーム教材の再開発②(開発教材の発表・相互評価)				
評 価 方 法	小テスト、レポート、開発教材などの結果を総合的に判断し評価する				
テ キ ス ト	特になし。				
参 考 文 献	授業中に紹介する				
備 考	第1回講義にて、授業の進め方および小テストの実施方法、評価方法について説明する。履修者は必ず出席すること。各回の授業において欠席する場合は、担当教員にメールにて連絡をすること。				

授 業 科 目	環境科学		担 当 教 員	飯泉 佳子	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	金曜 4時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	総合教養科目群 教養科目[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神, ローカル・グローバルセンス				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	我々を取巻く自然環境には、様々な物質が存在している。これらの物質は、自然に由来するものや人間が作り出したものなど多種多様である。近年、人間活動の増大によって物質循環のバランスが崩れ、グローバルやローカルな環境問題が発生しており、問題を解決するための取組みが各所で行われている。こうした視野のもとで、人間の活動を支えるエネルギーの循環と、地球の中での物質の循環を中心に、人間と自然との関わりや、環境問題について講義する。				
授業の到達目標	地球環境の成り立ちと変遷が理解できる、環境・資源問題について自然科学の立場から理解できる、持続可能な社会を築くために自ら考えて行動できる。【キーワード】問題発見力/問題解決力、実行力/チャレンジ精神、ローカル・グローバルセンス【予習・復習について】予習10分、復習20分を確保することが望ましい。				
授 業 計 画	1回 地球環境の成り立ち 2回 環境とエネルギー (1) エネルギー科学の基礎 3回 環境とエネルギー (2) 非再生可能エネルギー 4回 環境とエネルギー (3) 再生可能エネルギー 5回 地球科学の基礎 6回 大気環境 7回 酸性雨 8回 気候変動 9回 生態系と環境 10回 土壌環境 11回 水環境 12回 生物の多様性 13回 化学物質による汚染 14回 環境と資源 15回 持続可能な地球環境のためにできること				
評 価 方 法	出席状況、小テスト、レポート、期末試験などの結果を総合的に判断し評価する				
テ キ ス ト	なし				
参 考 文 献	授業中に紹介する				
備 考					

授 業 科 目	地球と資源		担 当 教 員	松岡 東香		
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位	
学 期	前期	曜 日 時 限	火曜2時限	科 目 等 履 修	受入可	
科 目 区 分	総合教養科目群 総合教養科目[2013年度以前入学生]					
対 象 資 格						
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力, ローカル・グローバルセンス, マネジメントセンス					
履 修 条 件	なし。					
授 業 概 要	本講義は、人類の生存基盤である地球と資源の関わりを科学的に理解することを目的とする。宇宙のはじまりから現在までの宇宙史、地球史を概観し、身近な地球の性質・活動（地震、火山、プレートテクトニクス、大気、気象・気候、海洋など）を学んでゆく。また、地球環境の変動と生物の大量絶滅、人類活動が地球環境にもたらす影響にも言及し、地球と資源を一つの大きなシステムとして捉える。					
授業の到達目標	宇宙のはじまりから人類出現までのストーリーを時系列で語る。また、地球環境と生物の関係、人類が直面している環境/資源問題について事例を挙げて説明できる。					
授 業 計 画	1回 自然界の不思議について考えよう（予習：0分、復習：20分） 2回 宇宙はどこから生まれたのか（予習：10分、復習：30分）○自己学習の目標：「宇宙の始まりを説明できる」 3回 宇宙の構造はどうなっているのか（予習：10分、復習：30分）○自己学習の目標：「宇宙の構造を説明できる」 4回 太陽系はどのように誕生したのか（予習：10分、復習：30分）○自己学習の目標：「太陽の誕生について説明できる」 5回 太陽と惑星の歴史と個性を知ろう（予習：10分、復習：30分）○自己学習の目標：「太陽系の歴史と惑星の特徴について説明できる」 6回 地球と月はどのようにしてできたのか（予習：10分、復習：20分）○自己学習の目標：「地球と月の誕生について説明できる」 7回 生まれたての地球の姿はどうだったのか（予習：10分、復習：20分）○自己学習の目標：「初期地球について説明できる」 8回 プレートテクトニクスはいつはじまったのか（予習：10分、復習：30分）○自己学習の目標：「プレートテクトニクスの影響について説明できる」 9回 超大陸の出現と気候変動の歴史を知ろう（予習：10分、復習：30分）○自己学習の目標：「超大陸の出現が地球環境に与えた影響について説明できる」 10回 全球凍結というドラマティックなイベントから地球システムについて学ぼう（予習：10分、復習：30分）○自己学習の目標：「全球凍結の由来と効能について説明できる」 11回 生物の大量絶滅はなぜ起こったのか（予習：10分、復習：40分）○自己学習の目標：「各時代の大量絶滅の原因について説明できる」 12回 地球の変動システム（熱の収支/輸送と気象現象）を知ろう（予習：10分、復習：30分）○自己学習の目標：「地球を1つのシステムとしてとらえ、熱収支や環境について説明できる」 13回 人類の水資源/水環境について考えよう（予習：10分、復習：20分）○自己学習の目標：「地球の水環境について説明できる」 14回 地球の未来（温暖化・環境汚染・資源）を予測しよう（予習：10分、復習：30分）○自己学習の目標：「宇宙・地球を1つの資源ととらえ、その未来について自分なりの見解を述べられる」 15回 総括					
評 価 方 法	平常点40点、期末テスト60点の配点で評価する。					
テ キ ス ト	なし。重要事項を簡潔にまとめられるよう、穴埋め式のプリントを毎回配布する。					
参 考 文 献	必要に応じ、講義において提示する。					
備 考	ICカードリーダーを使って出欠を確認するので、受講する際は学生証を携帯すること。					

授 業 科 目	日本国憲法	担 当 教 員	牧野 力也
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義
学 期	前期	曜 日 時 限	水曜3時限
単 位 数	2単位	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	総合教養科目群 教養科目[2014年度以降入学生]		
対 象 資 格			
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, ローカル・グローバルセンス		
履 修 条 件	特に条件はありませんが、選択する以上は多少なりとも憲法に関心を持って来てくれることを望みます。憲法を「学ぶ」というより、憲法の考え方を理解するつもりで、肩の力を抜いてきてください。		
授 業 概 要	講義中心です。内容理解の補助としてスライドを使います。学生参加型の講義をすることが目標なので、皆さんが積極的に意見を述べることのできる雰囲気を作りたいと思っています。授業前にレジュメを配布しますので、教室に来たら各自レジュメを受け取って着席してください。		
授業の到達目標	憲法は「国家の基本法」という言葉が示すように、極めて重要な法です。ただ、他の多くの法律とは異なり、皆さん自身が憲法と直接関わる場面というのはいまのところありません。それは、通常の法律が皆さんの「できること」「できないこと」などを定めるものであるのに対して、憲法はもともと国家の「できること」「できないこと」を定めたものであるからです。憲法は、例えば「戸籍法」や「道路交通法」のように皆さん一人一人の生活に直接関わることはありませんが、その理念は、日本という民主主義社会に生きる全ての人が「より良く生きる」ためにあるものです。同時に、その理念は、ただ学び、知るだけではなく、民主主義社会の担い手である皆さん自身が「自分の意見」として再構成することではじめて大きな意味を持つこととなります。したがって、この講義の目的は、「受講生の皆さんが知識として憲法を学ぶだけでなく、憲法を通して社会の在り方について考える機会を提供する」ということとなります。皆さん自身にとっては、どんな形でも良いので、「憲法の学びを通じて自分なりの意見を持つ」ことが講義の到達点となります。		
授 業 計 画	1回 ガイダンス・・・授業のスタイル、注意事項、成績評価基準の説明【総論】 「憲法」を学ぶ前に知っておくと良いこと 2回 【総論】 憲法の歴史と日本国憲法の位置付け 3回 【人権論】 人権の種類と範囲、人権の主体 4回 【人権論】 幸福追求権と自己決定権 5回 【人権論】 平等について考える 6回 【人権論】 精神的自由権 ⇒思想・良心の自由、信教の自由 7回 【人権論】 精神的自由権 ⇒表現の自由 8回 【人権論】 精神的自由権 ⇒学問の自由、集会・結社の自由 9回 【人権論】 経済的自由権 ⇒職業選択の自由、営業の自由、財産権 10回 【人権論】 社会権 11回 【統治機構論】 権力の分立とその原理 12回 【統治機構論】 選挙権と選挙制度 13回 【統治機構論】 国会の地位と行政の役割 14回 【統治機構論】 司法権と裁判所、違憲審査制度 15回 【統治機構論】 地方自治と憲法試験に関する説明		
評 価 方 法	期末試験のほかに、レポート課題の提出(1回)試験の形式や配転など、詳しいことは第1回講義で説明します。レポート課題の提出に関しては、6月18日に本学で開催される参院選候補者との公開討論会に参加して感想を提出することで代替可能とします。出席は毎回とります。5回以上欠席した場合、試験を受ける資格を失いますので気をつけてください。		
テ キ ス ト	テキストは指定しません。		
参 考 文 献	大学で憲法を最初に学ぶとき、一般的に読まれる入門書は横田耕一・高見勝利編『ブリッジブック憲法』(2002、信山社)だと思われます。その他、筑波学院大学図書館に所蔵されているものとして、初宿正典『いちばんやさしい憲法入門』(有斐閣アルマ)渋谷秀樹『憲法への招待』(岩波書店)長谷部恭男『憲法とは何か』(岩波書店)等が読みやすいと思われます。		
備 考	第1回講義時に日本国憲法条文集を配布しますので、六法などの購入は特に必要ありません。		

授 業 科 目	法律の基礎		担 当 教 員	牧野 力也	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	水曜3時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	総合教養科目群 教養科目[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神, ローカル・グローバルセンス, 言語運用力, マネジメントセンス				
履 修 条 件	特にありませんが、対話形式の授業なので、自分の意見を考えてもらう機会が結構あります。ただ、意見が無いからと言って注意したり減点したりするようなことはありません。				
授 業 概 要	対話形式の講義を中心にします。講師は教室の中をぐるぐる歩き回って一人一人と意見交換していきます。例年かなりリラックスした自由な雰囲気での授業になっています。なお、下記の授業計画は暫定的なものです。「食品偽装問題」や「少年法」など数ある法的テーマの中から、できるだけ皆さんが関心のある問題を選んで授業をしていきたいと思ひます。				
授業の到達目標	「法律学」にはただ一つの正解というものはありません。社会科学としての法律学は、数学や物理のように、「真理」を発見する学問ではなく、様々な個性を持った人間が生きる今の社会にどんなふうに秩序を与えればよいのかを考える学問だと言えます。つまり、正解や結論というものは人の数だけある(はずなのです)。法律学にとって大事なことは結論ではなく、「自分の考えた結論について、どのように他人を説得するか」という根拠づけ、あるいは正当化のプロセスです。ただし、独りよがりな結論が人に受け入れられるのは難しいでしょうし、「好きだから」とか「不快だから」といった感情的な正当化理由は簡単に反論されてしまうでしょう。自分の結論こそが最もふさわしいと主張するためには、まず前提として問題を発見し、正確に把握することが必要であり、続いて多くの人に受け入れられそうな根拠や、一般的な事実を使って自説を展開していくことが重要になります。したがって、この講義では、皆さんの「どこに、どのような問題があるのかを発見する」瞬間と、「自分の意見を可能な限り正当化する」プロセスを大事にしていきたいと思ひています。				
授 業 計 画	1回 【ガイダンス】法律学を学ぶ前に ⇒ケーキの分け方について考える 2回 法律は何のためにあるのだろうか ⇒法の目的・機能について考える 3回 法と道徳 ⇒モラルはどうやって守るのか 4回 法と正義 ⇒法は誰にとってのどんな価値を実現するのだろうか 5回 法と裁判 ⇒誰かと争いになってしまったら 6回 法と家族 ⇒家族を法律で定める意味は 7回 法と家族 ⇒同性愛から同性婚へ 8回 高齢社会の訪れを前に考えるべきこと 9回 死刑廃止の可否 10回 安全保障について考えてみよう 11回 地方分権と過疎 ⇒「離島」問題を考えよう 12回 社会と外国人、そして法 ⇒外国人の権利、外国人を受け入れる社会について 13回 災害と法 ⇒地震の経験から学ぶ 14回 「責任能力」ってなんだろう? ⇒刑法 15回 まとめ				
評 価 方 法	レポート提出か期末試験の実施か、皆さんの意見を聞いたうえで決定します。				
テ キ ス ト	テキストは特に指定しません。				
参 考 文 献	法律学的なものの考え方を、比較的わかりやすく表現している本として、長谷川晃・角田猛之編『ブリッジブック法哲学』(2004、信山社)を挙げておきます。				
備 考					

授 業 科 目	政治の基礎		担 当 教 員	木村 卓司	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	水曜3時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	総合教養科目群 総合教養科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力				
履 修 条 件	政治学の学習、もしくは政治参加に関心があること。				
授 業 概 要	政治学の基本概念である政治制度、政治参加、政治変動、政治体制、政治権力などについて、日本とアメリカ合衆国の事例も適宜紹介しながら概説する。また近年注目を集めている圧力団体、利益団体、世論、メディアなどの主要な政府外アクターとの関係についてもあわせて考察する予定。一般教養としての政治に関する基礎知識を身につけるだけでなく、政権交代を経験した日本政治を見る視点もあわせて養ってゆきたい。				
授業の到達目標	政治学の基礎知識を習得し、政治に対する関心を高め、併せて政治参加への意識を向上させるとともに、日本政治がはらむ様々な問題を発見し解決する能力を身につける。履修者は毎回、前回の授業内容を十分理解するとともに、シラバスを参考の上、次回の授業内容について内容を十分把握したうえで授業に臨むこと。キーワード：問題発見力、問題解決力				
授 業 計 画	1回 1 イントロダクション 2回 2 政治学の基本概念(1)：政治制度 3回 3 政治学の基本概念(2)：政治参加(選挙)とマニフェスト 4回 4 政治学の基本概念(3)：政治体制 5回 5 政治学の基本概念(4)：政党と圧力・利益団体 6回 6 政治学の基本概念(5)：政治権力とリーダーシップ 7回 7 政治学の基本概念(6)：政治変動 8回 8 日本の政治(1)：戦後政治の変遷 9回 9 日本の政治(2)：「55年体制」以前と社会党政権 10回 10 日本の政治(3)：「55年体制」の誕生 11回 11 日本の政治(4)：自民党単独政権の時代 12回 12 日本の政治(5)：「55年体制」崩壊と連立政権の時代 13回 13 日本の政治(6)：民主党政権の誕生と崩壊 14回 14 政治とメディア 15回 15 まとめ：18歳選挙権にむけて				
評 価 方 法	(1)平常点、(2)レポート(政策マニフェストの作成)を総合して行う。				
テ キ ス ト	使用しない。				
参 考 文 献	授業の中で適宜紹介する。				
備 考					

授 業 科 目	心理学	担 当 教 員	佐野 司
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義
学 期	後期	曜 日 時 限	月曜2時限
科 目 区 分	総合教育科目	単 位 数	2単位
対 象 資 格		科 目 等 履 修	受入可
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力, 言語運用力		
履 修 条 件	特になし。		
授 業 概 要	人間はさまざまなことを憶えることができるが、そのメカニズム（どのように憶え、どのように思い出すのか、さらにはどうして忘れたのか）を意識し理解するのは困難である。本講義では、認知心理学の研究から特に記憶に関するトピックスを解説し、人間の記憶のメカニズムについて学ぶことを目的とする。記憶の説明モデルから日常生活に密着した記憶現象まで幅広く講義する。※本年度のみ心理学の概論講義とは異なります。一般的な心理学の講義が聞きたいときは来年度履修するように。		
授業の到達目標	・認知心理学（記憶研究）についての基本的知識を獲得する・仮説検証の方法論を知る・行動科学における実証データの測定方法と分析方法を知る【問題発見力/問題解決力】		
授 業 計 画	1回 1 ガイダンス・認知心理学の考え方 2回 2 記憶研究の基礎1 3回 3 記憶研究の基礎2 4回 4 短期記憶1 5回 5 短期記憶2 6回 6 感覚記憶 7回 7 長期記憶1：符号化 8回 8 長期記憶2：検索 9回 9 忘却 10回 10 長期記憶3：貯蔵 11回 11 エピソード記憶 12回 12 メタ記憶 13回 13 日常記憶 14回 14 展望的記憶 15回 15 まとめ・テスト		
評 価 方 法	テストにより評価する（資料の持込不可）		
テ キ ス ト	特に指定しない。必要な資料は授業中にすべて配布する。		
参 考 文 献	森敏昭 編著 『おもしろ記憶のラボラトリー』 北大路書房太田信夫・多鹿秀継 編著 『記憶研究の最前線』 北大路書房		
備 考			

授 業 科 目	情報科学入門【2014年度以降入学生対象】		担 当 教 員	高藤 清美	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	木曜2時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	総合教養科目群 教養科目[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格	高等学校教諭一種免許状（情報），上級情報処理士				
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力, 情報スキル				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	情報化の進んだ現代社会において、多くの社会人に必要とされる、情報とコンピュータ及び情報通信などに関する基本的な項目を広く学習し、更にすすんだ知識を習得するために必要な基礎力を習得する。具体的には、情報とは何か、情報の取り扱い方、コンピュータのハードウェア・ソフトウェア、情報機器、オペレーティングシステム、情報システム、情報ネットワーク、情報の管理、情報倫理、情報分野に関わる法律など、情報科学に関わる様々な分野についての概要を学習する。				
授業の到達目標	情報化の進んだ現代社会において情報技術を正しく理解し、きちんと活用できるようになるための基礎的な知識の習得を目的とする。対象となる内容は経済産業省が実施している情報処理技術者試験・ITパスポート試験の範囲とし、到達目標はITパスポート試験に合格できる知識レベルとする。				
授 業 計 画	1回 コンピュータの構成要素（復習プリント（eラーニングを含む）、予習項目の指示） 2回 ソフトウェアの仕組み（復習プリント（eラーニングを含む）、予習項目の指示） 3回 コンピュータの動作原理（復習プリント（eラーニングを含む）、予習項目の指示） 4回 アルゴリズムとプログラミング（復習プリント（eラーニングを含む）、予習項目の指示） 5回 マルチメディアデータの取り扱い方（復習プリント（eラーニングを含む）、予習項目の指示） 6回 データベースの考え方と仕組み（復習プリント（eラーニングを含む）、予習項目の指示） 7回 コンピュータシステムの構成と性能評価（復習プリント（eラーニングを含む）、予習項目の指示） 8回 コンピュータネットワーク（復習プリント（eラーニングを含む）、予習項目の指示） 9回 情報セキュリティ（復習プリント（eラーニングを含む）、予習項目の指示） 10回 情報システムの開発手法（復習プリント（eラーニングを含む）、予習項目の指示） 11回 情報システムの運用・管理（復習プリント（eラーニングを含む）、予習項目の指示） 12回 企業と情報活用（1）問題分析手法（復習プリント（eラーニングを含む）、予習項目の指示） 13回 企業と情報活用（2）情報に関わる関連法規（復習プリント（eラーニングを含む）、予習項目の指示） 14回 企業と情報活用（3）経営戦略手法（復習プリント（eラーニングを含む）、予習項目の指示） 15回 企業と情報活用（4）経営のためのコンピュータ活用（復習プリント（eラーニングを含む）、予習項目の指示）				
評 価 方 法	概ね以下の割合で評価する。（1）授業への取組み状況（30%）（2）課題プリント（eラーニングを含む）（35%）（3）期末試験（35%）				
テ キ ス ト	「よくわかるマスター ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集」富士通エフ・オー・エム 著（富士通エフ・オー・エム（株）（FOM出版））を使用予定				
参 考 文 献	授業中に紹介する				
備 考	特になし				

授 業 科 目	情報基礎C (インターネット) ④	担 当 教 員	松岡 東香
授業ナンバリング		授 業 形 態	演習
学 期	前期	曜 日 時 限	水曜1時限
		単 位 数	2単位
		科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	入門科目群[2014年度以降入学生]、情報入門科目群 情報基礎科目[2013年度以前入学生]		
対 象 資 格	上級情報処理士, ウェブデザイン実務士, 上級ビジネス実務士, 実践キャリア実務士		
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 情報スキル, マネジメントセンス		
履 修 条 件	なし。		
授 業 概 要	まず、はじめに本学での学習をすすめる上で必須となる電子メールの有効な使い方、ホームページを使った情報検索についての基礎的な技能を学ぶ。後半では、ホームページの作成を行う。これは、他科目などで課題をホームページとしてまとめられるようにするためのものでもある。最初は利用に慣れることに重点を置くが、利用度の高まりとともにその技術的な裏づけとなる基礎知識、すなわちインターネットについての基盤技術(情報検索技術と情報発信技術)を学び、技能とともにその基礎知識の定着を図る。		
授業の到達目標	パソコンの操作、インターネットの閲覧、電子メールの送受信、ホームページの作成や公開を行い、その仕組みやマナーについて解説できる。		
授 業 計 画	1回 本学のPC環境と利用方法 (予習:0分, 復習:10分) 2回 電子メールの設定 [初期設定, 携帯への転送等] (予習:10分, 復習:20分) 3回 電子メールの作成 [書き方, マナー, CCやBCC等] (予習:10分, 復習:20分) 4回 電子メールの送受信 [画像ファイル作成, ファイル添付] (予習:10分, 復習:20分) 5回 インターネットの仕組みとネットサーフィン (予習:10分, 復習:30分) 6回 検索エンジンのしくみ (予習:5分, 復習:35分) 7回 検索エンジンの基本操作 (予習:5分, 復習:25分) 8回 検索エンジンの応用操作 (予習:5分, 復習:35分) 9回 インターネットを使った文書作成、描画、表計算 (予習:5分, 復習:35分) 10回 WEBサーバとホームページのしくみ (予習:10分, 復習:30分) 11回 ホームページのデザイン (予習:5分, 復習:35分) 12回 ホームページの作成 [ページ情報・文字・色の設定等] (予習:10分, 復習:40分) 13回 ホームページの作成 [表, 画像, リンクの挿入等] (予習:10分, 復習:40分) 14回 ホームページの公開とFTP (予習:5分, 復習:35分) 15回 総括		
評 価 方 法	平常点40点、課題および試験60点の配点で評価する。		
テ キ ス ト	なし。重要事項を簡潔にまとめられるよう、穴埋め式のプリントを適宜配布する。		
参 考 文 献	なし		
備 考	ICカードリーダーを使って出欠を確認するので、受講する際は学生証を携帯すること。		

授 業 科 目	情報科学入門【2013年度以前入学者】	担 当 教 員	高藤 清美
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義
学 期	前期	曜 日 時 限	金曜2時限
単 位 数	2単位	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	入門科目群[2014年度以降入学生]		
対 象 資 格	上級ビジネス実務士		
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力, 情報スキル		
履 修 条 件	特になし		
授 業 概 要	情報化の進んだ現代社会において、ビジネス現場で必要とされる情報活用能力および情報処理や情報活用のためのコンピュータ技術、通信ネットワーク技術について広く学習する。具体的には、仕事の現場における、情報の意味、情報の取り扱い方、基本的なICT技術、ICT技術と情報活用、情報通信ネットワークを通じた情報活用、情報倫理、関連する法務などを学び、ビジネス現場で活躍するための素養を身に付ける。		
授業の到達目標	情報化の進んだ現代社会において、情報活用の方法や意味、ビジネス現場で必要となるICT技術を正しく理解し、活用できるようになるための基礎的な知識の習得を目的とする。対象となる内容は経済産業省が実施している情報処理技術者試験・ITパスポート試験のストラテジ系の範囲を中心とし、到達目標はITパスポート試験に合格できる知識レベルとする。		
授 業 計 画	1回 ビジネスにおけるICT活用（復習プリント（e-ラーニングを含む）、予習項目の指示） 2回 企業と法務（1）企業活動・企業の組織形態（復習プリント（e-ラーニングを含む）、予習項目の指示） 3回 企業と法務（2）企業活動・企業の運営とPDCAサイクル（復習プリント（e-ラーニングを含む）、予習項目の指示） 4回 企業と法務（3）企業における情報活用・情報の共有と伝達（復習プリント（e-ラーニングを含む）、予習項目の指示） 5回 企業と法務（4）企業における情報伝達・情報の収集と活用（復習プリント（e-ラーニングを含む）、予習項目の指示） 6回 企業と法務（5）知的財産権と情報に関連する法務（復習プリント（e-ラーニングを含む）、予習項目の指示） 7回 企業と法務（6）労働関係の法務・復習プリント（e-ラーニングを含む）、予習項目の指示 8回 経営戦略（1）代表的な経営分析手法・復習プリント（e-ラーニングを含む）、予習項目の指示 9回 経営戦略（2）代表的な経営戦略手法・復習プリント（e-ラーニングを含む）、予習項目の指示 10回 経営戦略（3）経営戦略の実現・仕事と交渉（復習プリント（e-ラーニングを含む）、予習項目の指示） 11回 経営戦略（4）経営戦略の実現・マーケティングの考え方（復習プリント（e-ラーニングを含む）、予習項目の指示） 12回 経営戦略（5）経営戦略の実現・プレゼンテーション（復習プリント（e-ラーニングを含む）、予習項目の指示） 13回 経営戦略（6）技術戦略（復習プリント（e-ラーニングを含む）、予習項目の指示） 14回 システム戦略（1）業務プロセスの分析（復習プリント（e-ラーニングを含む）、予習項目の指示） 15回 システム戦略（2）業務のシステム化（復習プリント（e-ラーニングを含む））		
評 価 方 法	概ね以下の割合で評価する。（1）授業への取組み状況（30%）（2）課題プリント（e-ラーニングを含む）（35%）（3）期末試験（35%）		
テ キ ス ト	「よくわかるマスター ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集」富士通エフ・オー・エム 著（富士通オフィス機器（FOM出版））およびプリントを使用予定		
参 考 文 献	授業中に紹介する		
備 考	特になし		

授 業 科 目	データ分析と統計1		担 当 教 員	垣花 京子	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習		単 位 数
学 期	前期	曜 日 時 限	月曜2時限		2単位 科目等履修 受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 共通科目[2014年度以降入学生]、専門基礎科目群 共通科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格	上級情報処理士, 上級ビジネス実務士				
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 情報スキル				
履 修 条 件	①主にExcelをツールとして学習を進めるので1年でのExcelの授業でしっかりとExcelが使えること (Excelの利用に不安の人は学習支援センターで学びなおしておく) ②各回: 30分の復習をすること。各回で学んだ知識をしっかりと身につける。				
授 業 概 要	高度情報化がますます進み、ビッグデータ、オープンデータという話題が広がり、経営を学ぶ学生、一般市民にとっても量的・質的データに基づく、統計分析の考えを知ることは必須である。統計的思考方には記述統計と推測統計がある。現在は、多くのデータから仮説を立て推測することが重要である。前期には、データをまとめ、集計、整理し、解釈する統計的探究活動を通して、記述統計を中心に基本統計を学ぶ。また、統計調査について学び、具体的にアンケート調査を実施し、その集計、解釈をポスターの形で表現する。後期は主に推測統計を中心に学ぶ。新しい知識と技能が出てくるので1時間以上事後学習を行い、確認し、次の授業へつなげることが望ましい。				
授業の到達目標	(1) 目的にあったデータを集め、そのデータを集計しまとめ表現できるようになる。(2) データ結果に対する適切なグラフ表現ができるようになる(3) 集めたデータに対して、代表値、ばらつきを考え方を正しく理解できる。(4) 基本統計の知識をもとに、データを通して社会の事象を理解し解釈できるようになる				
授 業 計 画	<p>1回 オリエンテーション統計的思考、統計的分析とはどのようなことかを考える。各自が持っている統計の知識の確認する。予習として今まで知っている統計の知識をまとめておく。</p> <p>2回 グラフの利用と見方を探り、正しいグラフ表現について理解する。予習として新聞、雑誌からグラフ表現されているものを集める</p> <p>3回 3, 4, 5回は簡単な事例を利用して統計的活動で必要な基本統計の基礎的な考えと計算方法を学ぶ。統計的活動はまず、データを集めから始まる。そこで、第3回はデータの収集に関する基本的な事項として、データの種類、データの収集法の基礎を理解する。さらに集めたデータの特徴をつかむための基本統計量として代表値について理解する。</p> <p>4回 データの特徴をつかむための基本統計量としてバラツキと分布について理解する。</p> <p>5回 データの特徴をつかむための基本統計量として相関係数について理解する。</p> <p>6回 統計的確率と数学的確率について学び、確率の考え方を復習し、統計的判断では確率が重要であることを理解する。</p> <p>7回 標本と母集団の考えを理解し、統計的判断が持つ確率的な意味を理解する。</p> <p>8回 実験をしてデータを集める活動を通して、目的に合ったデータの収集、分析方法を考え、まとめる。統計的分析を体験し、基本統計量を使って統計的判断ができるようになる。</p> <p>9回 8回から12回でアンケート調査の作成、その分析を行う。アンケート調査をするための目的を考えて、どんな項目を質問するかを考える。</p> <p>10回 アンケート用紙を作成し、その内容について、友達同士でお互いに精査する。仕上がったものを印刷し、最低30人分のデータを集める。</p> <p>11回 アンケート結果の集計: 集めたアンケートを基本統計量を使ってまとめ、分析する。</p> <p>12回 アンケート分析結果のまとめ、統計ポスターとして作成し、発表する準備をする。</p> <p>13回 アンケート集計結果の発表と相互評価を行い、統計的判断の体験を体験し、その分析方法を理解する。</p> <p>14回 ビッグデータとオープンデータの事例をもとに、どのような統計処理や統計的判断がされているかをまとめ、ビッグデータとオープンデータ何かを概観できる。</p> <p>15回 まとめ 基本統計に関しての知識の確認</p>				
評 価 方 法	筆記試験40%、毎回の授業で出された課題のレポート60%				
テ キ ス ト	プリント中心				
参 考 文 献	木村捨雄、垣花京子、村瀬浩一郎編著「進む情報科新しい知の創造社会の統計リテラシー」東洋館出版、木下栄蔵編著「社会現象の統計分析」朝倉書店、岸野洋久著「生のデータを料理する」日本評論社、				
備 考	【資格対象科目: 上級情報処理士、上級ビジネス実務士】				

授 業 科 目	情報数理解析		担 当 教 員	松岡 東香	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	水曜2時限		科目等履修 受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 共通科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格	上級情報処理士				
キ ー ワ ー ド	自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, マネジメントセンス				
履 修 条 件	なし。				
授 業 概 要	小・中学生レベルの算数/数学を土台に、企業での業務に必要な数理解析法について基礎から講義する。簡単な計算演習を行う中で、所得分布、人口統計、金利変動、携帯電話料金プラン、地震と地殻変動、気温変化と桜前線、体格と運動能力など、具体的な数値データを数多く採りあげる。演習を通し、経済・商業分野の関数・統計ならびに自然科学分野のデータ処理などを学び、“仕事に使える”基礎数学力の習得を目指す。				
授業の到達目標	1. 比と分数を使って割合を計算できる。2. 収支表を見て赤字か黒字か判断できる。3. もっとも適正な商品価格を自分で決められる。4. 目的に応じて、棒グラフ・円グラフ・折れ線グラフといった各グラフを自在に使い分けられる。5. 携帯電話の料金プランの中から、もっとも自分に適したプランをグラフから割り出せる。				
授 業 計 画	1回 数値の『嘘』を見破る(情報社会における数値) (予習:0分, 復習:20分) 2回 『数』に強くなる(比率の概念) (予習:5分, 復習:35分) 3回 『演算』に強くなる(さまざまな演算) (予習:5分, 復習:35分) 4回 『%』の正体を知る(百分率) (予習:0分, 復習:40分) 5回 データを『比較』する(構成割合) (予習:5分, 復習:35分) 6回 データの『推移』を読み取る(前回比と増減率) (予習:5分, 復習:35分) 7回 データを『解釈』する(代表値の選択) (予習:0分, 復習:40分) 8回 データの『見方』を知る(添え字と統計) (予習:0分, 復習:40分) 9回 お金の『出入り』を分析する(フローとストック) (予習:0分, 復習:40分) 10回 目的に応じて『グラフ』を使い分ける(様々なグラフ) (予習:0分, 復習:40分) 11回 グラフで『分析』する(データの表現とグラフ化) (予習:0分, 復習:40分) 12回 グラフを使って『予測』する(一次関数) (予習:5分, 復習:35分) 13回 最適な『価格』を決定する(均衡点) (予習:5分, 復習:35分) 14回 値上げと値下げの『損得』を判断する(価格弾力性) 15回 総括				
評 価 方 法	出席及び授業内小テスト(5回)40点、期末テスト60点の配点で評価する。				
テ キ ス ト	『ビジネス数理基礎』(ムイスリ出版)。※前版にあたる『インターネットで学ぶ社会科学系のための数学〔第4版〕』(ムイスリ出版)を使用しても良い。				
参 考 文 献	重要事項を簡潔にまとめられるよう、穴埋め式のプリントを毎回配布する。				
備 考	講義は「比と割り算」から始めるので、算数や数学が苦手な学生諸君も安心して受講してもらいたい。ICカードリーダーを使って出欠を確認するので、受講する際は学生証を携帯すること。				

授 業 科 目	日本語リテラシーA①		担 当 教 員	金久保 紀子	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習		単 位 数
学 期	前期	曜 日 時 限	水曜1時限		2単位 科目等履修 受入可
科 目 区 分	入門科目群[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格	日本語教員, 上級情報処理士, 上級ビジネス実務士, 実践キャリア実務士				
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 言語運用力				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	日本語の豊かな使い手になるために、話す力と書く力を伸ばすためのトレーニングを行う。大学生活に欠かせないアカデミックな場面を想定した練習を通じて、聞き手を意識しながら目的に応じた話をする力や、語彙や表現に注意しながら読み手を意識した文章を書く力を身につける。また、日本語検定4級以上の取得を目指し、検定試験に沿った内容も取り入れる。当科目を履修する学生は、授業での活動に加え、各回の授業内容に即した事前準備や復習など、授業外での自己学習に週3時間以上取り組むこと（予習・復習の内容については授業時に指示する）。				
授業の到達目標	①自分の「話す力」「書く力」を自覚し、不足している部分を伸ばす。②聞き手を意識して日本語を話したり書いたりすることができるようになる。③日本語検定（特定非営利活動法人日本語検定委員会主催、文部科学省等後援）4級以上の取得を目指す。				
授 業 計 画	1回 オリエンテーション、ウォーミングアップ 2回 図書館ガイダンス 3回 自己紹介活動 4回 ことばについて考える 5回 日本語検定準備①（模擬試験） 6回 日本語検定準備②（分野別解説） 7回 メールの書き方 8回 テーマに沿って意見を述べる 9回 デイバート①（準備） 10回 デイバート②（活動） 11回 デイバート③（活動の続きとまとめ）インタビュー活動①（準備） 12回 インタビュー活動②（インタビュー） 13回 インタビュー活動③（振り返り）評価の説明 14回 インタビュー記事の検討 15回 まとめ				
評 価 方 法	授業で実施する課題の提出状況40% 最終課題40% 授業への取り組み20%				
テ キ ス ト	教員が用意するプリント等を使用。				
参 考 文 献	必要に応じ、授業内で紹介する。				
備 考	・第1回目の授業時に、授業の内容やスケジュール、評価方法等についての説明を行うので、必ず出席すること。 ・授業内の課題（含：宿題）は必ず提出すること。				

授 業 科 目	日本語リテラシーA②		担 当 教 員	亀田 千里	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	水曜1時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	入門科目群[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格	日本語教員, 上級情報処理士, 上級ビジネス実務士, 実践キャリア実務士				
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 言語運用力				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	日本語の豊かな使い手になるために、話す力と書く力を伸ばすためのトレーニングを行う。大学生活に欠かせないアカデミックな場面を想定した練習を通じて、聞き手を意識しながら目的に応じた話をする力や、語彙や表現に注意しながら読み手を意識した文章を書く力を身につける。また、日本語検定4級以上の取得を目指し、検定試験に沿った内容も取り入れる。当科目を履修する学生は、授業での活動に加え、各回の授業内容に即した事前準備や復習など、授業外での自己学習に週3時間以上取り組むこと（予習・復習の内容については授業時に指示する）。				
授業の到達目標	①自分の「話す力」「書く力」を自覚し、不足している部分を伸ばす。②聞き手を意識して日本語を話したり書いたりすることができるようになる。③日本語検定（特定非営利活動法人日本語検定委員会主催、文部科学省等後援）4級以上の取得を目指す。				
授 業 計 画	1回 オリエンテーション、ウォーミングアップ 2回 自己紹介活動 3回 図書館ガイダンス 4回 ことばについて考える 5回 日本語検定準備①（模擬試験） 6回 日本語検定準備②（分野別解説） 7回 メールの書き方 8回 テーマに沿って意見を述べる 9回 ディベート①（準備） 10回 ディベート②（活動） 11回 ディベート③（活動の続きとまとめ）インタビュー活動①（準備） 12回 インタビュー活動②（インタビュー） 13回 インタビュー活動③（振り返り）評価の説明 14回 インタビュー記事の検討 15回 まとめ				
評 価 方 法	授業で実施する課題の提出状況40% 最終課題40% 授業への取り組み20%				
テ キ ス ト	教員が用意するプリント等を使用。				
参 考 文 献	必要に応じ、授業内で紹介する。				
備 考	・第1回目の授業時に、授業の内容やスケジュール、評価方法等についての説明を行うので、必ず出席すること。 ・授業内の課題（含：宿題）は必ず提出すること。				

授 業 科 目	日本語リテラシーA③		担 当 教 員	亀田 千里	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	水曜2時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	入門科目群[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格	日本語教員, 上級情報処理士, 上級ビジネス実務士, 実践キャリア実務士				
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 言語運用力				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	日本語の豊かな使い手になるために、話す力と書く力を伸ばすためのトレーニングを行う。大学生活に欠かせないアカデミックな場面を想定した練習を通じて、聞き手を意識しながら目的に応じた話をする力や、語彙や表現に注意しながら読み手を意識した文章を書く力を身につける。また、日本語検定4級以上の取得を目指し、検定試験に沿った内容も取り入れる。当科目を履修する学生は、授業での活動に加え、各回の授業内容に即した事前準備や復習など、授業外での自己学習に週3時間以上取り組むこと（予習・復習の内容については授業時に指示する）。				
授業の到達目標	①自分の「話す力」「書く力」を自覚し、不足している部分を伸ばす。②聞き手を意識して日本語を話したり書いたりすることができるようになる。③日本語検定（特定非営利活動法人日本語検定委員会主催、文部科学省等後援）4級以上の取得を目指す。				
授 業 計 画	1回 オリエンテーション、ウォーミングアップ 2回 図書館ガイダンス 3回 自己紹介活動 4回 ことばについて考える 5回 日本語検定準備①（模擬試験） 6回 日本語検定準備②（分野別解説） 7回 メールの書き方 8回 テーマに沿って意見を述べる 9回 ディベート①（準備） 10回 ディベート②（活動） 11回 ディベート③（活動の続きとまとめ）インタビュー活動①（準備） 12回 インタビュー活動②（インタビュー） 13回 インタビュー活動③（振り返り）評価の説明 14回 インタビュー記事の検討 15回 まとめ				
評 価 方 法	授業で実施する課題の提出状況40% 最終課題40% 授業への取り組み20%				
テ キ ス ト	教員が用意するプリント等を使用。				
参 考 文 献	必要に応じ、授業内で紹介する。				
備 考	・第1回目の授業時に、授業の内容やスケジュール、評価方法等についての説明を行うので、必ず出席すること。 ・授業内の課題（含：宿題）は必ず提出すること。				

授 業 科 目	日本語リテラシーB①		担 当 教 員	亀田 千里	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	水曜2時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	入門科目群[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格	日本語教員, 上級情報処理士, 上級ビジネス実務士, 実践キャリア実務士				
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 言語運用力				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	日本語の豊かな使い手になるために、話す力と書く力を伸ばすためのトレーニングを行う。大学生生活に欠かせないアカデミックな場面を想定した練習を通じて、聞き手を意識しながら目的に応じた話をする力や、語彙や表現に注意しながら読み手を意識した文章を書く力を身につける。また、日本語検定4級以上の取得を目指し、検定試験に沿った内容も取り入れる。当科目を履修する学生は、授業での活動に加え、各回の授業内容に即した事前準備や復習など、授業外での自己学習に週3時間以上取り組むこと（予習・復習の内容については授業時に指示する）。				
授業の到達目標	①自分の「話す力」「書く力」を自覚し、不足している部分を伸ばす。②聞き手を意識して日本語を話したり書いたりすることができるようになる。③日本語検定（特定非営利活動法人日本語検定委員会主催、文部科学省等後援）4級以上の取得を目指す。				
授 業 計 画	1回 オリエンテーション目標の再設定ビブリオバトルの説明 2回 日本語検定準備（模擬試験） 3回 ビブリオバトル 4回 本の紹介文を書く 5回 外部講師による講義 6回 履歴書、自己紹介文を書く 7回 テーマに沿って意見を述べる 8回 作文を書く①（意見文） 9回 作文を読む①（意見文） 10回 作文を書く②（根拠を明らかにした意見文） 11回 作文を読む②（根拠を明らかにした意見文） 12回 インタビュー活動①（準備）評価の説明 13回 インタビュー活動②（インタビュー） 14回 インタビュー活動③（振り返り、インタビュー記事を読む） 15回 まとめ				
評 価 方 法	授業で実施する課題の提出状況と内容30% 最終課題40% 授業への取り組み20% 日本語検定4級以上の取得10%				
テ キ ス ト	教員が用意するプリント等を使用。				
参 考 文 献	必要に応じ、授業内で紹介する。				
備 考	第1回目の授業時に、授業の内容やスケジュール、評価方法等についての説明を行うので、必ず出席すること。 ・授業内の課題（含：宿題）は必ず提出すること。				

授 業 科 目	日本語リテラシーB②		担 当 教 員	金久保 紀子	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習		単 位 数
学 期	後期	曜 日 時 限	水曜2時限		2単位 科目等履修 受入可
科 目 区 分	入門科目群[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格	日本語教員, 上級情報処理士, 上級ビジネス実務士, 実践キャリア実務士				
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 言語運用力				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	日本語の豊かな使い手になるために、話す力と書く力を伸ばすためのトレーニングを行う。大学生活に欠かせないアカデミックな場面を想定した練習を通じて、聞き手を意識しながら目的に応じた話をする力や、語彙や表現に注意しながら読み手を意識した文章を書く力を身につける。また、日本語検定4級以上の取得を目指し、検定試験に沿った内容も取り入れる。当科目を履修する学生は、授業での活動に加え、各回の授業内容に即した事前準備や復習など、授業外での自己学習に週3時間以上取り組むこと（予習・復習の内容については授業時に指示する）。				
授業の到達目標	①自分の「話す力」「書く力」を自覚し、不足している部分を伸ばす。②聞き手を意識して日本語を話したり書いたりすることができるようになる。③日本語検定（特定非営利活動法人日本語検定委員会主催、文部科学省等後援）4級以上の取得を目指す。				
授 業 計 画	1回 オリエンテーション目標の再設定ビブリオバトルの説明 2回 日本語検定準備（模擬試験） 3回 ビブリオバトル 4回 本の紹介文を書く 5回 外部講師による講義 6回 履歴書、自己紹介文を書く 7回 テーマに沿って意見を述べる 8回 作文を書く①（意見文） 9回 作文を読む①（意見文） 10回 作文を書く②（根拠を明らかにした意見文） 11回 作文を読む②（根拠を明らかにした意見文） 12回 インタビュー活動①（準備）評価の説明 13回 インタビュー活動②（インタビュー） 14回 インタビュー活動③（振り返り、インタビュー記事を読む） 15回 まとめ				
評 価 方 法	授業で実施する課題の提出状況と内容30% 最終課題40% 授業への取り組み20% 日本語検定4級以上の取得10%				
テ キ ス ト	教員が用意するプリント等を使用。				
参 考 文 献	必要に応じ、授業内で紹介する。				
備 考	第1回目の授業時に、授業の内容やスケジュール、評価方法等についての説明を行うので、必ず出席すること。 ・授業内の課題（含：宿題）は必ず提出すること。				

授 業 科 目	日本語リテラシーB③		担 当 教 員	金久保 紀子	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	水曜1時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	入門科目群[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格	日本語教員, 上級情報処理士, 上級ビジネス実務士, 実践キャリア実務士				
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 言語運用力				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	日本語の豊かな使い手になるために、話す力と書く力を伸ばすためのトレーニングを行う。大学生生活に欠かせないアカデミックな場面を想定した練習を通じて、聞き手を意識しながら目的に応じた話をする力や、語彙や表現に注意しながら読み手を意識した文章を書く力を身につける。また、日本語検定4級以上の取得を目指し、検定試験に沿った内容も取り入れる。当科目を履修する学生は、授業での活動に加え、各回の授業内容に即した事前準備や復習など、授業外での自己学習に週3時間以上取り組むこと（予習・復習の内容については授業時に指示する）。				
授業の到達目標	①自分の「話す力」「書く力」を自覚し、不足している部分を伸ばす。②聞き手を意識して日本語を話したり書いたりすることができるようになる。③日本語検定（特定非営利活動法人日本語検定委員会主催、文部科学省等後援）4級以上の取得を目指す。				
授 業 計 画	1回 オリエンテーション目標の再設定ビブリオバトルの説明 2回 日本語検定準備（模擬試験） 3回 ビブリオバトル 4回 本の紹介文を書く 5回 外部講師による講義 6回 履歴書、自己紹介文を書く 7回 テーマに沿って意見を述べる 8回 作文を書く①（意見文） 9回 作文を読む①（意見文） 10回 作文を書く②（根拠を明らかにした意見文） 11回 作文を読む②（根拠を明らかにした意見文） 12回 インタビュー活動①（準備）評価の説明 13回 インタビュー活動②（インタビュー） 14回 インタビュー活動③（振り返り、インタビュー記事を読む） 15回 まとめ				
評 価 方 法	授業で実施する課題の提出状況と内容30% 最終課題40% 授業への取り組み20% 日本語検定4級以上の取得10%				
テ キ ス ト	教員が用意するプリント等を使用。				
参 考 文 献	必要に応じ、授業内で紹介する。				
備 考	第1回目の授業時に、授業の内容やスケジュール、評価方法等についての説明を行うので、必ず出席すること。 ・授業内の課題（含：宿題）は必ず提出すること。				

授 業 科 目	経営と情報		担 当 教 員	高藤 清美	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	金曜2時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	入門科目群[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格	上級ビジネス実務士				
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力, 情報スキル				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	情報化の進んだ現代社会において、ビジネス現場で必要とされる情報活用能力および情報処理や情報活用のためのコンピュータ技術、通信ネットワーク技術について広く学習する。具体的には、仕事の現場における、情報の意味、情報の取り扱い方、基本的なICT技術、ICT技術と情報活用、情報通信ネットワークを通じた情報活用、情報倫理、関連する法務などを学び、ビジネス現場で活躍するための素養を身に付ける。				
授業の到達目標	情報化の進んだ現代社会において、情報活用の方法や意味、ビジネス現場で必要となるICT技術を正しく理解し、活用できるようになるための基礎的な知識の習得を目的とする。対象となる内容は経済産業省が実施している情報処理技術者試験・ITパスポート試験のストラテジ系の範囲を中心とし、到達目標はITパスポート試験に合格できる知識レベルとする。				
授 業 計 画	1回 ビジネスにおけるICT活用 (復習プリント (e-ラーニングを含む)、予習項目の指示) 2回 企業と法務 (1) 企業活動・企業の組織形態 (復習プリント (e-ラーニングを含む)、予習項目の指示) 3回 企業と法務 (2) 企業活動・企業の運営とPDCAサイクル (復習プリント (e-ラーニングを含む)、予習項目の指示) 4回 企業と法務 (3) 企業における情報活用・情報の共有と伝達 (復習プリント (e-ラーニングを含む)、予習項目の指示) 5回 企業と法務 (4) 企業における情報伝達・情報の収集と活用 (復習プリント (e-ラーニングを含む)、予習項目の指示) 6回 企業と法務 (5) 知的財産権と情報に関連する法務 (復習プリント (e-ラーニングを含む)、予習項目の指示) 7回 企業と法務 (6) 労働関係の法務・復習プリント (e-ラーニングを含む)、予習項目の指示 8回 経営戦略 (1) 代表的な経営分析手法・復習プリント (e-ラーニングを含む)、予習項目の指示 9回 経営戦略 (2) 代表的な経営戦略手法・復習プリント (e-ラーニングを含む)、予習項目の指示 10回 経営戦略 (3) 経営戦略の実現・仕事と交渉 (復習プリント (e-ラーニングを含む)、予習項目の指示) 11回 経営戦略 (4) 経営戦略の実現・マーケティングの考え方 (復習プリント (e-ラーニングを含む)、予習項目の指示) 12回 経営戦略 (5) 経営戦略の実現・プレゼンテーション (復習プリント (e-ラーニングを含む)、予習項目の指示) 13回 経営戦略 (6) 技術戦略 (復習プリント (e-ラーニングを含む)、予習項目の指示) 14回 システム戦略 (1) 業務プロセスの分析 (復習プリント (e-ラーニングを含む)、予習項目の指示) 15回 システム戦略 (2) 業務のシステム化 (復習プリント (e-ラーニングを含む))				
評 価 方 法	概ね以下の割合で評価する。(1) 授業への取組み状況 (30%) (2) 課題プリント (e-ラーニングを含む) (35%) (3) 期末試験 (35%)				
テ キ ス ト	「よくわかるマスター ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集」富士通エフ・オー・エム 著 (富士通オフィス機器 (FOM出版)) およびプリントを使用予定				
参 考 文 献	授業中に紹介する				
備 考	特になし				

授 業 科 目	フードシステム1		担 当 教 員	古家 晴美	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	火曜2時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 共通科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神, ローカル・グローバルセンス, 言語運用力, 情報スキル				
履 修 条 件	食べものに関心があること。				
授 業 概 要	食べてもいないトウモロコシの成分が毛髪から検出されたのはどうしてか、鶏肉より安いビーフハンバーガーが食べられるのはどうしてか。映像を通して、現代社会における「食」の最前線を紹介する。DVDをトピックごとに一時停止させ、要点を板書して解説するので、映像が意味するものを深く理解することができる。予習15分：課題の遂行、復習10分：テキストの読み直し				
授業の到達目標	農産物自由化に大きく舵が切られようとしている今日、日本人の食生活・農業は分岐点に立たされている。氾濫する食情報の中から必要な情報をピックアップできる「情報スキル」、また地域を知り世界を知る「ローカル・グローバルセンス」、その中で何が問題かを見極めることができる「問題発見力」とそのために何をすべきかを考える「問題解決力」を身につける。				
授 業 計 画	1回 オリエンテーション 2回 I アメリカにおけるトウモロコシ栽培：レポート報告 3回 『キング・コーン』＜どうして髪の毛にトウモロコシが・・・＞ (1) 4回 // (2) 5回 // (3) 6回 II 日本人のマグロ食：レポート報告 7回 『食べるためのマグロ・売るためのマグロ』＜マグロを食べる時に、あなたは何を食べるのか＞ (1) 8回 // (2) 9回 // (3) 10回 III アメリカにおけるコメ栽培：レポート報告 11回 // (2) 12回 // (3) 13回 IV 『いのちの食べ方』 <食べものとは何か> (1) 14回 // (2) 15回 まとめ				
評 価 方 法	トピックごとのレポート発表・毎回の提出物が成績評価で大きな割合を占める。(詳細は授業内で説明。)				
テ キ ス ト	DVD多数。				
参 考 文 献	授業内で紹介。				
備 考					

授 業 科 目	ユニバーサルデザイン1		担 当 教 員	右田 玲子	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	金曜3時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門発展科目群 情報システム[2014年度以降入学生]、専門基礎科目群 共通科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神, ローカル・グローバルセンス, 言語運用力, 情報スキル, マネジメントセンス				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	自立した生活をしていく上で必要と思われる情報の整理を行い、表現することに必要な基本知識を学ぶ。欲しい情報を手でできる社会、心を開き少しでも相手を理解し、生活や仕事にそれぞれの力を発揮できる社会に向けたユニバーサルデザイン (UD) の実施例を通してそれぞれの国の施策を学びその意図について考える。ノーマライゼーションやバリアフリーというようなユニバーサルデザインの類縁概念と比較しながら、ユニバーサルデザインの概念、基本的理念、その実践方法を通して、ユニバーサルデザインの意図 (コンセプト) という企画行為とかたちにするという表現行為を通して、高齢社会について考える。資料をみながら、現状や未来について考える時間として予習、復習時間をそれぞれ確保する。				
授業の到達目標	高齢社会を迎えるなか、社会生活を送る上で、最も身近な生活環境としての住居、住環境、支援機器やそれらの周辺領域のデザイン (計画) を通して、問題発見力の基礎力を育てる。将来はこの関連分野における職業人を目指すことができることを目標にする。				
授 業 計 画	1回 オリエンテーション 2回 ノーマライゼーションの歴史 (国外、国内) 3回 ノーマライゼーションからバリアフリーへ 歴史 (国外、国内) 4回 バリアフリーからユニバーサルデザイン (UD) へ 歴史 (国外、国内) 5回 実習 観察から始める UD 6回 実験から考える UD 7回 UDの必要性 8回 UDの7原則の内容 9回 UDの7原則を解剖 10回 UDのデザインプロセス 11回 UDの調査と評価 12回 PPPによるプロダクト評価 13回 UD産業への展望 14回 UDが目指すゴール 15回 まとめ				
評 価 方 法	小レポート、期末レポートと授業への参加状況を総合的に評価する。				
テ キ ス ト	プリント				
参 考 文 献	随時紹介				
備 考					

授 業 科 目	ライフスパンと認知心理	担 当 教 員	佐野 司
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義
学 期	前期	曜 日 時 限	木曜2時限
単 位 数	2単位	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 共通科目[2014年度以降入学生]、専門基礎科目群 共通科目[2013年度以前入学生]		
対 象 資 格	日本語教員, 上級情報処理士		
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力, 言語運用力, 情報スキル		
履 修 条 件	特になし(子どもの発達心理学の詳細がより深く学べるため、「教育心理学」を受講した学生の履修を推奨する)。		
授 業 概 要	人間の情報処理能力は加齢とともに変化する。乳幼児が成人と同様に外界を認識し理解するまでには、さまざまな発達段階を経ることになる。また、高齢者の認知機能も加齢により質的・量的にさまざまな変化を示す。人間の認知機能を考えるときに、その処理能力の変化を生涯発達の視点から解き明かすのが本講座の目標となる。近年の認知発達に関する知見について、特に子どもの認知機能の変化、言語獲得、高齢者の記憶やその病理などに焦点をあてる。		
授業の到達目標	・認知発達や言語獲得についての基本的知識を獲得する・仮説検証の方法論を知る・行動科学における実証データの測定, 分析方法を知る・実証データがある理論の記述方法を獲得する		
授 業 計 画	1回 1 生涯発達とは？ 2回 2 子どもの身体と運動能力の発達 3回 3 子どもの認知機能の発達 4回 4 言語的音声の獲得 5回 5 身振りとは 6回 6 語彙の獲得 7回 7 文法の獲得1：動詞を中心に 8回 8 文法の獲得2：助詞を中心に 9回 9 高齢者の認知機能の変容 10回 10 高齢者の注意機能 11回 11 高齢者の記憶機能 12回 12 日常生活における加齢の影響 13回 13 高齢者と記憶の病理1 14回 14 高齢者と記憶の病理2 15回 15 まとめ		
評 価 方 法	テストにより評価する(資料の持込不可)		
テ キ ス ト	テキストは特に指定しない。資料は各回ごとに用意する。		
参 考 文 献	小林晴美・佐々木正人編『子どもたちの言語獲得』大修館書店D. C. パーク・N. シュワルツ編『認知のエイジング：入門編』北大路書房		
備 考	【資格対象科目：上級情報処理士】		

授 業 科 目	メディアと文化	担 当 教 員	高 嶋 啓
授 業 ナンバリング		授 業 形 態	講 義
学 期	前期	曜 日 時 限	火 曜 4 時 限
単 位 数	2 単 位	科 目 等 履 修	受 入 可
科 目 区 分	専門基礎科目群 メディアデザイン[2014年度以降入学生]、専門基礎科目群 共通科目[2013年度以前入学生]		
対 象 資 格	上級情報処理士, 上級ビジネス実務士		
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, ローカル・グローバルセンス, 情報スキル		
履 修 条 件	特に無し。2年生で履修することが望ましい。3年次以降も受け入れ可。		
授 業 概 要	合理性や構築性などによって、20世紀を席卷したモダニズムから、21世紀のポストモダンに至る様々なメディアの変遷を軸に、2000年以降の新たなメディアのあり方を学ぶ。授業内にて講義する、ユーザーエクスペリエンス (UX)、エコデザイン、インフォグラフィック、アフォーダンスなど、デザイン分野における様々なメディアを通して、ビジュアル・コミュニケーションのリテラシーを習得する。キーワード：CGクリエイター検定, グラフィックデザイン, タイポグラフィ, 色彩, CI計画, ブランディング, DTP, メディア論		
授 業 の 到 達 目 標	芸術、デザイン、建築、映像、造形などを通して、新しいメディアの捉え方を学び、想像力や感性を高めることによって、ビジュアル・コミュニケーションの表現手法を考察し、知識を身につける。各講義の為に予習40分、復習時間50分が必要となる。		
授 業 計 画	<p>1回 オリエンテーションモダニズム、ポストモダニズムとは何かを、映像、スライド等を通して学ぶ</p> <p>2回 UX (ユーザーエクスペリエンス) とは何かインターフェースデザインにおける、UXなどユーザーが得る「満足感」、「達成感」について課題：「身の回りのUXを探す」課題達成時間：60分</p> <p>3回 課題：「身の回りのUXを探す」グループワークにて、ディスカッションを行う予習40分、復習時間50分が必要となる</p> <p>4回 課題：「身の回りのUXを探す」グループワークにて、プレゼンテーションする次回講義：エコデザイン (環境負荷を最小限に抑えようとする設計や手法) 予習40分、復習時間50分が必要となる</p> <p>5回 エコデザイン (環境負荷を最小限に抑えようとする設計や手法) ・フライタグ (スイス) 、リサイクルウェアについて課題：「環境という視点」課題達成時間：60分</p> <p>6回 課題：「環境という視点」グループワークにて、ディスカッションする予習40分、復習時間50分が必要となる</p> <p>7回 課題：「環境という視点」グループワークにて、発表する次回講義：インフォグラフィックスとは何か？予習40分、復習時間50分が必要となる</p> <p>8回 インフォグラフィックスとは何か？ピクトグラム、情報の可視化、ノンバーバルコミュニケーション課題：「インフォグラフィックの必要性 (情報をわかりやすく視覚化するには?) 」課題達成時間：60分</p> <p>9回 課題：「インフォグラフィックの必要性 (情報をわかりやすく視覚化するには?) 」グループワークにて、ディスカッションする予習40分、復習時間50分が必要となる</p> <p>10回 課題：「インフォグラフィックの必要性 (情報をわかりやすく視覚化するには?) 」グループワークにて、発表する次回講義：アフォーダンス (オブジェクトの属性やデザインが、そのオブジェクトをどう取り扱ったらいいか、どう取り扱えるかについてのメッセージを利用者に発していること) 予習40分、復習時間50分が必要となる</p> <p>11回 アフォーダンス (オブジェクトの属性やデザインが、そのオブジェクトをどう取り扱ったらいいか、どう取り扱えるかについてのメッセージを利用者に発していること) 課題：「かたちの持つアフォーダンスについて」課題達成時間：60分</p> <p>12回 課題：「かたちの持つアフォーダンスについて」グループワークにて、ディスカッションする予習40分、復習時間50分が必要となる</p> <p>13回 課題：「かたちの持つアフォーダンスについて」グループワークにて、発表する次回講義：スポーツにおけるデザイン予習40分、復習時間50分が必要となる</p> <p>14回 スポーツにおけるデザインコーポレートアイデンティティの必要性、企業が目指すブランディングとはレポート課題：「スポーツデザインのブランディング」課題達成時間：60分</p> <p>15回 レポート課題：「スポーツデザインのブランディング」各自授業内にてレポートを仕上げる。</p>		
評 価 方 法	課題への取り組み方40%、企画内容30%、プレゼンテーション力30%によって評価する。		
テ キ ス ト	授業内にて、プリント及び、PDFデータ等配布する。		
参 考 文 献	誰のためのデザイン?—認知科学者のデザイン原論, 新曜社, 1990, ドナルド・A. ノーマン (著). それは「情報」ではない。—無情報爆発時代を生き抜くためのコミュニケーション・デザイン, エムディエヌコーポレーション, 2007, リチャード・S. ワーマン (著), 他		
備 考	【資格対象科目：上級情報処理士、上級ビジネス実務士】		

授 業 科 目	映像編集・制作A		担 当 教 員	野田 美波子	
授業ナンバリング		授 業 形 態	実習	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	火曜 4時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 メディアデザイン[2014年度以降入学生]、専門基礎科目群 共通科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神, 情報スキル				
履 修 条 件	映像編集・制作ABは必ず併せて履修すること。チーム制作を責任を持って最後まで行うこと。				
授 業 概 要	撮影、編集の作業をチームワークで行う。Canon一眼レフカメラ、DragonFrame(コマ撮り専用ソフト)adobe Photoshop After Effects、Premiere proを使用する。				
授業の到達目標	基本的な映像編集、制作技術の習得。映像制作において必要不可欠なグループワークを行い、協調性や計画性、進行力を身につける。				
授 業 計 画	1回 ブルーバック合成撮影1 2回 ブルーバック合成撮影2 3回 ブルーバック合成編集 4回 タイムラプス撮影1 5回 タイムラプス撮影2 6回 タイムラプス編集1 7回 タイムラプス編集2 8回 ストップモーション撮影1 9回 ストップモーション撮影2 10回 ストップモーション撮影3 11回 ストップモーション編集4 12回 ストップモーション編集1 13回 ストップモーション編集2 14回 ストップモーション編集3 15回 講評会				
評 価 方 法	出席、作品、チーム制作に対する向き合い方を評価。				
テ キ ス ト	課題ごとに配布				
参 考 文 献	特になし				
備 考	興味がある学生は以前に映像編集・制作ABを履修済みであっても二週間参加可能であれば聴講を認めます。				

授 業 科 目	映像編集・制作B		担 当 教 員	野田 美波子	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	火曜 4 時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 メディアデザイン[2014年度以降入学生]、専門基礎科目群 共通科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神, 情報スキル				
履 修 条 件	映像編集・制作ABは必ず併せて履修すること。チーム制作を責任を持って最後まで行うこと。				
授 業 概 要	撮影、編集の作業をチームワークで行う。Canon一眼レフカメラ、DragonFrame(コマ撮り専用ソフト)adobe Photoshop After Effects、Premiere proを使用する。				
授業の到達目標	基本的な映像編集、制作技術の習得。映像制作において必要不可欠なグループワークを行い、協調性や計画性、進行力を身につける。				
授 業 計 画	1回 ドローン演習 2回 タイムスライス撮影 1 3回 タイムスライス撮影 2 4回 タイムスライス撮影 3 5回 タイムスライス編集 6回 プロジェクションマッピング 1 7回 プロジェクションマッピング 2 8回 プロジェクションマッピング 3 9回 プロジェクションマッピング 4 10回 プロジェクションマッピング 5 11回 プロジェクションマッピング 6 12回 プロジェクションマッピング 7 13回 プロジェクションマッピング 8 14回 プロジェクションマッピング 7 15回 講評会				
評 価 方 法	出席、作品、チーム制作に対する向き合い方を評価。				
テ キ ス ト	課題ごとに配布				
参 考 文 献	特になし				
備 考	興味がある学生は以前に映像編集・制作ABを履修済みであっても二週間参加可能であれば聴講を認めます。				

授 業 科 目	世界遺産A		担 当 教 員	小松 進		
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位	
学 期	前期	曜 日 時 限	水曜2時限		科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 ビジネスマネジメント[2014年度以降入学生]、専門基礎科目群 共通科目[2013年度以前入学生]					
対 象 資 格						
キ ー ワ ー ド	ローカル・グローバルセンス					
履 修 条 件	世界の文化や観光に関心を持っていること。					
授 業 概 要	世界遺産は地球と人類の歩みが刻み込まれた歴史的記念碑である。とりわけその文化遺産は世界各地で繰り広げられたさまざまな文明の精華が凝縮し結晶化されたもので、それぞれの遺産は人類が営んだ諸文明の特質を読み解く最良の手がかりである。こうした文明読解の手段であるばかりでなく、世界遺産は今日観光の目玉としても注目を集めている。本講義では世界遺産の基礎知識を身につけるとともに、映像でさまざまな世界遺産を紹介しながら、人類文化のたどった歴史的軌跡への理解を深めていく。【予習時間30分程度】					
授業の到達目標	世界遺産を学ぶことで、世界の文化的多様性を知り、人類が平和に共存するための資質を養う。					
授 業 計 画	1回 授業へのガイダンス 2回 世界遺産の基礎知識 (1) 3回 世界遺産の基礎知識 (2) 4回 日本の世界遺産 (1) 5回 日本の世界遺産 (2) 6回 日本の世界遺産 (3) 7回 日本の世界遺産 (4) 8回 日本の世界遺産 (5) 9回 日本の世界遺産 (6) 10回 日本の世界遺産 (7) 11回 日本の世界遺産 (8) 12回 人類の誕生と古代文明 (1) 13回 人類の誕生と古代文明 (2) 14回 人類の誕生と古代文明 (3) 15回 人類の誕生と古代文明 (4)					
評 価 方 法	授業にのぞむ姿勢とレポートで評価する。					
テ キ ス ト	NPO法人世界遺産アカデミー監修 『はじめて学ぶ世界遺産100』 毎日コミュニケーションズ発売					
参 考 文 献	調味をおぼえた学生には、要望があればいつでも参考となる文献を紹介する。					
備 考	【資格対象科目：観光ビジネス実務士】					

授 業 科 目	世界遺産B		担 当 教 員	小松 進	
授業ナンバリング		授 業 形 態	演習	単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	水曜2時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 ビジネスマネジメント[2014年度以降入学生]、専門基礎科目群 共通科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	ローカル・グローバルセンス				
履 修 条 件	世界遺産Aを履修していることが望ましい。				
授 業 概 要	世界遺産Aでは世界遺産の基礎知識、日本の世界遺産、人類の起源と古代文明の世界遺産を紹介したが、本講義では、アジア世界の形成と宗教から近代国家の成立と世界の近代化にいたる文化遺産を取り上げる。世界遺産Aと同様に、テキストの読解とその記述内容の映像による理解を授業内容とする。既習の人類史に関する知識をあらためて整理し再確認しながら、その知識内容をもっと視覚的・具体的に深めていってほしい。【予習時間30分程度】				
授業の到達目標	世界遺産Aと同じく、人類が平和に共存していくための資質と知識を身につける。				
授 業 計 画	1回 授業へのガイダンス 2回 アジア世界の形成と宗教(1) 3回 アジア世界の形成と宗教(2) 4回 アジア世界の形成と宗教(3) 5回 アジア世界の形成と宗教(4) 6回 ヨーロッパ中世とルネサンス、大航海時代(1) 7回 ヨーロッパ中世とルネサンス、大航海時代(2) 8回 ヨーロッパ中世とルネサンス、大航海時代(3) 9回 アメリカ、アフリカ、オセアニアの文明と東アジアの変動(1) 10回 アメリカ、アフリカ、オセアニアの文明と東アジアの変動(2) 11回 アメリカ、アフリカ、オセアニアの文明と東アジアの変動(3) 12回 近代国家の成立と世界の近代化(1) 13回 近代国家の成立と世界の近代化(2) 14回 近代国家の成立と世界の近代化(3) 15回 近代国家の成立と世界の近代化(4) 16回 近代国家の成立と世界の近代化(5)				
評 価 方 法	授業にのぞむ姿勢とレポートによって評価する。				
テ キ ス ト	NPO法人世界遺産アカデミー監修 『はじめて学ぶ世界遺産100』 毎日コミュニケーションズ発売				
参 考 文 献	興味をおぼえた学生には、要望があればいつでも参考になる文献を紹介する。				
備 考	【資格対象科目：観光ビジネス実務士】				

授 業 科 目	機械CAD1		担 当 教 員	荒木 勉	
授 業 ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	水曜3時限		科 目 等 履 修 受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 共通科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神, 情報スキル				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	図形を通して情報伝達を行うCAD (Computer Aided Design) の利用体験を通しながら図形情報処理を学びます。モノづくりのためのCADを利用するための基礎として、最初に図面によるコミュニケーション手段としてのJIS機械製図の作図法を学習します。そして、CADソフト(二次元CAD: AutoCAD、三次元CAD: Autodesk Inventor)を用いて作図の基礎を学びます。モノづくりのためのCADを学ぶには、企画・設計・製作・評価・改良の流れの中で最適化を目指しながら二次元CADや三次元CADを駆使して実際にモノづくりを行いながら体験的に学びます。展開図から立体の製作や紙飛行機の製作、ミニはんこの製作を通して三次元モデリングなど実際に成果を形に表しながらCADの概念と基本操作やCADデータの利用法など「機械CAD1」として図形情報処理について学びます。				
授業の到達目標	モノづくりのための二次元CAD、三次元CADおよびモデリングに関する基礎を習得します。				
授 業 計 画	1回 ガイダンス：情報伝達のツールとしてのCADを学ぶ利点 2回 CADで描くための準備：図形の表し方（正面図の選び方、形を正しく伝えるために） JISと作図法 作図のマナー 3回 CADを学ぶための製図の基礎（製図のための線、文字、記号と用紙の決まり） 製図の線の種類と用途、文字の大きさ、製図記号、図面と尺度、作図範囲（図面を描く用紙の大きさ） 4回 CADの基本操作法 直線で描く、円を描く、消去・移動・複写の練習と図面に色を付ける 図面の保存 5回 CADによる文字の入力と寸法の表し方について学ぶ正しい印刷出力 プリントした図面の大きさの確認（等倍出力の練習） 6回 立体図の読み方、描き方 7回 課題を通してCADを学ぶ 展開図から立体の作成（正六面体、正四面体） 8回 課題を通してCADを学ぶ 展開図から立体の作成（六角柱、角柱とその切断面） 9回 CADによる作図 製作の条件に従って企画立案し、CADにより図面を描き製作する紙飛行機を通して学ぶ課題「はがきでつくる紙飛行機」ハガキ大の作図範囲の中で部品を作図し切り抜き組み立て、飛ばす紙飛行機的设计と製作 CADとしてのコンピュータの利用によりCADを用いるセンスを学ぶ 10回 CADでつくった紙飛行機の飛行コンテストのための評価と改良を重ね、各自紙飛行機の最適化の実践課題「はがきでつくる紙飛行機」を飛ばし、飛行距離と飛び方を競う飛行コンテストと評価、改良による最適化を行なう 11回 最適化のための課題 二次元CADによる図面の完成 12回 二次元CADのまとめ 主要な機械要素の図示法（ねじ製図、歯車製図、ばね製図 他） 13回 三次元CADの基礎 3D-CADと3Dモデリング 「ミニはんこ」の製作を通して学ぶ 14回 三次元CADによるモデリング モデリングとしての「ミニはんこ」の評価 自由課題による三次元図面の作成 15回 まとめ 前期の学習内容のまとめ 提出課題のチェック、製図の基礎とCAD操作の確認				
評 価 方 法	平常点・課題提出物50点、筆記試験50点				
テ キ ス ト	『図面の見方・描き方（四訂版）』真部富男著、工学図書、ISBN 978-4-7692-491-6				
参 考 文 献	『要説 機械製図（第3版）』大西清著、オーム社、ISBN 978-4-274-21724-1『図解Inventor実習 ゼロからわかる3次元CAD（第3版）』船倉一郎・堀桂太郎共著、森北出版、ISBN 978-4-627-66622-1				
備 考	前期に作成した紙飛行機の図面データを秋につくば市の教育委員会主催で開催される「つくば科学フェスティバル」に提供し、CADのクラスとして「つくって飛ばそう紙飛行機教室」により来場者への指導を行なう予定です。CADの楽しさ、素晴らしさを来場者に伝え授業の成果を示しながらの社会貢献です。				

授 業 科 目	機械CAD2		担 当 教 員	荒木 勉	
授業ナンバリング		授 業 形 態	演習		単 位 数
学 期	後期	曜 日 時 限	水曜3時限		2単位 科目等履修 受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 共通科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性,自己表現力/実行分析力,問題発見力/問題解決力,実行力/チャレンジ精神,ローカル・グローバルセンス,情報スキル				
履 修 条 件	「機械CAD1」を受講していることが望ましい。				
授 業 概 要	「機械CAD1」で学んだ事柄を基礎として「CADによるペーパーカーの製作とペーパーカーレース」を一つのテーマとして、CAD (Computer Aided Design) についてさらに深く、発展的に学びます。ひとり一台のコンピュータ利用環境の中でコンピュータの支援による世界標準の製図ソフト、AutoCADを用いてペーパーカーの製作を行ないます。CADによるペーパーカーの製作を通し、CADの基本をしっかりと身に付けます。学習のまとめとして『ペーパーカーの作り方』をテーマとしたCAD操作法マニュアルの作成を行います。				
授業の到達目標	二次元CAD、三次元CADおよびモデリングによるモノづくりの基本を学ぶことによりCADへの理解を深めます。				
授 業 計 画	1回 ガイダンス：前期の復習（各種CAD機能と操作法について） 後期の授業内容の説明 作成するペーパーカーの製作の条件の提示と作成方法について 2回 CADによるペーパーカーの製作 ペーパーカー製作の条件により各自設計のための企画立案、ポンチ絵を描いてイメージをまとめる 3回 CADによるペーパーカーの製作 イメージ図より部品図としての展開図の作成（グラフ用紙に実寸で描いてからCAD入力） 4回 CADによるペーパーカーの製作 部品図の完成とケント紙にプリント出力して切り抜き組み立てる 5回 ペーパーカーレース（学院祭（KVA祭）に授業として参加、作品展示とレース） 6回 つくるためのCAD（レース結果の評価より車の改良を考え最適化を行なう） 改良点の図面の変更 7回 CAD機能の効果的利用について実践を通して学ぶ 8回 CADによる図面の変更とペーパーカーの改善を通し最適化を行なう中でCAD利用のセンスを修得 9回 CADによるペーパーカーの製作の各自の設計コンセプトをまとめ、改善点を含め発表し意見交換の中でよりよいものへと発展させる 10回 ペーパーカーレース開催（最適化への確認と評価を図る） レースを介しての評価と最適化を推進し、図面として完成させる 11回 図面を介したコミュニケーションについて 12回 組立図の作成（寸法記入と画層管理）ペーパーカーの三面図の作成と作品の三次元CAD図面の作成 13回 課題：CAD操作法マニュアル「ペーパーカーの作り方」の作成 課題内容の説明の後、マニュアル作成のための構想と資料準備を行なう 14回 課題遂行とマニュアル作成のための説明図面の作成および資料の収集 15回 まとめインターネットの利用（CADデータとしての活用と作品の公開について考える）				
評 価 方 法	平常点50点、課題提出物50点				
テ キ ス ト	『図面の見方・描き方（四訂版）』真部富男著、工学図書、ISBN 978-4-7692-491-6				
参 考 文 献	『要説 機械製図（第3版）』大西清著、オーム社、ISBN 978-4-274-21724-1『図解Inventor実習 ゼロからわかる3次元CAD（第3版）』船倉一郎・堀桂太郎共著、森北出版、ISBN 978-4-627-66622-1				
備 考	秋につくば市の教育委員会の主催で開催される「つくば科学フェスティバル」に筑波学院大学からCADのクラスとして参加を予定しています。前期に学んだ「はがきでつくる紙飛行機」の図面を提供し、紙飛行機の作り方教室として子供達来場者に指導します。CADの楽しさ、素晴らしさを伝える社会貢献です。12月には中国の長春大学と筑波学院大学とをテレビ会議システムで結び中継によるペーパーカーレースを予定しています。授業				

授 業 科 目	アルゴリズム		担 当 教 員	垣花 京子	
授 業 ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	火曜1時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 情報システム[2014年度以降入学生]、専門基礎科目群 共通科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格	上級情報処理士, 上級ビジネス実務士				
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力, 情報スキル				
履 修 条 件	システム開発, プログラミング, アプリ開発に興味のあること。各授業の初めに基本的に重要なことの説明し、そのあと各自がアルゴリズムを作っていく活動をするので、決して遅刻しないことが履修条件です。アルゴリズムで学んだ流れをプログラミングするので、1つ以上のプログラミング言語ができることが望ましい。				
授 業 概 要	システム開発に携わるために利用できる事例をもとに、基本的なアルゴリズムやデータ構造を学びながら、問題解決のためのアルゴリズムを理解したり、アルゴリズムの違いによる効率について学ぶ。毎回プリントで説明し、問題を解きながら授業を進める。いろいろな事例の基礎的な部分を体験するので、授業中は、流れをしっかりとつかみ、必ず復習することが必須である。各回に学んだアルゴリズムを自分が知っているプログラミング言語を利用して実行してみることを進める。				
授 業 の 到 達 目 標	以下、3つの目標を達成し、今後システム開発のためのアルゴリズムを作れるようにする (1) いろいろな事象の基礎的な問題解決のためのアルゴリズムの考え方を理解する。(2) アルゴリズムを図式化できるようになる。(3) 処理の効率を上げるためのアルゴリズムに関して理解できる。アルゴリズムを考える活動を通して論理的に物事を考え実行できるようになり、論理的思考力、問題発見力、問題解決力を身につける。				
授 業 計 画	<p>1回 ガイダンス。アルゴリズムとは何かを体験するために、自分の生活の中での動きを分析し、流れ図で表すことを通して、アルゴリズムとは何をすることかを概観する。プログラミングの3つの基本構造(順次、反復、繰り返し)について学び、それを表すための図(流れ図)を理解する</p> <p>2回 2回、3回の授業を使って、実際に使われている重要なアルゴリズムを概観し、アルゴリズムを学ぶ意義を理解する。2回目は遺伝的アルゴリズムと検索エンジンのアルゴリズムを例に挙げる。</p> <p>3回 3回目は、パターン認識と暗号化のアルゴリズムを例に挙げる。</p> <p>4回 4回以降は、それぞれのアルゴリズムに使われている基礎的な処理について学び、その図的表現ができるようにする。4回目は繰り返し処理のいろいろな事例を使って、情報の流れを図に表し、データ流れと図の関係を理解する。</p> <p>5回 繰り返し処理と条件を使って、最大公約数を求めるアルゴリズムと配列を利用して、素数を求めるアルゴリズムを図解し、データの流れを追いながら、算法と呼ばれるアルゴリズムの基礎を理解する。</p> <p>6回 配列を利用して、支払機でのおつりの金種の計算をするアルゴリズムで表し、配列の概念、あまりの考え方と利用方法を理解する。</p> <p>7回 探索アルゴリズムの例を使って、アルゴリズムによる効率の違いについて理解する。</p> <p>8回 基本的な並べ替えアルゴリズムの例を使って、アルゴリズムによる流れの違いと効率の違いについて理解する</p> <p>9回 並べ替えのいろいろな場合、例えば、ランダムに並べるなどいろいろな並べる事象についてその処理方法を理解する。</p> <p>10回 データ構造で、Chain構造、リスト構造で使われるポインタの考えを理解する。また、ハッシュ関数を利用した場合のポインタの考えを理解する。</p> <p>11回 データ構造の1つで木構造を扱い、そのデータの並べ方、データの削除、追加について理解する。</p> <p>12回 データ構造の1つスタック・キューとデータの扱いを理解する。</p> <p>13回 文字処理の基本について学び、文字の探索やカウントの方法を考え、流れ図で表すことができる</p> <p>14回 文字列の処理の1つとして文字列の圧縮処理がある。どのような圧縮方法があるかを考え、流れ図で表すことができる。</p> <p>15回 まとめ</p>				
評 価 方 法	筆記試験30%、レポートと授業中の活動報告70%				
テ キ ス ト	プリント				
参 考 文 献	有澤誠「アルゴリズムとその解析」コロナ社、若山芳三郎・吉川信之「フローチャートの考え方・書き方」啓学出版、R.セジウィック、野下浩平他訳「アルゴリズム、第1巻、第2巻」近代科学社、ジョン・マコーミック、長尾高弘訳「世界で最も強力な9つのアルゴリズム」日経BP社				
備 考	【資格対象科目：上級情報処理士、ウェブデザイン実務士、上級ビジネス実務士】				

授 業 科 目	情報数学	担 当 教 員	垣花 京子
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習
学 期	前期	曜 日 時 限	火曜2時限
単 位 数	2単位	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 情報システム[2014年度以降入学生]、専門基礎科目群 共通科目[2013年度以前入学生]		
対 象 資 格	上級情報処理士		
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神, 情報スキル		
履 修 条 件	数学的に難しい概念は使わないが、高校の数学Iまでの基礎知識と技能を持っていることが望ましい（不安のある人は、学習支援センターで数学の復習しておくこと）授業の後、復習を1時間以上する。		
授 業 概 要	基本情報試験に出題される計算問題を中心に、情報処理のための基礎的な数学, 情報経営で利用する基礎的な数学の話題を取り上げ、解説し、その背景の考えを理解し、問題解決をする。初回に全体の内容のプリントを渡し、練習問題を行いながら進める。いろいろな知識を概観する形の授業であるため、事後学習が重要となる。事前学習として、プリントの内容を読んでおく。10分事後学習として、その日に行った知識や技能の理解のために再度問題を解いたり、参考文献に挙げるいずれかのテキストを利用し、より知識を深める：1時間以上		
授業の到達目標	ビジネスマンとしても、IT技術者としても情報処理のための基礎的な数学の知識の理解と問題解決ができるようになる。本講座では基本情報試験やITパスポート試験に出てくる数学の話題から、知識だけでなく論理的に物事を考え実行できる問題解決力が身につく。【キーワード】論理的思考力, 問題解決力		
授 業 計 画	<p>1回 ガイダンス。数学的基礎1：情報を表す単位、大きい数、小さい数の表し方と計算について学び、その考え方、演算方法を理解する。</p> <p>2回 数学的基礎2：基数（10進数、2進数、8進数、16進数など）の考え方と各進数間の変換の方法を学び、計算ができる。</p> <p>3回 数学的基礎3：2進数のシフト演算、2進数での負の数の扱いの考え方を学び、それを使った問題が解けるようにする。</p> <p>4回 数学的基礎4：ブール代数、論理演算の考え、表し方を学び、論理式で表される問題が解けるようにする。</p> <p>5回 数学的基礎5：行列と行列式を使って情報を表す考え、演算する方法を学ぶ。</p> <p>6回 コンピュータの性能、速度、情報量に関する数学1：CPU性能を測るためのMIPSやクロック数、クロック周波数などの知識と計算方法を学び、利用できるようにする</p> <p>7回 コンピュータの性能、速度、情報量に関する数学2：メモリの記憶容量の求め方、アクセス時間、磁気ディスクのアクセス時間などコンピュータの性能を表す指標の知識と計算技能を学ぶ</p> <p>8回 コンピュータの性能、速度、情報量に関する数学3：システムの稼働率に関してMTBF(稼働時間)、MTTR(修理時間)により稼働率を予想ができるようになる。</p> <p>9回 コンピュータの性能、速度、情報量に関する数学4：システムの組み合わせによる稼働率の予想ができるようになる。</p> <p>10回 暗号処理：基礎的な数学として、整数の性質、整数を成分とする行列、MODの計算など、基礎的な知識の確認する。符号化について学び、実際に規則を作り符号化しお互いに暗号化、暗号解読を体験する。</p> <p>11回 より複雑な暗号化の基礎になる1つとして、RSA暗号の仕組みについて学び、自分でも暗号化、暗号解読を体験する（パソコンの利用）。</p> <p>12回 オペレーションズリサーチにかかわる基礎1：ORとはを解説し、最適問題として基礎になる線形計画法について学び、問題解決ができるようにする</p> <p>13回 オペレーションズリサーチにかかわる基礎2：在庫管理の基礎的な考えを学び、</p> <p>14回 オペレーションズリサーチにかかわる基礎3：ネットワークを利用した考えとしてPERT（日程計算）と最短距離問題を取り上げ、その考え方、問題解決の方法を学ぶ。</p> <p>15回 まとめ</p>		
評 価 方 法	毎回の課題提出60%，期末試験40%		
テ キ ス ト	プリントを活用		
参 考 文 献	大滝みや子、基本情報+ITパスポート計算ドリル、実教出版：野坂昭弘/田中公治、情報数学入門、サイエンス社：黒沢和人、情報数学入門、共立出版株式会社：寺田文行、中村直人、釈氏孝浩、松井辰則、情報数学の基礎-暗号・符号・データベース・ネットワーク・CG、サイエンス社：大村平、情報数学の話、情報理論から暗号・認証まで、日科技連：刀根薫、オペレーションズ読本、日本評論社：OR演習部会編、初等ORテキスト、		
備 考	【資格対象科目：上級情報処理士】		

授 業 科 目	ビジネス実務		担 当 教 員	高藤 清美	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	水曜1時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 共通科目[2014年度以降入学生]、専門基礎科目群 共通科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格	上級ビジネス実務士, 観光ビジネス実務士				
キ ー ワ ー ド	自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, マネジメントセンス				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	ビジネス現場における活動のあり方を、ワーカー（働く人）の立場から学ぶ。また、組織システムの理解を通じて、実践的なビジネス実務能力が発揮できるような考え方や技術を学ぶ。このために、単にビジネスに必要な知識、技能を習得するのではなく、変化の激しいビジネス現場に対応していくための考え方や態度を講義する。具体的な内容として、ビジネス実務の概念、ビジネス実務の推進能力、実務能力の開発、ビジネス実務とキャリアなどを取り上げる。【予習・復習について】予習1.5時間、復習1.5時間を行うこと。				
授業の到達目標	・現代社会におけるビジネスの基本を理解する・現代社会におけるワークスタイル（仕事のやり方）を理解する・現代社会におけるビジネス現場で要求される実務能力を理解する・実践的なビジネス実務能力が発揮できるような考え方や技術を習得する。				
授 業 計 画	1回 ビジネス実務とは何か（ガイダンス） 2回 ビジネスの定義（家族などの身近な人やアルバイト等で関わりのあるビジネス現場に当てはめ、まとめる） 3回 ビジネス環境をとらえる（1）経済グローバル化・高度情報化（経済グローバル化、高度情報化が関係するビジネスニュースを集め、まとめる） 4回 ビジネス環境をとらえる（2）地球環境問題、少子・高齢化（地球環境問題、少子・高齢化が関係するビジネスニュースを集めておく） 5回 ビジネス現場をとらえる（家族などの身近な人やアルバイト等で関わりのあるビジネス現場の状況を調べ、まとめる） 6回 ビジネス実務学習のねらい（ビジネス実務学習の意義をまとめる） 7回 ビジネス実務の基本（1）仕事の進め方、ビジネスとサービス（家族などの身近な人やアルバイト等で関わりのあるビジネス現場に当てはめ、まとめる） 8回 ビジネス実務の基本（2）ビジネス遂行に必要とされる能力（家族などの身近な人やアルバイト等で関わりのあるビジネス現場に当てはめ、まとめる） 9回 ビジネス実務の基本（3）ビジネスと組織活動（家族などの身近な人やアルバイト等で関わりのあるビジネス現場に当てはめ、まとめる） 10回 ビジネス実務の活動をとらえる（1）仕事のサイクル（家族などの身近な人やアルバイト等で関わりのあるビジネス現場に当てはめ、まとめる） 11回 ビジネス実務の活動をとらえる（2）キャリア形成（家族などの身近な人やアルバイト等で関わりのあるビジネス現場に当てはめ、まとめる） 12回 ビジネス実務の活動をとらえる（3）経理財務（家族などの身近な人やアルバイト等で関わりのあるビジネス現場に当てはめ、まとめる） 13回 ビジネス実務を創造する（1）どのような人生を選択するか（家族などの身近な人に、人生の岐路でどのような考えで選択し、現在に至ったかをインタビューし、まとめる） 14回 ビジネス実務を創造する（2）自己啓発とキャリア形成（自分の描く将来を実現するための道標とその時々に必要な事柄や行動をプランニングする） 15回 ビジネス実務の事例研究（教科書の事例から一つを選び、章末の問に対して、自分としての答えを出しておく）				
評 価 方 法	概ね以下の基準で評価する。（1）授業への取組み状況（30%）（2）事前事後学習のレポート（40%）（3）課題に対するレポート（2回の予定）（30%）				
テ キ ス ト	「ビジネス実務総論—付加価値創造のための基礎実務論（改訂版）」全国大学実務教育協会 編集（紀伊國屋書店）を予定				
参 考 文 献	授業中に紹介する。				
備 考	特になし				

授 業 科 目	経営戦略		担 当 教 員	岩田 隆一	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	水曜 4時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 共通科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	マネジメントセンス				
履 修 条 件	マーケティングと経営戦略に関心がある学生				
授 業 概 要	①戦後の日本経済を理解する。②企業の置かれた状況に適した経営戦略（特に他社との差別化戦略）の基礎理論を学習する。③企業の経営戦略とマーケティングの学習を事例研究を中心に進める。				
授業の到達目標	①基礎的な経営戦略の考え方と知識を習得する。②市場経済の中で企業はどのような経営戦略をとっているのかを理解する。③競争に強い企業はなぜ強いのかを理解する。④マーケティングの基礎理論を自分でも事例研究で実践してみる。				
授 業 計 画	1回 授業案内と成績評価方法の説明 2回 戦後の日本経済の歴史（1950～1960年代）戦後の廃墟からの復興第二次世界大戦で国土は荒廃し、街も工場も焼け野原となった日本はどのように経済を回復させようとしたのか。戦後の高度経済成長はどのように成し遂げられたのか（所得倍増計画） 3回 戦後の日本経済の歴史（1970から1990年代）高度経済成長の終えんと安定成長の始まり高度経済成長は必ず終わりを迎える。高度経済成長はどのように終えんしたのか、そして企業はどのように対応したのか 4回 格差社会の研究（前編）経済学者ロバート・ウォルシュ先生の授業研究（カリフォルニア大学バークレーキャンパス） 5回 格差社会の研究（後編）経済学者ロバート・ウォルシュ先生の授業研究（カリフォルニア大学バークレーキャンパス） 6回 欧州経済の事例研究（デンマーク）高福祉社会のデンマーク経済の事例研究 7回 欧州経済の事例研究（スウェーデン）北欧ブランドの事例研究 8回 欧州経済の事例研究（英国）資本主義経済の中で生まれる新しい企業の事例研究 9回 欧州経済の事例研究（ドイツ）世界有数の強い経済を誇るドイツ企業の事例研究 10回 アメリカ経済の事例研究（カリフォルニア、シリコンバレー）世界の才能を集めて進化するアメリカ企業の事例研究 11回 アジア経済の事例研究（中国）世界経済の行方を左右する中国経済を検証する。 12回 アジア経済の事例研究（ASEAN諸国） 13回 21世紀に成長する企業研究（再生ビジネス研究）新品だけでなく、中古品を再生して販売するビジネスの事例研究 14回 21世紀に成長する企業研究（再生ビジネス研究）新品だけでなく、中古品を再生して販売するビジネスの事例研究 15回 授業のまとめ				
評 価 方 法	筆記試験の点数で評価する。				
テ キ ス ト	なし（毎回資料を配布します）				
参 考 文 献	なし				
備 考	授業内容は変更することがあります。				

授 業 科 目	会社法		担 当 教 員	出口 正義	
授 業 ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	水曜4時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 共通科目[2014年度以降入学生]、情報入門科目群 言語基礎科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格	上級ビジネス実務士, 実践キャリア実務士				
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力, ローカル・グローバルセンス, マネジメントセンス				
履 修 条 件	テテキスト、小六法は必携である。				
授 業 概 要	本講義は、会社、とくに株式会社とは何か、株式・株主とは何か、資金調達手段としてどのような方法があるか、株式会社の経営機構としての株主総会、取締役、取締役会、代表取締役、監査役、監査役会、会計監査人の権限と責任に関する規律がどのようになっているか、組織再編に関する規律(事業譲渡、合併、会社分割等)がどのようになっているかを中心に、法の理念と現実という視点から、現代の株式会社の生きた姿を浮き彫りにする。				
授 業 の 到 達 目 標	会社経営に必須の資金調達手段・経営管理システム(ガバナンス)の在り方・組織再編等に関する会社法の制度の現状と問題点を学ぶことにより、現代のグローバル経済社会における企業経営にかかるコンプライアンス(法令順守)経営の課題の発見とその解決への方向性を探ることを目標とする。株式会社、法人格、株式、株主総会、取締役・代表取締役・取締役会、監査役・監査役会、会計監査人、組織再編(事業の譲渡・合併・株式移転・株式交換)、友好的企業買収・敵対的企業買収など				
授 業 計 画	<p>1回 <会社法総論・その1> 会社の種類は、株式会社、合名会社、合資会社、合同会社の4種類だけしか認められていないが、その違いは何か。とくに株式会社が日本はもちろん資本主義経済社会の国で最も利用されている理由は何か。</p> <p>2回 <会社法総論・その2> 会社法上、株式会社を営利を目的とする社団法人であると理解されているが、営利・社団・法人とはどのような意味か。一般財団法人・一般社団法人・公益法人との違いは何か。</p> <p>3回 <株式とは何か> なぜ世界中の人が株価の値動きに一喜一憂するのか。そもそも株式とは何か、株式は何のためにあるのか。</p> <p>4回 <株主とは何か・その1> 株主とはどのような人のことをいうのか。なぜ株主になろうとするのか。株主になるにはどうしたらよいか。株主になるとどのような権利が認められるのか。</p> <p>5回 <株主とは何か・その2> 株主は神様であるといわれるがなぜか。なぜ株主には強力な権利が認められているのか。なぜ会社の代表取締役社長は株主を恐れるのか。</p> <p>6回 <株主総会> 株主総会とは何か。なぜ年1回必ず開催しなければならないのか。なぜ代表取締役社長は株主総会を恐れるのか。株主総会は会社経営の最高機関といわれるがどうしてか。</p> <p>7回 <取締役> 取締役は誰がどのようにして選ぶのか。日産の代表取締役社長のカルロス・ゴーン氏の報酬は約9億円ともいわれているが、会社の役員報酬は誰がどこでどのような基準で決めるのか。</p> <p>8回 <取締役の義務と責任> 取締役は誰に対してどのような義務を負うのか。義務に違反したときにどのような責任を負わなければならないのか。</p> <p>9回 <コーポレート・ガバナンス(企業統治)> コーポレート・ガバナンスの議論の盛り上がりは何を意味するのか。大企業の経営管理システムの在り方についてなぜ世界中で議論されているのか。代表取締役社長は、なぜ株主・取締役会・監査役(会)・会計監査人などに監視・監督されなければならないのか。</p> <p>10回 <会社の資金調達・その1> 新株発行には公募発行・株主割当・第三者割当の方法があるが、その違いは何か。新株予約権とは何か。企業の買収防衛策として新株・新株予約権の第三者割当などが利用されるのはなぜか。日本放送対ライブドア事件、ブルドックソース対スティールパートナーズ事件が日本の企業社会に与えた衝撃とは。</p> <p>11回 <会社の資金調達・その2> 前回の継続。</p> <p>12回 <組織再編・その1> 事業の譲渡・合併・株式交換・株式移転・会社分割という組織再編の手段は多様であるが、その違いはどこにあるか、またなぜ組織再編をする必要があるのか。</p> <p>13回 <組織再編・その2> 現在、組織再編が活発化しているがその背景には何があるか、実際に生じている問題は何か、その解決策は妥当か。とくに少数株主の締め出しを目的とした全部取得条項付種類株式の利用に問題はないか。</p> <p>14回 <会社法と正義> 株主利益最大化の原則のもと効率性を追い求める現行会社法には正義があるか。会社法という法律の目的は何か。それ以外の経営哲学にみる。そして株主の利益追求を教える会社法の規律は日本の授業への貢献度(30%)、提出レポート等(70%)を総合的に評価する。</p>				
評 価 方 法					
テ キ ス ト	神田秀樹『会社法』弘文堂の最新版				
参 考 文 献	会社法判例百選第2版 有斐閣				
備 考					

授 業 科 目	経営財務		担 当 教 員	広田 真人	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	金曜2時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 ビジネスマネジメント[2014年度以降入学生]、専門基礎科目群 共通科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性				
履 修 条 件	特になし、ただし、第1回の授業には「出席表」の説明をしますので、必ず出席すること				
授 業 概 要	ファイナンスは、イバメントとコーポレートファイナンスに分かれるが、その基礎理論は共通である。本学にあつてはイバメントの授業が開講されていないこともあり、本講義の大部分はファイナンスの基礎理論を学んでもらう。その重要なポイントを“資本コストの計測”に置く。時間的に余裕があれば、コーポレートファイナンスの定番である「最適資本構成」・「最適配当政策」・「自社株消却」・「M&A」等を取り上げる。				
授業の到達目標	皆さんが社会人となった時、日本の証券市場を題材として日本社会を語る際の最低限の共通ツールといえるであろう「日本経済新聞」の証券欄、及び東洋経済新報社「会社四季報」を理解出来るようになることを目標とする。これは皆さんのコミュニケーション能力の向上に寄与すると思われる。そのため、あえて狭い意味の経営財務論（コーポレートファイナンス）に拘らず、ファイナンスの基礎を学ぶことを優先する。				
授 業 計 画	1回 ガイダンスと「出席表」の説明（1） 2回 「出席表」の説明（2） 3回 株式会社とは！（1）－株式会社発生史を中心に－ 4回 株式会社とは！（2）－B/SとP/Lを中心に－ 5回 証券市場の存在理由（1）－現代資本主義社会における発行市場・流通市場の実態－ 6回 証券市場の存在理由（2）－企業にとって株価上昇は何のメリットがあるのか？－ 7回 証券市場の存在理由（3）－「資本コスト発見機能」とは！－ 8回 資産価値の評価（1）－正味現在価値（NPV）、内部収益率（IRR）－ 9回 資産価値の評価（2）－債券の評価、単利と複利－ 10回 株式価値の評価（1）－配当割引モデル（DDM）とそのバリエーション－ 11回 株式価値の評価（2）－内部成長率（g）と株価収益率（PER）－ 12回 日本の株価（PER）は、企業の収益率が国際的に見て低いにも係わらず何故国際的に見て高水準だったのか？ 13回 リスクの尺度（1）－標準偏差－ 14回 リスクの尺度（2）－共分散・相関係数・ベータ（ β ）－ 15回 資本コストの計測－具体例と計測上の課題－				
評 価 方 法	期末のレポートを基幹とし、「出席表」や「確認問題」を加味して評価する。尚、成績への配分比は、レポート結果から事後的に判断する。				
テ キ ス ト	特になく、毎回レジュメを配布する				
参 考 文 献	井手正介・高橋文郎『経営財務入門』（日本経済新聞社、2009）森直哉『図解 コーポレートファイナンスⅠ・Ⅱ』（創成社、2011）				
備 考	【資格対象科目：上級ビジネス実務士】				

授 業 科 目	経済と社会A 1	担 当 教 員	小松 進
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義
学 期	前期	曜 日 時 限	水曜 4 時限
単 位 数	2 単位	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 共通科目 [2013年度以前入学生]		
対 象 資 格	上級情報処理士, 上級ビジネス実務士		
キ ー ワ ー ド	ローカル・グローバルセンス		
履 修 条 件	近代社会の成り立ちとヨーロッパ世界に興味を持っていること。		
授 業 概 要	近代資本主義社会発祥の舞台となったヨーロッパ世界の経済と社会を歴史的に考えることを講義の対象とする。ヨーロッパ世界に古代史は存在しない。ヨーロッパ世界は中世のある時期に誕生した。そもそも、いつ、どこで、いかにして、この世界は生まれたのであろうか。こうしたヨーロッパ世界の成立に関する根本的な問題を、講義ではまず検討する。次に、成立当初のヨーロッパ経済と社会の諸側面に触れながら、それらがヨーロッパ世界の枠組みをいかに規定していくかを明らかにしていきたい。		
授業の到達目標	世界に先駆けてヨーロッパ世界が近代社会を築き上げていく歴史的前提への理解を深める。		
授 業 計 画	1回 ヨーロッパ世界の成立過程に関する考え方 2回 古代ゲルマン人の社会 3回 ゲルマン民族の大移動 4回 東ゲルマン諸族の部族国家 5回 フランク王国の歴史：メロヴィング時代 6回 フランク王国の歴史：カロリング時代 7回 フランク王国の構造 8回 ヨーロッパ世界の形成とフランク王国の解体 9回 ヨーロッパの封建制度について 10回 ヨーロッパの荘園制について 11回 ヨーロッパの村落について 12回 ヨーロッパ中世都市の形成 13回 ヨーロッパ中世都市の構造と特質 14回 ヨーロッパの中世国家：封建制国家について 15回 ヨーロッパの中世国家：身分制国家について		
評 価 方 法	授業にのぞむ姿勢と試験で評価する。		
テ キ ス ト	特に指定しない。		
参 考 文 献	興味をおぼえた学生には、要望があればいつでも参考文献を紹介する。		
備 考	【資格対象科目：上級情報処理士、上級ビジネス実務士】		

授 業 科 目	経済と社会A2		担 当 教 員	小松 進	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	水曜4時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 共通科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格	上級情報処理士, 上級ビジネス実務士				
キ ー ワ ー ド	ローカル・グローバルセンス				
履 修 条 件	経済と社会A1を履修していることが望ましい。				
授 業 概 要	ヨーロッパ世界は中世にある程度均質な社会構造をもつ統一体として誕生した。その共通の枠組みの中でヨーロッパ各国は誕生するが、中世以来ヨーロッパ世界の政治的・経済的・文化的中心として巨大な足跡を残し、今日もEUの中核国家として国際社会に重きをなすのがフランスである。本講義ではこのフランスの政治・経済・社会の歩みをたどりながら、ヨーロッパで近代社会がいかに形成されたかを考えてみたい。とくにフランス革命については時間をさき、その歴史的意義を考察する。				
授業の到達目標	フランスの歴史的経験を学びながら、ヨーロッパ世界がいかに近代化していくかを具体的に学ぶ。				
授 業 計 画	1回 授業へのガイダンス 2回 フランス人とフランス国家の起源 3回 中世フランス社会の構造 4回 中世フランス国家の発展過程 5回 近世フランス国家の形成 6回 アンシャン・レジーム期の経済 7回 アンシャン・レジーム期の社会と国家 8回 ブルボン絶対王政の展開 9回 ブルボン絶対王政の崩壊 10回 フランス革命の起源 11回 フランス革命の展開 (1) 12回 フランス革命の展開 (2) 13回 フランス革命の展開 (3) 14回 フランス革命の展開 (4) 15回 フランス革命の解釈				
評 価 方 法	授業にのぞむ姿勢と試験で評価する。				
テ キ ス ト	特に指定しない				
参 考 文 献	興味をおぼえた学生には、要望があればいつでも参考文献を紹介する。				
備 考	【資格対象科目：上級情報処理士、上級ビジネス実務士】				

授 業 科 目	経済と社会C1		担 当 教 員	木村 卓司	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	火曜3時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 共通科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格	上級情報処理士, 上級ビジネス実務士				
キ ー ワ ー ド	ローカル・グローバルセンス				
履 修 条 件	なし。				
授 業 概 要	アメリカ合衆国は自由と平等を国是とし、明確な建国理念に基づいて創られた国家である。歴史に深く根ざした非類のないさまざまな特質をもち、それがこの国の政治、経済、社会の諸制度を形作るという、世界に例を見ない極めてユニークな国であるといえる。この授業ではアメリカの本質と深くかかわるいくつかの概念を検討して、その国家としての特質を明らかにするとともに、大統領制ならびに連邦準備制度を具体的な事例に取り上げながら、アメリカ政治と経済の現状について考察を行う。なお授業の中で頻繁に小テスト(アメリカに関する一般常識)を行う予定。履修者は毎回、前回の授業内容を十分理解するとともに、シラバスを参考の上、次回の授業内容について内容を十分把握したうえで授業に臨むこと。				
授業の到達目標	現代のアメリカ政治・社会・経済を動かすメカニズム、およびダイナミズムとその歴史的背景を理解することを通じて、学生のグローバルセンスを養う。キーワード:グローバル・センス				
授 業 計 画	1回 ガイダンス 2回 イントロダクション (1) : 国旗に見るアメリカ 3回 イントロダクション (2) : 国歌に見るアメリカ 4回 アメリカとはどんな国か (1) : 連邦国家 5回 アメリカとはどんな国か (2) : 伝統ある民主主義国家 6回 アメリカとはどんな国か (3) : 宗教国家 7回 アメリカとはどんな国か (4) : 宗教国家 8回 アメリカの大統領制 (1) : 大統領の権限 9回 アメリカの大統領制 (2) : 大統領選挙の仕組みと歴史 10回 アメリカ経済とマネー (1) : 中央銀行と連邦準備制度(1) 中央銀行と連邦準備制度(2) キャッシュレス社会と通貨をめぐる不思議 11回 アメリカ経済とマネー (2) : キャッシュレス社会と通貨をめぐる不思議 12回 JFKとアメリカ政治 (1) : JFK登場の背景と意義 13回 JFKとアメリカ政治 (2) : ケネディ政権と国内外の課題 14回 JFKとアメリカ政治 (3) : 暗殺をめぐる諸説 15回 まとめ				
評 価 方 法	(1) 平常点、(2) 前期試験またはレポートを総合して行う。				
テ キ ス ト	使用しない。				
参 考 文 献	授業の中で適宜紹介する。				
備 考	【資格対象科目：上級情報処理士、上級ビジネス実務士】				

授 業 科 目	国際観光情報論		担 当 教 員	沓掛 博光	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	金曜 4 時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 共通科目 [2013年度以前入学生]				
対 象 資 格	上級情報処理士, 上級ビジネス実務士				
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 実行力/チャレンジ精神, 情報スキル				
履 修 条 件	観光全般及び情報の発信に興味を持つこと。観光地や観光資源について広く関心を持ち、日常的にTV、新聞、雑誌などのメディアに接し、どのような情報がどのような形で発信されているかを認識すること。				
授 業 概 要	観光地は観光客の誘致には様々な情報発信を行う。この情報発信には様々なものがあり、パンフレットやポスターなどの制作、インターネットからの発信、マスコミ招待によるパブリシティー記事、映画やテレビのロケ地としてタイアップなど多様な形態をとる。この授業においては、観光マーケティングの視点から、対象と時期、また地理的な距離においてどのような媒体（メディア）を使用することが適切かを検証。日本の地方都市で発展しつつあるサイトへの情報提供の現状を学ぶ。さらに、観光地や各観光施設などが取り組んでいる観光広報の実態なども実例を挙げながら学習する。				
授業の到達目標	観光は衣服や電気製品のように、身につけたり、手に持って確かめることができない特性を持っている。自分自身で観光地を旅行し、体験することではじめてその観光の実像を認識できるものである。それだけに、観光地そのものや観光資源に関する情報を伝えることは観光地を正確に知ってもらい、その地に興味を持ってもらうための不可欠な手段と言える。授業では観光地を理解する情報とその発信の仕方についてどのような方法があるかを学び、現代社会における情報発信の重要性を認識する。情報発信のためのメディアの特色や観光地から発信する情報などを多面的に学習し、効果的な情報発信についても理解する。				
授 業 計 画	1回 オリエンテーション 2回 観光とは 3回 観光情報の発信の種類 4回 観光広報とは 5回 観光広報の事例 6回 サイトを活用した観光広報の事例比較 7回 海外における観光広報の事例比較 8回 トラベルジャーナリズムとは 9回 取材の仕方と発信の特性 10回 インタビューの方法 11回 旅行雑誌の比較検討 12回 観光広告とは 13回 映画及びアニメと観光地の関係 14回 まとめ 15回 小テスト				
評 価 方 法	日頃の授業態度及びテスト				
テ キ ス ト	適宜、資料を配布				
参 考 文 献	特に無し				
備 考	授業中の私語及び携帯電話、メールは厳禁。【資格対象科目：上級情報処理士、上級ビジネス実務士、観光ビジネス実務士】				

授 業 科 目	ホスピタリティマネジメント1		担 当 教 員	石原 直	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	火曜1時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 ビジネスコミュニケーション[2015年度以降入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 言語運用力				
履 修 条 件	人間関係の基礎となるホスピタリティに関心を持つ者。国際化の進む中で異なる文化、生活習慣の人々との交流を図りたいと考えている者。				
授 業 概 要	具体的な事例を紹介しながら、この中の問題点を指摘し、その解決策を求めるという形式で行う。・ホスピタリティの意味とおもてなしとの違い・ホスピタリティの歴史、世界・日本について・様々な人間界のなかのホスピタリティ など				
授業の到達目標	ホスピタリティの持つ意味とそれが我々の生活の中でどのように実践されているかを検証し、国際化社会でのホスピタリティはどうあるべきかを求める。				
授 業 計 画	1回 オリエンテーション 2回 なぜ今ホスピタリティが議論されるのか 3回 日本のホスピタリティ 4回 世界のホスピタリティ 5回 人多様な間関係のなかのホスピタリティ 6回 ビジネス社会との関係 7回 ホスピタリティ産業紹介 1 8回 ホスピタリティ産業紹介 2 9回 地域社会におけるホスピタリティ 10回 新たなホスピタリティ産業 MICEの賞かい 11回 顧客満足とホスピタリティの関係 12回 観光資源としてのホスピタリティ 13回 課題 14回 まとめ 15回 質疑応答				
評 価 方 法	レポート提出試験出席				
テ キ ス ト	接客サービスのマネジメント 日経文庫適宜配布				
参 考 文 献	授業の進行に合わせ紹介する				
備 考					

授 業 科 目	ホスピタリティマネジメント2		担 当 教 員	石原 直	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	火曜1時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 ビジネスコミュニケーション[2015年度以降入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	自己表現力/実行分析力, ローカル・グローバルセンス, 言語運用力				
履 修 条 件	ホスピタリティマネジメント 1を履修している者				
授 業 概 要	ホスピタリティをどのように表現してきたか、どのように表現すべきかなどを中心に学習する。				
授業の到達目標	具体的な社会生活、ビジネス社会におけるホスピタリティを理解する。ホスピタリティの対象を人のみならず国家間に設定しどうあるべきかを求める。自己表現力を高める工夫ができるようにする。				
授 業 計 画	1回 オリエンテーション 2回 行政のホスピタリティ 3回 国家間のホスピタリティ 4回 観光立国とホスピタリティ 5回 企業のホスピタリティ活動 6回 教育とホスピタリティ 7回 身近な事例 8回 販売の場におけるホスピタリティ 9回 文化とホスピタリティ 10回 ネット社会のホスピタリティ 11回 ホスピタリティの品質管理 12回 ホスピタリティを表現する 13回 課題 14回 まつめ 15回 質疑応答				
評 価 方 法	レポート提出テスト出席				
テ キ ス ト	接客サービスのマネジメント 日経文庫適宜配布				
参 考 文 献	必要に応じて指示する				
備 考					

授 業 科 目	観光情報1		担 当 教 員	岩田 隆一	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	月曜3時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 共通科目[2014年度以降入学生]、専門基礎科目群 共通科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	ローカル・グローバルセンス				
履 修 条 件	観光ビジネスに関心がある学生が望ましい。				
授 業 概 要	ヨーロッパ、アフリカ、南北アメリカ、アジア、オセアニアの主要国の概要を紹介する。				
授業の到達目標	世界の有名な観光地や国情と地理の概略が把握できるようになる。科目のキーワード「世界の主要国の概略を 得理解する。				
授 業 計 画	1回 授業計画と成績評価の説明 2回 イギリス (1) イギリスの国情と観光情報と解説18世紀から20世紀初頭まで世界の盟主として君臨した 英国は、複雑な歴史と独特の文化から世界中から旅行者が集まります。授業では英国の地理と歴史を学習し、 ロンドンの観光地から世界一美しいと言われる田園風景まで映像で訪ねます。 3回 イギリス (2) イギリスの国情と観光情報と解説 4回 イギリス (3) イギリスの国情と観光情報と解説 5回 フランス (1) フランスの国情と観光情報解説世界最大の観光国フランスの国情と観光情報の解説 6回 フランス (2) フランスの国情と観光情報解説 7回 フランス (3) フランスの国情と観光情報解説 8回 スカンジナビア諸国-フィンランド、スウェーデン、デンマーク、ノルウェー、アイスランド) スカン ジナビア諸国の国情と観光情報の解説 9回 スカンジナビア諸国-フィンランド、スウェーデン、デンマーク、ノルウェー、アイスランド) スカン ジナビア諸国の国情と観光情報の解説 10回 BENELUX3国-ベルギー、オランダ、ルクセンブルク) ベネルクス3国の国情と観光情報の解説 11回 ドイツ語圏-ドイツ、スイス、オーストリア) ドイツ語圏の国情と観光情報の解説 12回 ドイツ語圏-ドイツ、スイス、オーストリア) ドイツ語圏の国情と観光情報の解説 13回 イタリアイタリアの国情と観光情報の解説 14回 イタリアイタリアの国情と観光情報の解説 15回 イタリアイタリアの国情と観光情報の解説				
評 価 方 法	筆記試験の点数で評価する。				
テ キ ス ト	毎回資料を配布する。				
参 考 文 献	必要に応じて授業の中で案内する。				
備 考	【資格対象科目：上級情報処理士、上級ビジネス実務士、観光ビジネス実務士】				

授 業 科 目	観光情報2		担 当 教 員	岩田 隆一	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	月曜3時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 共通科目[2014年度以降入学生]、専門基礎科目群 共通科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	ローカル・グローバルセンス				
履 修 条 件	①世界の観光事情に関心があること。②観光情報1を履修済みであること。				
授 業 概 要	①ビデオなど映像で世界の観光情報を提供する。②日本ではあまり知られていない地域や観光資源を紹介する。				
授業の到達目標	世界の主要国の現況と観光地を理解できるようになる。科目のキーワード「世界の主要国の概況を理解する」				
授 業 計 画	1回 アメリカ合衆国 (1) 東海岸アメリカ合衆国の国情と観光情報の解説 2回 アメリカ合衆国 (2) 中西部 3回 アメリカ合衆国 (3) 西海岸 4回 カナダカナダの国情と観光情報の解説 5回 オーストラリアオーストラリアの国情と観光情報の解説 6回 ニューージーランドニューージーランドの国情と観光情報の解説 7回 南アジア研究 (インドとネパール) インドとネパールの国情と観光情報の解説 8回 東南アジア研究 (タイ、マレーシア、シンガポール、ラオス、カンボジア、ベトナム) 東南アジア諸国の国情と観光情報の解説 9回 東南アジア研究 (タイ、マレーシア、シンガポール、ラオス、カンボジア、ベトナム) 東南アジアの国情と観光情報の解説 10回 南太平洋諸国 (フィジー、タヒチ、グアム、サイパン、ニューカレドニア) 南太平洋の国情と観光情報の解説 11回 東アジア研究 (香港) 香港の国情と観光情報の解説 12回 アジア諸国 (タイ) タイの国情と観光情報の解説 13回 アジア諸国 (韓国) 韓国の国情と観光情報の解説 14回 アジア諸国 (中国) 中国の国情と観光情報の解説 15回 アジア諸国 (台湾) 台湾の国情と観光情報の解説				
評 価 方 法	筆記試験の点数で評価する。				
テ キ ス ト	なし				
参 考 文 献	必要に応じて授業の中で案内する。				
備 考	【資格対象科目：上級情報処理士、上級ビジネス実務士、観光ビジネス実務士】				

授 業 科 目	経済安全保障1		担 当 教 員	木村 卓司	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	火曜3時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 共通科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格	上級ビジネス実務士				
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力				
履 修 条 件	なし。				
授 業 概 要	安全保障は従来の軍事的分野に加えて、1980年代頃から非軍事的分野を加えて考えるのが一般的になった。その中でも近年、特に注目されているのが経済安全保障である。中での戦略物資や食料の輸出入、経済制裁、経済援助などの重要性は、従来の軍事的手段に匹敵するほどになっている。この授業では、こうした諸点を踏まえながら、経済安全保障の基本概念と背景、思想系譜、発展経緯などを概観する。履修者は毎回、前回の授業内容を十分理解するとともに、シラバスを参考の上、次回の授業内容について内容を十分把握したうえで授業に臨むこと。				
授業の到達目標	安全保障と経済、およびその関連性への理解を深め、国や世界の安全を守る強い意識を植え付ける。また日本の安全保障が直面する様々な問題を発見し、解決に導く能力も合わせて養ってゆく。キーワード：問題発見力、問題解決力				
授 業 計 画	1回 イントロダクション 2回 安全保障とは何か (1) : 安全保障の定義 3回 安全保障とは何か (2) : 安全保障の3要素 4回 安全保障とは何か (3) : 特異な日本の安全保障観 5回 経済安全保障の背景 (1) : 相互依存関係の深化 6回 経済安全保障の背景 (2) : 石油危機、資源外交と第三世界の台頭 7回 経済安全保障の手段 (1) : 資源・戦略物資調達の分散 8回 経済安全保障の手段 (2) : 食料自給率の向上 9回 経済安全保障の手段 (3) : 経済支援の充実 10回 経済安全保障の手段 (4) : 経済制裁 11回 戦争と経済 (1) : 人類史としての戦争 12回 戦争と経済 (2) : さまざまな戦争原因論 13回 戦争と経済 (3) : その効用と利益1 14回 戦争と経済 (4) : その効用と利益2 15回 まとめ				
評 価 方 法	(1) 平常点、(2) 前期試験またはレポートを総合して評価する。				
テ キ ス ト	使用しない。				
参 考 文 献	授業の中で適宜紹介する。				
備 考	【資格対象科目：上級ビジネス実務士】				

授 業 科 目	民法		担 当 教 員	星野 豊	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	金曜 4時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 共通科目[2014年度以降入学生]、専門基礎科目群 共通科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力, 言語運用力, 情報スキル				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	現行民法について基本的な知識を解説し、社会常識的な観点との差について検討する。受講者の希望により、具体的な問題点に特化して講義を行うこともありうる。				
授業の到達目標	必ずしも法律学を専門としないことを前提として、社会常識的な観点と法律ないし法律学上のものの見方との間とのずれを認識する。【常識的直観】 【論理的思考力】 【権威に対する批判能力】				
授 業 計 画	1回 講義全体の説明、概説 2回 民法各分野の解説・問題点の検討 3回 同上 4回 同上 5回 同上 6回 同上 7回 同上 8回 同上 9回 同上 10回 同上 11回 同上 12回 民法関連分野における応用的な問題点の解説・検討 13回 同上 14回 同上 15回 同上				
評 価 方 法	レポートによる。				
テ キ ス ト	特に使用しない。六法を持っていけば便利なこともあるが、携帯している必要はない。				
参 考 文 献	授業中に適宜指示する。				
備 考					

授 業 科 目	仕事のための基礎数理 1		担 当 教 員	松岡 東香		
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習		単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	水曜 2 時限		科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 共通科目 [2014年度以降入学生]					
対 象 資 格	上級情報処理士					
キ ー ワ ー ド	自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, マネジメントセンス					
履 修 条 件	なし。					
授 業 概 要	小・中学生レベルの算数/数学を土台に、企業での業務に必要な数理解析法について基礎から講義する。簡単な計算演習を行う中で、所得分布、人口統計、金利変動、携帯電話料金プラン、地震と地殻変動、気温変化と桜前線、体格と運動能力など、具体的な数値データを数多く採りあげる。演習を通し、経済・商業分野の関数・統計ならびに自然科学分野のデータ処理などを学び、“仕事に使える”基礎数学力の習得を目指す。					
授業の到達目標	1. 比と分数を使って割合を計算できる。2. 収支表を見て赤字か黒字か判断できる。3. もっとも適正な商品価格を自分で決められる。4. 目的に応じて、棒グラフ・円グラフ・折れ線グラフといった各グラフを自在に使い分けられる。5. 携帯電話の料金プランの中から、もっとも自分に適したプランをグラフから割り出せる。					
授 業 計 画	1回 数値の『嘘』を見破る (情報社会における数値) (予習:0分, 復習:20分) 2回 『数』に強くなる (比率の概念) (予習:5分, 復習:35分) 3回 『演算』に強くなる (さまざまな演算) (予習:5分, 復習:35分) 4回 『%』の正体を知る (百分率) (予習:0分, 復習:40分) 5回 データを『比較』する (構成割合) (予習:5分, 復習:35分) 6回 データの『推移』を読み取る (前回比と増減率) (予習:5分, 復習:35分) 7回 データを『解釈』する (代表値の選択) (予習:0分, 復習:40分) 8回 データの『見方』を知る (添え字と統計) (予習:0分, 復習:40分) 9回 お金の『出入り』を分析する (フローとストック) (予習:0分, 復習:40分) 10回 目的に応じて『グラフ』を使い分ける (様々なグラフ) (予習:0分, 復習:40分) 11回 グラフで『分析』する (データの表現とグラフ化) (予習:0分, 復習:40分) 12回 グラフを使って『予測』する (一次関数) (予習:5分, 復習:35分) 13回 最適な『価格』を決定する (均衡点) (予習:5分, 復習:35分) 14回 値上げと値下げの『損得』を判断する (価格弾力性) 15回 総括					
評 価 方 法	出席及び授業内小テスト (5回) 40点、期末テスト60点の配点で評価する。					
テ キ ス ト	『ビジネス数理基礎』 (ムイスリ出版)。※前版にあたる『インターネットで学ぶ社会科学系のための数学 [第4版]』 (ムイスリ出版) を使用しても良い。					
参 考 文 献	重要事項を簡潔にまとめられるよう、穴埋め式のプリントを毎回配布する。					
備 考	講義は「比と割り算」から始めるので、算数や数学が苦手な学生諸君も安心して受講してもらいたい。ICカードリーダーを使って出欠を確認するので、受講する際は学生証を携帯すること。					

授 業 科 目	仕事のための基礎数理2		担 当 教 員	松岡 東香	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	水曜2時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 共通科目[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格	上級情報処理士				
キ ー ワ ー ド	自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, ローカル・グローバルセンス, 情報スキル, マネジメントセンス				
履 修 条 件	なし				
授 業 概 要	企業での業務や卒業研究に役立つ簡単なデータ分析について講義と演習を行う。ものづくりやマーケットリサーチなどの遂行を念頭に、ある事象について得られる複数の要素間の相互関連性を分析するための方法を学ぶ。複数の要因が複雑にからみあったデータを解析するためには、適用する手法の選択や結果の解釈に対する正しい知識が必要となる。各手法の考え方、モデル、解析手順等について学んだ上で、ソフトウェアによる解決を試みる。また、企業での業務に使える人間活動の数理的解釈、データ分析などを実践する。				
授業の到達目標	1. 結婚式の費用と離婚率に関係があるといえるかどうか、Excelを使って判断できる。2. 今すぐ70万円もらうのと5年後に100万円もらうのはどちらが得か、WEBやExcelを使って判断できる。3. 過去の売上データをもとに、無駄のない仕入れ個数を算出できる。4. チラシ、CM、販売員数など、複数の要因のうち、もっとも重要なものは何か、シミュレータを使って判断できる。				
授 業 計 画	1回 データの可視化とグラフ化 (予習:5分, 復習:35分) 2回 バラツキの大きな変動や芸術点を「平均」する (移動平均, 調整平均) (予習:5分, 復習:35分) 3回 データのバラツキを表す尺度 (分散・標準偏差) (予習:5分, 復習:35分) 4回 結婚式の費用と離婚率の関係 (相関係数) (予習:5分, 復習:35分) 5回 関金融の『畏』を知る (単利と複利) (予習:5分, 復習:35分) 6回 10年後の貯金・借金の額を予測する (指数関数) (予習:5分, 復習:35分) 7回 ローンの返済プランを立てる (対数関数) (予習:5分, 復習:35分) 8回 コンピュータを使ってシミュレーションする (現在価値、金融計算) (予習:5分, 復習:35分) 9回 各種茶葉の在庫量から数種のブレンド茶の生産量を算出する (行列) (予習:5分, 復習:35分) 10回 スキー場のゲレンデ, レストハウス, リフトに分散する客の割合を予想する (マルコフ連鎖) (予習:5分, 復習:35分) 11回 身長から体重を予測する (Excelを使った単回帰分析) (予習:5分, 復習:35分) 12回 コンビニでの商品陳列日数から販売数を予測する (Webを使った単回帰分析) (予習:5分, 復習:35分) 13回 商品の陳列日数と広告量から商品の販売数を予測する (Webを使った重回帰分析) (予習:5分, 復習:35分) 14回 事務員の数とパソコンの台数のどちらが売上にとって重要か判断する (Webを使った重回帰分析) (予習:5分, 復習:35分) 15回 総括				
評 価 方 法	出席及び課題提出60点、期末テスト40点の配点で評価する。				
テ キ ス ト	『ビジネス数理基礎』(ムイスリ出版)。※前版にあたる『インターネットで学ぶ社会科学系のための数学〔第4版〕』(ムイスリ出版)を使用しても良い。				
参 考 文 献	補助教材は授業の中で配付・配信する。				
備 考	ICカードリーダーを使って出欠を確認するので、受講する際は学生証を携帯すること。				

授 業 科 目	色彩学		担 当 教 員	高嶋 啓	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	金曜3時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 共通科目[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	自己表現力/実行分析力,問題発見力/問題解決力,実行力/チャレンジ精神,ローカル・グローバルセンス				
履 修 条 件	<ul style="list-style-type: none"> ・必ず指定テキストを購入すること。 ・「A.F.T.色彩検定3級」取得を目指すこと。 ・配色演習の際に12色程度の色鉛筆を各自で用意すること。 				
授 業 概 要	<p>私達の身の回りにはたくさんの色彩があり、日常の中に積極的に取り入れられている。特に色彩の大事な、ファッションや、インテリア、プロダクトなどは、色の使い方でその評価さえも変わってしまう。この授業では、カラーコーディネーターに関わりのある色の世界を広くとりあげ、講義及び、カラーカードを使用したカラーコーディネーション課題を通じて、色彩の本質を学ぶ。「A.F.T.色彩検定1級,2級」にもつながる知識のため、色彩のプロを目指すための基礎となる。キーワード:A.F.T.色彩検定1,カラーコーディネーター検定,ファッション色彩能力検定,カラーデザイン検定,色彩士検定,パーソナルカラーリスト検定,色彩技能パーソナルカラー検定各授業ごとに、予習40分,復習50分程度が必要となる。</p>				
授業の到達目標	色の理論と実技を学び、「A.F.T.色彩検定3級」を取得するための知識を身につける。				
授 業 計 画	<p>1回 オリエンテーション・「A.F.T.色彩検定3級」について。・使用テキストに関して。・課題への取り組み方。</p> <p>2回 光と色予習40分,復習50分程度が必要となる。</p> <p>3回 色の表示1 色の分類と三属性予習40分,復習50分程度が必要となる。</p> <p>4回 色の表示2 PCCS予習40分,復習50分程度が必要となる。</p> <p>5回 色彩心理1 心理的効果予習40分,復習50分程度が必要となる。</p> <p>6回 色彩心理2 色の視覚効果,色の知覚的効果予習40分,復習50分程度が必要となる。</p> <p>7回 色彩調和1 配色の基礎,色相を利用した配色予習40分,復習50分程度が必要となる。</p> <p>8回 色彩調和2 トーンを利用した配色予習40分,復習50分程度が必要となる。</p> <p>9回 色彩調和3 配色の基本的技法予習40分,復習50分程度が必要となる。</p> <p>10回 色彩効果 色彩と構成予習40分,復習50分程度が必要となる。</p> <p>11回 色彩と生活 生活環境と色彩予習40分,復習50分程度が必要となる。</p> <p>12回 ファッション予習40分,復習50分程度が必要となる。</p> <p>13回 インテリア予習40分,復習50分程度が必要となる。</p> <p>14回 「A.F.T.色彩検定3級」模擬試験1予習40分,復習50分程度が必要となる。</p> <p>15回 「A.F.T.色彩検定3級」模擬試験2予習40分,復習50分程度が必要となる。</p>				
評 価 方 法	授業に対する取り組み方40%,課題提出および試験60%によって評価する。				
テ キ ス ト	<ul style="list-style-type: none"> ・「A.F.T.色彩検定3級編公式テキスト」公益社団法人色彩検定協会, ・「新配色カード199s」公益社団法人色彩検定協会 				
参 考 文 献	A.F.T.色彩検定3級編公式テキスト				
備 考	実践的に授業を進めるため,積極的に授業に参加しようという意識を持つこと。				

授 業 科 目	レポート・メールの技術		担 当 教 員	松岡 東香		
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習		単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	月曜3時限		科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 共通科目[2014年度以降入学生]					
対 象 資 格	上級ビジネス実務士					
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 言語運用力, 情報スキル, マネジメントセンス					
履 修 条 件	なし。					
授 業 概 要	いわゆる「できる人」と呼ばれる人材の育成を念頭に、日本語の作文技術、レポートの書き方、メールのマナー、Webを利用したデータ収集、資料作成等の情報処理手法について講義し、実践的演習も行う。具体的事例に基づく演習問題を数多く実施し、実践的なマナーやスキルの習得を目指す。					
授業の到達目標	1. twitterやLINEにも有効な、「最少の文字数で的確に伝わる文章」を書ける。2. マナーに則ったビジネスメールを瞬時に作成できる。3. 人に「伝わる」レポートや報告書を短時間に作成できる。4. 調査結果や考察を、情報デザインに配慮したわかりやすい資料にまとめられる。					
授 業 計 画	1回 仕事の「できる人」と「できない人」の違い (予習:0分, 復習:30分) 2回 わかりやすい文章の書き方① (twitterやLINEで伝えるコツ) (予習:0分, 復習:40分) 3回 わかりやすい文章の書き方② (修飾の順序と読点の打ち方) (予習:10分, 復習:30分) 4回 わかりやすい文章の書き方③ (「できる人」のメールと箇条書きの技術) (予習:10分, 復習:30分) 5回 情報を整理する技術① (ボックスとプリント) (予習:0分, 復習:40分) 6回 情報を整理する技術② (議事録の作成) (予習:10分, 復習:30分) 7回 思考の整理① (三角ロジック) (予習:0分, 復習:40分) 8回 思考の整理② (章立て) (予習:0分, 復習:40分) 9回 ビジネスメールの書き方① (メールの形式) (予習:10分, 復習:30分) 10回 ビジネスメールの書き方② (メールの構成) (予習:10分, 復習:30分) 11回 ビジネスメールのマナー① (メールの運用) (予習:10分, 復習:30分) 12回 ビジネスメールのマナー② (資料の添付等) (予習:10分, 復習:30分) 13回 レポート・報告書の書き方① (レポート・報告書・論文の違い) (予習:0分, 復習:40分) 14回 レポート・報告書の書き方② (論理の文書化) (予習:10分, 復習:30分) 15回 総括					
評 価 方 法	出席及び課題提出40点、期末テスト60点の配点で評価する。					
テ キ ス ト	重要事項を簡潔にまとめられるよう、穴埋め式のプリントを配布する。					
参 考 文 献	補助教材は授業の中で配付・配信する。					
備 考	ICカードリーダーを使って出欠を確認するので、受講する際は学生証を携帯すること。					

授 業 科 目	クラウドワーキング		担 当 教 員	松岡 東香	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	月曜3時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 共通科目[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格	上級ビジネス実務士				
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 問題発見力/問題解決力, 言語運用力, 情報スキル, マネジメントセンス				
履 修 条 件	なし。				
授 業 概 要	企業での業務や卒業研究に役立つ「クラウドでの仕事術」について講義と演習を行う。まず、メール、スケジュール、タスクといったビジネスに欠かせない情報の管理をクラウドで遂行する技術の習得を目指す。その上で、ものづくりやマーケットリサーチなどの遂行を念頭に、データ/アイデアの展開・整理法や、ダイヤグラムの作成法も紹介する。				
授業の到達目標	1. クラウドを使ってメール/スケジュール/タスクの管理ができる。2. ビジネス文書やグラフをクラウドで作成できる。3. クラウドで思考の展開やマッピングができる。4. クラウドに各種情報を蓄積し、適切に運用できる。				
授 業 計 画	1回 クラウドとは何か (予習:0分, 復習:20分) 2回 クラウドによるビジネスコミュニケーション① (種類と特徴) (予習:10分, 復習:30分) 3回 クラウドによるビジネスコミュニケーション② (受信環境の整備) (予習:10分, 復習:30分) 4回 クラウドによるビジネスコミュニケーション③ (分類と体系化) (予習:10分, 復習:30分) 5回 クラウドによるビジネスコミュニケーション④ (ラベリングと運用) (予習:10分, 復習:30分) 6回 クラウドによるビジネスコミュニケーション⑤ (エイリアス/学習/検索の機能) (予習:10分, 復習:30分) 7回 クラウドによるビジネスコミュニケーション⑥ (モバイル環境の構築) (予習:0分, 復習:40分) 8回 クラウドによるビジネス・マネジメント① (クラウドスケジューリングの特徴) (予習:10分, 復習:30分) 9回 クラウドによるビジネス・マネジメント② (スケジュールの管理・運用) (予習:10分, 復習:30分) 10回 クラウドによるビジネス・マネジメント③ (イベントの運営) (予習:10分, 復習:30分) 11回 クラウドによるビジネス・マネジメント③ (タスク管理とリマインダ) (予習:10分, 復習:30分) 12回 クラウドによるアンケート作成とその分析 (予習:0分, 復習:40分) 13回 クラウドによる書類作成 (予習:0分, 復習:40分) 14回 クラウドによる表計算とグラフ作成 (予習:0分, 復習:40分) 15回 総括				
評 価 方 法	出席及び課題提出60点、期末テスト40点の配点で評価する。				
テ キ ス ト	なし				
参 考 文 献	補助教材は授業の中で配付・配信する。				
備 考	ICカードリーダーを使って出欠を確認するので、受講する際は学生証を携帯すること。				

授 業 科 目	グラフィックデザインA	担 当 教 員	高嶋 啓
授業ナンバリング		授 業 形 態	演習
学 期	前期	曜 日 時 限	金曜2時限
科 目 区 分	専門基礎科目群 メディアデザイン[2014年度以降入学生]、専門基礎科目群 コース科目(メディアデザイン) [2013年度以前入学生]		
対 象 資 格	ウェブデザイン実務士		
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, ローカル・グローバルセンス		
履 修 条 件	2年生で履修することが望ましい。		
授 業 概 要	グラフィックデザインの概念を学ぶ。代表的なグラフィック系ソフトIllustratorの基本操作の学習。ポストカード、名刺、ポスター制作など、平面的なグラフィックデザイン制作を行い、色彩や文字構成等の感覚を養う。各講義の為に予習30分、復習時間60分が必要となる。キーワード：CGクリエイター検定、グラフィックデザイン、文字、色彩、形、DTP		
授業の到達目標	Mac及び、Adobe Illustrator初心者が、Macの操作とソフトウェアの基本操作を学び、自由に描画やレイアウトができるようになることを目指す。初級から中級レベル。グラフィックデザイン、印刷、編集作業に必要な美的感覚を養うとともに、自己表現力を高めることが目標である。		
授 業 計 画	1回 オリエンテーション、授業説明、Mac基礎操作復習時間60分が必要となる。 2回 Illustratorの基礎予習30分、復習時間60分が必要となる。 3回 Illustrator -図形を描く-予習30分、復習時間60分が必要となる。 4回 Illustrator -線を描く-予習30分、復習時間60分が必要となる。 5回 Illustrator -フリーハンドで描く-予習30分、復習時間60分が必要となる。 6回 Illustrator -オブジェクトの変形-予習30分、復習時間60分が必要となる。 7回 Illustrator -オブジェクトの編集-予習30分、復習時間60分が必要となる。 8回 Illustrator -色の設定-予習30分、復習時間60分が必要となる。 9回 Illustrator -線の設定-予習30分、復習時間60分が必要となる。 10回 Illustrator -文字を扱う-予習30分、復習時間60分が必要となる。 11回 Illustrator -透明の設定-予習30分、復習時間60分が必要となる。 12回 Illustrator -リアルなデザインの為の機能-予習30分、復習時間60分が必要となる。 13回 Illustrator -表やグラフを描く-予習30分、復習時間60分が必要となる。 14回 Illustrator -高度な変形-予習30分、復習時間60分が必要となる。 15回 Illustrator -出力データの作成-予習30分、復習時間60分が必要となる。		
評 価 方 法	出席、課題への取り組み方、提出課題にて評価する。		
テ キ ス ト	授業内にて配布。PDFデータあり。		
参 考 文 献	+81(河出書房新社), idea(誠文堂新光社), 他		
備 考	実践的に授業を進めるため、積極的に授業に参加しようという意識を持つこと。		

授 業 科 目	グラフィックデザインB	担 当 教 員	高 嶋 啓
授業ナンバリング		授 業 形 態	演 習
学 期	後期	曜 日 時 限	金曜2時限
単 位 数	2単位	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 メディアデザイン[2014年度以降入学生]、専門基礎科目群 コース科目(メディアデザイン) [2013年度以前入学生]		
対 象 資 格	ウェブデザイン実務士		
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性,自己表現力/実行分析力,問題発見力/問題解決力,実行力/チャレンジ精神,ローカル・グローバルセンス,情報スキル		
履 修 条 件	必ずグラフィックデザインAを履修すること。または同等のレベルであること。		
授 業 概 要	ピクトグラム,ダイアグラム,DM,ポスター,さまざまなメディアの実践的な制作を通して,Adobe Illustratorの応用操作を習得する。キーワード:CGクリエイター検定,色彩検定,グラフィックデザイン,タイポグラフィ, DTP		
授業の到達目標	グラフィックデザイン中級レベルから中上級レベルの技術を身につけることを目指す。AdobeIllustratorでの描画ができるだけでなく,美しいレイアウト,読み易い文字,イメージおよび情報の効果的な伝達など,グラフィックデザインの応用を身につける。デザインを学ぶことを通して,論理的に物事を考え実行する力,自己表現力,実行力を身につける。各講義の為に予習40分,復習時間50分が必要となる。		
授 業 計 画	1回 オリエンテーション,授業スケジュール説明復習時間60分が必要となる。 2回 グラフィックデザイン応用1「文字組」予習40分,復習時間50分が必要となる。 3回 グラフィックデザイン応用2「レイアウト」予習40分,復習時間50分が必要となる。 4回 グラフィックデザイン応用3「タイポグラフィ」予習40分,復習時間50分が必要となる。 5回 課題1「フライヤー」課題説明,企画を立てる予習40分,復習時間50分が必要となる。 6回 課題1「フライヤー」レイアウト作業予習40分,復習時間50分が必要となる。 7回 課題1「フライヤー」印刷,講評会予習40分,復習時間50分が必要となる。 8回 課題2「ポスター」課題説明,企画を立てる予習40分,復習時間50分が必要となる。 9回 課題2「ポスター」,ロゴ制作,レイアウト予習40分,復習時間50分が必要となる。 10回 課題2「ポスター」レイアウト,出力データ作成予習40分,復習時間50分が必要となる。 11回 課題2「ポスター」印刷,講評会予習40分,復習時間50分が必要となる。 12回 課題3「インフォグラフィック」課題説明予習40分,復習時間50分が必要となる。 13回 課題3「インフォグラフィック」ピクトグラム制作予習40分,復習時間50分が必要となる。 14回 課題3「インフォグラフィック」ダイアグラム制作予習40分,復習時間50分が必要となる。 15回 課題3「インフォグラフィック」講評会予習40分,復習時間50分が必要となる。		
評 価 方 法	出席状況,課題への取り組み方,提出課題にて評価する。		
テ キ ス ト	授業内にてプリント及び,PDFデータを配布する。		
参 考 文 献	+81(河出書房新社),idea(誠文堂新光社),デザインを学ぶ1,2,3(MdNコーポレーション)		
備 考	実践的に授業を進めるため,積極的に授業に参加しようという意識を持つこと。		

授 業 科 目	デザイン基礎A①		担 当 教 員	秋廣 誠	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習		単 位 数
学 期	前期	曜 日 時 限	火曜1時限		2単位 科目等履修 受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 メディアデザイン[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格	ウェブデザイン実務士				
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神				
履 修 条 件	「色彩学」と同時に履修し、2年次で履修することが望ましい。				
授 業 概 要	講義、演習を通して、デザインのために必要なパースペクティブ、構図、対比、余白、形態感、バルールなど、基礎的な造形概念を学習し実践する。コンピュータを使用せずに、デッサン、平面構成、色彩構成、紙の演習、コラージュ等を手作業のみで行い、美的感覚を磨いていく。各講義の為に予習40分、復習時間50分が必要となる。				
授業の到達目標	デッサン、スケッチ及びデザイン基礎課題を通じて、デザインワークに必要な基礎的な知識と技術を習得する。グラフィックデザイン、印刷、編集作業に必要な美的感覚を養うとともに、自己表現力を高めることが目標である。キーワード：CGクリエイター検定、グラフィックデザイン、タイポグラフィ、色彩検定、形態学				
授 業 計 画	1回 オリエンテーション 2回 課題1-a 「卓上の野菜、果物のデッサン1」制作 形態把握とバルールを学ぶ 3回 課題2-a 「鉛筆によるグラデーション」課題説明 4回 課題3-a 「卓上の野菜、果物のデッサン2」課題説明と制作 形態把握とバルールを学ぶ 5回 課題4-a 「卓上の工業製品のデッサン1」課題説明と制作 パースペクティブ・余白を学ぶ 6回 課題5-a 「卓上の工業製品のデッサン2」課題説明と制作 パースペクティブ・余白を学ぶ 7回 視覚造形の基礎的概念、視覚的要素の概説 8回 課題6-a 「構成デッサン1 静と動などの対比」課題説明と制作 9回 課題7-a 「構成デッサン2 各自が設定したキーワードをもとに」課題説明と制作 10回 課題8-a 「コラージュ 点/面/線の構成」課題説明と制作 11回 課題9-a シルクスクリーンによる平面構成 課題説明、スケッチ（下絵） 12回 課題9-a シルクスクリーンによる平面構成 色彩計画 13回 課題9-a シルクスクリーンによる平面構成 製版および刷り 説明 14回 課題9-a シルクスクリーンによる平面構成 刷り 制作 15回 課題9-a シルクスクリーンによる平面構成 発表および講評（1）				
評 価 方 法	課題への取り組み方50%、提出課題50%によって評価する。				
テ キ ス ト	特に定めない。				
参 考 文 献	必要に応じ、各講義ごとに紹介する。				
備 考	演習のために学生が用意する道具は、都度指示する。例えば、定規、鉛筆、色鉛筆、ハサミ、カッター、カッターマットなどが必要である。また紙や写真などの素材も各自で持参すること。実践的に授業を進めるため、積極的に授業に参加しようという意識を持つこと。				

授 業 科 目	デザイン基礎A②		担 当 教 員	高嶋 啓	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習		単 位 数
学 期	後期	曜 日 時 限	火曜1時限		2単位 科目等履修 受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 メディアデザイン[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格	ウェブデザイン実務士				
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神				
履 修 条 件	「色彩学」と同時に履修し、2年次で履修することが望ましい。				
授 業 概 要	講義、演習を通して、デザインのために必要なパースペクティブ、構図、対比、余白、形態感、バルールなど、基礎的な造形概念を学習し実践する。コンピュータを使用せずに、デッサン、平面構成、色彩構成、紙の演習、コラージュ等を手作業のみで行い、美的感覚を磨いていく。各講義の為に予習40分、復習時間50分が必要となる。				
授業の到達目標	デッサン、スケッチ及びデザイン基礎課題を通じて、デザインワークに必要な基礎的な知識と技術を習得する。グラフィックデザイン、印刷、編集作業に必要な美的感覚を養うとともに、自己表現力を高めることが目標である。キーワード：CGクリエイター検定、グラフィックデザイン、タイポグラフィ、色彩検定、形態学				
授 業 計 画	1回 オリエンテーション 2回 課題1-a 「卓上の野菜、果物のデッサン1」制作 形態把握とバルールを学ぶ 3回 課題2-a 「鉛筆によるグラデーション」課題説明 4回 課題3-a 「卓上の野菜、果物のデッサン2」課題説明と制作 形態把握とバルールを学ぶ 5回 課題4-a 「卓上の工業製品のデッサン1」課題説明と制作 パースペクティブ・余白を学ぶ 6回 課題5-a 「卓上の工業製品のデッサン2」課題説明と制作 パースペクティブ・余白を学ぶ 7回 視覚造形の基礎的概念、視覚的要素の概説 8回 課題6-a 「構成デッサン1 静と動などの対比」課題説明と制作 9回 課題7-a 「構成デッサン2 各自が設定したキーワードをもとに」課題説明と制作 10回 課題8-a 「コラージュ 点/面/線の構成」課題説明と制作 11回 課題9-a シルクスクリーンによる平面構成 課題説明、スケッチ(下絵) 12回 課題9-a シルクスクリーンによる平面構成 色彩計画 13回 課題9-a シルクスクリーンによる平面構成 製版および刷り 説明 14回 課題9-a シルクスクリーンによる平面構成 刷り 制作 15回 課題9-a シルクスクリーンによる平面構成 発表および講評(1)				
評 価 方 法	課題への取り組み方50%、提出課題50%によって評価する。				
テ キ ス ト	特に定めない。				
参 考 文 献	必要に応じ、各講義ごとに紹介する。				
備 考	演習のために学生が用意する道具は、都度指示する。例えば、定規、鉛筆、色鉛筆、ハサミ、カッター、カッターマットなどが必要である。また紙や写真などの素材も各自で持参すること。実践的に授業を進めるため、積極的に授業に参加しようという意識を持つこと。				

授 業 科 目	デザイン基礎B①		担 当 教 員	秋廣 誠	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習		単 位 数
学 期	前期	曜 日 時 限	火曜2時限		2単位 科目等履修 受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 メディアデザイン[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格	ウェブデザイン実務士				
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神				
履 修 条 件	「色彩学」と同時に履修し、2年次で履修することが望ましい。				
授 業 概 要	講義、演習を通して、デザインのために必要なパースペクティブ、構図、対比、余白、形態感、ルールなど、基礎的な造形概念を学習し実践する。コンピュータを使用せずに、デッサン、平面構成、色彩構成、紙の演習、コラージュ等を手作業のみで行い、美的感覚を磨いていく。各講義の為に予習40分、復習時間50分が必要となる。				
授業の到達目標	デッサン、スケッチ及びデザイン基礎課題を通じて、デザインワークに必要な基礎的な知識と技術を習得する。グラフィックデザイン、印刷、編集作業に必要な美的感覚を養うとともに、自己表現力を高めることが目標である。キーワード：CGクリエイター検定、グラフィックデザイン、タイポグラフィ、色彩検定、形態学				
授 業 計 画	1回 ・概説：造形のための基礎的な概念と、デッサンの必要性・デザインに関する簡単なアンケート 2回 課題1-b 「卓上の野菜、果物のデッサン1」講評 グラデーションを学ぶ 3回 課題2-b 「鉛筆によるグラデーション」制作(2) グラデーションと「色のトメ(均一性)」を学ぶ 4回 課題3-b 「卓上の野菜、果物のデッサン2」講評 グラデーションを学ぶ 5回 課題4-b 「卓上の工業製品のデッサン1」講評 構図・対比を学ぶ 6回 課題5-b 「卓上の工業製品のデッサン2」講評 構図・対比を学ぶ 7回 点/面/線による構成、配列、ゲシュタルト原則の概説 8回 課題6-b 「構成デッサン1 静と動などの対比」講評 9回 課題7-b 「構成デッサン2 各自が設定したキーワードをもとに」講評 10回 課題8-b 「コラージュ 点/面/線の構成」制作と講評 11回 課題9-b シルクスクリーンによる平面構成 資料収集、制作 12回 課題9-b シルクスクリーンによる平面構成 ポスターカラーによる制作 13回 課題9-b シルクスクリーンによる平面構成 製版および刷り 制作 14回 課題9-b シルクスクリーンによる平面構成 刷り 制作 15回 課題9-b シルクスクリーンによる平面構成 発表および講評(2)				
評 価 方 法	課題への取り組み方50%、提出課題50%によって評価する。				
テ キ ス ト	特に定めない。				
参 考 文 献	必要に応じ、各講義ごとに紹介する。				
備 考	演習のために学生が用意する道具は、都度指示する。例えば、定規、鉛筆、色鉛筆、ハサミ、カッター、カッターマットなどが必要である。また紙や写真などの素材も各自で持参すること。実践的に授業を進めるため、積極的に授業に参加しようという意識を持つこと。				

授 業 科 目	デザイン基礎B②		担 当 教 員	高嶋 啓	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習		単 位 数
学 期	後期	曜 日 時 限	火曜2時限		2単位 科目等履修 受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 メディアデザイン[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格	ウェブデザイン実務士				
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神				
履 修 条 件	「色彩学」と同時に履修し、2年次で履修することが望ましい。				
授 業 概 要	講義、演習を通して、デザインのために必要なパースペクティブ、構図、対比、余白、形態感、ルールなど、基礎的な造形概念を学習し実践する。コンピュータを使用せずに、デッサン、平面構成、色彩構成、紙の演習、コラージュ等を手作業のみで行い、美的感覚を磨いていく。各講義の為に予習40分、復習時間50分が必要となる。				
授業の到達目標	デッサン、スケッチ及びデザイン基礎課題を通じて、デザインワークに必要な基礎的な知識と技術を習得する。グラフィックデザイン、印刷、編集作業に必要な美的感覚を養うとともに、自己表現力を高めることが目標である。キーワード：CGクリエイター検定、グラフィックデザイン、タイポグラフィ、色彩検定、形態学				
授 業 計 画	1回 ・概説：造形のための基礎的な概念と、デッサンの必要性・デザインに関する簡単なアンケート 2回 課題1-b 「卓上の野菜、果物のデッサン1」講評 グラデーションを学ぶ 3回 課題2-b 「鉛筆によるグラデーション」制作(2) グラデーションと「色のトメ(均一性)」を学ぶ 4回 課題3-b 「卓上の野菜、果物のデッサン2」講評 グラデーションを学ぶ 5回 課題4-b 「卓上の工業製品のデッサン1」講評 構図・対比を学ぶ 6回 課題5-b 「卓上の工業製品のデッサン2」講評 構図・対比を学ぶ 7回 点/面/線による構成、配列、ゲシュタルト原則の概説 8回 課題6-b 「構成デッサン1 静と動などの対比」講評 9回 課題7-b 「構成デッサン2 各自が設定したキーワードをもとに」講評 10回 課題8-b 「コラージュ 点/面/線の構成」制作と講評 11回 課題9-b シルクスクリーンによる平面構成 資料収集、制作 12回 課題9-b シルクスクリーンによる平面構成 ポスターカラーによる制作 13回 課題9-b シルクスクリーンによる平面構成 製版および刷り 制作 14回 課題9-b シルクスクリーンによる平面構成 刷り 制作 15回 課題9-b シルクスクリーンによる平面構成 発表および講評(2)				
評 価 方 法	課題への取り組み方50%、提出課題50%によって評価する。				
テ キ ス ト	特に定めない。				
参 考 文 献	必要に応じ、各講義ごとに紹介する。				
備 考	演習のために学生が用意する道具は、都度指示する。例えば、定規、鉛筆、色鉛筆、ハサミ、カッター、カッターマットなどが必要である。また紙や写真などの素材も各自で持参すること。実践的に授業を進めるため、積極的に授業に参加しようという意識を持つこと。				

授 業 科 目	アニメと映像A		担 当 教 員	野田 美波子		
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位	
学 期	前期	曜 日 時 限	月曜2時限	科 目 等 履 修	受入可	
科 目 区 分	専門基礎科目群 メディアデザイン[2014年度以降入学生]、専門基礎科目群 コース科目（メディアデザイン）[2013年度以前入学生]					
対 象 資 格						
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力, 言語運用力, 情報スキル					
履 修 条 件	特になし					
授 業 概 要	日本の巨匠と呼ばれるアニメーション監督はどのようなアニメーション作品に影響をうけているのか。また、日本のアニメーションは海外にどのような影響を与えているのか。海外のアニメーションと日本のアニメーションの発展の違いはどうやって生まれたのか。そのような観点からアニメーション誕生から近代(第二次世界大戦まで)の歴史を体系的に理解する。					
授業の到達目標	欧米、日本のアニメーションの歴史を体系的に理解する。様々な監督の作品を鑑賞し、その制作意図や時代背景をヒントに作品の意図を読み解く。					
授 業 計 画	1回 オリエンテーション本科目の目的、履修・評価方法の説明 2回 世界のアニメーション、映像1 3回 日本のアニメーション、映像1 4回 世界のアニメーション、映像2 5回 日本のアニメーション、映像2 6回 世界のアニメーション、映像3 7回 日本のアニメーション、映像3 8回 世界のアニメーション、映像4 9回 日本のアニメーション、映像4 10回 世界のアニメーション、映像5 11回 日本のアニメーション、映像5 12回 世界のアニメーション、映像6 13回 日本のアニメーション、映像6 14回 世界のアニメーション、映像7 15回 日本のアニメーション、映像7					
評 価 方 法	レポート提出					
テ キ ス ト	授業ごとに配布					
参 考 文 献	授業ごとに提示					
備 考	第1回目から出席をとります。5回の欠席で失格となります。					

授 業 科 目	アニメと映像B		担 当 教 員	野田 美波子		
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位	
学 期	後期	曜 日 時 限	月曜2時限	科 目 等 履 修	受入可	
科 目 区 分	専門基礎科目群 メディアデザイン[2014年度以降入学生]、専門基礎科目群 コース科目（メディアデザイン）[2013年度以前入学生]					
対 象 資 格						
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力, 言語運用力					
履 修 条 件	特になし					
授 業 概 要	日本の巨匠と呼ばれるアニメーション監督はどのようなアニメーション作品に影響をうけているのか。また、日本のアニメーションは海外にどのような影響を与えているのか。海外のアニメーションと日本のアニメーションの発展の違いはどうやって生まれたのか。そのような観点から第二次世界大戦以降から現代までのアニメーションの歴史を体系的に理解する。					
授業の到達目標	欧米、日本のアニメーションの歴史を体系的に理解する。様々な監督の作品を鑑賞し、その制作意図や時代背景をヒントに作品の意図を読み解く。					
授 業 計 画	1回 オリエンテーション本科目の目的、履修・評価方法の説明 2回 世界のアニメーション、映像1 3回 日本のアニメーション、映像1 4回 世界のアニメーション、映像2 5回 日本のアニメーション、映像2 6回 世界のアニメーション、映像3 7回 日本のアニメーション、映像3 8回 世界のアニメーション、映像4 9回 日本のアニメーション、映像4 10回 世界のアニメーション、映像5 11回 日本のアニメーション、映像5 12回 世界のアニメーション、映像6 13回 日本のアニメーション、映像6 14回 世界のアニメーション、映像7 15回 日本のアニメーション、映像7					
評 価 方 法	レポート提出					
テ キ ス ト	授業ごとに配布					
参 考 文 献	授業ごとに提示					
備 考	第1回目から出席をとります。5回欠席で失格となります。					

授 業 科 目	アニメーションA		担 当 教 員	野田 美波子	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	水曜1時限		科目等履修 受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 メディアデザイン[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	自己表現力/実行分析力,問題発見力/問題解決力,情報スキル				
履 修 条 件	絵を書くことが好きで、自分の絵に命を吹き込みたいと考えている者。アニメーション制作に興味があること。必ずアニメーションA,Bの授業をあわせて履修すること。各講義の為に予習90分、復習時間90分が必要となる				
授 業 概 要	アニメーションは命の無い物に命を吹き込む、言わば魔法のようなものです。授業では主に2D(平面)アニメーションで動きの基本について学習しますが、3DCGアニメーションを制作する際にもこの考え方が役に立ちます。前半は鉛筆と紙を使ったアナログ作画アニメーションの制作、後半はPhotoShopを使用したデジタル作画アニメーションを制作します。使用ソフトPhotoShop, AfterEffects, DragonFlame				
授業の到達目標	重力にのっとなった動き、キャラクターをつけた人間の動き、メタモルフォーゼなど、アニメーション作画の基礎をマスターする。また、アニメーションを制作するにあたっての基礎的なパソコン操作をマスターする。				
授 業 計 画	<p>1回 第1章 手描きによるアニメーション制作アニメーションにおける作画とは何か。原画、動画、トレース、タイムシート、タイミングの説明。</p> <p>2回 課題1 ボールを上下に弾ませる作画。伸ばしと縮み。完成した動画をスキャナーでパソコンに取り込み、AfterEffectsで編集し、movへ書き出しする。</p> <p>3回 課題2 振り子の動きの作画。残しのテクニック。</p> <p>4回 完成した動画をスキャナーでパソコンに取り込み、PhotoShopで着彩。AfterEffectsで編集し、movへ書き出しする。</p> <p>5回 課題3 ボールの落下、バウンドの作画。</p> <p>6回 完成した動画をスキャナーでパソコンに取り込み、PhotoShopで着彩。AfterEffectsで編集し、効果音を付けてmovへ書き出しする。</p> <p>7回 課題4 人間の動き。歩きの基礎ノーマルな速度の歩きを作画する。</p> <p>8回 完成した動画をスキャナーでパソコンに取り込み、PhotoShopで着彩。AfterEffectsで編集し、効果音を付けてmovへ書き出しする。</p> <p>9回 課題5 簡単なキャラクターデザインをし、そのキャラクターに合った振り向きを作画する。</p> <p>10回 課題6 課題5で振り向かせたキャラクターに別セルで、目パチ(瞬き)、ロバク(喋り)を加える。</p> <p>11回 完成した動画をスキャナーでパソコンに取り込み、PhotoShopで着彩。AfterEffectsで編集し、アフレコで録音した音声を付けてmovへ書き出しする。</p> <p>12回 課題7 3つのオブジェクトをデザインし、それぞれの間をメタモルフォーゼでつなぎグループアニメーションをつくる。</p> <p>13回 3つのオブジェクトをデザインし、それぞれの間をメタモルフォーゼでつなぎグループアニメーションをつくる。</p> <p>14回 3つのオブジェクトをデザインし、それぞれの間をメタモルフォーゼでつなぎグループアニメーションをつくる。</p> <p>15回 完成した動画をスキャナーでパソコンに取り込み、PhotoShopで着彩。AfterEffectsで編集し、効果音を付けてmovへ書き出しする。</p>				
評 価 方 法	提出された課題、成果物により評価する。				
テ キ ス ト	その都度配布する。				
参 考 文 献	アニメーターズサバイバルキット：リチャード・ウィリアムズ 著アニメーションの本(改定新版)：アニメーション6人の会 編著				
備 考	第1回目から出欠をとります。				

授 業 科 目	アニメーションB		担 当 教 員	野田 美波子	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	水曜2時限		科目等履修 受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 メディアデザイン[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 情報スキル				
履 修 条 件	絵を書くことが好きで、自分の絵に命を吹き込みたいと考えている者。アニメーション制作に興味があること。必ずアニメーションA, Bの授業をあわせて履修すること。各講義の為に予習90分、復習時間90分が必要となる				
授 業 概 要	アニメーションは命の無い物に命を吹き込む、言わば魔法のようなものです。授業では主に2D(平面)アニメーションで動きの基本について学習しますが、3DCGアニメーションを制作する際にもこの考え方が役に立ちます。前半は鉛筆と紙を使ったアナログ作画アニメーションの制作、後半はPhotoShopを使用したデジタル作画アニメーションを制作します。使用ソフトPhotoShop, AfterEffects, DragonFlame				
授業の到達目標	重力にのっとなった動き、キャラクターをつけた人間の動き、メタモルフォーゼなど、アニメーション作画の基礎をマスターする。また、アニメーションを制作するにあたっての基礎的なパソコン操作をマスターする。				
授 業 計 画	1回 第2章 AfterEffectsを使ったコンピューターアニメーションの制作1、アニメーションの原作となる4コマ漫画を作成する。 2回 2、完成した4コマ漫画を元に、動きをデザインする。 3回 3、4コマ漫画をスキャンし、デザインした動きを元にPhotoShopで素材を作成する。 4回 4コマ漫画をスキャンし、デザインした動きを元にPhotoShopで素材を作成する。 5回 4コマ漫画をスキャンし、デザインした動きを元にPhotoShopで素材を作成する。 6回 4コマ漫画をスキャンし、デザインした動きを元にPhotoShopで素材を作成する。 7回 4、PhotoShopファイルをAfterEffectsで読み込み、コンポジションを作成する。 8回 5、AfterEffectsでキーフレームアニメーションを作成する 9回 AfterEffectsでキーフレームアニメーションを作成する 10回 AfterEffectsでキーフレームアニメーションを作成する 11回 AfterEffectsでキーフレームアニメーションを作成する 12回 6、効果音、セリフのレコーディングを行う。 13回 7、効果音、セリフをAfterEffectsに取り込み、編集する。 14回 8、間の取り方や展開の速度、効果音やセリフのタイミングなどの最終調整を行う。 15回 講評				
評 価 方 法	提出された課題、成果物により評価する。				
テ キ ス ト	その都度配布する。				
参 考 文 献	アニメーターズサバイバルキット：リチャード・ウィリアムズ 著アニメーションの本(改定新版)：アニメーション6人の会 編著				
備 考	第1回目から出欠をとります。				

授 業 科 目	映像と文化A		担 当 教 員	野田 美波子	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	水曜4時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 メディアデザイン[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド					
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	映画史の中で、特にディズニーの映像史について講義を行う。アニメーションの父と言われるウォルト・ディズニーの生涯や、アブ・アイワークスによってディズニースタジオで開発されたアニメーションの技術、映像技術を紹介する。				
授業の到達目標	アニメーション技術、映像技術の発展の歴史についての理解する。				
授 業 計 画	1回 ウォルト・ディズニーの幼少期 2回 アブ・アイワークスとの出会い～アニメーションスタジオの設立 3回 アリスコメディ、ディズニー・プラザ設立 4回 オズワルドシリーズ 5回 ミッキーマウス誕生 6回 シリーシンフォニーシリーズ1 7回 シリーシンフォニーシリーズ2 8回 白雪姫1 9回 白雪姫2 10回 バンビ、ピノキオ 11回 ファンタジア1 12回 ファンタジア2 13回 ダンボ～第二次世界大戦とディズニースタジオ 14回 ディズニーランド 15回 メリーポピンズ、ジャングルブック				
評 価 方 法	レポート提出				
テ キ ス ト	その都度配布				
参 考 文 献	創造の狂気 ウォルト・ディズニー：ニール・ゲイブラー著命を吹き込む魔法：フランク・トーマス、オーリー・ジョンストン著 など				
備 考					

授 業 科 目	組込コンピューティングA		担 当 教 員	高藤 清美	
授業ナンバリング		授 業 形 態	演習	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	水曜 4時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 情報システム[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格	上級情報処理士				
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神, 情報スキル				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	私たちの身の回りにはコンピュータを内蔵した装置や機器が数多くあります。これらの装置の多くは、コンピュータとしてマイクロプロセッサと呼ばれるLSI（大規模集積回路）を中心に構成され、電子回路の規模は小さくても普通のコンピュータと全く同じ概念を用いて構成されています。この授業では、マイクロプロセッサを用いたモデル装置を使いながら、コンピュータの仕組み、動作原理、メモリ回路の仕組み、周辺装置の仕組みなどについて学習します。				
授業の到達目標	コンピュータのハードウェアを直に操作することができる小型マイクロプロセッサ基板を用いて、コンピュータの動作原理、プログラムの仕組みなど体験的に理解する。さらに、計測や制御に関するハードウェアやソフトウェアについても体験的に理解する。到達目標は、マイクロプロセッサによる計測・制御の基本的なハードウェアとソフトウェアを理解し、基本的なプログラムの作成ができることである。				
授 業 計 画	1回 マイクロプロセッサのアーキテクチャ（復習1.5時間をする。） 2回 マイクロプロセッサを用いた小型マイクロプロセッサ基板のハードウェアの概要（予習1.5時間、復習1.5時間をする。） 3回 小型マイクロプロセッサ基板の製作（予習1.5時間、復習1.5時間をする。） 4回 小型マイクロプロセッサ基板の基本動作の確認（予習1.5時間、復習1.5時間をする。） 5回 マイクロプロセッサのプログラミングシステムの構築（予習1.5時間、復習1.5時間をする。） 6回 マイクロプロセッサのプログラミングの考え方（予習1.5時間、復習1.5時間をする。） 7回 マイクロプロセッサの基本動作（1）バイト出力・発光ダイオードの制御（1）（予習1.5時間、復習1.5時間をする。） 8回 マイクロプロセッサの基本動作（2）バイト入力・スイッチからのデータの読み込み（予習1.5時間、復習1.5時間をする。） 9回 マイクロプロセッサの基本動作（3）ビット出力・発光ダイオードの制御（予習1.5時間、復習1.5時間をする。） 10回 マイクロプロセッサの基本動作（4）ビット入力・スイッチからのデータの読み込み（予習1.5時間、復習1.5時間をする。） 11回 センサーとADコンバータ（1）ADコンバータから読み取ったデータの表示（予習1.5時間、復習1.5時間をする。） 12回 センサーとADコンバータ（2）ADコンバータから読み取ったデータを変換し表示（予習1.5時間、復習1.5時間をする。） 13回 割込み制御の考え方（予習1.5時間、復習1.5時間をする。） 14回 スイッチによる割込み（外部割込み）を利用したカウンタプログラムの製作（予習1.5時間、復習1.5時間をする。） 15回 タイマーによる割込みを利用したストップウォッチプログラムの製作（予習1.5時間、復習1.5時間をする。）				
評 価 方 法	授業への取組み状況、小テスト、レポート、期末試験などの結果を総合的に判断し評価する				
テ キ ス ト	プリントを使用する予定。状況によりテキストを指定することがある。				
参 考 文 献	「試しながら学ぶAVR入門」土井滋貴著（CQ出版社）、「組み込みソフトウェア開発スタートアップ」デザインウェーブマガジン編集部編（CQ出版社）、「組み込みソフトウェア開発入門」星野香保子・並木秀明共著（技術評論社）など。				
備 考	特になし				

授 業 科 目	組込コンピューティングB		担 当 教 員	高藤 清美	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	水曜2時限		科目等履修 受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 情報システム[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神, 情報スキル				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	目的に応じたマイクロプロセッサによる制御プログラムの作成法を学ぶ。マイクロプロセッサを搭載したモデル装置 (Arduino互換ボード) を用い、基本的なデジタル入出力プログラム、アナログ入出力プログラミング、各種の周辺装置の制御プログラムなどを例題として取り上げ、基本的なセンサーやアクチュエータを用いて、これらを制御するためのプログラムを作成しながら各種のプログラミング手法を講義する。なお、授業で使用するモデル装置 (Arduino互換ボード) は各自が組み立てる。				
授業の到達目標	代表的なフィジカルコンピューティングのプラットフォームArduinoを用いて、様々なセンサーやアクチュエータの基本的な制御方法を習得する。センサーやアクチュエータの基本的な構成やマイクロプロセッサとのインターフェースを理解する。				
授 業 計 画	1回 フィジカルコンピューティングの考えおよび代表的なフィジカルコンピューティング用プラットフォームArduinoについて (復習1.5時間をする事。) 2回 Arduino互換ボードの製作 (1) ボードの組み立て (予習1.5時間、復習1.5時間をする事。) 3回 Arduino互換ボードの製作 (2) ボードの完成とテスト (予習1.5時間、復習1.5時間をする事。) 4回 Arduino言語を用いたプログラミング (予習1.5時間、復習1.5時間をする事。) 5回 プログラミング実験に用いる電子部品・電子回路 (予習1.5時間、復習1.5時間をする事。) 6回 発光ダイオードを用いた出力制御 (予習1.5時間、復習1.5時間をする事。) 7回 スイッチを用いた入力制御 (予習1.5時間、復習1.5時間をする事。) 8回 複数のLEDを用いた出力制御 (予習1.5時間、復習1.5時間をする事。) 9回 センサー入力の取り扱い (予習1.5時間、復習1.5時間をする事。) 10回 センサー入力と連動した出力制御 (予習1.5時間、復習1.5時間をする事。) 11回 パルス幅変調 (PWM) による電力制御プログラム (予習1.5時間、復習1.5時間をする事。) 12回 パソコンとの連動 (予習1.5時間、復習1.5時間をする事。) 13回 温度センサーを用いた計測 (予習1.5時間、復習1.5時間をする事。) 14回 光センサーを用いた計測 (予習1.5時間、復習1.5時間をする事。) 15回 圧電 (ピエゾ) スピーカを用いた音楽演奏 (予習1.5時間、復習1.5時間をする事。) 				
評 価 方 法	授業への取組み状況、小テスト、レポートなどの結果を総合的に判断し評価する				
テ キ ス ト	「Arduinoをはじめよう (第3版)」Massimo Banzi・Michael Shiloh 著、船田 巧 訳 (オライリー・ジャパン) を使用する予定。				
参 考 文 献	「試しながら学ぶAVR入門」土井滋貴著 (CQ出版社)、「組み込みソフトウェア開発スタートアップ」デザインウェーブマガジン編集部編 (CQ出版社)、「組み込みソフトウェア開発入門」星野香保子・並木秀明共著 (技術評論社) など。				
備 考	特になし				

授 業 科 目	情報調査法A		担 当 教 員	松岡 東香	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	月曜3時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 コース科目 (システム開発) [2013年度以前入学生]				
対 象 資 格	上級情報処理士				
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 言語運用力, 情報スキル, マネジメントセンス				
履 修 条 件	なし。				
授 業 概 要	いわゆる「できる人」と呼ばれる人材の育成を念頭に、日本語の作文技術、レポートの書き方、メールのマナー、Webを利用したデータ収集、資料作成等の情報処理手法について講義し、実践的演習も行う。具体的事例に基づく演習問題を数多く実施し、実践的なマナーやスキルの習得を目指す。				
授業の到達目標	1. twitterやLINEにも有効な、「最少の文字数で的確に伝わる文章」を書ける。2. マナーに則ったビジネスメールを瞬時に作成できる。3. 人に「伝わる」レポートや報告書を短時間に作成できる。4. 調査結果や考察を、情報デザインに配慮したわかりやすい資料にまとめられる。				
授 業 計 画	1回 仕事の「できる人」と「できない人」の違い (予習:0分, 復習:30分) 2回 わかりやすい文章の書き方① (twitterやLINEで伝えるコツ) (予習:0分, 復習:40分) 3回 わかりやすい文章の書き方② (修飾の順序と読点の打ち方) (予習:10分, 復習:30分) 4回 わかりやすい文章の書き方③ (「できる人」のメールと箇条書きの技術) (予習:10分, 復習:30分) 5回 情報を整理する技術① (ボックスとプリント) (予習:0分, 復習:40分) 6回 情報を整理する技術② (議事録の作成) (予習:10分, 復習:30分) 7回 思考の整理① (三角ロジック) (予習:0分, 復習:40分) 8回 思考の整理② (章立て) (予習:0分, 復習:40分) 9回 ビジネスメールの書き方① (メールの形式) (予習:10分, 復習:30分) 10回 ビジネスメールの書き方② (メールの構成) (予習:10分, 復習:30分) 11回 ビジネスメールのマナー① (メールの運用) (予習:10分, 復習:30分) 12回 ビジネスメールのマナー② (資料の添付等) (予習:10分, 復習:30分) 13回 レポート・報告書の書き方① (レポート・報告書・論文の違い) (予習:0分, 復習:40分) 14回 レポート・報告書の書き方② (論理の文書化) (予習:10分, 復習:30分) 15回 総括				
評 価 方 法	出席及び課題提出40点、期末テスト60点の配点で評価する。				
テ キ ス ト	重要事項を簡潔にまとめられるよう、穴埋め式のプリントを配布する。				
参 考 文 献	補助教材は授業の中で配付・配信する。				
備 考	ICカードリーダーを使って出欠を確認するので、受講する際は学生証を携帯すること。				

授 業 科 目	情報調査法B		担 当 教 員	松岡 東香	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	月曜3時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 コース科目 (システム開発) [2013年度以前入学生]				
対 象 資 格	上級情報処理士				
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 問題発見力/問題解決力, 言語運用力, 情報スキル, マネジメントセンス				
履 修 条 件	なし。				
授 業 概 要	企業での業務や卒業研究に役立つ「クラウドでの仕事術」について講義と演習を行う。まず、メール、スケジュール、タスクといったビジネスに欠かせない情報の管理をクラウドで遂行する技術の習得を目指す。その上で、ものづくりやマーケットリサーチなどの遂行を念頭に、データ/アイデアの展開・整理法や、ダイヤグラムの作成法も紹介する。				
授業の到達目標	1. クラウドを使ってメール/スケジュール/タスクの管理ができる。2. ビジネス文書やグラフをクラウドで作成できる。3. クラウドで思考の展開やマッピングができる。4. クラウドに各種情報を蓄積し、適切に運用できる。				
授 業 計 画	1回 クラウドとは何か (予習:0分, 復習:20分) 2回 クラウドによるビジネスコミュニケーション① (種類と特徴) (予習:10分, 復習:30分) 3回 クラウドによるビジネスコミュニケーション② (受信環境の整備) (予習:10分, 復習:30分) 4回 クラウドによるビジネスコミュニケーション③ (分類と体系化) (予習:10分, 復習:30分) 5回 クラウドによるビジネスコミュニケーション④ (ラベリングと運用) (予習:10分, 復習:30分) 6回 クラウドによるビジネスコミュニケーション⑤ (エイリアス/学習/検索の機能) (予習:10分, 復習:30分) 7回 クラウドによるビジネスコミュニケーション⑥ (モバイル環境の構築) (予習:0分, 復習:40分) 8回 クラウドによるビジネス・マネジメント① (クラウドスケジューリングの特徴) (予習:10分, 復習:30分) 9回 クラウドによるビジネス・マネジメント② (スケジュールの管理・運用) (予習:10分, 復習:30分) 10回 クラウドによるビジネス・マネジメント③ (イベントの運営) (予習:10分, 復習:30分) 11回 クラウドによるビジネス・マネジメント④ (タスク管理とリマインダ) (予習:10分, 復習:30分) 12回 クラウドによるアンケート作成とその分析 (予習:0分, 復習:40分) 13回 クラウドによる書類作成 (予習:0分, 復習:40分) 14回 クラウドによる表計算とグラフ作成 (予習:0分, 復習:40分) 15回 総括				
評 価 方 法	出席及び課題提出60点、期末テスト40点の配点で評価する。				
テ キ ス ト	なし				
参 考 文 献	補助教材は授業の中で配付・配信する。				
備 考	ICカードリーダーを使って出欠を確認するので、受講する際は学生証を携帯すること。				

授 業 科 目	マーケティングA		担 当 教 員	岩田 隆一	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	木曜2時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 ビジネスマネジメント[2014年度以降入学生]、専門基礎科目群 コース科目(経営経済)[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	マネジメントセンス				
履 修 条 件	経営学とマーケティングに関心があること。				
授 業 概 要	①経営学の基礎を学習する。②マーケティング理論の基礎を学習する。③企業の事例研究で具体的にマーケティングが理解できるようにする。				
授業の到達目標	マーケティングの基本が理解できるようになる。科目のキーワード「マーケティングの基礎」				
授 業 計 画	<p>1回 授業計画と成績の評価基準の説明</p> <p>2回 3つのマーケティングの学習①消費者対応マーケティング②市場地位別のマーケティング(マーケット・リーダー、マーケット・チャレンジャー、マーケット・フォロワー、マーケット・ニッチャーのそれぞれのマーケティング)③21世紀の社会対応型マーケティング(インターネット・マーケティング、企業の社会的存在意義、消費者との関係性重視)</p> <p>3回 消費者対応マーケティングの4P研究ProductPricePlacePromotion</p> <p>4回 消費者対応マーケティング 消費者研究1 顧客満足度を高めるための顧客分析 ストアロイヤルティの研究</p> <p>5回 消費者対応マーケティング 消費者研究2 消費者の購買行動研究 衝動買い</p> <p>6回 消費者対応マーケティング 消費者研究3 消費者行動の6つのタイプ 新しい消費者 「物を持たないでレンタルを利用する」</p> <p>7回 Price(価格)の決定システムの研究1 どのように価格は決まるのかを見てみよう。損益分岐点の研究</p> <p>8回 Price(価格)の決定システムの研究1 (価格はどのようにして決まるのか 1) 損益分岐点計算</p> <p>9回 Price(価格)の決定システム</p> <p>10回 Product(商品)研究1 商標登録された商品 誰もが知っているベストセラー商品</p> <p>11回 Product(商品)研究2 ロングセラーの秘密：なぜロングセラーになるのか</p> <p>12回 Product(商品)研究3 デザイン、機能などから商品研究</p> <p>13回 Product(商品)研究4 ブランドの研究</p> <p>14回 Promotion(広告・プロモーション)研究 有名なCMを見てみよう</p> <p>15回 前期の授業のまとめ</p>				
評 価 方 法	筆記試験の点数で評価する。				
テ キ ス ト	必要な資料は授業で配布する。				
参 考 文 献	授業の中で必要に応じて紹介する。				
備 考	授業内容は変更になることがあります。【資格対象科目：上級情報処理士、上級ビジネス実務士、観光ビジネス実務士】				

授 業 科 目	マーケティングB		担 当 教 員	岩田 隆一	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	木曜2時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 ビジネスマネジメント[2014年度以降入学生]、専門基礎科目群 コース科目(経営経済)[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	マネジメントセンス				
履 修 条 件	①マーケティングA(前期の授業)を受講済みであること。②経営学とマーケティングに関心があること。				
授 業 概 要	①経営学の基礎を学習する。②マーケティング理論の基礎を学習する。③具体的な事例研究でマーケティングを理解できるようにする。				
授業の到達目標	マーケティングの基本が理解できるようになる。科目のキーワード「マーケティングの基本」				
授 業 計 画	1回 授業計画と成績の評価基準の説明 2回 Place(流通)の研究1 巨大なホームセンターの事例研究 3回 Place(流通)の研究2 小さな店舗-移動店舗の事例研究 4回 Place(流通)の研究3 深夜ビジネスの事例研究 5回 Place(流通)の研究4 流通サービスの事例研究 6回 Place(流通)の研究5 流通サービスの事例研究 7回 Place(流通)の研究6 流通サービスの事例研究 8回 インターネット通信販売の事例研究 9回 インターネット通信販売の事例研究 10回 インターネット通信販売の事例研究 11回 運送サービス(ロジスティックス)の事例研究 12回 コンビニエンス・ストア・ビジネスの事例研究 13回 コンビニエンス・ストア・ビジネスの事例研究 14回 コンビニエンス・ストア・ビジネスの事例研究 15回 授業のまとめ				
評 価 方 法	筆記試験の点数で評価する。				
テ キ ス ト	必要な資料は授業で配布する。				
参 考 文 献	授業の中で必要に応じて紹介する。				
備 考	授業内容な変更になることがあります。【資格対象科目：上級情報処理士、上級ビジネス実務士、観光ビジネス実務士】				

授 業 科 目	簿記会計A	担 当 教 員	樋口 浩義
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義
学 期	前期	曜 日 時 限	木曜1時限
科 目 区 分	専門基礎科目群 共通科目[2014年度以降入学生]、専門基礎科目群	単 位 数	2単位
対 象 資 格		科 目 等 履 修	受入可
キ ー ワ ー ド	情報スキル, マネジメントセンス		
履 修 条 件	特になし		
授 業 概 要	簿記の基本原理・記帳処理について学ぶ。日商簿記3級レベルの資格取得を目指す。		
授業の到達目標	日商簿記3級レベル【日商簿記検定3級】		
授 業 計 画	1回 1 簿記の意義 2回 2 簿記の主要概念 3回 3 収益・費用 4回 4 取引と勘定記入 5回 5 仕訳・勘定記入及び転記 6回 6 試算表 7回 7 6桁精算表 8回 8 現金・預金 9回 9 小口現金 10回 10 商品売買取引 11回 11 商品有高帳 12回 12 手形 13回 13 その他の債権・債務 14回 14 決算整理 15回 15 8桁精算表		
評 価 方 法	小テスト、試験等による		
テ キ ス ト	樋口浩義「簿記演習初級テキスト」(共栄出版株式会社) 2,100円その他プリントを配布する。		
参 考 文 献	必要に応じて指示する。		
備 考	【資格対象科目：上級情報処理士、上級ビジネス実務士】毎回、計算問題をおこなうので、電卓を持参のこと		

授 業 科 目	簿記会計B		担 当 教 員	樋口 浩義	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	木曜2時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 共通科目[2014年度以降入学生]、専門基礎科目群 コース科目(経営経済)[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力, 情報スキル, マネジメントセンス				
履 修 条 件	「簿記A」を先に履修するか(高校時代の学習を含む)、並行して履修することが望ましい。				
授 業 概 要	企業が作成する財務諸表(貸借対照表、損益計算書等)の見方、読み方について学習する。				
授業の到達目標	企業が公表する財務諸表を読む力をつける。【財務諸表分析能力】				
授 業 計 画	1回 1 総論 2回 2 会計公準 3回 3 企業会計原則 4回 4 損益計算書 5回 5 資産 6回 6 流動資産 7回 7 固定資産 8回 8 繰延資産 9回 9 負債 10回 10 資本 11回 11 連結財務諸表 12回 12 セグメント情報 13回 13 外貨換算会計 14回 14 財務諸表(経営)分析 15回 15 "				
評 価 方 法	小テスト、試験等による				
テ キ ス ト	プリントを配布する				
参 考 文 献	授業中に指示する				
備 考	【資格対象科目：上級情報処理士、上級ビジネス実務士】				

授 業 科 目	航空ビジネスA		担 当 教 員	大島 慎子	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	月曜4時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 ビジネスマネジメント[2014年度以降入学生]、専門基礎科目群 コース科目(経営経済)[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格	上級ビジネス実務士, 観光ビジネス実務士				
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 問題発見力/問題解決力, ローカル・グローバルセンス				
履 修 条 件	28年度は、航空ビジネスAは、交通産業として航空を含む全般を学ぶため、観光産業の移動手段である交通産業、すなわち、航空、鉄道、バス等の輸送関連に興味があること				
授 業 概 要	規制緩和がすすむ現代の交通産業を理解する基礎として、航空史、鉄道史、自動車産業発達史を学び、規制緩和と自由競争時代の交通の役割を学ぶ。観光に寄与する移動手段としての運輸業を視点とし、経営戦略上、観光振興とどのようなかかわりがあるかを事例で学ぶ。				
授業の到達目標	航空産業、鉄道業、バス・タクシー等の運輸全般の概要を学ぶ。、到達目標は知識だけでなく、運輸業界をとりまく環境を理解し、「問題発見能力」「発表能力」を磨く。課題に関しては、1時間程度の予習、復習を期待する。				
授 業 計 画	1回 オリエンテーションと成績評価基準の説明 2回 航空産業の歴史 3回 航空規制緩和以降、LCCの現状 4回 国際旅客と国際貨物 5回 鉄道の歴史と現状 6回 日本の鉄道業の特徴。 不動産業から野球球団までの多角経営 7回 観光鉄道 8回 新幹線とリニアの時代 9回 バス事業 10回 タクシーとハイヤー業界 11回 運輸行政 12回 海外の運輸行政 13回 観光振興と運輸業の関係 14回 クルーズ 15回 交通産業のまとめ 16回 期末試験				
評 価 方 法	授業参加態度 40% 毎回授業内で行う復習レポートの提出 20% 試験 40%				
テ キ ス ト	授業で資料を提供				
参 考 文 献	授業内で紹介				
備 考	資格対象科目：：上級ビジネス実務士、観光ビジネス実務士】				

授 業 科 目	航空ビジネスB		担 当 教 員	大島 慎子	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	月曜4時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 ビジネスマネジメント[2014年度以降入学生]、専門基礎科目群 コース科目(経営経済)[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格	上級ビジネス実務士、観光ビジネス実務士				
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 問題発見力/問題解決力, ローカル・グローバルセンス, マネジメントセンス				
履 修 条 件	航空ビジネスAを履修していることが望ましい。配布資料やテキストを1時間ほど予習、復習すること。				
授 業 概 要	世界の航空会社の営業戦略、特に航空会社が70年代に開発したコンピューター予約システムCRSによるイールドマネジメントとグローバルディストリビューションシステム(流通形態)およびアライアンス(包括提携)、マイルージとブランド戦略、航空貨物など航空会社の営業とマーケティングの詳細を学ぶ。特に路線網の拡大や顧客満足のための様々な取り組みを学ぶとともに、グローバル時代の格安航空会社(LCC)と大手航空会社のポジショニングを学ぶ。また、各国の航空政策や空港政策を示し、成田空港に実地見学を行う。				
授業の到達目標	航空業界の流通と、格安航空会社の台頭、日本の航空業界に関する知識を得る 知識の集積だけでなく、空港見学のフィールドワークで問題発見力、問題解決能力を養う。一部英語で授業を行い、航空業界で使われる英語になじむ。				
授 業 計 画	1回 オリエンテーションと成績評価基準の説明 2回 世界のアライアンスグループ比較 3回 航空機の開発 4回 世界のハブ空港とその課題 5回 ローストキャリア(格安航空会社 LCC) 6回 CRSとGDSの課題 7回 シカゴ条約と商業航空権の基本「五つの自由」 8回 コールセンターの現状(一部英語) 9回 イールドマネジメント 10回 航空会社の分社化と統合 11回 航空貨物と貨物ターミナル 12回 航空会社のサービスと機内食(一部英語) 13回 航空政策 14回 航空会社のサービスの変遷と顧客満足 15回 航空機整備と環境問題 16回 期末試験				
評 価 方 法	授業参加態度 40% 授業復習リポート10% 空港見学10% 期末試験40%				
テ キ ス ト	「航空産業入門」 ANA総研 東洋経済				
参 考 文 献	授業時に推薦				
備 考	【資格対象科目：上級ビジネス実務士、観光ビジネス実務士】				

授 業 科 目	ホテルマネジメントA		担 当 教 員	石原 直	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	火曜2時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 ビジネスマネジメント[2014年度以降入学生]、専門基礎科目群 コース科目 (経営経済) [2013年度以前入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力, ローカル・グローバルセンス, 情報スキル				
履 修 条 件	ホテルなど広く宿泊産業に興味がるもの				
授 業 概 要	ホテルの歴史を学びその必然性を理解する他産業も我々の日常生活とのかかわりを理解する				
授業の到達目標	ホテル産業の歴史とその特徴を理解しこれからの課題への解決を求める				
授 業 計 画	1回 オリエンテーション 2回 宿泊の歴史 世界 3回 宿泊の歴史 日本 4回 宿泊の産業化 5回 特徴 形態 分類 6回 社会における役割 7回 宿泊と観光 8回 ホテルと旅館の相違 9回 事業を始める 10回 立地分析 11回 演習 12回 事業計画 13回 課題 14回 まとめ 15回 質疑応答				
評 価 方 法	レポート提出テスト出席				
テ キ ス ト	適宜配布				
参 考 文 献	適宜指示する				
備 考					

授 業 科 目	ホテルマネジメントB		担 当 教 員	石原 直	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	火曜2時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 ビジネスマネジメント[2014年度以降入学生]、専門基礎科目群 コース科目 (経営経済) [2013年度以前入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力, ローカル・グローバルセンス, 情報スキル, マネジメントセンス				
履 修 条 件	ホテルマネジメント Aの履修者				
授 業 概 要	種々のマネジメントシステムを理解し課題の解決を求める				
授業の到達目標	ホテルのマネジメント手法を理解する				
授 業 計 画	1回 オリエンテーション 2回 経営とは何か 3回 経営形態 4回 経営資源 5回 マネジメントシステム マーケティング 6回 マネジメントシステム ファシリティマネジメント 7回 マネジメントシステム CRM 8回 マネジメントシステム FBC 9回 マネジメントシステム ICT 10回 マネジメントシステム 組織・人 11回 マネジメントシステム リスクマネジメント 12回 マネジメントシステム サービス 13回 課題 14回 まとめ 15回 質疑応答				
評 価 方 法	レポートテスト出席				
テ キ ス ト	適宜配布				
参 考 文 献	適宜指示				
備 考					

授 業 科 目	スポーツ産業A	担 当 教 員	石川 慎之助
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・実習
学 期	前期	曜 日 時 限	水曜2時限
単 位 数	2単位	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 コース科目（経営経済）[2013年度以前入学生]		
対 象 資 格	上級ビジネス実務士		
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神, ローカル・グローバルセンス, 言語運用力, 情報スキル, マネジメントセンス		
履 修 条 件	・授業ルールを遵守できること・第一回目の講義において、授業の内容および評価方法について説明します		
授 業 概 要	Tフィールド（筑波学院大内のサッカーフィールド）を中心としたスポーツクラブについて、実際に事業計画を立て、プログラムの実施および振り返りを行い、スポーツマネジメントの実際を学ぶ。実践を通じて得られた知見を基に、スポーツの歴史、文化について学術面からも考えていく。		
授業の到達目標	スポーツクラブにおいて実現可能な事業計画を立て、プログラムの実施および振り返りを行い、スポーツマネジメントの実際を学ぶ。実践を基にして、スポーツの歴史、文化について知見を深める。		
授 業 計 画	1回 スポーツクラブとは 2回 プロスポーツクラブ 3回 スポーツクラブにおける事業計画① 4回 スポーツクラブにおける事業計画② 5回 スポーツクラブにおけるメディア戦略 6回 スポーツクラブにおける管理計画 7回 スポーツプログラムを実践してみよう① 8回 スポーツプログラムを実践してみよう② 9回 スポーツプログラムを実践してみよう③ 10回 スポーツプログラムの実践・振り返り 11回 スポーツ参加者 12回 スポーツファン 13回 スポーツスポンサーシップ 14回 スポーツイベント 15回 まとめ		
評 価 方 法	出席、課題の状況を総合的に判断する		
テ キ ス ト	授業中に資料を配布します		
参 考 文 献	授業中に紹介します		
備 考			

授 業 科 目	スポーツ産業B		担 当 教 員	石川 慎之助	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・実習	単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	水曜2時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 コース科目（経営経済）[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格	上級ビジネス実務士				
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神, ローカル・グローバルセンス, 言語運用力, 情報スキル, マネジメントセンス				
履 修 条 件	・授業ルールを遵守できること・第一回目の講義において、授業の内容および評価方法について説明します				
授 業 概 要	Tフィールド（筑波学院大内のサッカーフィールド）を中心としたスポーツクラブについて、実際に事業計画を立て、プログラムの実施および振り返りを行い、スポーツマネジメントの実際を学ぶ。実践を通じて得られた知見を基に、スポーツの歴史、文化について学術面からも考えていく。				
授業の到達目標	スポーツクラブにおいて実現可能な事業計画を立て、プログラムの実施および振り返りを行い、スポーツマネジメントの実際を学ぶ。実践を基にして、スポーツの歴史、文化について知見を深める。				
授 業 計 画	1回 スポーツクラブとは 2回 総合型地域スポーツクラブ 3回 スポーツクラブにおける事業計画① 4回 スポーツクラブにおける事業計画② 5回 スポーツクラブにおけるメディア戦略 6回 スポーツクラブにおける管理計画 7回 スポーツプログラムを実践してみよう① 8回 スポーツプログラムを実践してみよう② 9回 スポーツプログラムを実践してみよう③ 10回 スポーツプログラムの実践・振り返り 11回 スポーツとマスメディア 12回 海外における地域スポーツ① 13回 海外における地域スポーツ② 14回 健康とスポーツ 15回 まとめ				
評 価 方 法	出席、課題の状況を総合的に判断する				
テ キ ス ト	授業中に資料を配布します				
参 考 文 献	授業中に紹介します				
備 考					

授 業 科 目	経営戦略1		担 当 教 員	岩田 隆一	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	水曜4時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 共通科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	マネジメントセンス				
履 修 条 件	経営戦略に関心がある学生				
授 業 概 要	①戦後の日本経済を理解する。②企業の置かれた状況に適した経営戦略（特に他社との差別化戦略）の基礎理論を学習する。③企業の経営戦略の事例研究を中心に学習を進め、理解を深める。				
授業の到達目標	①基礎的な経営戦略の考え方と知識を習得する。②市場経済の中で企業はどのような経営戦略をとっているのかを理解する。③競争に強い企業はなぜ強いのかを理解する。				
授 業 計 画	1回 授業案内と成績評価方法の説明 2回 戦後の日本経済の歴史（1940～1960年代）戦後の廃墟からの復興第二次世界大戦で国土は荒廃し、街も工場も焼け野原となった日本はどのように経済を回復させようとしたのか。そして戦後の高度経済成長はどのように成し遂げられたのか。 3回 経済格差を考える（前編） 経済学者ロバート・ライシュ教授の授業（カリフォルニア大学バークレー・キャンパス） 4回 経済格差を考える（後編） 経済学者ロバート・ライシュ教授の授業（カリフォルニア大学バークレー・キャンパス） 5回 欧州経済の事例研究（デンマーク&（スウェーデン））高福祉社会のデンマークとスウェーデン経済の事例研究 6回 欧州経済の事例研究（ドイツ）世界有数の強い経済を誇るドイツ企業の事例研究 7回 欧州経済の事例研究（イギリス）新しいビジネススタイルのスーパーマーケット 8回 アメリカ経済の事例研究（カリフォルニア、シリコンバレー）世界の才能を集めて進化するアメリカ企業の事例研究 9回 アジア経済の事例研究（中国）これからの世界経済の行方を左右する中国の事情研究 10回 アジア経済の事例研究（ASEAN諸国）日本に好意的な国が多いASEAN諸国の経済の事例研究 11回 21世紀の世界経済を考える「仕事なくなる-新しい仕事と働き方」 12回 日本の新しい消費者「私は買わない」 13回 21世紀に成長する企業研究（再生ビジネス研究）新品だけでなく、中古品を再生して販売するビジネスの事例研究 14回 21世紀に成長する企業研究（再生ビジネス研究）新品だけでなく、中古品を再生して販売するビジネスの事例研究 15回 授業のまとめ				
評 価 方 法	筆記試験の点数で評価する。				
テ キ ス ト	なし（毎回資料を配布します）				
参 考 文 献	なし				
備 考	授業内容は変更することがあります。				

授 業 科 目	経営戦略2		担 当 教 員	岩田 隆一	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	水曜4時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 ビジネスマネジメント[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	マネジメントセンス				
履 修 条 件	経営戦略に関心がある学生				
授 業 概 要	前期で学習した世界と日本のマクロ経済状況から、企業の置かれた状況に適した経営戦略（特に他社との差別化戦略）の基礎理論を具体的な企業の事例研究を通して学習する。				
授業の到達目標	基礎的な経営戦略の考え方と知識を習得する。				
授 業 計 画	1回 授業案内と成績評価方法の説明 2回 21世紀に成長する企業の事例研究-いらなものはない中古部品販売会社の経営戦略 3回 良いものを長く使うビジネスの事例研究-新品と中古品を並べて売る会社の経営戦略 4回 地方の知られていない名産品を売り出すビジネスの事例研究-二木の菓子の知られざる経営戦略 5回 ニッチ市場ビジネスの事例研究-北海道で最強のコンビニ・SEICOマートの経営戦略 6回 ニッチ市場ビジネスの事例研究-函館ではマクドナルドも勝てないラッキーピエロの研究 7回 サービス産業に変身した銀行の事例研究-縮小する地方経済の中で生きる大垣共立銀行の経営戦略 8回 合理化を徹底したら料理がおいしくなったレストランの事例研究-サイゼリアの経営戦略 9回 徹底した顧客目線での店舗経営の事例研究-西松屋の事例研究 10回 社会環境の変化に合わせて進化する企業の事例研究-店舗が市場の変化に合わせて変化する事例研究 11回 社会環境の変化に合わせて進化する企業の事例研究-三越とJPのコラボレーションの事例研究 12回 社会環境の変化に合わせて進化する企業の事例研究-ヤマダ電器の経営戦略 13回 社会環境の変化に合わせて進化する企業の事例研究-昭和の喫茶店の復古版コメダの事例研究 14回 社会環境の変化に合わせて進化する企業の事例研究-不便を便利に変えるビジネス研究 15回 授業「経営戦略」のまとめ				
評 価 方 法	筆記試験の点数で評価する。				
テ キ ス ト	なし（毎回必要に応じて資料を配布します）				
参 考 文 献	なし				
備 考	授業計画は変更になることがあります。				

授 業 科 目	アメリカ社会と政治経済		担 当 教 員	木村 卓司	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	火曜3時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 共通科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格	上級情報処理士, 上級ビジネス実務士				
キ ー ワ ー ド	ローカル・グローバルセンス				
履 修 条 件	なし。				
授 業 概 要	アメリカ合衆国は自由と平等を国是とし、明確な建国理念に基づいて創られた国家である。歴史に深く根ざした非類のないさまざまな特質をもち、それがこの国の政治、経済、社会の諸制度を形作るという、世界に例を見ない極めてユニークな国であるといえる。この授業ではアメリカの本質と深くかかわるいくつかの概念を検討して、その国家としての特質を明らかにするとともに、大統領制ならびに連邦準備制度を具体的な事例に取り上げながら、アメリカ政治と経済の現状について考察を行う。なお授業の中で頻繁に小テスト(アメリカに関する一般常識)を行う予定。履修者は毎回、前回の授業内容を十分理解するとともに、シラバスを参考の上、次回の授業内容について内容を十分把握したうえで授業に臨むこと。				
授業の到達目標	現代のアメリカ政治・社会・経済を動かすメカニズム、およびダイナミズムとその歴史的背景を理解することを通じて、学生のグローバルセンスを養う。キーワード:グローバル・センス				
授 業 計 画	1回 ガイダンス 2回 イントロダクション (1) : 国旗に見るアメリカ 3回 イントロダクション (2) : 国歌に見るアメリカ 4回 アメリカとはどんな国か (1) : 連邦国家 5回 アメリカとはどんな国か (2) : 伝統ある民主主義国家 6回 アメリカとはどんな国か (3) : 宗教国家 7回 アメリカとはどんな国か (4) : 宗教国家 8回 アメリカの大統領制 (1) : 大統領の権限 9回 アメリカの大統領制 (2) : 大統領選挙の仕組みと歴史 10回 アメリカ経済とマネー (1) : 中央銀行と連邦準備制度(1) 中央銀行と連邦準備制度(2) キャッシュレス社会と通貨をめぐる不思議 11回 アメリカ経済とマネー (2) : キャッシュレス社会と通貨をめぐる不思議 12回 JFKとアメリカ政治 (1) : JFK登場の背景と意義 13回 JFKとアメリカ政治 (2) : ケネディ政権と国内外の課題 14回 JFKとアメリカ政治 (3) : 暗殺をめぐる諸説 15回 まとめ				
評 価 方 法	(1) 平常点、(2) 前期試験またはレポートを総合して行う。				
テ キ ス ト	使用しない。				
参 考 文 献	授業の中で適宜紹介する。				
備 考	【資格対象科目：上級情報処理士、上級ビジネス実務士】				

授 業 科 目	経済安全保障		担 当 教 員	木村 卓司	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	火曜 3時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 共通科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力				
履 修 条 件	なし。				
授 業 概 要	<p>安全保障は従来の軍事的分野に加えて、1980年代頃から非軍事的分野を加えて考えるのが一般的になった。その中でも近年、特に注目されているのが経済安全保障である。中での戦略物資や食料の輸出入、経済制裁、経済援助などの重要性は、従来の軍事的手段に匹敵するほどになっている。この授業では、こうした諸点を踏まえながら、経済安全保障の基本概念と背景、思想系譜、発展経緯などを概観する。履修者は毎回、前回の授業内容を十分理解するとともに、シラバスを参考の上、次回の授業内容について内容を十分把握したうえで授業に臨むこと。</p>				
授業の到達目標	<p>安全保障と経済、およびその関連性への理解を深め、国や世界の安全を守る強い意識を植え付ける。また日本の安全保障が直面する様々な問題を発見し、解決に導く能力も合わせて養ってゆく。キーワード：問題発見力、問題解決力</p>				
授 業 計 画	<p>1回 イントロダクション 2回 安全保障とは何か (1) : 安全保障の定義 3回 安全保障とは何か (2) : 安全保障の3要素 4回 安全保障とは何か (3) : 特異な日本の安全保障観 5回 経済安全保障の背景 (1) : 相互依存関係の深化 6回 経済安全保障の背景 (2) : 石油危機、資源外交と第三世界の台頭 7回 経済安全保障の手段 (1) : 資源・戦略物資調達分散 8回 経済安全保障の手段 (2) : 食料自給率の向上 9回 経済安全保障の手段 (3) : 経済支援の充実 10回 経済安全保障の手段 (4) : 経済制裁 11回 戦争と経済 (1) : 人類史としての戦争 12回 戦争と経済 (2) : さまざまな戦争原因論 13回 戦争と経済 (3) : その効用と利益1 14回 戦争と経済 (4) : その効用と利益2 15回 まとめ</p>				
評 価 方 法	(1) 平常点、(2) 前期試験またはレポートを総合して評価する。				
テ キ ス ト	使用しない。				
参 考 文 献	授業の中で適宜紹介する。				
備 考	【資格対象科目：上級ビジネス実務士】				

授 業 科 目	簿記会計C		担 当 教 員	樋口 浩義	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	木曜1時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 ビジネスマネジメント[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	情報スキル, マネジメントセンス				
履 修 条 件	簿記会計Aを履修済みか、簿記検定3級程度の知識があることを前提とする。				
授 業 概 要	簿記会計Aで学習した内容を前提として、株式会社会計について学ぶ。				
授業の到達目標	この授業では、中級商業簿記（日商簿記検定2級）を合格することを目標とする。				
授 業 計 画	1回 現金預金（その1） 2回 現金預金（その2）銀行勘定調整表 3回 有価証券 4回 売掛金・買掛金 5回 受取手形・支払手形 6回 その他の債権債務 7回 通常の商品売買 8回 特殊商品売買 9回 固定資産 10回 繰延資産 11回 引当金 12回 社債 13回 純資産 14回 精算表（日商2級レベル） 15回 本支店会計				
評 価 方 法	平常点（課題提出・小テスト）と定期試験で評価する。				
テ キ ス ト	授業中、プリントを配布する。				
参 考 文 献	加古・渡部著 「簿記講義2級商業簿記」（中央経済社）等（授業中に指示する）				
備 考	毎回、計算問題をおこなうので、電卓を必ず持参のこと。				

授 業 科 目	簿記会計D		担 当 教 員	樋口 浩義	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習		単 位 数
学 期	後期	曜 日 時 限	木曜2時限		2単位 科目等履修 受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 ビジネスマネジメント[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	情報スキル, マネジメントセンス				
履 修 条 件	「簿記会計A」を履修していることが望ましい。				
授 業 概 要	工場を持つ企業等によって使われる工業簿記（原価計算）の習得を目指す。				
授業の到達目標	この授業では、日商簿記検定2級工業簿記合格レベルの知識の習得を目指す。				
授 業 計 画	1回 工業簿記の本質 2回 原価計算 3回 工業簿記の構造 4回 材料費の計算 5回 労務費計算 6回 経費計算 7回 製造間接費計算 8回 部門費計算 9回 個別原価計算 10回 総合原価計算その1 11回 総合原価計算その2 12回 総合原価計算その3 13回 標準原価計算 14回 直接原価計算 15回 工場会計の独立				
評 価 方 法	平常点（課題提出・小テスト）と定期試験による。				
テ キ ス ト	授業中に、プリントを配布する。				
参 考 文 献	岡本・廣本著「簿記講義2級工業簿記」（中央経済社）				
備 考	毎回、計算問題を行うので、電卓を必ず持参のこと				

授 業 科 目	スポーツマネジメントA	担 当 教 員	石川 慎之助
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・実習
学 期	前期	曜 日 時 限	水曜2時限
単 位 数	2単位	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 ビジネスマネジメント[2014年度以降入学生]、専門基礎科目群 コース科目(経営経済)[2013年度以前入学生]		
対 象 資 格	上級ビジネス実務士		
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神, ローカル・グローバルセンス, 言語運用力, 情報スキル, マネジメントセンス		
履 修 条 件	・授業ルールを遵守できること・第一回目の講義において、授業の内容および評価方法について説明します		
授 業 概 要	Tフィールド(筑波学院大内のサッカーフィールド)を中心としたスポーツクラブについて、実際に事業計画を立て、プログラムの実施および振り返りを行い、スポーツマネジメントの実際を学ぶ。実践を通じて得られた知見を基に、スポーツの歴史、文化について学術面からも考えていく。		
授業の到達目標	スポーツクラブにおいて実現可能な事業計画を立て、プログラムの実施および振り返りを行い、スポーツマネジメントの実際を学ぶ。実践を基にして、スポーツの歴史、文化について知見を深める。		
授 業 計 画	1回 スポーツクラブとは 2回 プロスポーツクラブ 3回 スポーツクラブにおける事業計画① 4回 スポーツクラブにおける事業計画② 5回 スポーツクラブにおけるメディア戦略 6回 スポーツクラブにおける管理計画 7回 スポーツプログラムを実践してみよう① 8回 スポーツプログラムを実践してみよう② 9回 スポーツプログラムを実践してみよう③ 10回 スポーツプログラムの実践・振り返り 11回 スポーツ参加者 12回 スポーツファン 13回 スポーツスポンサーシップ 14回 スポーツイベント 15回 まとめ		
評 価 方 法	出席、課題の状況を総合的に判断する		
テ キ ス ト	授業中に資料を配布します		
参 考 文 献	授業中に紹介します		
備 考			

授 業 科 目	スポーツマネジメントB	担 当 教 員	石川 慎之助
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・実習
学 期	後期	曜 日 時 限	水曜2時限
単 位 数	2単位	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 ビジネスマネジメント[2014年度以降入学生]、専門基礎科目群 コース科目(経営経済)[2013年度以前入学生]		
対 象 資 格	上級ビジネス実務士		
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神, ローカル・グローバルセンス, 言語運用力, 情報スキル, マネジメントセンス		
履 修 条 件	・授業ルールを遵守できること・第一回目の講義において、授業の内容および評価方法について説明します		
授 業 概 要	Tフィールド(筑波学院大内のサッカーフィールド)を中心としたスポーツクラブについて、実際に事業計画を立て、プログラムの実施および振り返りを行い、スポーツマネジメントの実際を学ぶ。実践を通じて得られた知見を基に、スポーツの歴史、文化について学術面からも考えていく。		
授業の到達目標	スポーツクラブにおいて実現可能な事業計画を立て、プログラムの実施および振り返りを行い、スポーツマネジメントの実際を学ぶ。実践を基にして、スポーツの歴史、文化について知見を深める。		
授 業 計 画	1回 スポーツクラブとは 2回 総合型地域スポーツクラブ 3回 スポーツクラブにおける事業計画① 4回 スポーツクラブにおける事業計画② 5回 スポーツクラブにおけるメディア戦略 6回 スポーツクラブにおける管理計画 7回 スポーツプログラムを実践してみよう① 8回 スポーツプログラムを実践してみよう② 9回 スポーツプログラムを実践してみよう③ 10回 スポーツプログラムの実践・振り返り 11回 スポーツとマスメディア 12回 海外における地域スポーツ① 13回 海外における地域スポーツ② 14回 健康とスポーツ 15回 まとめ		
評 価 方 法	出席、課題の状況を総合的に判断する		
テ キ ス ト	授業中に資料を配布します		
参 考 文 献	授業中に紹介します		
備 考			

授 業 科 目	国際コミュニケーションの基礎1		担 当 教 員	池口 セシリア	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	木曜2時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 ビジネスコミュニケーション[2015年度以降入学生]、専門基礎科目群 ビジネスマネジメント[2014年度以降入学生]、専門基礎科目群 共通科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格	上級情報処理士, 上級ビジネス実務士, 観光ビジネス実務士				
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, ローカル・グローバルセンス				
履 修 条 件	単位修得のため学生の積極的な授業参加が必要。				
授 業 概 要	まずコミュニケーションの基本ノウハウを学び、日本文化と異文化特徴を理解し、企業に多大な影響を与える文化背景を再認識するために実践的なエクササイズを行う。				
授業の到達目標	現在社会に必要とするコミュニケーション能力人材養成の基本を学ぶ。				
授 業 計 画	1回 インTRODクシヨン授業内容・単位取得法などの全体説明 2回 コミュニケーションはどのようにおこなわれるの？コミュニケーションプロセスとその落とし穴 3回 主なコミュニケーションモデルコミュニケーション方法の再確認 4回 文化とはなにか？文化の基礎： 氷山と文化見える文化と見えない文化 5回 愛国心 対 自文化中心主義日本の自文化中心主義アメリカの自文化中心主義自文化中心主義のさまざまな形 6回 異文化コミュニケーションを妨げる要因 (1) 固定概念 (ステレオタイプ) セルフチェック + ステップアップエクササイズ 7回 異文化コミュニケーションを妨げる要因 (2) 閉心 (偏見) セルフチェック + ステップアップエクササイズ 8回 異文化コミュニケーションを妨げる要因 (3) 行動 (差別) セルフチェック + ステップアップエクササイズ 9回 文化とコミュニケーションスタイル (1) コンテキストと文化 ハイコンテキストとは？ 豚カツ物語・天ぷら会話 10回 文化とコミュニケーションスタイル (2) コンテキストと文化 低コンテキストとは？ ping pong 会話 11回 文化による女性らしさ・男性らしさ 12回 異文化適応チェック 13回 文化背景とほめ方・おこり方 14回 文化背景と誘い方・断り方 15回 授業のまとめと評価				
評 価 方 法	授業への参加度、小テストのまとめ、そしてレポートの総合評価を行う。				
テ キ ス ト	初授業に発表する				
参 考 文 献	必要に応じてお知らせする				
備 考	【資格対象科目：上級情報処理士、上級ビジネス実務士】				

授 業 科 目	現代社会と地域文化		担 当 教 員	古家 晴美	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	火曜2時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 ビジネスマネジメント[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神, ローカル・グローバルセンス, 言語運用力, 情報スキル				
履 修 条 件	食べものに関心があること。				
授 業 概 要	食べてもいないトウモロコシの成分が毛髪から検出されたのはどうしてか、鶏肉より安いビーフハンバーガーが食べられるのはどうしてか。映像を通して、現代社会における「食」の最前線を紹介する。DVDをトピックごとに一時停止させ、要点を板書して解説するので、映像が意味するものを深く理解することができる。予習15分：課題の遂行、復習10分：テキストの読み直し				
授業の到達目標	農産物自由化に大きく舵が切られようとしている今日、日本人の食生活・農業は分岐点に立たされている。氾濫する食情報の中から必要な情報をピックアップできる「情報スキル」、また地域を知り世界を知る「ローカル・グローバルセンス」、その中で何が問題かを見極めることができる「問題発見力」とそのために何をすべきかを考える「問題解決力」を身につける。				
授 業 計 画	1回 オリエンテーション 2回 I アメリカにおけるトウモロコシ栽培：レポート報告 3回 『キング・コーン』＜どうして髪の毛にトウモロコシが・・・＞ (1) 4回 // (2) 5回 // (3) 6回 II 日本人のマグロ食：レポート報告 7回 『食べるためのマグロ・売るためのマグロ』＜マグロを食べる時に、あなたは何を食べるのか＞ (1) 8回 // (2) 9回 // (3) 10回 III アメリカにおけるコメ栽培：レポート報告 11回 // (2) 12回 // (3) 13回 IV 『いのちの食べ方』 <食べものとは何か> (1) 14回 // (2) 15回 まとめ				
評 価 方 法	トピックごとのレポート発表・毎回の提出物が成績評価で大きな割合を占める。(詳細は授業内で説明。)				
テ キ ス ト	DVD多数。				
参 考 文 献	授業内で紹介。				
備 考					

授 業 科 目	現代社会と地域文化1		担 当 教 員	古家 晴美	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	火曜2時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 ビジネスマネジメント[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神, ローカル・グローバルセンス, 言語運用力, 情報スキル				
履 修 条 件	食べものに関心があること。				
授 業 概 要	食べてもいないトウモロコシの成分が毛髪から検出されたのはどうしてか、鶏肉より安いビーフハンバーガーが食べられるのはどうしてか。映像を通して、現代社会における「食」の最前線を紹介する。DVDをトピックごとに一時停止させ、要点を板書して解説するので、映像が意味するものを深く理解することができる。予習15分：課題の遂行、復習10分：テキストの読み直し				
授業の到達目標	農産物自由化に大きく舵が切られようとしている今日、日本人の食生活・農業は分岐点に立たされている。氾濫する食情報の中から必要な情報をピックアップできる「情報スキル」、また地域を知り世界を知る「ローカル・グローバルセンス」、その中で何が問題かを見極めることができる「問題発見力」とそのために何をすべきかを考える「問題解決力」を身につける。				
授 業 計 画	1回 オリエンテーション 2回 I アメリカにおけるトウモロコシ栽培：レポート報告 3回 『キング・コーン』＜どうして髪の毛にトウモロコシが・・・＞ (1) 4回 // (2) 5回 // (3) 6回 II 日本人のマグロ食：レポート報告 7回 『食べるためのマグロ・売るためのマグロ』＜マグロを食べる時に、あなたは何を食べるのか＞ (1) 8回 // (2) 9回 // (3) 10回 III アメリカにおけるコメ栽培：レポート報告 11回 // (2) 12回 // (3) 13回 IV 『いのちの食べ方』 <食べものとは何か> (1) 14回 // (2) 15回 まとめ				
評 価 方 法	トピックごとのレポート発表・毎回の提出物が成績評価で大きな割合を占める。(詳細は授業内で説明。)				
テ キ ス ト	DVD多数。				
参 考 文 献	授業内で紹介。				
備 考					

授 業 科 目	国際社会と文化A		担 当 教 員	小松 進	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	水曜 4時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 ビジネスコミュニケーション[2015年度以降入学生]				
対 象 資 格	上級情報処理士, 上級ビジネス実務士				
キ ー ワ ー ド	ローカル・グローバルセンス				
履 修 条 件	国際社会のあり方に興味があり、異文化を理解しようとする強い意欲を持っていること。				
授 業 概 要	世界各地で個別に花開いたさまざまな文明を結びつけ、それらを一つの国際社会へとまとめ上げるきっかけをつくったのは、ヨーロッパ諸国の海外進出であった。授業では、国際社会の形成に大きな役割を果たしたこのヨーロッパの歴史を取り上げる。ヨーロッパ世界は、いつ、どこで、いかにして形成されたのか。それはそもそもいかなる特質をもつ世界で、近代に向けてどのように変貌して行ったのか。授業では、こうした問題を検討する。				
授業の到達目標	さまざまな分野でグローバル化が進み、異なる文化的背景を持つ人々の交流が活発になった現代社会では、国家の枠を超えて広く世界を展望する視野を持つことが必要となっている。多様な価値観や文化がひしめくこうした現代社会を生き抜くために、多文化社会としての国際社会に目を向け、その多様性を理解しようとする姿勢を身につけ、真の国際人としての資質を磨いていくことが、この授業の目標である。				
授 業 計 画	1回 ヨーロッパ世界の成立過程に関する考え方 2回 古代ゲルマン人の社会 3回 ゲルマン民族の大移動 4回 東ゲルマン諸族の部族国家 5回 フランク王国の歴史：メロヴィング時代 6回 フランク王国の歴史：カロリング時代 7回 フランク王国の構造 8回 ヨーロッパ世界の形成とフランク王国の解体 9回 ヨーロッパの封建制度について 10回 ヨーロッパの荘園制について 11回 ヨーロッパの村落について 12回 ヨーロッパ中世都市の形成 13回 ヨーロッパ中世都市の構造と特質 14回 ヨーロッパの中世国家：封建制国家について 15回 ヨーロッパの中世国家：身分制国家について				
評 価 方 法	学期末に実施する1回の試験で評価する。				
テ キ ス ト	特に指定しない。				
参 考 文 献	興味を覚えた学生がいれば、その都度参考文献を紹介する。				
備 考					

授 業 科 目	国際社会と文化B		担 当 教 員	小松 進	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	水曜 4時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 ビジネスコミュニケーション[2015年度以降入学生]				
対 象 資 格	上級ビジネス実務士				
キ ー ワ ー ド	ローカル・グローバルセンス				
履 修 条 件	国際社会と文化Aを履修していることが望ましい。				
授 業 概 要	今日フランスは文化と芸術の発信地として世界に輝きを放っているが、この国を舞台として起ったフランス革命は近代市民社会の形成に決定的な影響を及ぼし、革命が生み出した理念は人類全体の普遍的理念として国際社会に共有されている。授業では、このフランス革命に至る歴史を辿りながら、フランスが国民国家として形成され、やがて近代市民社会を生み出していく過程を検討していく。				
授業の到達目標	現代国際社会の形成に大きく関わったヨーロッパ諸国の中でも、その中心としての歴史を長らく歩み続け、今日なおヨーロッパ連合（EU）の中心国として国際社会に大きな影響力を及ぼしているのがフランスである。このフランスの歴史を辿りながら、ヨーロッパ世界への理解を深めていくことをこの授業の目標としたい。				
授 業 計 画	1回 授業へのガイダンス 2回 フランス人とフランス国家の起源 3回 中世フランス社会の構造 4回 中世フランス国家の発展過程 5回 近世フランス国家の形成 6回 アンシャン・レジーム期の経済 7回 アンシャン・レジーム期の社会と国家 8回 ブルボン絶対王政の展開 9回 ブルボン絶対王政の崩壊 10回 フランス革命の起源 11回 フランス革命の展開（1） 12回 フランス革命の展開（2） 13回 フランス革命の展開（3） 14回 フランス革命の展開（4） 15回 フランス革命の解釈				
評 価 方 法	学期末に実施する試験で評価する。				
テ キ ス ト	特に指定しない。				
参 考 文 献	興味を覚えた学生がいれば、その都度、参考文献を紹介する。				
備 考					

授 業 科 目	交通産業	担 当 教 員	大島 慎子
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義
学 期	前期	曜 日 時 限	月曜 4 時限
単 位 数	2 単位	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 ビジネスコミュニケーション[2015年度以降入学生]		
対 象 資 格	上級ビジネス実務士, 観光ビジネス実務士		
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 問題発見力/問題解決力, ローカル・グローバルセンス		
履 修 条 件	観光産業の移動手段である交通産業、すなわち、航空、鉄道、バス等の輸送関連に興味があること		
授 業 概 要	規制緩和がすすむ現代の交通産業を理解する基礎として、航空史、鉄道史、自動車産業発達史を学び、規制緩和と自由競争時代の交通の役割を学ぶ。観光に寄与する移動手段としての運輸業を視点とし、経営戦略上、観光振興とどのようななかかわりがあるかを実例で学ぶ。		
授業の到達目標	航空産業、鉄道業、バス・タクシー等の運輸全般の概要を学ぶ。、到達目標は知識だけでなく、運輸業界をとりまく環境を理解し、「問題発見能力」「発表能力」を磨く。課題に関しては、1 時間程度の予習、復習を期待する。		
授 業 計 画	1回 オリエンテーションと成績評価基準の説明 2回 航空産業の歴史 3回 航空規制緩和以降、LCCの現状 4回 国際旅客と国際貨物 5回 鉄道の歴史と現状 6回 日本の鉄道業の特徴。 不動産業から野球球団までの多角経営 7回 観光鉄道 8回 新幹線とリニアの時代 9回 バス事業 10回 タクシーとハイヤー業界 11回 運輸行政 12回 海外の運輸行政 13回 観光振興と運輸業の関係 14回 クルーズ 15回 交通産業のまとめ 16回 期末試験		
評 価 方 法	授業参加態度 4 0 % 毎回授業内で行う復習レポートの提出 2 0 % 試験 4 0 %		
テ キ ス ト	授業で資料を提供		
参 考 文 献	授業内で紹介		
備 考	資格対象科目：：上級ビジネス実務士、観光ビジネス実務士】		

授 業 科 目	航空ビジネス		担 当 教 員	大島 慎子	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	月曜4時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 ビジネスコミュニケーション[2015年度以降入学生]				
対 象 資 格	上級ビジネス実務士, 観光ビジネス実務士				
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 問題発見力/問題解決力, ローカル・グローバルセンス, マネジメントセンス				
履 修 条 件	航空ビジネスA または交通産業を履修していることが望ましい配布資料やテキストを1時間ほど予習、復習すること。				
授 業 概 要	世界の航空会社の営業戦略、特に航空会社が70年代に開発したコンピューター予約システムCRSによるイールドマネジメントとグローバルディストリビューションシステム（流通形態）およびアライアンス（包括提携）、マイルージとブランド戦略、航空貨物など航空会社の営業とマーケティングの詳細を学ぶ。特に路線網の拡大や顧客満足のための様々な取り組みを学ぶとともに、グローバル時代の格安航空会社（LCC）と大手航空会社のポジショニングを学ぶ。また、各国の航空政策や空港政策を示し、日本の空港に関しては実地見学を行う。				
授業の到達目標	航空業界の流通と、格安航空会社の台頭、日本の航空業界に関する知識を得る 知識の集積だけでなく、空港見学のフィールドワークで問題発見力、問題解決能力を養う。一部英語で授業を行い、航空業界で使われる英語を理解				
授 業 計 画	1回 オリエンテーションと成績評価基準の説明 2回 航空の歴史と航空機の開発 3回 世界のアライアンスグループ比較 4回 世界のハブ空港とその課題 5回 ローコストキャリア（格安航空会社 LCC） 6回 CRSとGDSの課題（コンピューターシステム） 7回 シカゴ条約と商業航空権の基本「五つの自由」 8回 コールセンターの現状（一部英語） 9回 イールドマネジメント 10回 航空会社の分社化と統合 11回 航空貨物と貨物ターミナル 12回 航空会社のサービスと機内食（一部英語） 13回 航空政策 14回 航空会社のサービスの変遷と顧客満足 15回 航空機整備と環境問題 16回 期末試験				
評 価 方 法	授業参加態度 40% 授業復習リポート10% 空港見学10% 期末試験40%				
テ キ ス ト	「航空産業入門」 ANA総研 東洋経済				
参 考 文 献	授業時に推薦				
備 考	【資格対象科目：上級ビジネス実務士、観光ビジネス実務士】				

授 業 科 目	P R 広報戦略		担 当 教 員	清水 正道	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	水曜2時限		科目等履修 受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 ビジネスコミュニケーション[2015年度以降入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 言語運用力, 情報スキル, マネジメントセンス				
履 修 条 件	新聞やTV、スマホが好きで、企業・行政・団体等の広報・コミュニケーションの仕事(イベント・PR・お知らせ・メディア制作など)に関心があり、組織におけるPR・広報の役割や仕事のノウハウを理解したいと思う学生。通学時間や自宅でメディアを視聴したり、テキストも読んで予習・復習もしておこうという学生を期待します。また「PRプランナー資格」取得を目指す学生の応援も行います。				
授 業 概 要	1. 日頃から、新聞やTV、スマホなどでニュースや身近な出来事をチェックしておきます。2. 授業計画に従って、テキストの該当ページに書かれていることを読んで確認しておきます。3. 授業の前にまでに、分からない表現や専門用語をノートに書き出しておき、教員の説明をもとにノートに 加筆します。また教員が「重要だ」「よく読んでおくこと」などと説明した個所はマーカーで色を付けるかアンダーラインを引いておくこと。4. 授業の後、帰宅時や自宅などで重要個所を再度読むなどにより復習します。				
授業の到達目標	広報・コミュニケーションについての基礎知識をもとに、企業・自治体・大学・病院・社会団体などのさまざまな広報活動を理解すること。また授業やディスカッションを通じて、言葉の使い方や情報の適切な受け止め方、問題発見能力/解決能力を身につけます。				
授 業 計 画	1回 オリエンテーション 教員の経歴 企業と社会/組織とコミュニケーション 授業の特徴と取り扱うメディア(動画、新聞・雑誌、TV、スマホなどSNS) 2回 第1章 パブリックリレーションズ(PR・広報)の基本 パブリックリレーションズの定義 広報/宣伝広告の違い 広報の実際(動画) 日本で使われる「広報」という言葉 組織広報と自己PR 3回 第2章 企業経営と広報・PR活動 企業啓江と広報・PR 企業とステークホルダー ステークホルダーごとの広報・PR活動 企業広報部門の組織 4回 第10章 広報・PRとインターネットの活用 メディアとしてのインターネット 企業のニュースリリースを見る 広報・PRにおけるソーシャル・メディア活用 今後のインターネット/動画の活用可能性 5回 第6章 メディア・リレーションズ(1) マスコミの理解 パブリシティ ステークホルダーごとのパブリシティ 6回 第6章 メディア・リレーションズ(2) パブリシティと広告の違い パブリシティの素材 パブリシティの方法 広報担当者の役割 7回 第12章 企業の危機管理 私のリアルな体験 経済環境の変化と危機管理 危機コミュニケーションにおける重要ポイント 8回 第9章 エンployeeリレーションズ(ER) 企業などで発行される社内報 インターナル・コミュニケーションの実際 エンployeeリレーションズの方法 →マスコミ報道をもとにしたミニレポート(日程は前後する可能性あり) 9回 第8週 インベスター・リレーションズ(IR) インベスター・リレーションズとは何か 最大のイベントとしての株主総会 新聞報道から見た株主総会とIR活動 情報開示のルールと要件 10回 第7章 マーケティングと広報・PR 企業・行政におけるマーケティング発想 マーケティング・コミュニケーション活動の事例 企業ブランディング活動の事例 11回 第5章 コミュニケーションとPR コミュニケーションとは一体なにか? コミュニケーション導管モデルの実体験 プッシュ型PRとプル型PR プル型コミュニケーションの授業 12回 第13章 CSR・社会貢献と広報・PR 倫理・コンプライアンス・CSR CSRの実務 CSRコミュニケーションの実際 コミュニケーション原則と広報・PRの倫理 13回 第3章 行政・団体の広報・PR活動(1) 自治体ブランディング活動の事例 よいイメージを形成する方法 自治体・団体の広報・PR活動の特徴 →自治体広報・PRをもとにしたミニレポート(日程は前後する可能性あり) 14回 第3章 行政・団体の広報・PR活動(2) 大学広報の実際と課題 病院広報の実際と課題 日赤・日本スポーツ振興センターなど社会貢献団体の広報・PRの実際 15回 授業のまとめと社会での生かし方 授業全体のポイントと試験の例題 PRプランナー試験の実際とチェックポイント				
評 価 方 法	授業でのコミュニケーション(質疑応答、ミニレポートなど)：40%期末の筆記試験：60%以上により評価します。				
テ キ ス ト	公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会編 改訂版 広報・PR概論 同友館				
参 考 文 献	授業内容に応じて配布				
備 考	(内閣府所轄)公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会 PRプランナー試験制度に対応する入門講座としても活用可能。				

授 業 科 目	国際協力・社会支援		担 当 教 員	武田 直樹	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	金曜3時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 ビジネスマネジメント[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神, ローカル・グローバルセンス				
履 修 条 件	グローバル化が進むにつれて、ますます、世界中での格差が広がってきています。なぜ貧困はなくなるのか？私たちにできることは何なのか？地球人の一員として一緒に考えながら、「人のために動くこと」「より良い社会づくり」に興味のある学生の受講を大歓迎します。また、オフ・キャンパス・プログラムと関連付けながら授業を行います。				
授 業 概 要	日々グローバルな社会が訪れている中で、世界での貧困、紛争、災害は絶えず、日本で暮らす私たちの生活とも密接に繋がってきている。国際協力を通して、世界で貢献できる人材になるために、国際協力の歴史や意義、世界で起きている教育、保健衛生、農業、環境、障がい、スポーツ、平和構築、人権、などの課題を知ること、世界の中の私「地球人の一員」として国際協力の課題や可能性について考える。また、講師が実践してきた、東南アジアでの国際協力経験も織り交ぜながら、学習を進めていく。				
授業の到達目標	受講生が国際協力についての多様な知識が習得できる。その知識習得を通して、地域においても、世界においても、様々な世界的な課題に目を向け、主体的にその課題解決に向けて地球人の一員として実践していく事ができるようになる。また、世界的な課題解決を通して、日本の課題解決にも主体的に動けることができるようになる。				
授 業 計 画	1回 国際協力とは何か？貧困とは何か？ 2回 講師が実践してきた取組紹介（タイのスラムでの教育支援、カンボジアの農村での保健支援、パキスタンでの災害支援） 3回 「世界がもし100人の村だったら」 4回 国際協力の歴史 5回 国連、外務省・JICA、NGOの役割 6回 世界の課題について考える① 教育、障がい 7回 世界の課題について考える② 保健衛生、環境 8回 世界の課題について考える③ 農業、スポーツ 9回 世界の課題について考える④ 紛争、平和構築、人権 10回 JICA筑波センターに関する事前学習 11回 JICA筑波センター訪問 12回 JICA研修員（アジア、アフリカ、中東、中南米、他）との交流 13回 JICA筑波センター訪問のふりかえり 14回 これからの国際協力、社会開発に求められること 15回 試験と解説				
評 価 方 法	授業への貢献度（50％）、試験（50％）				
テ キ ス ト	講師がその都度配布する資料により行う。				
参 考 文 献	講師がその都度配布する資料により行う。また、新聞を読むこと。				
備 考					

授 業 科 目	セラピー論		担 当 教 員	川人 紫	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	木曜3時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 ビジネスコミュニケーション[2015年度以降入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神, マネジメントセンス				
履 修 条 件	1. アロマセラピー（香りを利用して心身の健康を改善、維持する）を始めとする、セラピー全般に関心のある学生。2. 香りを使ったクラフトやトリートメント実習に関心のある学生。3. ハーブ等の植物を使って、香りの製品を制作することに関心を持つ学生。				
授 業 概 要	単なるファッションではなく、福祉や医療の現場で積極的に応用されているアロマセラピー（芳香療法）の定義・歴史から、実際の導入方法までを、国内外の事例を紹介しながら講義。花や農作物等身近な植物から天然の香りを抽出し、地域活性化に役立てている自治体の事例も紹介します。				
授業の到達目標	「ナチュラルセラピー」は、現代西洋医学だけでは解決できない人の心と身体の問題を、植物など自然の力を利用して解決するための療法です。特に「アロマセラピー（芳香療法）」は、EBM(医学的根拠)が確立した「セラピー」として、今や多くの医療及び福祉施設でも応用されています。授業では、セラピー及びアロマセラピーの定義や歴史、精油の知識からアロマトリートメントの方法まで広く学ぶことにより、コミュニケーション能力、技術と徳性を兼ね備えたセラピストとしての資質を養うことを目的とします。				
授 業 計 画	<p>1回 「セラピー及びアロマセラピーの定義」セラピーの基本的な定義及び、芳香療法と訳されるアロマセラピー及び、アロマセラピーの主役ともいえる精油（エッセンシャルオイル）の定義について学びます。</p> <p>2回 「アロマセラピーの歴史」B.C. 3,000年より使われてきた香りの歴史から始まり、日本におけるアロマセラピー導入の経緯など、国内外のアロマセラピーの歴史について学びます。</p> <p>3回 「国内外におけるアロマセラピーの現状」民間療法的に使われてきたアロマセラピーが、今や統合医療の一つとして国内外の医療機関や福祉施設で積極的に導入されている現在の状況について学びます。</p> <p>4回 「メディカルアロマセラピーとは？一般のアロマセラピーとの違い」1997年に発足した日本アロマセラピー学会で発表された症例を元に、メディカルアロマセラピーの実際について学びます。</p> <p>5回 「地域活性化とアロマセラピー」地域の花や農作物から芳香成分を抽出し、製品化することで地域活性化を実現している自治体の事例を紹介します。</p> <p>6回 「精油（エッセンシャルオイル）の知識1」精油の品質を左右する原料ハーブの栽培、蒸留方法等について学びます。</p> <p>7回 「精油（エッセンシャルオイル）の知識2」アロマセラピーはなぜ効果があるのか？その根拠となる精油の芳香成分、作用機序等について学びます。</p> <p>8回 「精油（エッセンシャルオイル）の知識3」主に福祉施設や医療施設で使われる精油20種類について、その特性、効用等について学びます。</p> <p>9回 「精油（エッセンシャルオイル）の使い方、選び方、注意点」品質の悪い精油を選ばないための注意点、使い方を注意すべき精油、禁忌等について学びます。</p> <p>10回 「ブレンドングの方法」精油数種類をブレンドして使う方法、香りの分類などについて学びます。</p> <p>11回 「アロマクラフトづくり1」室内の臭いを消すアロマルームスプレー、自然の香りの入浴剤を手作りします。</p> <p>12回 「アロマクラフトづくり2」自分の好みの香りをブレンドして自然香水をつくります。</p> <p>13回 「アロマクラフトづくり3」身近にある農作物や花などの植物から芳香成分を抽出し、てづくりせっけんをつくります。</p> <p>14回 「アロマトリートメント実習」ハンド&フットトリートメント、手浴&足浴の方法を学びます。</p> <p>15回 「ケーススタディとまとめ」アロマセラピーを使ったトリートメントやクラフトを各自実践し、自分もしくは対象者の変化や感想についてまとめ、ケーススタディとして発表します。</p>				
評 価 方 法	1. 期末試験による評価（専門知識だけではなく、課題を与え問題解決能力を問う試験を実施）2. レポートや実習成果による評価（技術に加えてコミュニケーション能力の向上が見られたかを評価）3. 出席率による評価				
テ キ ス ト	オリジナルレジュメを使用します。				
参 考 文 献	「<香り>はなぜ脳に効くのか アロマセラピーと先端医療」塩田清二（NHK出版新書）「農業のサムライたち」大下英治（潮出版社）「アロマセラピー標準テキスト基礎編」日本アロマセラピー学会編（丸善）				
備 考					

授 業 科 目	メディアリテラシー		担 当 教 員	浅野 幸彦		
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習		単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	水曜5時限		科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 メディアデザイン[2014年度以降入学生]、専門基礎科目群 共通科目[2013年度以前入学生]					
対 象 資 格	上級情報処理士					
キ ー ワ ー ド						
履 修 条 件	「学生生活便覧」参照のこと					
授 業 概 要	ますます複雑化・専門化する現代。それは面倒くさい時代だともいえる。「新聞に書いてあった、テレビで言っていた」ことを盲目的に信じられる時代ではない。個人のリテラシーの向上と、情報環境の激変と、情報量の幾何級数的増大が、産業メディアの権威性・信頼性を低下させている。さらにメディアとは、メッセージや情報を運ぶ媒体であるとうじに、メディアそのものがメッセージや情報でもあり日本語ではひとくくりに情報よばれていることからの階層性 (data→information→intelligence→knowledge) を理解しなければ、事実の把握難しい。現代社会で生活し仕事をしていくうえで、必須の基礎的素養を十分に理解し、ソーシャルメディア、既存のマスメディア、音声・文字言語、映像表現、音楽表現、身体表現から得られる情報を分析・理解する力を身につける。さらに加速するメディア社会の変容や、時代や社会状況を客観的・俯瞰的に洞察できる知識と判断力を養う。					
授業の到達目標	情報過剰社会における、変貌するメディアの多面性と本質を把握するとともに、的確な情報を取捨選択、発信できる力を養成する。・コミュニケーションのスキルとアビリティとセンスの向上、獲得・思考の基礎体力の向上と、複眼的思考視座の獲得による、問題発見力と解決力の獲得・グローバルな思考力と感覚の練磨 (Think globally, Act locally)					
授 業 計 画	1回 メディアとはなにか、情報とは何か(リテラシー・理解の対象の明確化) 2回 情報過剰社会における情報理解(メディアリテラシー)の重要性(メディア社会の理解) 3回 携帯ネット端末(スマホ、i-PADなど)等の普及による、情報環境の変化とその理解 4回 ソーシャルメディアの可能性と問題点 5回 ソーシャルメディアの利用法 ソーシャルシフトとは何か？ 6回 オールドメディア(既存マスメディア～テレビ、新聞、雑誌、ラジオ)の研究Ⅰ(変遷編)誕生から現在まで、一対多の一方通行の従来型マスメディアが果たした役割と問題点を理解する。 7回 オールドメディア(既存マスメディア～テレビ、新聞、雑誌、ラジオ)の研究Ⅱ(現状編)現在、マスメディアにはいかなる価値と可能性があるのかを探る。 8回 オールドメディア(既存マスメディア～テレビ、新聞、雑誌、ラジオ)の研究Ⅲ(将来編)ネットテレビ、ネットラジオ、ネットニュース他の普及による不可逆的な変化とはなにかを考察する。 9回 ニュースを読み解く方法 研究 ～声と映像の力の功罪～ 10回 風評・デマに惑わされないためのリテラシー研究 11回 広告・プロパガンダの変遷と効果を巡る考察 12回 メディアとしてのカルチャー(写真・絵画・アニメ・音楽・ダンスほか)事例研究Ⅰ 13回 メディアとしてのカルチャー(写真・絵画・アニメ・音楽・ダンスほか)事例研究Ⅱ 14回 メディアとコミュニケーションの将来像 15回 情報理解論(メディアリテラシー)全体振り返りと質疑応答					
評 価 方 法	出席状況、毎回授業内で課す感想文、学期末のレポートを総合して評価する。					
テ キ ス ト	適宜、事前に受講生にメール添付ファイルで配信する。					
参 考 文 献	参考文献：濱野智史・佐々木博「日本のソーシャルメディアの未来」、田村秀「データの罠」、谷岡一郎「世論調査のウソ」、松永和紀「メディアバイアス」、佐藤卓巳「メディア社会論」、マクルーハン「メディア論」、関谷直也「風評被害」、斎藤環「メディアは存在しない」、ウルリッヒ・ベック「世界リスク社会論」、ウルリッヒ・ベック、スコット・ラッシュ、アンソニー・ギデンズ「再帰的近代化」、佐藤俊尚「キュレーション					
備 考	【資格対象科目：上級情報処理士】					

授 業 科 目	映像サウンド表現A	担 当 教 員	高嶋 啓
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習
学 期	前期	曜 日 時 限	火曜3時限
科 目 区 分	専門基礎科目群 メディアデザイン[2014年度以降入学生]、専門基礎科目群 コース科目(メディアデザイン) [2013年度以前入学生]		
対 象 資 格			
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神		
履 修 条 件	必ず, 集中講義「映像編集・制作AB」を履修すること。 ※履修していない場合, 映像に音響を付けることが出来ないため, 課題制作が出来ない。「映像サウンド表現B」を同時に履修すること。 チームでの授業の取り組みに協力的であること。		
授 業 概 要	映像には欠かせない, 音に対する知識を学ぶ。音を収録する機材などについて知り, 環境音や, アフレコ, ナレーション録りを行う。サウンド編集を, DAWソフト (Digital Audio Workstation) でのサウンド編集によって, 映像にあったサウンドを制作する, キーワード; サウンド収録, 空間音響, 雑音除去, 音響学, サウンド編集		
授業の到達目標	デジタルコンテンツに対する理解を深め、表現手法を研究し、知識、技術を身につける。「映像編集・制作AB」で制作した映像に、アフレコ、ナレーション、BGM、効果音 (SE) 等を合わせ、映像作品を化成させ、ムービーコンペティションへの応募を行う。サウンド収録、編集学を学ぶことを通して、論理的に物事を考え実行する力、自己表現力を身につける。チーム制作を通し、コミュニケーション力及び協調性を身につける。各講義の為に予習40分、復習時間50分が必要となる。		
授 業 計 画	1回 オリエンテーション・評価について・授業概要について 2回 映像における音響学について予習30分、復習時間60分が必要となる 3回 観客の感情を左右するサウンドについて予習30分、復習時間60分が必要となる 4回 映画の効果音について予習30分、復習時間60分が必要となる 5回 マイクの用途と、種類についてマイクによる集音について予習30分、復習時間60分が必要となる 6回 マイクによる集音についてアフレコによる映像効果について予習30分、復習時間60分が必要となる 7回 サウンド収録技法1-アフレコ・ナレーション準備予習30分、復習時間60分が必要となる 8回 サウンド収録技法1-アフレコ・ナレーション録音準備-予習30分、復習時間60分が必要となる 9回 サウンド収録技法1-アフレコ・ナレーション録音-予習30分、復習時間60分が必要となる 10回 サウンド収録技法2-効果音を録音の準備-予習30分、復習時間60分が必要となる 11回 サウンド収録技法2-効果音を録音-予習30分、復習時間60分が必要となる 12回 DAWを使用したサウンド編集技法1-BGMの選定-予習30分、復習時間60分が必要となる 13回 DAWを使用したサウンド編集技法1-BGMの決定-予習30分、復習時間60分が必要となる 14回 DAWを使用したサウンド編集技法-エフェクトによるノイズ除去-予習30分、復習時間60分が必要となる 15回 講評会		
評 価 方 法	出席及び、課題への取り組み方、提出課題にて評価する。		
テ キ ス ト	授業にてプリントを配布する。		
参 考 文 献	映像制作のためのサウンド収録&編集テクニック (株式会社玄光社)		
備 考	実践的に授業を進めるため、積極的に授業に参加しようという意識を持つこと。		

授 業 科 目	アニメーション基礎		担 当 教 員	野田 美波子	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	4単位
学 期	前期	曜 日 時 限	水曜1時限、水曜2時限		科目等履修 受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 メディアデザイン[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 情報スキル				
履 修 条 件	絵を書くことが好きで、自分の絵に命を吹き込みたいと考えている者。アニメーション制作に興味があること。各講義の為に予習90分、復習時間90分が必要となる				
授 業 概 要	アニメーションは命の無い物に命を吹き込む、言わば魔法のようなものです。授業では主に2D(平面)アニメーションで動きの基本について学習しますが、3DCGアニメーションを制作する際にもこの考え方が役に立ちます。前半は鉛筆と紙を使ったアナログ作画アニメーションの制作、後半はPhotoShopを使用したデジタル作画アニメーションを制作します。使用ソフトPhotoShop, AfterEffects, DragonFlame				
授業の到達目標	重力にのっつた動き、キャラクターをつけた人間の動き、メタモルフォーゼなど、アニメーション作画の基礎をマスターする。また、アニメーションを制作するにあたっての基礎的なパソコン操作をマスターする。				
授 業 計 画	<p>1回 第1章 手描きによるアニメーション制作アニメーションにおける作画とは何か。原画、動画、トレース、タイムシート、タイミングの説明。</p> <p>2回 課題1 ボールを上下に弾ませる作画。伸ばしと縮み。完成した動画をスキャナーでパソコンに取り込み、AfterEffectsで編集し、movへ書き出しする。</p> <p>3回 課題2 振り子の動きの作画。残しのテクニック。</p> <p>4回 完成した動画をスキャナーでパソコンに取り込み、PhotoShopで着彩。AfterEffectsで編集し、movへ書き出しする。</p> <p>5回 課題3 ボールの落下、バウンドの作画。</p> <p>6回 完成した動画をスキャナーでパソコンに取り込み、PhotoShopで着彩。AfterEffectsで編集し、効果音を付けてmovへ書き出しする。</p> <p>7回 課題4 人間の動き。歩きの基礎ノーマルな速度の歩きを作画する。</p> <p>8回 完成した動画をスキャナーでパソコンに取り込み、PhotoShopで着彩。AfterEffectsで編集し、効果音を付けてmovへ書き出しする。</p> <p>9回 課題5 簡単なキャラクターデザインをし、そのキャラクターに合った振り向きを作画する。</p> <p>10回 課題6 課題5で振り向かせたキャラクターに別セルで、目パチ(瞬き)、ロバク(喋り)を加える。</p> <p>11回 完成した動画をスキャナーでパソコンに取り込み、PhotoShopで着彩。AfterEffectsで編集し、アフレコで録音した音声を付けてmovへ書き出しする。</p> <p>12回 課題7 3つのオブジェクトをデザインし、それぞれの間をメタモルフォーゼでつなぎループアニメーションをつくる。</p> <p>13回 3つのオブジェクトをデザインし、それぞれの間をメタモルフォーゼでつなぎループアニメーションをつくる。</p> <p>14回 3つのオブジェクトをデザインし、それぞれの間をメタモルフォーゼでつなぎループアニメーションをつくる。</p> <p>15回 完成した動画をスキャナーでパソコンに取り込み、PhotoShopで着彩。AfterEffectsで編集し、効果音を付けてmovへ書き出しする。</p> <p>16回 第2章 AfterEffectsを使ったコンピューターアニメーションの制作1、アニメーションの原作となる4コマ漫画を作成する。</p> <p>17回 2、完成した4コマ漫画を元に、動きをデザインする。</p> <p>18回 3、4コマ漫画をスキャンし、デザインした動きを元にPhotoShopで素材を作成する。</p> <p>19回 4コマ漫画をスキャンし、デザインした動きを元にPhotoShopで素材を作成する。</p> <p>20回 4コマ漫画をスキャンし、デザインした動きを元にPhotoShopで素材を作成する。</p> <p>21回 4コマ漫画をスキャンし、デザインした動きを元にPhotoShopで素材を作成する。</p>				
評 価 方 法	提出された課題、成果物により評価する。				
テ キ ス ト	その都度配布する。				
参 考 文 献	アニメーターズサバイバルキット：リチャード・ウィリアムズ 著アニメーションの本(改定新版)：アニメーション6人の会 編著				
備 考	第1回目から出欠をとります。				

授 業 科 目	映像と文化		担 当 教 員	野田 美波子	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	水曜4時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 メディアデザイン[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド					
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	映画史の中で、特にディズニーの映像史について講義を行う。アニメーションの父と言われるウォルト・ディズニーの生涯や、アブ・アイワークスによってディズニースタジオで開発されたアニメーションの技術、映像技術を紹介する。				
授業の到達目標	アニメーション技術、映像技術の発展の歴史についての理解する。				
授 業 計 画	1回 ウォルト・ディズニーの幼少期 2回 アブ・アイワークスとの出会い～アニメーションスタジオの設立 3回 アリスコメディ、ディズニー・ブラザーズ設立 4回 オズワルドシリーズ 5回 ミッキーマウス誕生 6回 シリーシンフォニーシリーズ1 7回 シリーシンフォニーシリーズ2 8回 白雪姫1 9回 白雪姫2 10回 バンビ、ピノキオ 11回 ファンタジア1 12回 ファンタジア2 13回 ダンボ～第二次世界大戦とディズニースタジオ 14回 ディズニーランド 15回 メリーポピンズ、ジャングルブック				
評 価 方 法	レポート提出				
テ キ ス ト	その都度配布				
参 考 文 献	創造の狂気 ウォルト・ディズニー：ニール・ゲイブラー著命を吹き込む魔法：フランク・トーマス、オーリー・ジョンストン著 など				
備 考					

授 業 科 目	マンガ表現A		担 当 教 員	塚本 博義	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	集中科目	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門科目 (基礎)				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	日本を代表する文化であるマンガに広く携われる人材育成を目指し、講義および実習を行なう。マンガ家という特殊な仕事について学ぶとともに、マンガの歴史・変遷の学習、作品についてのディスカッションなどを通して、基礎的な知識と発想力を身につける。また着色、シナリオ・ネームの作成、キャラクター制作、架空のクライアントを想定した制作実習等を行なうことで、マンガ家に必要な応用力と柔軟な思考を養い、マンガ業界も含む様々な職業において活躍できる基礎力を育成する。				
授業の到達目標	漫画の持つ力を使い企画し、自分のメッセージを込めた「物語」を作り出す方法と人に伝える漫画技法の基礎を修得する。				
授 業 計 画	1回 キャラクターからの漫画手法 2回 キャラクターからの漫画手法漫画制作テーマの出題 3回 カメラワークからの漫画手法キャラクターの基本「対比の手法」 4回 ペン描写の基礎 5回 ペン描写の基礎 6回 ペン描写の基礎 7回 コマ割りの手法「ネーム制作」 8回 4ページ漫画制作 コマ割りの手法「ネーム制作」 9回 4ページ漫画制作 10回 4ページ漫画制作 11回 4ページ漫画制作 12回 4ページ漫画制作 13回 4ページ漫画制作 14回 4ページ漫画制作 15回 講評				
評 価 方 法	出席と作品				
テ キ ス ト	プリント教材				
参 考 文 献	「漫画バイブル」1・3・5巻マール出版「キャラクターマトリックス」マール出版「キャラデザスマッシュ」グラフィック社「物語の法則」アスキー出版				
備 考					

授 業 科 目	ビジュアルライジングプログラミング		担 当 教 員	秋 廣 誠	
授 業 ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2 単位
学 期	後期	曜 日 時 限	火曜 2 時限		科 目 等 履 修 受 入 可
科 目 区 分	専門基礎科目群 情報システム[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格	上級情報処理士, ウェブデザイン実務士				
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 情報スキル				
履 修 条 件	Macの基本的な操作方法を習得している必要がある。プログラミング全般に興味があることが望ましい。2年次に履修することが望ましい。				
授 業 概 要	様々な情報デバイスのユーザーインターフェース・GUIや、デジタルサイネージ（電子看板）の開発では、魅力あるグラフィカルな挙動の開発が重要だ。そのために、プロトタイピングと言われる手法が用いられる。授業では、上記の例に留まらない活用方法を想定しながら、様々な視覚効果の自動生成や伝達の方法、およびアルゴリズムに触れる。Quartz Composerや、Processingなどのプロトタイピングツールを使って演習に取り組むことで、アニメーションの生成や、デジタル情報とグラフィカルな挙動を紐づける知識と手法などを学習する。各講義の為に予習60分、復習時間60分が必要となる。				
授業の到達目標	近年のデジタル技術の発展によって、情報の視覚化の活用場面が著しく広がってきた。エンターテインメント分野での活用は無論、ビッグデータが擁する隠れた知見も価値が高まるであろう。分野を超えた協働と伝達の多様化も期待されている。今後、このような視覚コミュニケーションによって解決手段を提案できる人材が活躍する場面が更に増えることになる。この授業では、主にビジュアルプロトタイピングツールを用いた一連の作業を、楽しみながら学習する。このことで、各自が将来、視覚化の知識と技術を能動的に習得できるようにすることを期待する。				
授 業 計 画	1回 オリエンテーション 概説：ビジュアルライジングと、プログラミング。 2回 演習1 Quartz Composer (QC) とは？ QCの活用場面。QCが出来ること、出来ないこと。 3回 演習2 Quartz Composer のパッチ、変数の扱い方。色彩操作と2D座標。 4回 演習3 Quartz Composer の画像・映像フィルタを使ってみる。Webカメラからライブ映像を読み込む。 5回 演習4 Quartz Composer の3Dオブジェクトを使ってみる。複数のオブジェクトを生成する「イテレータ」を理解する。 6回 演習5 Quartz Composer とマイコンなどの外部システムと連携してみる。 7回 演習6 Quartz Composer とInstagramの動画（刻々と変化するWeb上の情報）を、リアルタイムで連携してみる。 8回 演習7 Quartz Composer で「友達を可視化」してみる。当たり前ものを別の角度で見る。「動的/静的なパラメータ」 9回 概説：「世界を変えた100のダイアグラム」、様々な「データ可視化ツール」、「データマイニングと視覚要素」、「ビジュアルライジングツールとしての MS Excell」 10回 演習8 Processing とは？ Processingが出来ること、出来ないこと。 11回 演習9 Processing の基本的な使い方。色彩操作と2D座標。 12回 演習10 Processing と外部データを連携してみる。 13回 演習11 Processing で情報を「マッピング」してみる。 14回 課題 プロトタイピングツールで、プレゼンテーションしよう 制作 15回 課題 プロトタイピングツールで、プレゼンテーションしよう 発表				
評 価 方 法	課題への取り組み方、提出課題、受講態度によって評価する。				
テ キ ス ト	特に定めない。プリントを適宜配布する。				
参 考 文 献	オライリー・ジャパン『ビジュアルライジング・データ』オライリー・ジャパン『Beautiful Visualization』BNN『VVVVOOK プロトタイピングのためのビジュアルプログラミング入門』BNN『Built with Processing デザイン/アートのためのプログラミング入門』Plume Books『100 DIAGRAMS THAT CHANGED THE WORLD』				
備 考	日頃から、身近なものの中にダイアグラムを見出し、それを成り立たせているルールを探す習慣をつけよう。				

授 業 科 目	自立生活デザイン		担 当 教 員	右田 玲子	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	金曜3時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 情報システム[2014年度以降入学生]、専門発展科目群（システム開発）[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神, ローカル・グローバルセンス, 言語運用力, 情報スキル, マネジメントセンス				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	自立した生活をしていく上で必要と思われる情報の整理を行い、表現することに必要な基本知識を学ぶ。欲しい情報入手できる社会、心を開き少しでも相手を理解し、生活や仕事にそれぞれの力を発揮できる社会に向けたユニバーサルデザイン（UD）の実施例を通してそれぞれの国の施策を学びその意図について考える。ノーマライゼーションやバリアフリーというようなユニバーサルデザインの類縁概念と比較しながら、ユニバーサルデザインの概念、基本的理念、その実践方法を通して、ユニバーサルデザインの意図（コンセプト）という企画行為とかたちにするという表現行為を通して、高齢社会について考える。資料をみながら、現状や未来について考える時間として予習、復習時間をそれぞれ確保する。				
授業の到達目標	高齢社会を迎えるなか、社会生活を送る上で、最も身近な生活環境としての住居、住環境、支援機器やそれらの周辺領域のデザイン（計画）を通して、問題発見力の基礎力を育てる。将来はこの関連分野における職業人を目指すことができることを目標にする。				
授 業 計 画	1回 オリエンテーション 2回 ノーマライゼーションの歴史（国外、国内） 3回 ノーマライゼーションからバリアフリーへ 歴史（国外、国内） 4回 バリアフリーからユニバーサルデザイン（UD）へ 歴史（国外、国内） 5回 実習 観察から始める UD 6回 実験から考える UD 7回 UDの必要性 8回 UDの7原則の内容 9回 UDの7原則を解剖 10回 UDのデザインプロセス 11回 UDの調査と評価 12回 PPPによるプロダクト評価 13回 UD産業への展望 14回 UDが目指すゴール 15回 まとめ				
評 価 方 法	小レポート、期末レポートと授業への参加状況を総合的に評価する。				
テ キ ス ト	プリント				
参 考 文 献	随時紹介				
備 考					

授 業 科 目	ユニバーサルデザインA		担 当 教 員	右田 玲子	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	金曜3時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 共通科目[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神, ローカル・グローバルセンス, 言語運用力, 情報スキル, マネジメントセンス				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	自立した生活をしていく上で必要と思われる情報の整理を行い、表現することに必要な基本知識を学ぶ。欲しい情報を手でできる社会、心を開き少しでも相手を理解し、生活や仕事にそれぞれの力を発揮できる社会に向けたユニバーサルデザイン (UD) の実施例を通してそれぞれの国の施策を学びその意図について考える。ノーマライゼーションやバリアフリーというようなユニバーサルデザインの類縁概念と比較しながら、ユニバーサルデザインの概念、基本的理念、その実践方法を通して、ユニバーサルデザインの意図 (コンセプト) という企画行為とかたちにするという表現行為を通して、高齢社会について考える。資料をみながら、現状や未来について考える時間として予習、復習時間をそれぞれ確保する。				
授業の到達目標	高齢社会を迎えるなか、社会生活を送る上で、最も身近な生活環境としての住居、住環境、支援機器やそれらの周辺領域のデザイン (計画) を通して、問題発見力の基礎力を育てる。将来はこの関連分野における職業人を目指すことができることを目標にする。				
授 業 計 画	1回 オリエンテーション 2回 ノーマライゼーションの歴史 (国外、国内) 3回 ノーマライゼーションからバリアフリーへ 歴史 (国外、国内) 4回 バリアフリーからユニバーサルデザイン (UD) へ 歴史 (国外、国内) 5回 実習 観察から始める UD 6回 実験から考える UD 7回 UDの必要性 8回 UDの7原則の内容 9回 UDの7原則を解剖 10回 UDのデザインプロセス 11回 UDの調査と評価 12回 PPPによるプロダクト評価 13回 UD産業への展望 14回 UDが目指すゴール 15回 まとめ				
評 価 方 法	小レポート、期末レポートと授業への参加状況を総合的に評価する。				
テ キ ス ト	プリント				
参 考 文 献	随時紹介				
備 考					

授 業 科 目	ユニバーサルデザインB		担 当 教 員	右田 玲子	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	金曜3時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 共通科目[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神, ローカル・グローバルセンス, 言語運用力, 情報スキル, マネジメントセンス				
履 修 条 件	ユニバーサルデザインA の単位を取得していること				
授 業 概 要	自立した生活をしていく上で必要と思われる情報の整理を行い、表現することに必要な基本知識を学ぶ。欲しい情報入手できる社会、心を開き少しでも相手を理解し、生活や仕事にそれぞれの力を発揮できる社会に向けたユニバーサルデザイン(UD)の実施例を通してそれぞれの国の施策を学びその意図について考える。ノーマライゼーションやバリアフリーというようなユニバーサルデザインの類縁概念と比較しながら、ユニバーサルデザインの概念、基本的理念、その実践方法を通して、ユニバーサルデザインの意図(コンセプト)という企画行為とカタチにするという表現行為を通して、高齢社会について考える。資料をみながら、現状や未来について考える時間として予習、復習時間をそれぞれ確保する。				
授業の到達目標	高齢社会を迎えるなか、社会生活を送る上で、最も身近な生活環境としての住居、住環境、支援機器やそれらの周辺領域のデザイン(計画)を通して、問題発見力の基礎力を育てる。将来はこの関連分野における職業人を目指すことができることを目標にする。				
授 業 計 画	1回 オリエンテーション 2回 ユニバーサルデザイン(UD)の定義の確認(英語 日本語訳) 3回 UDに着目した例 環境(空間) 国外 国内 4回 UDに着目した例 サービス 国外 国内 5回 UDに着目した例 製品 国外 国内 6回 UDに着目した例 街づくり 国外 7回 UDに着目した例 街づくり 国内 8回 UDの実践的な取組をどのように考えていくか 1 コンセプトの構築 9回 UDの実践的な取組をどのように考えていくか 2 デザイン作業プロセスの検討 10回 UDの実践的な取組をどのように考えていくか 3 ユーザーの分類表の作成 11回 UDの具現化 1 ターゲットユーザ毎の課題に対する要求事項の解決策 12回 UDの具現化 2 自分独自のデザインアイデアの提案 13回 提案したUDの評価 1 デザインコンセプトの項目に基づいた評価 14回 提案したUDの評価 2 UDチェックリストによる評価 15回 まとめ				
評 価 方 法	小レポート、期末レポートと授業への参加状況を総合的に評価する。				
テ キ ス ト	プリント				
参 考 文 献	随時紹介				
備 考					

授 業 科 目	CAD基礎1		担 当 教 員	荒木 勉	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	水曜3時限		科目等履修 受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 情報システム[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神, 情報スキル				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	図形を通して情報伝達を行うCAD (Computer Aided Design) の利用体験を通しながら図形情報処理を学びます。モノづくりのためのCADを利用するための基礎として、最初に図面によるコミュニケーション手段としてのJIS機械製図の作図法を学習します。そして、CADソフト(二次元CAD: AutoCAD、三次元CAD: Autodesk Inventor)を用いて作図の基礎を学びます。モノづくりのためのCADを学ぶには、企画・設計・製作・評価・改良の流れの中で最適化を目指しながら二次元CADや三次元CADを駆使して実際にモノづくりを行いながら体験的に学びます。展開図から立体の製作や紙飛行機の製作、ミニはんこの製作を通して三次元モデリングなど実際に成果を形に表しながらCADの概念と基本操作やCADデータの利用法など「CAD基礎1」として図形情報処理について学びます。				
授業の到達目標	モノづくりのための二次元CAD、三次元CADおよびモデリングに関する基礎を習得する				
授 業 計 画	1回 ガイダンス：情報伝達のツールとしてのCADを学ぶ利点 2回 CADで描くための準備：図形の表し方（正面図の選び方、形を正しく伝えるために） JISと作図法 作図のマナー 3回 CADを学ぶための製図の基礎（製図のための線、文字、記号と用紙の決まり） 製図の線の種類と用途、文字の大きさ、製図記号、図面と尺度、作図範囲（図面を描く用紙の大きさ） 4回 CADの基本操作法 直線で描く、円を描く、消去・移動・複写の練習と図面に色を付ける 図面の保存 5回 CADによる文字の入力と寸法の表し方について学ぶ正しい印刷出力 プリントした図面の大きさの確認（等倍出力の練習） 6回 立体図の読み方、描き方 7回 課題を通してCADを学ぶ 展開図から立体の作成（正六面体、正四面体） 8回 課題を通してCADを学ぶ 展開図から立体の作成（正六面体、正四面体） 9回 CADによる作図 製作の条件に従って企画立案し、CADにより図面を描き製作する紙飛行機を通して学ぶ課題「はがきでつくる紙飛行機」ハガキ大の作図範囲の中で部品を作図し切り抜き組み立て、飛ばす紙飛行機の設計と製作 CADとしてのコンピュータの利用によりCADを用いるセンスを学ぶ 10回 CADでつくった紙飛行機の飛行コンテストのための評価と改良を重ね、各自紙飛行機の最適化の実践課題「はがきでつくる紙飛行機」を飛ばし、飛行距離と飛び方を競う飛行コンテストと評価、改良による最適化を行なう 11回 最適化のための課題 二次元CADによる図面の完成 12回 二次元CADのまとめ 主要な機械要素の図示法（ねじ製図、歯車製図、ばね製図 他） 13回 三次元CADの基礎 3D-CADと3Dモデリング 「ミニはんこ」の製作を通して学ぶ 14回 三次元CADによるモデリング モデリングとしての「ミニはんこ」の評価 自由課題による三次元図面の作成 15回 まとめ 前期の学習内容のまとめ 提出課題のチェック、製図の基礎とCAD操作の確認				
評 価 方 法	平常点・課題提出物50点、筆記試験50点				
テ キ ス ト	『図面の見方・描き方（四訂版）』真部富男著、工学図書、ISBN 978-4-7692-491-6				
参 考 文 献	『要説 機械製図（第3版）』大西清著、オーム社、ISBN 978-4-274-21724-1『図解Inventor実習 ゼロからわかる3次元CAD（第3版）』船倉一郎・堀桂太郎共著、森北出版、ISBN 978-4-627-66622-1				
備 考	前期に作成した紙飛行機の図面データを秋につくば市の教育委員会主催で開催される「つくば科学フェスティバル」に提供し、CADのクラスとして「つくって飛ばそう紙飛行機教室」により来場者への指導を行なう予定です。CADの楽しさ、素晴らしさを来場者に伝え授業の成果を示しながらの社会貢献です。				

授 業 科 目	CAD基礎2		担 当 教 員	荒木 勉	
授業ナンバリング		授 業 形 態	演習	単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	水曜3時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 情報システム[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神, ローカル・グローバルセンス, 情報スキル				
履 修 条 件	「CAD基礎1」を受講していることが望ましい。				
授 業 概 要	「CAD基礎1」で学んだ事柄を基礎として「CADによるペーパーカーの製作とペーパーカーレース」を一つのテーマとして、CAD (Computer Aided Design) についてさらに深く、発展的に学びます。ひとり一台のコンピュータ利用環境の中でコンピュータの支援による世界標準の製図ソフト、AutoCADを用いてペーパーカーの製作を行ないます。CADによるペーパーカーの製作を通し、CADの基本をしっかりと身に付けます。学習のまとめとして『ペーパーカーの作り方』をテーマとしたCAD操作法マニュアルの作成を行います。				
授業の到達目標	二次元CAD、三次元CADおよびモデリングによるモノづくりの基本を学ぶことによりCADへの理解を深める。				
授 業 計 画	1回 ガイダンス：前期の復習（各種CAD機能と操作法について） 後期の授業内容の説明 作成するペーパーカーの製作の条件の提示と作成方法について 2回 CADによるペーパーカーの製作 ペーパーカー製作の条件により各自設計のための企画立案、ポンチ絵を描いてイメージをまとめる 3回 CADによるペーパーカーの製作 イメージ図より部品図としての展開図の作成（グラフ用紙に実寸で描いてからCAD入力） 4回 CADによるペーパーカーの製作 部品図の完成とケント紙にプリント出力して切り抜き組み立てる 5回 ペーパーカーレース（学院祭（KVA祭）に授業として参加、作品展示とレース） 6回 つくるためのCAD（レース結果の評価より車の改良を考え最適化を行なう） 改良点の図面の変更 7回 CAD機能の効果的利用について実践を通して学ぶ 8回 CADによる図面の変更とペーパーカーの改善を通し最適化を行なう中でCAD利用のセンスを修得 9回 CADによるペーパーカーの製作の各自の設計コンセプトをまとめ、改善点を含め発表し意見交換の中でよりよいものへと発展させる 10回 ペーパーカーレース開催（最適化への確認と評価を図る） レースを介しての評価と最適化を推進し、図面として完成させる 11回 図面を介したコミュニケーションについて 12回 組立図の作成（寸法記入と画層管理）ペーパーカーの三面図の作成と作品の三次元CAD図面の作成 13回 課題：CAD操作法マニュアル「ペーパーカーの作り方」の作成 課題内容の説明の後、マニュアル作成のための構想と資料準備を行なう 14回 課題遂行とマニュアル作成のための説明図面の作成および資料の収集 15回 まとめインターネットの利用（CADデータとしての活用と作品の公開について考える）				
評 価 方 法	平常点50点、課題提出物50点				
テ キ ス ト	『図面の見方・描き方（四訂版）』真部富男著、工学図書、ISBN 978-4-7692-491-6				
参 考 文 献	『要説 機械製図（第3版）』大西清著、オーム社、ISBN 978-4-274-21724-1『図解Inventor実習 ゼロからわかる3次元CAD（第3版）』船倉一郎・堀桂太郎共著、森北出版、ISBN 978-4-627-66622-1				
備 考	秋につくば市の教育委員会の主催で開催される「つくば科学フェスティバル」に筑波学院大学からCADのクラスとして参加を予定しています。前期に学んだ「はがきでつくる紙飛行機」の図面を提供し、紙飛行機の作り方教室として子供達来場者に指導します。CADの楽しさ、素晴らしさを伝える社会貢献です。12月には中国の長春大学と筑波学院大学とをテレビ会議システムで結び中継によるペーパーカーレースを予定しています。授業				

授 業 科 目	e-ラーニング		担 当 教 員	松岡 東香	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・実習		単 位 数
学 期	後期	曜 日 時 限	火曜2時限		2単位 科目等履修 受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 ビジネスマネジメント[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 言語運用力, 情報スキル, マネジメントセンス				
履 修 条 件	日本語で書かれた資料を多数配布するので、留学生は日本語の読解力を身に付けている必要がある。				
授 業 概 要	eラーニングの企画・立案からシステムの運用に至るまでのプロセスや方法論を学び、eラーニングコンテンツの制作を担える知識と技術を習得する。なお、情報デザインに関連する分野については、文部科学省後援の情報検定「情報デザイン試験」を念頭に体系化して講義する。				
授業の到達目標	1. 情報デザインの基礎用語や調査・分析の手法について説明できる。2. eラーニングの形態や効果について説明できる。3. インストラクショナルデザインの意味やプロセスを説明できる。4. 教材開発の手順に従い、教材やテストを作成できる。				
授 業 計 画	1回 情報デザインの基礎①(デザインワークフロー) (予習:0分, 復習:30分) 2回 情報デザインの基礎②(情報収集と解釈) (予習:0分, 復習:30分) 3回 eラーニングとは何か(予習:0分, 復習:30分) 4回 eラーニングの形態(予習:0分, 復習:40分) 5回 eラーニングの事例研究(予習:0分, 復習:40分) 6回 インストラクショナルデザイン(ID)とは何か(予習:10分, 復習:30分) 7回 IDプロセス(予習:10分, 復習:30分) 8回 IDプロセスにおける「分析」(予習:10分, 復習:30分) 9回 IDプロセスにおける「設計」(予習:10分, 復習:30分) 10回 IDプロセスにおける「開発」(予習:10分, 復習:30分) 11回 IDプロセスにおける「実施」と「評価」(予習:10分, 復習:30分) 12回 教材作成①(イメージと設計手順)(予習:10分, 復習:30分) 13回 教材作成②(学習目標とテスト)(予習:10分, 復習:30分) 14回 教材作成③(課題分析)(予習:10分, 復習:30分) 15回 総括				
評 価 方 法	出席及び課題提出40点、期末テスト60点の配点で評価する。				
テ キ ス ト	重要事項を簡潔にまとめられるよう、穴埋め式のプリントを配布する。				
参 考 文 献	補助教材は授業の中で配付・配信する。				
備 考	ICカードリーダーを使って出欠を確認するので、受講する際は学生証を携帯すること。				

授 業 科 目	組込コンピューティング		担 当 教 員	高藤 清美	
授業ナンバリング		授 業 形 態	演習	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	水曜 4時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 情報システム[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格	上級情報処理士				
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神, 情報スキル				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	私たちの身の回りにはコンピュータを内蔵した装置や機器が数多くあります。これらの装置の多くは、コンピュータとしてマイクロプロセッサと呼ばれるLSI（大規模集積回路）を中心に構成され、電子回路の規模は小さくても普通のコンピュータと全く同じ概念を用いて構成されています。この授業では、マイクロプロセッサを用いたモデル装置を使いながら、コンピュータの仕組み、動作原理、メモリ回路の仕組み、周辺装置の仕組みなどについて学習します。				
授業の到達目標	コンピュータのハードウェアを直に操作することができる小型マイクロプロセッサ基板を用いて、コンピュータの動作原理、プログラムの仕組みなど体験的に理解する。さらに、計測や制御に関するハードウェアやソフトウェアについても体験的に理解する。到達目標は、マイクロプロセッサによる計測・制御の基本的なハードウェアとソフトウェアを理解し、基本的なプログラムの作成ができることである。				
授 業 計 画	1回 マイクロプロセッサのアーキテクチャ（復習1.5時間をする。） 2回 マイクロプロセッサを用いた小型マイクロプロセッサ基板のハードウェアの概要（予習1.5時間、復習1.5時間をする。） 3回 小型マイクロプロセッサ基板の製作（予習1.5時間、復習1.5時間をする。） 4回 小型マイクロプロセッサ基板の基本動作の確認（予習1.5時間、復習1.5時間をする。） 5回 マイクロプロセッサのプログラミングシステムの構築（予習1.5時間、復習1.5時間をする。） 6回 マイクロプロセッサのプログラミングの考え方（予習1.5時間、復習1.5時間をする。） 7回 マイクロプロセッサの基本動作（1）バイト出力・発光ダイオードの制御（1）（予習1.5時間、復習1.5時間をする。） 8回 マイクロプロセッサの基本動作（2）バイト入力・スイッチからのデータの読み込み（予習1.5時間、復習1.5時間をする。） 9回 マイクロプロセッサの基本動作（3）ビット出力・発光ダイオードの制御（予習1.5時間、復習1.5時間をする。） 10回 マイクロプロセッサの基本動作（4）ビット入力・スイッチからのデータの読み込み（予習1.5時間、復習1.5時間をする。） 11回 センサーとADコンバータ（1）ADコンバータから読み取ったデータの表示（予習1.5時間、復習1.5時間をする。） 12回 センサーとADコンバータ（2）ADコンバータから読み取ったデータを変換し表示（予習1.5時間、復習1.5時間をする。） 13回 割込み制御の考え方（予習1.5時間、復習1.5時間をする。） 14回 スイッチによる割込み（外部割込み）を利用したカウンタプログラムの製作（予習1.5時間、復習1.5時間をする。） 15回 タイマーによる割込みを利用したストップウォッチプログラムの製作（予習1.5時間、復習1.5時間をする。）				
評 価 方 法	授業への取組み状況、小テスト、レポート、期末試験などの結果を総合的に判断し評価する				
テ キ ス ト	プリントを使用する予定。状況によりテキストを指定することがある。				
参 考 文 献	「試しながら学ぶAVR入門」土井滋貴著（CQ出版社）、「組み込みソフトウェア開発スタートアップ」デザインウェーブマガジン編集部編（CQ出版社）、「組み込みソフトウェア開発入門」星野香保子・並木秀明共著（技術評論社）など。				
備 考	特になし				

授 業 科 目	フィジカルコンピューティング1		担 当 教 員	高藤 清美	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	水曜2時限		科目等履修 受入可
科 目 区 分	専門基礎科目群 情報システム[2014年度以降入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神, 情報スキル				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	目的に応じたマイクロプロセッサによる制御プログラムの作成法を学ぶ。マイクロプロセッサを搭載したモデル装置 (Arduino互換ボード) を用い、基本的なデジタル入出力プログラム、アナログ入出力プログラミング、各種の周辺装置の制御プログラムなどを例題として取り上げ、基本的なセンサーやアクチュエータを用いて、これらを制御するためのプログラムを作成しながら各種のプログラミング手法を講義する。なお、授業で使用するモデル装置 (Arduino互換ボード) は各自が組み立てる。				
授業の到達目標	代表的なフィジカルコンピューティングのプラットフォームArduinoを用いて、様々なセンサーやアクチュエータの基本的な制御方法を習得する。センサーやアクチュエータの基本的な構成やマイクロプロセッサとのインターフェースを理解する。				
授 業 計 画	1回 フィジカルコンピューティングの考えおよび代表的なフィジカルコンピューティング用プラットフォームArduinoについて (復習1.5時間をする事。) 2回 Arduino互換ボードの製作 (1) ボードの組み立て (予習1.5時間、復習1.5時間をする事。) 3回 Arduino互換ボードの製作 (2) ボードの完成とテスト (予習1.5時間、復習1.5時間をする事。) 4回 Arduino言語を用いたプログラミング (予習1.5時間、復習1.5時間をする事。) 5回 プログラミング実験に用いる電子部品・電子回路 (予習1.5時間、復習1.5時間をする事。) 6回 発光ダイオードを用いた出力制御 (予習1.5時間、復習1.5時間をする事。) 7回 スイッチを用いた入力制御 (予習1.5時間、復習1.5時間をする事。) 8回 複数のLEDを用いた出力制御 (予習1.5時間、復習1.5時間をする事。) 9回 センサー入力の取り扱い (予習1.5時間、復習1.5時間をする事。) 10回 センサー入力と連動した出力制御 (予習1.5時間、復習1.5時間をする事。) 11回 パルス幅変調 (PWM) による電力制御プログラム (予習1.5時間、復習1.5時間をする事。) 12回 パソコンとの連動 (予習1.5時間、復習1.5時間をする事。) 13回 温度センサーを用いた計測 (予習1.5時間、復習1.5時間をする事。) 14回 光センサーを用いた計測 (予習1.5時間、復習1.5時間をする事。) 15回 圧電 (ピエゾ) スピーカを用いた音楽演奏 (予習1.5時間、復習1.5時間をする事。) 				
評 価 方 法	授業への取組み状況、小テスト、レポートなどの結果を総合的に判断し評価する				
テ キ ス ト	「Arduinoをはじめよう (第3版)」Massimo Banzi・Michael Shiloh 著、船田 巧 訳 (オライリー・ジャパン) を使用する予定。				
参 考 文 献	「試しながら学ぶAVR入門」土井滋貴著 (CQ出版社)、「組み込みソフトウェア開発スタートアップ」デザインウェーブマガジン編集部編 (CQ出版社)、「組み込みソフトウェア開発入門」星野香保子・並木秀明共著 (技術評論社) など。				
備 考	特になし				

授 業 科 目	フィジカルコンピューティング2	担 当 教 員	高藤 清美
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義
学 期	後期	曜 日 時 限	水曜2時限
科 目 区 分	専門基礎科目群 情報システム[2014年度以降入学生]		
対 象 資 格			
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神, 情報スキル, マネジメントセンス		
履 修 条 件	「フィジカルコンピューティング1」を履修していること (なお、2013年度以前の入学生は「組込コンピューティングB」を履修していること)		
授 業 概 要	前期に開講する「フィジカルコンピューティング1」の内容を更に発展させる。目的に応じたマイクロプロセッサによる制御プログラムの作成法を学ぶ。マイクロプロセッサを搭載したモデル装置 (Arduino互換ボード) を用い、複数のセンサーやアクチュエータを組み込んだシステムを例に、複合的な要素を持つコンピュータシステムの計測制御の考え方を実例を用いながら修得する。		
授業の到達目標	前期に開講する「フィジカルコンピューティング1」の内容を更に発展させる。代表的なフィジカルコンピューティングのプラットフォームArduinoを用いて、様々なセンサーやアクチュエータの基本的な制御方法を習得する。更に複数のセンサーやアクチュエータを用いて複雑なシステムを構築しながら、実際の計測制御についての知識、技能を修得する。		
授 業 計 画	1回 前期の「フィジカルコンピューティング1」を振り返る (復習1.5時間をする事) 2回 計測制御に使用される様々なセンサーの制御法 (1) (予習1.5時間、復習1.5時間をする事) 3回 計測制御に使用される様々なセンサーの制御法 (2) (予習1.5時間、復習1.5時間をする事) 4回 LCD表示装置の制御法 (予習1.5時間、復習1.5時間をする事) 5回 代表的なアクチュエータの仕組みと制御法について (予習1.5時間、復習1.5時間をする事) 6回 直流モータの制御法 (1) (予習1.5時間、復習1.5時間をする事) 7回 直流モータの制御法 (2) (予習1.5時間、復習1.5時間をする事) 8回 ステッピングモータの制御法 (1) (予習1.5時間、復習1.5時間をする事) 9回 ステッピングモータの制御法 (2) (予習1.5時間、復習1.5時間をする事) 10回 サーボモータの制御法 (1) (予習1.5時間、復習1.5時間をする事) 11回 サーボモータの制御法 (2) (予習1.5時間、復習1.5時間をする事) 12回 自動装置の設計・製作 (1) (予習1.5時間、復習1.5時間をする事) 13回 自動装置の設計・製作 (2) (予習1.5時間、復習1.5時間をする事) 14回 自動装置の設計・製作 (3) (予習1.5時間、復習1.5時間をする事) 15回 自動装置のデモンストレーションと評価および授業のまとめ (予習1.5時間、復習1.5時間をする事)		
評 価 方 法	授業への取り組み状況、小テスト、レポートなどの結果を総合的に判断し評価する		
テ キ ス ト	「Arduinoをはじめよう (第2版)」Massimo Banzi 著、船田 巧 訳 (オライリー・ジャパン) を使用する予定。		
参 考 文 献	「試しながら学ぶAVR入門」土井滋貴著 (CQ出版社)、「組み込みソフトウェア開発スタートアップ」デザインウェーブマガジン編集部編 (CQ出版社)、「組み込みソフトウェア開発入門」星野香保子・並木秀明共著 (技術評論社) など。		
備 考	特になし		

授 業 科 目	博物館概論		担 当 教 員	榎 陽介	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	木曜1時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	進路支援科目群 資格科目(学芸員資格科目)				
対 象 資 格	学芸員				
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力, ローカル・グローバルセンス				
履 修 条 件	博物館学芸員の資格を取得したい方、「博物館」という施設が、どういう機能を持ち、どのように運営され、どのような活動をしているかに興味がある人。				
授 業 概 要	博物館とはどういうところか。その歴史、機能、現在などを学ぶ。博物館が主として取り扱う資料については映像を利用し、視覚的にも把握できるようにする。さらに、災害と博物館についても学ぶ。				
授業の到達目標	いわゆる「博物館」とはどのようなものであるかを理解し、かつ、博物館の多様なあり方や、具体的な活動の概要を知ることにより、今後の他の博物館関係の授業の基礎となる知識を身に着ける。				
授 業 計 画	<p>1回 はじめに：博物館とはどういうところか 博物館についての受講生の経験や考えを聞き、その後、博物館と呼ばれるものは具体的にどのようなものを指すのかについて考えてみる。</p> <p>2回 博物館の歴史：ヨーロッパとアメリカ 「博物館」的な施設についてその起源と展開を欧米の事例で考える。</p> <p>3回 博物館の歴史：日本の博物館史 日本において博物館が登場するのは近代になってからであるが、それ以前の展開も視野にいれて、モノを収集・保管し、展示するという博物館的な考えや働きの流れを学ぶ。</p> <p>4回 博物館の諸機能：博物館は多様な活動をしている。実際にはどういう役割や働きがあるか、また博物館が果たすべき機能にはどういうものがあるかについて考える。</p> <p>5回 映像で見る博物館：県立博物館 公立博物館のうち、ある程度の規模を持つ博物館である、県立クラスの博物館の表と裏を撮影したビデオを見ながら博物館の施設の実際を学ぶ。</p> <p>6回 映像で見る博物館：市立博物館 公立博物館のうち、学芸員が数人規模(10人以下)の市立博物館2館の展示施設をビデオを見ながら学ぶ。</p> <p>7回 博物館ができるまで：ある県立博物館のできるまで 博物館を計画し、それが実際に形になって開館に至るまでをたどってみる。博物館は展示業者に発注するだけではできないことを、その具体的な準備作業の流れを中心に考える。</p> <p>8回 映像で見る資料の取り扱い1 資料は適切な取り扱いが必要である。とくに美術工芸品については多くの約束事がある。資料の取り扱い方法を映像をみることによりその概略を学ぶ。</p> <p>9回 映像で見る資料の取り扱い2 前回の続き</p> <p>10回 資料の保存：どうやって資料を守るか 虫、光、湿度、湿度、化学物質など、適切な管理を怠ると貴重な収蔵資料を危険にさらすことになる。どうやってさまざまな脅威から資料を守るかを考える。</p> <p>11回 博物館における調査研究・教育普及 博物館において「研究」はどうあるべきか。また近年いよいよ重要性をましている普及活動の傾向はどういうところにあるかを学ぶ。</p> <p>12回 博物館と法律：博物館法を学ぶ 日本の博物館についての法律「博物館法」を読む。法律は無味乾燥なものと思われがちだが、実はきちんと読むといろんなことが理解できる。</p> <p>13回 災害と博物館 2011年の東日本大震災ではとくに博物館や文化財の被害と救出について大きく報道された。災害に際しての博物館の活動や役割について考える。</p> <p>14回 展示図録を読む 展覧会に際し刊行される展示図録を読んでみよう。普通はなかなか手に取ることがないかもしれない。この機会にじっくりと展示図録と向き合ってみよう。</p> <p>15回 これからの博物館 博物館の今後の姿を考えてみる。時代の変化の中で、博物館がなすべきことも併せて考えてみたい。</p>				
評 価 方 法	授業への出席、授業中に行うミニレポート、加えて授業終了後のレポートで評価する。				
テ キ ス ト	とくに使用しないが、必要な資料は授業中に適宜配布する。				
参 考 文 献	授業中に随時紹介する。				
備 考					

授 業 科 目	日本の文化と歴史		担 当 教 員	坂本 要	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	水曜3時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	進路支援科目群 資格科目（学芸員資格科目）				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力, ローカル・グローバルセンス				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	日本文化と仏教美術今年度は日本の仏教文化を中心に文化を講ずる。中国と日本の仏教を概説し、仏像・仏教絵画・庭園、茶道などもっとも日本的文化とされていることを仏教との関連で広く他の文化と比較しながらの仏教の影響を考える。				
授業の到達目標	文化的な知識を養う。日本の歴史や文化を深く、多角的にとらえられるようにする。一般的な教養を深めるとともに、博物館学芸員資格の関連科目として設定されている。【ローカル・グローバルセンス】難しい用語が多いので授業後、辞書をひくなどの確認が必要です。				
授 業 計 画	1回 仏教史概説（仏教の発生） 2回 仏教文化史（インド）仏像の発生 3回 仏教文化史（西域・中国）仏像の変遷 4回 日本の仏教の特徴 5回 日本の仏教美術 6回 飛鳥・奈良文化と仏像 7回 平安時代の文化1 仏像 8回 平安時代の文化2 文学と美術 9回 平安時代3 仏教儀礼と音楽 10回 民衆仏教の世界 11回 鎌倉時代の仏像 12回 室町時代の文化1 禅宗 13回 室町時代の文化2 庭 14回 室町時代の文化3 芸能 15回 日本人の信仰と仏教				
評 価 方 法	チェックプリント、論文レポート				
テ キ ス ト	プリント他ヴィジュアル素材を多く使用する。				
参 考 文 献	プリントで指示				
備 考	専門的なことに基づるので日本史の基礎的知識を必要とする。【資格対象科目：観光ビジネス実務士】【博物館学芸員資格】				

授 業 科 目	ヨーロッパの文化と歴史		担 当 教 員	小松 進	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	火曜 4時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	進路支援科目群 資格科目（学芸員資格科目）、学芸員科目				
対 象 資 格	学芸員				
キ ー ワ ー ド	ローカル・グローバルセンス				
履 修 条 件	ヨーロッパに関心を持っていること。				
授 業 概 要	本講義ではドイツとスペインの歴史と文化を扱う。ドイツはヨーロッパ大陸の中央に位置しているがゆえにヨーロッパ全体の歴史を絶えず左右する存在であり続け、今日においてもフランスと並ぶEUの中核国家であり、しかも東西冷戦の終結によってさらにその存在に重みを加えつつある。一方、スペインは過去に長くイスラーム勢力による支配をこうむり、キリスト教徒とイスラーム教徒が対立と共存を繰り返した経験をもつ。今なお宗教的対立が国際紛争の火種になっている現代の国際社会において、スペインの経験は我々に貴重な教訓を提供してくれるであろう。				
授業の到達目標	ヨーロッパの各国史とその文化を学ぶことで、ヨーロッパの多様性に対する理解を深める。【ローカル・グローバルセンス】				
授 業 計 画	1回 ドイツ国家の成立 2回 中世ドイツ国家の展開（1） 3回 中世ドイツ国家の展開（2） 4回 中世ドイツ国家の展開（3） 5回 ドイツ国家の分解と東方植民 6回 宗教改革の意味 7回 ドイツ宗教改革運動の展開 8回 プロイセン絶対王政の展開 9回 プロイセン絶対王政の構造 10回 ローマ・西ゴート・イスラーム勢力のイベリア半島支配 11回 レコンキスタの展開 12回 スペイン国家の成立 13回 近世スペイン国家の没落 14回 近世スペインの社会・国家構造 15回 近世スペインの経済構造				
評 価 方 法	授業にのぞむ姿勢（とくに出席）と試験で評価する。				
テ キ ス ト	特に指定しない				
参 考 文 献	興味をおぼえた学生には、要望があればいつでも参考文献を紹介する。				
備 考					

授 業 科 目	コンピュータシステム		担 当 教 員	高藤 清美	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	4単位
学 期	通年	曜 日 時 限	木曜1時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門発展科目群（システム開発）[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神, 情報スキル, マネジメントセンス				
履 修 条 件	「フィジカルコンピューティング1・2」を履修していることが望ましい。何らかのコンピュータ言語によりプログラミングができること。以上に該当しない場合は、担当教員に面談し履修可能であるかどうか確認をすること。				
授 業 概 要	この授業では、計測・制御技術に関する内容を扱う。計測・制御は一般社会のコンピュータの活用方法としても重要なものの一つで、今や多くの機械・装置で計測・制御システムが稼働している。本授業では、標準的な計測・制御システムの動作方法や考え方といった基本的な事柄を学習するとともに、パーソナルコンピュータやマイクロプロセッサを用いた計測・制御システムの実験もおこなう。授業の前半ではプロトタイピングツールとして使いやすいプログラミング言語を用いて基本的なコンピュータシステムを理解する。授業の後半では、フィジカルコンピューティングの代表的なプラットフォームであるArduinoを用いて、パソコン上のプログラミングとArduinoボードとが連携したシステムの設計・製作にチャレンジする。				
授業の到達目標	2年次までの学習内容をもとに、自分の専門分野をさらに深めることを目標とする。また、問題を発見し、解決法を提案、実施する能力の修得を目標とする。				
授 業 計 画	<p>1回 コンピュータを用いた計測制御システムの考え方（復習1.5時間をする）</p> <p>2回 プロトタイピングツールとしてのプログラミング言語の活用 - アイディア（考え）を実現するためのツールを理解する -（予習1.5時間、復習1.5時間をする）</p> <p>3回 プロトタイピングツールとしてのプログラミング言語の活用 - 開発された情報システムの実例を調べる -（予習1.5時間、復習1.5時間をする）</p> <p>4回 計測制御システムのプログラミング（1）基本要素（予習1.5時間、復習1.5時間をする）</p> <p>5回 計測制御システムのプログラミング（2）データ構造（予習1.5時間、復習1.5時間をする）</p> <p>6回 計測制御システムのプログラミング（3）制御構造（予習1.5時間、復習1.5時間をする）</p> <p>7回 計測制御システムのプログラミング（4）イベントドリブン（予習1.5時間、復習1.5時間をする）</p> <p>8回 計測制御システムのプログラミング（5）基本的なライブラリ（予習1.5時間、復習1.5時間をする）</p> <p>9回 計測制御システムのプログラミング（6）応用ライブラリ（予習1.5時間、復習1.5時間をする）</p> <p>10回 アプリケーションプログラムの構想を立てる（予習1.5時間、復習1.5時間をする）</p> <p>11回 アプリケーションプログラムの要求定義（予習1.5時間、復習1.5時間をする）</p> <p>12回 アプリケーションプログラムの外部設計（予習1.5時間、復習1.5時間をする）</p> <p>13回 アプリケーションプログラムの内部設計（予習1.5時間、復習1.5時間をする）</p> <p>14回 アプリケーションプログラムのプログラミング（予習1.5時間、復習1.5時間をする）</p> <p>15回 アプリケーションプログラムのテストおよび評価（予習1.5時間、復習1.5時間をする）</p> <p>16回 マイクロプロセッサを用いた計測制御システム（予習1.5時間、復習1.5時間をする）</p> <p>17回 計測制御でのフィジカルコンピューティング技術の活用（予習1.5時間、復習1.5時間をする）</p> <p>18回 パソコンとマイクロプロセッサが連携した計測制御システム（予習1.5時間、復習1.5時間をする）</p> <p>19回 基本的な計測制御システムの構築（1）基本計画および概要設計（予習1.5時間、復習1.5時間をする）</p> <p>20回 基本的な計測制御システムの構築（2）詳細設計（予習1.5時間、復習1.5時間をする）</p> <p>21回 基本的な計測制御システムの構築（3）システム開発（予習1.5時間、復習1.5時間をする）</p> <p>22回 基本的な計測制御システムの構築（4）開発者によるテストと評価（予習1.5時間、復習1.5時間をする）</p> <p>23回 基本的な計測制御システムの構築（5）履修者による相互評価（予習1.5時間、復習1.5時間をする）</p> <p>24回 基本的な計測制御システムの構築（6）システムの変更指示の作成（予習1.5時間、復習1.5時間をする）</p>				
評 価 方 法	授業への取り組み状況、レポートを総合して判定				
テ キ ス ト	最初の授業の時に指示をする。				
参 考 文 献	「Processingをはじめよう」Casey Reas, Ben Fry 著、船田 巧 訳（オライリー・ジャパン）および「Arduinoをはじめよう（第3版）」Massimo Banzi・Michael Shiloh 著、船田 巧 著（オライリー・ジャパン）、「試しながら学ぶAVR入門」土井滋貴著（CQ出版社）、「組み込みソフトウェア開発スタートアップ」デザインウェアマガジン編集部編（CQ出版社）、「組み込みソフトウェア開発入門」星野香保子・並木秀明共著				
備 考	特になし				

授 業 科 目	観光ビジネス		担 当 教 員	小野澤 一ツグヤ、井桁 碧、大島 慎子	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	4単位
学 期	通年	曜 日 時 限	月曜2時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門発展科目群（経営経済）[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格	観光ビジネス実務士, 実践キャリア実務士				
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力, ローカル・グローバルセンス, 言語運用力				
履 修 条 件	観光関連の科目を2つ以上履修していることが望ましい。観光を産業として理解し、将来観光関連の仕事に就きたいと希望する学生を歓迎するが、地域振興に役立てる、また、異文化交流の仕事に就きたいなど、好奇心旺盛な学生を期待する。授業は日本語で行われるが、簡単な英語による授業が前期、後期とも1度ずつある。また、配布された資料や課題について1時間程度の予習、復習を行うことが望ましい。				
授 業 概 要	前期においては、観光関連産業の概要と、人間の観光行動を誘発するための様々なプロモーション活動を知ること、観光産業の基本である、交通手段（航空、鉄道）、宿泊手段（ホテル、旅館）観光パッケージをつくる旅行業等の基本と、各国の観光政策の概要を理解する。後期においては、観光が世界各国でどのような位置づけであるかの理解と、観光を産業として育成するために持続可能な観光とは何かを理解する。各授業毎に資料を配布し、パワーポイントで授業が行われる。毎回、前回の授業で履修した内容の復習の小レポートを15分ほど行うため、学生は資料を復習すること、また、予習としてはマスメディア上の観光関連記事を探して授業時に問題提起すること。観光関連の授業は、記憶することよりも情報を整理することと発信することが課題であり、試験は資料持ち込みを原則としている。観光関連の仕事に必要な時差の計算、パッケージ旅行の料金計算などの初級数学も習得。				
授業の到達目標	観光が産業として成立するために観光資源、観光産業、地域住民、情報発信の関連を理解し、授業においては、ローカルな問題意識、グローバルな視野を養いテーマ発表では問題発見能力と情報スキルを駆使したプレゼンテーションを行う。観光の知識のほかに、[ローカル・グローバルセンス][問題発見力][情報スキル]を習得することを目標としている。				
授 業 計 画	<p>1回 オリエンテーションと成績評価基準の説明。参考文献の説明 大島、井桁 小野澤 望月合同 観光は欧米では産業として確立し、「見えざる貿易」といわれるように、経済効果が重要視されている。日本においては、第二次世界大戦後の経済復興を製造業と輸出に頼り、観光は物見遊山といわれるように生産性は語られない時代が長かった。小泉政権の「観光立国宣言」以来の観光の変貌を学ぶ</p> <p>2回 観光ビジネスの起源と変遷（大島）余暇と時間、財が観光旅行に必要であり、観光の形態は、個人旅行、団体旅行、家族旅行等各種ある。観光とは何か、観光ビジネスはどのように発達したか、歴史背景、国内外の状況を解説</p> <p>3回 観光心理学と余暇（井桁）旅行に行きたいという消費者の心理、地域に観光客を招きたいという地元の心理、また、観光のパッケージ旅行をつくる業界の考え方は、心理学的な要素がある。また、旅行者は余暇があつてこそ観光旅行にでかける。労働と余暇の関係、余暇の考え方を解説する。</p> <p>4回 観光ビジネスの概要（大島）観光ビジネスを構成する、交通（移手段）、滞在地における宿泊産業、観光客を誘致する観光資源を解説し、地域が観光地として成立するための諸条件を考える。</p> <p>5回 旅行業の現状と方向性（望月）①旅行業とは何か②旅行業はなぜ必要か③旅行会社の業態・職種④旅行商品⑤ツアーコンダクター、などについて基礎的な知識を確認したうえで、旅行業と、その従事者が、今後の環境変化にどのように適応していかなければならないかを考察する。</p> <p>6回 航空業の現状と方向性（大島）航空業の歴史から各国の航空会社の状況、包括提携(アライアンス)による業界地図、格安航空会社(LCC)の戦略および各国の空港問題をふくみ、旅行業との関連性を学ぶ</p> <p>7回 鉄道事業の現状と方向性（大島）人間の行動範囲を飛躍的に広げた鉄道の発明、日本における鉄道の導入、日本独特の私鉄による土地開発と多角経営、鉄道利用の修学旅行等、鉄道が社会に与えた影響と観光との関連を学生と議論する。鉄道が開通したために過疎化した観光地の状況、リニアモーターカーによる影響を考え、移手段だけでなく観光鉄道として成功している事例を考える。</p> <p>8回 ホテル経営の現状と方向性（大島）ギリシャローマ時代の宿とホスピタリティの関係、および、グランドホテルの登場とビジネスホテルに関し、アメリカの商業ホテルを中心に解説。ホテルの種類、すなわちホテルのランクによる差別化、経営形態の違いによもの、立地による分け方を考える。日本独特である、ホテルの役割、すなわち宿泊そのものよりも宴会や、都市開発の中心となる事例を考え、観光業における役割を学ぶ。</p> <p>9回 旅館経営の現状と方向性 温泉等（大島）日本における旅館の歴史、旅館経営とホテル経営の違い、旅館における女将の役割、駅前旅館と温泉旅館の違い、旅行会社との連携等を事例とともに検証する。</p> <p>10回 観光と文化 観光資源（小野澤）観光資源の中で、文化資源を中心に日本国内、世界の文化資源で観光資源として大きな役割をもつ名所、旧跡を中心に話し合う。</p> <p>11回 テーマパークビジネス（大島）アメリカにおけるテーマパークの歴史、日本の遊園地、レジャーランドを経て、1999年に開業したTPIの経営戦略、USJの経営戦略と日本国内の他のテーマパークの状況を学ぶ</p>				
評 価 方 法	授業参加態度 毎授業での復習レポートの提出、夏休みの課題提出、試験、後期のプレゼンテーションの総合評価				
テ キ ス ト	授業毎に資料配布				
参 考 文 献	授業毎に指定				
備 考	夏休みの課題は、旅行体験レポート、日本旅行業協会が主催する旅行博（9月、入場券配布）の体験レポート、を例年提出する。期末には研究発表を行う。				

授 業 科 目	卒業研究		担 当 教 員	亀田 千里	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	4単位
学 期	通年	曜 日 時 限	集中科目	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門発展科目群 卒業研究				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神, ローカル・グローバルセンス, 言語運用力, 情報スキル, マネジメントセンス				
履 修 条 件	卒業研究着手のための必要要件を満たしていること				
授 業 概 要	現代日本語および日本語教育に関連する分野を扱う。日本語の文法現象、学習者と母語話者の日本語の比較、学習上の問題点など、各自が興味を持っている事柄について、具体的なデータをもとに分析する。1週間に1回ゼミを実施し、進捗状況の報告や討論などを行う他、必要に応じて個別指導を行う。履修生はゼミの前後ばかりでなく、継続的に研究に取り組むことが求められる。				
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの研究に関連のある先行研究を探し、正確に理解できること。 ・必要なデータを適切に収集し、分析できること。 ・論文において自らの主張を説得力を持って展開できること。 				
授 業 計 画	1回 オリエンテーション、スケジュールの確認 2回 構想発表1 質疑応答 3回 構想発表2 内容の修正 4回 先行研究の報告と検討1 5回 先行研究の報告と検討2 (第4回授業の続き) 6回 先行研究の報告と検討3 (第5回授業の続き) 7回 調査方法の検討 8回 予備調査の準備1: 質問紙の作成と検討 9回 予備調査の準備2: 質問紙の修正 10回 予備調査 11回 予備調査の結果の分析と検討 12回 本調査の準備1: 質問紙の作成と検討 13回 本調査の準備2: 質問紙の修正 14回 本調査 15回 前期のまとめ、夏休み中の研究計画の発表 16回 後期オリエンテーション、夏休みの進捗状況の報告 17回 本調査の結果の分析と検討1 18回 本調査の結果の分析と検討2 (第17回授業の続き) 19回 本調査の結果の分析と検討3 (第18回授業の続き) 20回 論文執筆1: 目次の作成 21回 論文執筆2: 本文の執筆と内容の検討 22回 論文執筆3: 本文の執筆と内容の検討 (第21回授業の続き) 23回 論文執筆4: 本文の執筆と内容の検討 (第22回授業の続き) 24回 論文執筆5: 本文の執筆と内容の検討 (第23回授業の続き) 25回 論文執筆6: 図表の確認 26回 論文執筆7: 推敲 27回 要旨の作成 28回 卒業研究発表会準備1: プレゼンテーション資料と原稿の作成 29回 卒業研究発表会準備2: プレゼンテーションの練習 30回 卒業研究発表会				
評 価 方 法	卒業研究の内容、論文執筆までの取り組み、ゼミでの活動状況、報告会でのプレゼンテーションなどを見て総合的に評価する。				
テ キ ス ト	各自の研究テーマに沿った文献を随時紹介する。				
参 考 文 献	各自の研究テーマに沿った文献を随時紹介する。				
備 考					

授 業 科 目	観光ビジネス1		担 当 教 員	小野澤 一ツグヤ、井桁 碧、入高 慎子	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	月曜2時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門発展科目群（経営経済）[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格	観光ビジネス実務士, 実践キャリア実務士				
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力, ローカル・グローバルセンス, 言語運用力				
履 修 条 件	観光関連の科目を2つ以上履修していることが望ましい。観光を産業として理解し、将来観光関連の仕事に就きたいと希望する学生を歓迎するが、地域振興に役立てる、また、異文化交流の仕事に就きたいなど、好奇心旺盛な学生を期待する。授業は日本語で行われるが、簡単な英語による授業が前期、後期とも1度ずつある。また、配布された資料や課題について1時間程度の予習、復習を行うことが望ましい。				
授 業 概 要	前期においては、観光関連産業の概要と、人間の観光行動を誘発するための様々なプロモーション活動を知ること、観光産業の基本である、交通手段（航空、鉄道）、宿泊手段（ホテル、旅館）観光パッケージをつくる旅行業等の基本と、各国の観光政策の概要を理解する。後期においては、観光が世界各国でどのような位置づけであるかの理解と、観光を産業として育成するために持続可能な観光とは何かを理解する。各授業毎に資料を配布し、パワーポイントで授業が行われる。毎回、前回の授業で履修した内容の復習の小レポートを15分ほど行うため、学生は資料を復習すること、また、予習としてはマスメディア上の観光関連記事を探して授業時に問題提起すること。観光関連の授業は、記憶することよりも情報を整理することと発信することが課題であり、試験は資料持ち込みを原則としている。観光関連の仕事に必要な時差の計算、パッケージ旅行の料金計算などの初級数学も習得。				
授業の到達目標	観光が産業として成立するために観光資源、観光産業、地域住民、情報発信の関連を理解し、授業においては、ローカルな問題意識、グローバルな視野を養いテーマ発表では問題発見能力と情報スキルを駆使したプレゼンテーションを行う。観光の知識のほかに、[ローカル・グローバルセンス][問題発見力][情報スキル]を習得することを目標としている。				
授 業 計 画	<p>1回 オリエンテーションと成績評価基準の説明。参考文献の説明 大島、井桁 小野沢 望月合同 観光は欧米では産業として確立し、「見えざる貿易」といわれるように、経済効果が重要視されている。日本においては、第二次世界大戦後の経済復興を製造業と輸出に頼り、観光は物見遊山といわれるように生産性は語られない時代が長かった。小泉政権の「観光立国宣言」以来の観光の変貌を学ぶ</p> <p>2回 観光ビジネスの起源と変遷（大島）余暇と時間、財が観光旅行に必要であり、観光の形態は、個人旅行、団体旅行、家族旅行等各種ある。観光とは何か、観光ビジネスはどのように発達したか、歴史背景、国内外の状況を解説</p> <p>3回 観光心理学と余暇（井桁）旅行に行きたいという消費者の心理、地域に観光客を招きたいという地元の心理、また、観光のパッケージ旅行をつくる業界の考え方は、心理学的な要素がある。また、旅行者は余暇があつてこそ観光旅行にでかける。労働と余暇の関係、余暇の考え方を解説する。</p> <p>4回 観光ビジネスの概要（大島）観光ビジネスを構成する、交通（移手段）、滞在地における宿泊産業、観光客を誘致する観光資源を解説し、地域が観光地として成立するための諸条件を考える。</p> <p>5回 旅行業の現状と方向性（望月）①旅行業とは何か②旅行業はなぜ必要か③旅行会社の業態・職種④旅行商品⑤ツアーコンダクター、などについて基礎的な知識を確認したうえで、旅行業と、その従事者が、今後の環境変化にどのように適応していかなければならないかを考察する。</p> <p>6回 航空業の現状と方向性（大島）航空業の歴史から各国の航空会社の状況、包括提携(アライアンス)による業界地図、格安航空会社(LCC)の戦略および各国の空港問題をふくみ、旅行業との関連性を学ぶ</p> <p>7回 鉄道事業の現状と方向性（大島）人間の行動範囲を飛躍的に広げた鉄道の発明、日本における鉄道の導入、日本独特の私鉄による土地開発と多角経営、鉄道利用の修学旅行等、鉄道が社会に与えた影響と観光との関連を学生と議論する。鉄道が開通したために過疎化した観光地の状況、リニアモーターカーによる影響を考え、移手段だけでなく観光鉄道として成功している事例を考える。</p> <p>8回 ホテル経営の現状と方向性（大島）ギリシャローマ時代の宿とホスピタリティの関係、および、グランドホテルの登場とビジネスホテルに関し、アメリカの商業ホテルを中心に解説。ホテルの種類、すなわちホテルのランクによる差別化、経営形態の違いによもの、立地による分け方を考える。日本独特である、ホテルの役割、すなわち宿泊そのものよりも宴会や、都市開発の中心となる事例を考え、観光業における役割を学ぶ。</p> <p>9回 旅館経営の現状と方向性 温泉等（大島）日本における旅館の歴史、旅館経営とホテル経営の違い、旅館における女将の役割、駅前旅館と温泉旅館の違い、旅行会社との連携等を事例とともに検証する。</p> <p>10回 観光と文化 観光資源（小野沢）観光資源の中で、文化資源を中心に日本国内、世界の文化資源で観光資源として大きな役割をもつ名所、旧跡を中心に話し合う。</p> <p>11回 テーマパークビジネス（大島）アメリカにおけるテーマパークの歴史、日本の遊園地、レジャーランドを経て、1999年に開業したTPIの経営戦略、USJの経営戦略と日本国内の他のテーマパークの状況を学ぶ</p>				
評 価 方 法	授業参加態度 毎授業での復習レポートの提出、夏休みの課題提出、試験、後期のプレゼンテーションの総合評価				
テ キ ス ト	授業毎に資料配布				
参 考 文 献	授業毎に指定				
備 考	夏休みの課題は、旅行体験レポート、日本旅行業協会が主催する旅行博（9月、入場券配布）の体験レポート、を例年提出する。期末には研究発表を行う。				

授 業 科 目	観光ビジネス2		担 当 教 員	小野澤 一ツグヤ、井桁 碧、入高 慎子	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	月曜2時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門発展科目群（経営経済）[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格	観光ビジネス実務士, 実践キャリア実務士				
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力, ローカル・グローバルセンス, 言語運用力				
履 修 条 件	観光関連の科目を2つ以上履修していることが望ましい。観光を産業として理解し、将来観光関連の仕事に就きたいと希望する学生を歓迎するが、地域振興に役立てる、また、異文化交流の仕事に就きたいなど、好奇心旺盛な学生を期待する。授業は日本語で行われるが、簡単な英語による授業が前期、後期とも1度ずつある。また、配布された資料や課題について1時間程度の予習、復習を行うことが望ましい。				
授 業 概 要	前期においては、観光関連産業の概要と、人間の観光行動を誘発するための様々なプロモーション活動を知ること、観光産業の基本である、交通手段（航空、鉄道）、宿泊手段（ホテル、旅館）観光パッケージをつくる旅行業等の基本と、各国の観光政策の概要を理解する。後期においては、観光が世界各国でどのような位置づけであるかの理解と、観光を産業として育成するために持続可能な観光とは何かを理解する。各授業毎に資料を配布し、パワーポイントで授業が行われる。毎回、前回の授業で履修した内容の復習の小レポートを15分ほど行うため、学生は資料を復習すること、また、予習としてはマスメディア上の観光関連記事を探して授業時に問題提起すること。観光関連の授業は、記憶することよりも情報を整理することと発信することが課題であり、試験は資料持ち込みを原則としている。観光関連の仕事に必要な時差の計算、パッケージ旅行の料金計算などの初級数学も習得。				
授業の到達目標	観光が産業として成立するために観光資源、観光産業、地域住民、情報発信の関連を理解し、授業においては、ローカルな問題意識、グローバルな視野を養いテーマ発表では問題発見能力と情報スキルを駆使したプレゼンテーションを行う。観光の知識のほかに、[ローカル・グローバルセンス][問題発見力][情報スキル]を習得することを目標としている。				
授 業 計 画	<p>1回 オリエンテーションと成績評価基準の説明。参考文献の説明 大島、井桁 小野沢 望月合同 観光は欧米では産業として確立し、「見えざる貿易」といわれるように、経済効果が重要視されている。日本においては、第二次世界大戦後の経済復興を製造業と輸出に頼り、観光は物見遊山といわれるように生産性は語られない時代が長かった。小泉政権の「観光立国宣言」以来の観光の変貌を学ぶ</p> <p>2回 観光ビジネスの起源と変遷（大島）余暇と時間、財が観光旅行に必要であり、観光の形態は、個人旅行、団体旅行、家族旅行等各種ある。観光とは何か、観光ビジネスはどのように発達したか、歴史背景、国内外の状況を解説</p> <p>3回 観光心理学と余暇（井桁）旅行に行きたいという消費者の心理、地域に観光客を招きたいという地元の心理、また、観光のパッケージ旅行をつくる業界の考え方は、心理学的な要素がある。また、旅行者は余暇があつてこそ観光旅行にでかける。労働と余暇の関係、余暇の考え方を解説する。</p> <p>4回 観光ビジネスの概要（大島）観光ビジネスを構成する、交通（移手段）、滞在地における宿泊産業、観光客を誘致する観光資源を解説し、地域が観光地として成立するための諸条件を考える。</p> <p>5回 旅行業の現状と方向性（望月）①旅行業とは何か②旅行業はなぜ必要か③旅行会社の業態・職種④旅行商品⑤ツアーコンダクター、などについて基礎的な知識を確認したうえで、旅行業と、その従事者が、今後の環境変化にどのように適応していかなければならないかを考察する。</p> <p>6回 航空業の現状と方向性（大島）航空業の歴史から各国の航空会社の状況、包括提携(アライアンス)による業界地図、格安航空会社(LCC)の戦略および各国の空港問題をふくみ、旅行業との関連性を学ぶ</p> <p>7回 鉄道事業の現状と方向性（大島）人間の行動範囲を飛躍的に広げた鉄道の発明、日本における鉄道の導入、日本独特の私鉄による土地開発と多角経営、鉄道利用の修学旅行等、鉄道が社会に与えた影響と観光との関連を学生と議論する。鉄道が開通したために過疎化した観光地の状況、リニアモーターカーによる影響を考え、移手段だけでなく観光鉄道として成功している事例を考える。</p> <p>8回 ホテル経営の現状と方向性（大島）ギリシャローマ時代の宿とホスピタリティの関係、および、グランドホテルの登場とビジネスホテルに関し、アメリカの商業ホテルを中心に解説。ホテルの種類、すなわちホテルのランクによる差別化、経営形態の違いによもの、立地による分け方を考える。日本独特である、ホテルの役割、すなわち宿泊そのものよりも宴会や、都市開発の中心となる事例を考え、観光業における役割を学ぶ。</p> <p>9回 旅館経営の現状と方向性 温泉等（大島）日本における旅館の歴史、旅館経営とホテル経営の違い、旅館における女将の役割、駅前旅館と温泉旅館の違い、旅行会社との連携等を事例ともに検証する。</p> <p>10回 観光と文化 観光資源（小野沢）観光資源の中で、文化資源を中心に日本国内、世界の文化資源で観光資源として大きな役割をもつ名所、旧跡を中心に話し合う。</p> <p>11回 テーマパークビジネス（大島）アメリカにおけるテーマパークの歴史、日本の遊園地、レジャーランドを経て、1999年に開業したTPIの経営戦略、USJの経営戦略と日本国内の他のテーマパークの状況を学ぶ</p>				
評 価 方 法	授業参加態度 毎授業での復習レポートの提出、夏休みの課題提出、試験、後期のプレゼンテーションの総合評価				
テ キ ス ト	授業毎に資料配布				
参 考 文 献	授業毎に指定				
備 考	夏休みの課題は、旅行体験レポート、日本旅行業協会が主催する旅行博（9月、入場券配布）の体験レポート、を例年提出する。期末には研究発表を行う。				

授 業 科 目	フィジカルコンピューティングの活用1	担 当 教 員	高藤 清美
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習
学 期	前期	曜 日 時 限	木曜1時限
単 位 数	2単位	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門発展科目群（システム開発）[2013年度以前入学生]		
対 象 資 格			
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神, 情報スキル, マネジメントセンス		
履 修 条 件	「フィジカルコンピューティング1・2」を履修していることが望ましい。何らかのコンピュータ言語によりプログラミングができること。以上に該当しない場合は、担当教員に面談し履修可能であるかどうか確認をすること。		
授 業 概 要	この授業では、計測・制御技術に関する内容を扱う。計測・制御は一般社会のコンピュータの活用方法としても重要なものの一つで、今や多くの機械・装置で計測・制御システムが稼動している。本授業では、標準的な計測・制御システムの動作方法や考え方といった基本的な事柄を学習するとともに、パーソナルコンピュータやマイクロプロセッサを用いた計測・制御システムの実験もおこなう。プロトタイピングツールとして使いやすいプログラミング言語を用いて基本的なコンピュータシステムを理解する。		
授業の到達目標	2年次までの学習内容をもとに、自分の専門分野をさらに深めることを目標とする。また、問題を発見し、解決法を提案、実施する能力の修得を目標とする。		
授 業 計 画	1回 コンピュータを用いた計測制御システムの考え方（復習1.5時間をする） 2回 プロトタイピングツールとしてのプログラミング言語の活用 - アイディア（考え）を実現するためのツールを理解する -（予習1.5時間、復習1.5時間をする） 3回 プロトタイピングツールとしてのプログラミング言語の活用 - 開発された情報システムの実例を調べる -（予習1.5時間、復習1.5時間をする） 4回 計測制御システムのプログラミング（1）基本要素（予習1.5時間、復習1.5時間をする） 5回 計測制御システムのプログラミング（2）データ構造（予習1.5時間、復習1.5時間をする） 6回 計測制御システムのプログラミング（3）制御構造（予習1.5時間、復習1.5時間をする） 7回 計測制御システムのプログラミング（4）イベントドリブン（予習1.5時間、復習1.5時間をする） 8回 計測制御システムのプログラミング（5）基本的なライブラリ（予習1.5時間、復習1.5時間をする） 9回 計測制御システムのプログラミング（6）応用ライブラリ（予習1.5時間、復習1.5時間をする） 10回 アプリケーションプログラムの構想を立てる（予習1.5時間、復習1.5時間をする） 11回 アプリケーションプログラムの要求定義（予習1.5時間、復習1.5時間をする） 12回 アプリケーションプログラムの外部設計（予習1.5時間、復習1.5時間をする） 13回 アプリケーションプログラムの内部設計（予習1.5時間、復習1.5時間をする） 14回 アプリケーションプログラムのプログラミング（予習1.5時間、復習1.5時間をする） 15回 アプリケーションプログラムのテストおよび評価（予習1.5時間、復習1.5時間をする）		
評 価 方 法	授業への取組み状況、レポートを総合して判定		
テ キ ス ト	最初の授業の時に指示をする。		
参 考 文 献	「Processingをはじめよう」Casey Reas, Ben Fry 著、船田 巧 訳（オライリー・ジャパン）および「Arduinoをはじめよう（第3版）」Massimo Banzi・Michael Shiloh 著、船田 巧 著（オライリー・ジャパン）、「試しながら学ぶAVR入門」土井滋貴著（CQ出版社）、「組み込みソフトウェア開発スタートアップ」デザインウェーブマガジン編集部編（CQ出版社）、「組み込みソフトウェア開発入門」星野香保子・並木秀明共著		
備 考	特になし		

授 業 科 目	フィジカルコンピューティングの活用2	担 当 教 員	高藤 清美
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習
学 期	前期	曜 日 時 限	木曜1時限
単 位 数	2単位	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	専門発展科目群（システム開発）[2013年度以前入学生]		
対 象 資 格			
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神, 情報スキル, マネジメントセンス		
履 修 条 件	「フィジカルコンピューティングの活用1」を履修していること。また、「フィジカルコンピューティング1・2」を履修していること、および何らかのコンピュータ言語によりプログラミングができることが望ましい。以上に該当しない場合は、担当教員に面談し履修可能かどうか確認をすること。		
授 業 概 要	この授業では、計測・制御技術に関する内容を扱う。計測・制御は一般社会のコンピュータの活用方法としても重要なものの一つで、今や多くの機械・装置で計測・制御システムが稼働している。本授業では、標準的な計測・制御システムの動作方法や考え方といった基本的な事柄を学習するとともに、パーソナルコンピュータやマイクロプロセッサを用いた計測・制御システムの実験もおこなう。「フィジカルコンピューティングの活用1」の内容を元にし、さらにフィジカルコンピューティングの代表的なプラットフォームであるArduinoを用いて、パソコン上のプログラミングとArduinoボードとが連携したシステム的设计・製作にチャレンジする。		
授業の到達目標	2年次までの学習内容をもとに、自分の専門分野をさらに深めることを目標とする。また、問題を発見し、解決法を提案、実施する能力の修得を目標とする。		
授 業 計 画	1回 マイクロプロセッサを用いた計測制御システム（予習1.5時間、復習1.5時間をする） 2回 計測制御でのフィジカルコンピューティング技術の活用（予習1.5時間、復習1.5時間をする） 3回 パソコンとマイクロプロセッサが連携した計測制御システム（予習1.5時間、復習1.5時間をする） 4回 基本的な計測制御システムの構築（1）基本計画および概要設計（予習1.5時間、復習1.5時間をする） 5回 基本的な計測制御システムの構築（2）詳細設計（予習1.5時間、復習1.5時間をする） 6回 基本的な計測制御システムの構築（3）システム開発（予習1.5時間、復習1.5時間をする） 7回 基本的な計測制御システムの構築（4）開発者によるテストと評価（予習1.5時間、復習1.5時間をする） 8回 基本的な計測制御システムの構築（5）履修者による相互評価（予習1.5時間、復習1.5時間をする） 9回 基本的な計測制御システムの構築（6）システムの改良指針の作成（予習1.5時間、復習1.5時間をする） 10回 実用的な計測制御システムの構築（1）基本的な計測制御システムの経験を踏まえた基本計画および概要設計（予習1.5時間、復習1.5時間をする） 11回 実用的な計測制御システムの構築（2）詳細設計（予習1.5時間、復習1.5時間をする） 12回 実用的な計測制御システムの構築（3）システム開発（予習1.5時間、復習1.5時間をする） 13回 実用的な計測制御システムの構築（4）開発者によるテストと評価（予習1.5時間、復習1.5時間をする） 14回 実用的な計測制御システムの構築（5）履修者による相互評価（予習1.5時間、復習1.5時間をする） 15回 まとめ		
評 価 方 法	授業への取組み状況、レポートを総合して判定		
テ キ ス ト	最初の授業の時に指示をする。		
参 考 文 献	「Processingをはじめよう」Casey Reas, Ben Fry 著、船田 巧 訳（オライリー・ジャパン）および「Arduinoをはじめよう（第3版）」Massimo Banzi・Michael Shiloh 著、船田 巧 著（オライリー・ジャパン）、「試しながら学ぶAVR入門」土井滋貴著（CQ出版社）、「組み込みソフトウェア開発スタートアップ」デザインウェアマガジン編集部編（CQ出版社）、「組み込みソフトウェア開発入門」星野香保子・並木秀明共著		
備 考	特になし		

授 業 科 目	キャリアデザインA BA・BB 2016年入学生	担 当 教 員	藤枝 玲子
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習
学 期	後期	曜 日 時 限	木曜2時限
科 目 区 分	進路支援科目群 キャリア形成[2014年度以降入学生]、進路支援科目群 キャリア形成科目[2013年度以前入学生]	単 位 数	2単位
対 象 資 格	上級ビジネス実務士、観光ビジネス実務士、実践キャリア実務士	科 目 等 履 修	受入可
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性、自己表現力/実行分析力、問題発見力/問題解決力、実行力/チャレンジ精神、ローカル・グローバルセンス、言語運用力、情報スキル、マネジメントセンス		
履 修 条 件	特に無し		
授 業 概 要	全員参加型の授業です。(講義20分、演習50分、振り返り・質疑応答20分)豊かな友人関係を築き、豊かな人生を送る生き方、考え方を学習して行きます。毎日の大学生活をどのように送るか・・が、事前・事後学習になります。具体的には、「自己理解」「仕事理解」「目標設定の仕方」「コミュニケーションの取り方」「グループディスカッション」「グループワーク」「ディベート」等を通じて、論理的に考える力を習得して行きます。		
授業の到達目標	自分の能力、適性について考え、「人生のキャリアプランを構築できる」ようにすること。また、時代の変化に対応できる「キャリアに対する理解と考え方ができる人材」になることを目標とする。		
授 業 計 画	<p>1回 ガイダンスキャリアデザインの目的と学習の流れ授業のルール・出欠のルールについて。「自己紹介」と「傾聴のスキル」習得・基本マナーの確認復習：クラスメイトの名前を憶え、自分から声をかけ、傾聴のスキルを実践してみる復習：傾聴の仕方を意識して毎日を過ごす</p> <p>2回 「キャリアデザイン概論」キャリアワークシート記入グループディスカッション後、発表復習：過去を振り返り、これからを考えてみる</p> <p>3回 「自己理解」・「自己分析」自分の強み、弱みを考える。ワークシート記入と発表。復習：日常生活を通して、自分の特性に気づき、考えを深めてみる</p> <p>4回 「大学生活の目標と計画設定」どんな大学生活を送りたいのか、クラスメイトと共有目標を設定し発表する。復習：目標を設定し、修正し、決定したら意欲的に行動に移すことを日々意識する</p> <p>5回 「職業理解」「企業研究」業界、業種研究をし、「働き方の多様性」・「将来の働き方」を考える。又、インターンシップの予定を立てる事前学習：課題・「職業人インタビュー」</p> <p>6回 「職業人インタビュー」・課題の発表グループになり、各自発表なぜその仕事に付き、どんな気持ちで働いているのか等、インタビューを通じて自分はどんな仕事に就くのかを考えるキッカケとする復習：インタビューして終わりではなく、自分のこれからは活かすことを考えてみる</p> <p>7回 「キャリアレインボー」「ライフイベント」「人生設計」を考える。目標の明確化。グループディスカッション。グループ発表。復習：将来のことを考えながら授業を受けてみる</p> <p>8回 「資格取得」について大学在学中に取得できる資格の確認。できること、したいことを明確にし、どうすれば良いのかを考える。ワークシート記入と発表。復習：資格取得条件を調べ、予定を立てる</p> <p>9回 ビジネスマナー習得基本的な礼儀作法と言葉使いについて復習：「挨拶」を極める。誰に対しても、誰に接しても、誰よりも早く挨拶をしてみることを実践する</p> <p>10回 「ストレスマネジメント」ストレス対策について。具体的に習得する復習：ストレスを貯めない、細目に発散する考え方を実践してみる</p> <p>11回 「ディベート」ミニ体験論理的思考とは何か。テーマに沿って肯定、否定の意見を戦わせる方法を学ぶ。復習：普段から、論理的に自分の考えを言えるように練習する</p> <p>12回 ビジネス実務・「インバスケッ」ツールバスケットミーティング」習得優先順位をつける力、リーダーシップ力、短時間で効率的なコミュニケーションを取る具体的な方法を習得する事前学習：本を読み要約し、プレゼンテーションの準備をする復習：まとめる力とは・・を考えて工夫する</p> <p>13回 「ピブリオバトル」体験(5分間発表・2分間質疑応答)本の紹介とプレゼンテーション各自、読んだ本を持参し紹介する復習：意識して本を選び、読んでみる。教養とは何かを考える。復習：意識して本を選び、読んでみる。教養とは何かを考える。</p> <p>14回 グループワーク与えられた課題を時間内に完成する。一つの目標に向かって完成する方法を習得する。また、グループワークを通して、協働性、意見を出し、まとめる力を習得する復習：グループワークを通して、協働性、意見を出し、まとめる力を習得する</p>		
評 価 方 法	授業に取り組む姿勢、積極性、質問する力、課題提出に取り組む姿勢等を評価します。テストは行いません。		
テ キ ス ト	必要に応じてプリントや資料を配布します。		
参 考 文 献	「大学 学びのことはじめ」「キャリア入門」「キャリアデザイン講座」「業界MAP」		
備 考	授業に参加し、一人でも多くの仲間を作って下さい。友人関係も広げて行きましょう。【資格対象科目：上級ビジネス実務士、観光ビジネス実務士】		

授 業 科 目	キャリアデザインA BA・BB 2016年入学生	担 当 教 員	藤枝 玲子
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習
学 期	後期	曜 日 時 限	木曜4時限
科 目 区 分	進路支援科目群 キャリア形成[2014年度以降入学生]、進路支援科目群 キャリア形成科目[2013年度以前入学生]	単 位 数	2単位
対 象 資 格	上級ビジネス実務士、観光ビジネス実務士、実践キャリア実務士	科 目 等 履 修	受入可
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性、自己表現力/実行分析力、問題発見力/問題解決力、実行力/チャレンジ精神、ローカル・グローバルセンス、言語運用力、情報スキル、マネジメントセンス		
履 修 条 件	特に無し		
授 業 概 要	全員参加型の授業です。(講義20分、演習50分、振り返り・質疑応答20分)豊かな友人関係を築き、豊かな人生を送る生き方、考え方を学習して行きます。毎日の大学生活をどのように送るか・・が、事前・事後学習になります。具体的には、「自己理解」「仕事理解」「目標設定の仕方」「コミュニケーションの取り方」「グループディスカッション」「グループワーク」「ディベート」等を通じて、論理的に考える力を習得して行きます。		
授業の到達目標	自分の能力、適性について考え、「人生のキャリアプランを構築できる」ようにすること。また、時代の変化に対応できる「キャリアに対する理解と考え方ができる人材」になることを目標とする。		
授 業 計 画	<p>1回 ガイダンスキャリアデザインの目的と学習の流れ授業のルール・出欠のルールについて。「自己紹介」と「傾聴のスキル」習得・基本マナーの確認復習：クラスメイトの名前を憶え、自分から声をかけ、傾聴のスキルを実践してみる復習：傾聴の仕方を意識して毎日を過ごす</p> <p>2回 「キャリアデザイン概論」キャリアワークシート記入グループディスカッション後、発表復習；過去を振り返り、これからを考えてみる復習：過去を振り返り、これからを考える</p> <p>3回 「自己理解」・「自己分析」自分の強み、弱みを考える。ワークシート記入と発表。復習：日常生活を通して、自分の特性に気づき、考えを深めてみる</p> <p>4回 「大学生活の目標と計画設定」どんな大学生活を送りたいのか、クラスメイトと共有目標を設定し発表する。復習：目標を設定し、修正し、決定したら意識的に行動に移すことを日々意識する復習：目標を設定し、修正し、決定したら意識的に行動に移すことを日々意識する</p> <p>5回 「職業理解」「企業研究」業界、業種研究をし、「働き方の多様性」・「将来の働き方」を考える。又、インターンシップの予定を立てる事前学習：課題・「職業人インタビュー」</p> <p>6回 「職業人インタビュー」・課題の発表グループになり、各自発表なぜその仕事に付き、どんな気持ちで働いているのか等、インタビューを通じて自分はどんな仕事に就くのかを考えるキッカケとする復習：インタビューして終わりではなく、自分のこれからは活かすことを考えてみる</p> <p>7回 「キャリアレインボー」「ライフイベント」「人生設計」を考える。目標の明確化。グループディスカッション。グループ発表。復習：将来のことを考えながら授業を受けてみる</p> <p>8回 「資格取得」について大学在学中に取得できる資格の確認。できること、したいことを明確にし、どうすれば良いのかを考える。ワークシート記入と発表。復習：資格取得条件を調べ、予定を立てる</p> <p>9回 ビジネスマナー習得基本的な礼儀作法と言葉使いについて復習：「挨拶」を極める。誰に対しても、誰に接しても、誰よりも早く挨拶をしてみることを実践する</p> <p>10回 「ストレスマネジメント」ストレス対策について。具体的に習得する復習：ストレスを貯めない、細目に発散する考え方を実践してみる</p> <p>11回 「ディベート」ミニ体験的思考とは何か。テーマに沿って肯定、否定の意見を戦わせる方法を学ぶ。復習：普段から、論理的に自分の考えを言うように練習する</p> <p>12回 ビジネス実務・「インバケット」「ツールバックスミーティング」習得優先順位をつける力、リーダーシップ力、短時間で効率的なコミュニケーションを取る具体的な方法を習得する復習：まとめる力とは・・を考えて工夫する</p> <p>13回 「ビブリオバトル」体験(5分間発表・2分間質疑応答)本の紹介とプレゼンテーション各自、読んだ本を持参し紹介する復習：意識して本を選び、読んでみる。教養とは何かを考える</p> <p>14回 グループワーク与えられた課題を時間内に完成する。一つの目標に向かって完成する方法を習得する。工夫する力、協調性、意見する力、まとめる力を習得する復習：まとめる力、グループワーク、組織に属する力</p>		
評 価 方 法	授業に取り組む姿勢、積極性、質問する力、課題提出に取り組む姿勢等を評価します。pテストは行いません。		
テ キ ス ト	必要に応じてプリントや資料を配布します。		
参 考 文 献	「大学 学びのことはじめ」「キャリア入門」「キャリアデザイン講座」「業界MAP」		
備 考	授業に参加し、一人でも多くの仲間を作ってください。友人関係も広げて行きましょう。【資格対象科目：上級ビジネス実務士、観光ビジネス実務士】		

授 業 科 目	キャリアデザインA BA・BB 2015年入学生	担 当 教 員	藤枝 玲子
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習
学 期	前期	曜 日 時 限	木曜3時限
科 目 区 分	進路支援科目群 キャリア形成[2014年度以降入学生]、進路支援科目群 キャリア形成科目[2013年度以前入学生]	単 位 数	2単位
対 象 資 格	上級ビジネス実務士、観光ビジネス実務士、実践キャリア実務士	科 目 等 履 修	受入可
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性、自己表現力/実行分析力、問題発見力/問題解決力、実行力/チャレンジ精神、ローカル・グローバルセンス、言語運用力、情報スキル、マネジメントセンス		
履 修 条 件	特に無し		
授 業 概 要	全員参加型の授業です。豊かな友人関係を築き、豊かな人生を送る生き方、考え方を学習して行きます。毎日の大学生活をどのように送るか・・が、事前・事後学習になります。具体的には、「自己理解」「仕事理解」「目標設定の仕方」「コミュニケーションの取り方」「グループディスカッション」「グループワーク」「ディベート」等を通じて、論理的に考える力を習得していきます。		
授業の到達目標	自分の能力、適性について考え、「人生のキャリアプランを構築できる」ようにすること。また、時代の変化に対応できる「キャリアに対する理解と考え方ができる人材」になることを目標とする。		
授 業 計 画	<p>1回 ガイダンスキャリアデザインの目的と学習の流れ授業のルール・出欠のルールについて。「自己紹介」と「傾聴のスキル」習得・基本マナーの確認復習：クラスメイトの名前を憶え、自分から声をかけ、傾聴のスキルを実践してみる復習：傾聴の仕方を意識して毎日を過ごす</p> <p>2回 「キャリアデザイン概論」キャリアワークシート記入グループディスカッション後、発表復習：過去を振り返り、これからを考える</p> <p>3回 「自己理解」・「自己分析」自分の強み、弱みを考える。ワークシート記入と発表。復習：日常生活を通して、自分の特性に気づき、考えを深めてみる</p> <p>4回 「大学生活の目標と計画設定」どんな大学生活を送りたいのか、クラスメイトと共有目標を設定し発表する。復習：目標を設定し、修正し、決定したら意欲的に行動に移すことを日々意識する</p> <p>5回 「職業理解」「企業研究」業界、業種研究をし、「働き方の多様性」・「将来の働き方」を考える。又、インターンシップの予定を立てる事前学習：課題・「職業人インタビュー」</p> <p>6回 「職業人インタビュー」・課題の発表グループになり、各自発表なぜその仕事に付き、どんな気持ちで働いているのか等、インタビューを通じて自分はどんな仕事に就くのかを考えるキッカケとする復習：インタビューして終わりではなく、自分のこれからは活かすことを考えてみる</p> <p>7回 「キャリアレインボー」「ライフイベント」「人生設計」を考える。目標の明確化。グループディスカッション。グループ発表。復習：将来のことを考えながら授業を受けてみる</p> <p>8回 「資格取得」について大学在学中に取得できる資格の確認。できること、したいことを明確にし、どうすれば良いのかを考える。ワークシート記入と発表。復習：資格取得条件を調べ、予定を立てる</p> <p>9回 ビジネスマナー習得基本的な礼儀作法と言葉使いについて復習：「挨拶」を極める。誰に対しても、誰に接しても、誰よりも早く挨拶をしてみることを実践する</p> <p>10回 「ストレスマネジメント」ストレス対策について。具体的に習得する復習：ストレスを貯めない、細目に発散する考え方を実践してみる</p> <p>11回 「ディベート」ミニ体験的思考とは何か。テーマに沿って肯定、否定の意見を戦わせる方法を学ぶ。復習：普段から、論理的に自分の考えを言えるように練習する</p> <p>12回 ビジネス実務・「インバスケッド」「ツールバックスマィーティング」習得優先順位をつける力、リーダーシップ力、短時間で効率的なコミュニケーションを取る具体的な方法を習得する復習：まとめる力とは・を考えて工夫する</p> <p>13回 「ビブリオバトル」体験（5分間発表・2分間質疑応答）本の紹介とプレゼンテーション各自、読んだ本を持参し紹介する復習：意識して本を選び、読んでみる。教養とは何かを考える。</p> <p>14回 グループワーク与えられた課題を時間内に完成する。一つの目標に向かって完成する方法を習得する。工夫する力、協調性、意見する力、まとめる力を習得する復習：一人でも、グループでも、組織に属している「考える力」を磨く</p>		
評 価 方 法	授業に取り組む姿勢、積極性、質問する力、課題提出に取り組む姿勢等を評価します。テストは行いません。		
テ キ ス ト	必要に応じてプリントや資料を配布します。		
参 考 文 献	「大学 学びのことはじめ」「キャリア入門」「キャリアデザイン講座」「業界MAP」		
備 考	授業に参加し、一人でも多くの仲間を作ってください。授業に参加することが、就職対策にもなります。2年生から進路を考え、幅広い考え方や生き方を見つけていくことは、とても有意義なことだと思います。友人関係も広げて行きましょう。【資格対象科目：上級ビジネス実務士、観光ビジネス実務士】		

授 業 科 目	キャリアデザインA BC・BD 2015年入学生	担 当 教 員	藤枝 玲子
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習
学 期	前期	曜 日 時 限	木曜4時限
科 目 区 分	進路支援科目群 キャリア形成[2014年度以降入学生]、進路支援科目群 キャリア形成科目[2013年度以前入学生]	単 位 数	2単位
対 象 資 格	上級ビジネス実務士、観光ビジネス実務士、実践キャリア実務士	科 目 等 履 修	受入可
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性、自己表現力/実行分析力、問題発見力/問題解決力、実行力/チャレンジ精神、ローカル・グローバルセンス、言語運用力、情報スキル、マネジメントセンス		
履 修 条 件	特に無し		
授 業 概 要	全員参加型の授業です。(講義20分、演習50分、振り返り・質疑応答20分)豊かな友人関係を築き、豊かな人生を送る生き方、考え方を学習して行きます。毎日の大学生活をどのように送るか・・が、事前・事後学習になります。具体的には、「自己理解」「仕事理解」「目標設定の仕方」「コミュニケーションの取り方」「グループディスカッション」「グループワーク」「ディベート」等を通じて、論理的に考える力を習得していきます。		
授業の到達目標	自分の能力、適性について考え、「人生のキャリアプランを構築できる」ようにすること。また、時代の変化に対応できる「キャリアに対する理解と考え方ができる人材」になることを目標とする。		
授 業 計 画	<p>1回 ガイダンスキャリアデザインの目的と学習の流れ授業のルール・出欠のルールについて。「自己紹介」と「傾聴のスキル」習得・基本マナーの確認復習：クラスメイトの名前を覚え、自分から声をかけ、傾聴のスキルを実践してみる復習：傾聴の仕方を意識して毎日を過ごす</p> <p>2回 「キャリアデザイン概論」キャリアワークシート記入グループディスカッション後、発表復習：過去を振り返り、これからを考える</p> <p>3回 「自己理解」・「自己分析」自分の強み、弱みを考える。ワークシート記入と発表。復習：日常生活を通して、自分の特性に気づき、考えを深めてみる</p> <p>4回 「大学生活の目標と計画設定」どんな大学生活を送りたいのか、クラスメイトと共有目標を設定し発表する。復習：目標を設定し、修正し、決定したら意欲的に行動に移すことを日々意識する</p> <p>5回 「職業理解」「企業研究」業界、業種研究をし、「働き方の多様性」・「将来の働き方」を考える。又、インターンシップの予定を立てる事前学習：課題・「職業人インタビュー」</p> <p>6回 「職業人インタビュー」・課題の発表グループになり、各自発表なぜその仕事に付き、どんな気持ちで働いているのか等、インタビューを通じて自分はどんな仕事に就くのかを考えるキッカケとする復習：インタビューして終わりではなく、自分のこれからは活かすことを考えてみる</p> <p>7回 「キャリアレインボー」「ライフイベント」「人生設計」を考える。目標の明確化。グループディスカッション。グループ発表。復習：将来のことを考えながら授業を受けてみる</p> <p>8回 「資格取得」について大学在学中に取得できる資格の確認。できること、したいことを明確にし、どうすれば良いのかを考える。ワークシート記入と発表。復習：資格取得条件を調べ、予定を立てる</p> <p>9回 ビジネスマナー習得基本的な礼儀作法と言葉使いについて復習：「挨拶」を極める。誰に対しても、誰に接しても、誰よりも早く挨拶をしてみることを実践する</p> <p>10回 「ストレスマネジメント」ストレス対策について。具体的に習得する復習：ストレスを貯めない、細目に発散する考え方を実践してみる</p> <p>11回 「ディベート」ミニ体験的思考とは何か。テーマに沿って肯定、否定の意見を戦わせる方法を学ぶ。復習：普段から、論理的に自分の考えを言えるように練習する</p> <p>12回 ビジネス実務・「インバスケッド」「ツールバックスマィーティング」習得優先順位をつける力、リーダーシップ力、短時間で効率的なコミュニケーションを取る具体的な方法を習得する復習：まとめる力とは・を考えて工夫する</p> <p>13回 「ビブリオバトル」体験(5分間発表・2分間質疑応答)本の紹介とプレゼンテーション各自、読んだ本を持参し紹介する復習：意識して本を選び、読んでみる。教養とは何かを考える。</p> <p>14回 グループワーク与えられた課題を時間内に完成する。一つの目標に向かって完成する方法を習得する。工夫する力、協調性、意見する力、まとめる力を習得する復習：一人でも、グループでも、組織に属していても「考える力」を磨く</p>		
評 価 方 法	授業に取り組む姿勢、積極性、質問する力、課題提出に取り組む姿勢等を評価します。テストは行いません。		
テ キ ス ト	必要に応じてプリントや資料を配布します。		
参 考 文 献	「大学 学びのことはじめ」「キャリア入門」「キャリアデザイン講座」「業界MAP」		
備 考	授業に参加し、一人でも多くの仲間を作ってください。授業に参加することが、就職対策にもなります。2年生から進路を考え、幅広い考え方や生き方を見つけていくことは、とても有意義なことだと思います。友人関係も広げて行きましょう。【資格対象科目：上級ビジネス実務士、観光ビジネス実務士】		

授 業 科 目	キャリアデザインB	担 当 教 員	高藤 清美
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習
学 期	前期	曜 日 時 限	金曜1時限
科 目 区 分	進路支援科目群 キャリア形成[2014年度以降入学生]、進路支援科目群 キャリア形成科目[2013年度以前入学生]	単 位 数	2単位
対 象 資 格	上級ビジネス実務士, 観光ビジネス実務士, 実践キャリア実務士	科 目 等 履 修	受入可
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神, ローカル・グローバルセンス, 言語運用力, 情報スキル, マネジメントセンス		
履 修 条 件	「キャリアデザインA」を習得済みであることが望ましい。		
授 業 概 要	1. 具体的な今後のキャリアや進路を考える。また、幅広い知識を習得し自己理解を深め、自信を持って生きていく力をつける考え方や生き方を習得する。2. 様々なワークを通し、質問する力、意見交換等ができる力を習得する。3. ビジネススキルを実践的に取り入れ、社会に適応できる考え方を身につける。授業は、講義、個人作業、グループでの作業などを組み合わせて実施します。【事前事後学習内容】授業内で出される課題は事前事後学習のためのものです。必ず、取り組み、レポートとして提出すること。		
授業の到達目標	1. 「キャリアデザインA」で習得したコミュニケーション力に磨きをかけ、本授業の課題等で調べたり、考察した内容を「自分の言葉で伝える力」を身に付ける。2. 仕事に関する幅広い知識の習得する。3. コミュニケーション力や身に付けた知識を実践の場で活用できるようになる。		
授 業 計 画	<p>1回 授業のガイダンス・仕事をするこのの意味を理解する。キャリアデザインの考え方を理解する。</p> <p>2回 「将来設計」・自分の考えをまとめる。どのような人生を歩みたいか、時間的な要素を含めて、将来設計をする。さらに、お互いに発表し、自分の考えを相手に伝えるとともに、相手の考えを理解する。</p> <p>3回 「仕事を理解する(1)」・仕事の種類を把握する。それぞれの仕事の内容を理解する(1) 事務系、企画・管理系</p> <p>4回 「仕事を理解する(2)」それぞれの仕事の内容を理解する(2) 営業系、販売・サービス系、マーケティング・コンサルタント系</p> <p>5回 「仕事を理解する(3)」それぞれの仕事の内容を理解する(3) 技術系、クリエイター系</p> <p>6回 「仕事を理解する(4)」それぞれの仕事の内容を理解する(4) 金融系、公務員系、その他</p> <p>7回 「夢を語る(1)」・仕事を理解した上で、もう一度将来設計を見直し、自分のキャリアデザインにまとめ直す。</p> <p>8回 「夢を語る(2)」・各自のキャリアデザインの結果について、お互いに発表し、自分の考えを相手に伝えるとともに、相手の考えを理解する。</p> <p>9回 「業界を知る=業界研究の考え方を知る(1)」・仕事は様々な組織(企業)を中心に営まれています。これを業界と呼びます。業界の仕組みを理解するとともに、業界を構成する各企業の企業情報収集の仕方を習得し、企業分析、情報整理の仕方を習得する。さらに、各自の興味のある業界を選び、業界の概要をまとめる。</p> <p>10回 「業界を知る=業界研究の考え方を知る(2)」・前回の授業でまとめた、各自の興味のある業界について、お互いに発表し、幅広く、業界を理解する。</p> <p>11回 「自分をアピールする(1)」・キャリアデザインを実現するためには自分の考えをきちんと相手に伝える必要がある。考えの伝え方は、文書、口頭、自分の実践を通してなどいろいろ考えられるが、本授業では文書と口頭にしぼる。本時は、文書による方法の基礎となる、書く力を強化する。具体的には、テーマに沿って時間内にまとめる方法を習得する。(後日添削し返却)</p> <p>12回 「自分をアピールする(2)」・本時は、文書による方法の2回目として、就職活動では必須である履歴書の書き方と注意点を理解する。さらに、実際の就職活動を想定した履歴書の作成に取り組む。(後日添削し返却)</p> <p>13回 「自分をアピールする(3)」・本時は、口頭による方法を実践的に強化するために、ディベートの手法を使って、実践的な口頭表現を体験的に理解する。また、ディベートに必要な論理的思考力についても理解する。</p> <p>14回 「自分をアピールする(4)」・本時は、口頭による方法の2回目として、面接対策をおこなう。就職活動で必要とされるマナーや面接における受け答え方について理解する。本時は、面接のシミュレーションを各自でおこなう。面接の手順を理解し、自分自身で受け答えする方法を検討する。</p>		
評 価 方 法	授業に取り組む姿勢、積極性、質問する力、課題提出の内容を評価します。テストは実施しません。		
テ キ ス ト	最初の授業の時に指示をします。さらに、必要に応じてプリントや資料を配布します。		
参 考 文 献	授業中に紹介します。		
備 考	出会った人と意識してコミュニケーションを取り、一生懸命大学生活を送りましょう。この授業は、就職活動に踏み出す力をつけ、楽しみながらスキルアップして行く授業です。		

授 業 科 目	国際コミュニケーションの基礎		担 当 教 員	池口 セシリア	
授業ナンバリング		授 業 形 態	演 習	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	木曜2時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	進路支援科目群 英語コミュニケーション科目[2013年度以前入学生]				
対 象 資 格	上級情報処理士, 観光ビジネス実務士				
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, ローカル・グローバルセンス				
履 修 条 件	学生参加型の授業で授業への積極的な参加は必要				
授 業 概 要	コミュニケーション活動への積極的な参加活動力を養うための多くのエクササイズを行い、それらのエクササイズとその解説を通して異文化理解に必要な自己気づき、自文化・他文化に関する情報を学ぶ。				
授業の到達目標	私達の日常におけるコミュニケーションの基礎を学び、同一文化そして異文化背景の人とコミュニケーション活動へ積極的に参加できるように目標とする。				
授 業 計 画	1回 国際コミュニケーションとはなにか?なぜ国際コミュニケーションは必要か? 2回 コミュニケーションプロセスについて「コミュニケーションはどのように行われるか」新しい常識発見「私達の身近に新しい常識を気づきましょ」セルフチェックステップアップエクササイズ 3回 新しい常識発見「私達の身近に新しい常識を気づきましょ」セルフチェックステップアップエクササイズ 4回 ステレオタイプについて「ステレオタイプって悪いことですか?」セルフチェックステップアップエクササイズ 5回 異文化理解について「異文化理解への態度」セルフチェックステップアップエクササイズ 6回 文化について「氷山に例える文化」セルフチェックステップアップエクササイズ 7回 コミュニケーションスタイルについて「コンテクストと文化はどのような関係あるの」セルフチェックステップアップエクササイズ 8回 低いコンテクスト対高コンテクスト「黙っても相手に言いたいことは伝わる?」セルフチェックステップアップエクササイズ 9回 非言語コミュニケーションと文化(表情)「日本人の表情は控え目」セルフチェックステップアップエクササイズ 10回 非言語コミュニケーションについて(アイコンタクト)「目は口ほどにものを言う」セルフチェックステップアップエクササイズ 11回 非言語コミュニケーションについて(身振り・手振り言語)「なぜベトナム人はくびになったか」セルフチェックステップアップエクササイズ 12回 非言語コミュニケーションについて(対人距離)「近すぎると遠すぎる対人距離」セルフチェックステップアップエクササイズ 13回 非言語コミュニケーションについて(タッチング)「大切なコミュニケーションチャンネル」セルフチェックステップアップエクササイズ 14回 非言語コミュニケーションについて(時間の感覚)「なぜ日本人は時間を気にしすぎるの?」セルフチェックステップアップエクササイズ 15回 まとめてと評価				
評 価 方 法	毎回の授業時のチェックと、授業中に行う数回の quiz を基準にする。その他授業への参加・貢献度、と欠席・遅刻を考慮する				
テ キ ス ト	初授業に発表する				
参 考 文 献	未定				
備 考	【資格対象科目：上級情報処理士、上級ビジネス実務士、観光ビジネス実務士】				

授 業 科 目	博物館経営論		担 当 教 員	千葉 隆司	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	土曜2時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	進路支援科目群 資格科目(学芸員資格科目)				
対 象 資 格	学芸員				
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性,自己表現力/実行分析力,問題発見力/問題解決力,実行力/チャレンジ精神,情報スキル,マネジメントセンス				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	日本文化の形成と伝承の拠点としての役割に、大きな期待を寄せられている博物館。そうした市民ニーズにこたえる博物館をいかにして経営するか、そして魅力ある博物館と叫ばれる運営がされているか、博物館が持つ機能と具体的な事業を学習します。博物館の多大な可能性を知ること、今後の博物館見学が楽しくなると共に、今後の日本文化の伝承者の一人として活動してみましよう。				
授業の到達目標	日本文化の形成と伝承のために重要な役割をもつ博物館。博物館に関わる法令と現状での博物館経営を学び、博物館がいかなる経営をすべきか、いかなる経営が市民ニーズと合致するかを理解し、博物館学芸員として、あるいは有資格者として、日本文化の形成と継承において社会貢献できる人材を育成する。【社会貢献力】【市民理解力】				
授 業 計 画	<p>1回 博物館とはどのような施設か?博物館の種類や経営の目的、しくみなど博物館の基礎的な事柄を学びます。</p> <p>2回 博物館職員の役割、仕事内容、組織、博物館の仕事を支える外部の人々、組織などを学びます。</p> <p>3回 博物館資料の種類、その収集と整理法、また保存や調査研究などが博物館資料となるの基礎的な流れを学びます。</p> <p>4回 博物館の施設面(建物や敷地内の警備や防災など)の管理、保管資料(展示室、収蔵庫など)の管理状況を学びます。</p> <p>5回 博物館の常設展示室の経営理念、実際の展示法について学びます。</p> <p>6回 博物館の企画展・特別展の経営理念、実際の展覧会開催までの流れ、展示法について学びます。</p> <p>7回 博物館の教育普及事業の中心となる生涯学習としての講座の経営理念、開催に至るまでの流れ、その方法について学びます。</p> <p>8回 博物館の子供向けの教育普及事業である体験活動の経営理念、開催に至るまでの流れ、その方法について学びます。</p> <p>9回 博物館の出張事業や資料の貸し出しの目的、方法、実践例などを学びます</p> <p>10回 博物館に働く学芸員の後継者育成事業となる実習生の受け入れに関する考え方、方法、流れ、実践例などを学びます。</p> <p>11回 博物館を支える人々(友の会やボランティアなど)の関わり、協力体制の維持と管理、実践例などを学びます。</p> <p>12回 博物館経営の課題①として管理委託制度と指定管理者制度について学びます。</p> <p>13回 博物館経営の課題②として、これからの博物館の将来像を現代社会のあり方から学びます。</p> <p>14回 博物館経営のまとめ①として、博物館は誰のために、どのような経営をすべきかを学びます。</p> <p>15回 博物館経営のまとめ②として、組織と事業そして成果に対する評価を行い、より良い博物館経営を目指すための方法について学びます。</p>				
評 価 方 法	出席率とレポート提出。				
テ キ ス ト	毎回資料を配布します。				
参 考 文 献	概説『博物館学』芙蓉書房出版				
備 考					

授 業 科 目	教育心理学		担 当 教 員	佐野 司	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	金曜5時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	進路支援科目群 資格科目（教職に関する科目）				
対 象 資 格	中子仮教訓一種免許状（英語），高等子仮教訓一種免許状（英語），高等子仮教訓一種免許状（情報），日本語教員				
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力, 言語運用力				
履 修 条 件	特になし。				
授 業 概 要	教師に要求される技術は、子どもの年齢・教授する科目によって多岐にわたるが、それらすべてに共通する基礎知識として教育心理学がある。本講座では、教師が子どもにもものを教えるときに必要となる教育心理学の知見について概観する。子どもの学習とその発達に関する理論、授業や教授法に必要な基礎知識、学級運営や生徒指導を行うための子どもの内的側面の理解、学校不適応児や障害児の心理と支援活動について講義形式で授業を行なう。				
授業の到達目標	・教育心理学についての基本的知識を獲得する・仮説検証の方法論を知る・行動科学における実証データの測定方法と分析方法を知る・教員採用試験における教育心理学分野の問題を解答できるようになる				
授 業 計 画	1回 1 教育心理学とは 2回 2 学習・記憶のメカニズム 3回 3 発達過程の基礎 4回 4 認知・言語の発達 5回 5 動機づけ 6回 6 学習スタイルと指導法：どのように教えるか 7回 7 評価とテスト作成：どのように評価するか 8回 8 パーソナリティ 9回 9 社会性・道徳性 10回 10 学級集団（クラス）・教師と子どもの関係 11回 11 子どもの不適応（いじめ・不登校など） 12回 12 障害児の心理1：身体・知的障害 13回 13 障害児の心理2：自閉症・注意欠陥／多動性障害・学習障害 14回 14 障害児への特別支援教育 15回 15 テスト、テストの解答・解説				
評 価 方 法	テストにより評価する（資料の持込不可）				
テ キ ス ト	なし				
参 考 文 献	桜井茂男 編 『たのしく学べる 最新教育心理学』 図書文化佐藤泰正・海保博之・新井那二郎 編『教育心理学』 学芸図書				
備 考					

授 業 科 目	教育社会学		担 当 教 員	飯田 浩之	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	火曜5時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	教職科目				
対 象 資 格	中学校教諭一種免許状（英語），高等学校教諭一種免許状（英語），高等学校教諭一種免許状（情報）				
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力，ローカル・グローバルセンス，情報スキル				
履 修 条 件	1. 教員免許の取得を目指し，さらには，教職に就くことを希望していること。2. 教育と社会との関係，さらには現代社会の抱えている教育の問題や課題に，興味・関心を抱いていること。3. 授業は，講義だけでなく，テキストや資料と一緒に読み解いたりしながら，履修者にも発言を促す形で進める。形式的に授業に出席するのではなく，自ら，問題意識・課題意識をもって積極的に授業に参加することを期待する。事前にテキスト等を読んで授業に参加することも求めたい。4. 必要に応じて授業内容に関わる「参考資料」を授業のなかで読むこと。5. 必要に応じて授業内容に関わる「参考資料」を授業のなかで読むこと。				
授 業 概 要	教育社会学は，教育を社会事象としてみて，その機能や背景，構造を解明する学問である。本講義では，教育社会学の基礎的な概念や理論を学ぶと同時に，それを使いながら，学校教育を中心に，家族や地域における教育も含めて，教育がどのような仕組みのなかで行われ，その背景には何があり，さらに，それはどのような社会的なはたらきをしているのかを説明する。同時に，具体的な教育の営みや問題を取り上げて，討議等を通じて，実際にその考察・分析を試みる。また，教職に就いた場合，自身の教育実践も含めて，学校で行われている教育実践を見る見方について学習する。授業に出席するにあたり，事前に指定したテキストや資料を読み込み，予習しておくことを条件とする。予習時間については，内容に左右されるので，その都度，指定する。復習については，特に指示はしないが，テキストや資料の要点を自分なりにノートにまとめることを推奨する。				
授業の到達目標	1. 社会学の基礎的な概念と理論を理解し，説明できる。2. 社会において展開されている教育の営みやそこで生起している教育の問題について興味・関心をもつことができる。また，常に，その営みや問題に目を向け，関連する情報を収集しようとする構えであることができる。3. 社会的なもの（教育）の見方，考え方を身につけ，それをもって，実際の教育の営みがどのような社会的機能を果たしているか，どのように社会的に規定されているかを説明できる。4. 社会的なもの（教育）の見方，考え方で，実際の教育の営みの社会的な構造や過程を説明できる。5. 教職に就く者として，教員の仕事，学校の教育実践を対象化して見て，そのあり方について，考えることができる。6. 教職に就く者として，具体的な教育の問題，課題にどのように応えられるか，どのようにその問題・課題を解決・達成できるか，自身の見方や考え方を，構えを形作ることができる。				
授 業 計 画	1回 オリエンテーション：教育社会学とは何か/教育社会学を学ぶために 2回 社会的パースペクティブからみた教育と教育社会学：社会現象としての教育/教育の社会的被規定性・社会的過程・社会的構造/「教育の社会学 (sociology of education)」としての教育社会学 3回 社会の仕組みと教育：社会なるものの仕組み/社会と人間/社会と人間を結ぶもの/社会化，選別・配分，社会統制，正当化としての教育 4回 文化の諸相と教育：「型・形・方」としての文化/文化のなかの人間，人間のなかの文化/文化化としての教育 5回 学校教育制度の成立と展開(1)：学校教育の制度化と学校教育制度/近代学校の成立まで/近代学校の成立とその背景(1) 6回 学校教育制度の成立と展開(2)：近代学校の成立とその背景(2)/学校教育制度の発展 7回 現在の学校教育制度と学校・学校教育：今日の学校教育制度/今日の学校・学校教育/教育の改革と現代社会 8回 組織としての学校：フォーマル組織としての学校/学校の組織特性/教授・学習組織としての学校 9回 カリキュラムと教室：学校における文化伝達/カリキュラムと文化伝達/文化伝達の場としての授業と教室/授業の社会学 10回 児童・生徒と教員：集団としての学校/学校の文化/生徒集団と生徒文化/生徒・児童問題/教員の社会と文化/教員集団と教員文化 11回 家族と教育：近代家族としての家族/社会化の場としての家族/家族の変容，家族の現在/家族における教育の現在 12回 地域社会と地域の教育力：地域社会とは/社会化の場としての地域社会/地域の教育力/地域社会の変容/地域社会と地域の教育力の現在 13回 子ども・青少年の世界：青少年の下位文化-子ども文化，若者文化-/青少年の逸脱 14回 教育の機会と社会移動：教育による地位形成・地位達成/学歴と学歴社会/社会の格差と教育の格差/学力/貧困/ジェンダー/エスニシティ 15回 講義のまとめ：教育社会学を学ぶことの意義/教育実践と教育社会学/教育政策と教育社会学/日常生活のなかの教育社会学				
評 価 方 法	出席を前提に，授業への参加の度合い，レポートにより評価する。特に，授業への積極的な参加，レポートにおける自身の見方や考え方の展開を高く評価する。WEBや書籍等から，そのまま引き写したレポートは，レポートとして認めない。拙くても，専門的な知識に拠つつ自身の見方や考え方を練りに練って，それを自身の言葉で何とか表現しようとする構えや能力に着目して評価する。				
テ キ ス ト	有本章他編『教育社会学概論』ミネルヴァ書房，2010年				
参 考 文 献	参考文献は，授業のなかで紹介する。必要に応じて授業内容に関わる「参考資料」を，授業のなかで配布する。				
備 考	卒業に必要な単位には含まれません。				

授 業 科 目	情報科教育法 1		担 当 教 員	阿南 統久		
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習		単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	土曜 2 時限		科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	進路支援科目群 資格科目（教職に関する科目）					
対 象 資 格	高等学校教諭一種免許状（情報）					
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神, 言語運用力, 情報スキル					
履 修 条 件	来年度教育実習を行うために必要とされる教職関連単位を取得できる見込みがあること。					
授 業 概 要	教科「情報」の授業を行う上での基本的な考え方、学習指導案の作成方法など、授業を構成するための知識やスキルを身に付け、模擬授業を行い、教科「情報」の授業イメージを掴むことを目指す。毎回授業後に課題（学習指導案や模擬授業の準備等）が与えられる。期日までに仕上げ、その内容を授業中に発表することが課される。そのため課題は短時間で簡単に終わるものではない。					
授業の到達目標	来年度の教育実習に向けて、教科情報の授業が行える力をつける。特に、学習指導案の作成を通して、論理的に授業プランを考え、実行することで、問題発見力や問題解決力を身につける。					
授 業 計 画	1回 オリエンテーション 2回 教科「情報」の位置づけ 3回 学習指導案について 1 4回 学習指導案について 2 5回 学習指導案の作成 1 6回 学習指導案の作成 2 7回 模擬授業 1 8回 模擬授業 2 9回 評価について 1 10回 評価について 2 11回 学習指導案の作成 3 12回 模擬授業 3 13回 学習指導案の作成 4 14回 模擬授業 4 15回 まとめ					
評 価 方 法	授業への参加姿勢、課題・レポートによって総合的に評価する。試験ではなくレポートで評価する。					
テ キ ス ト	必要な資料は授業で配布する。					
参 考 文 献	高等学校学習指導要領解説情報編					
備 考	授業についての連絡等に電子メールを利用します。					

授 業 科 目	情報科教育法 2	担 当 教 員	阿南 統久
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習
学 期	後期	曜 日 時 限	土曜 2 時限
単 位 数	2 単位	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	進路支援科目群 資格科目（教職に関する科目）		
対 象 資 格	高等学校教諭一種免許状（情報）		
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 問題発見力/問題解決力, 実行力/チャレンジ精神, 言語運用力, 情報スキル		
履 修 条 件	「情報科教育法 1」を履修していること		
授 業 概 要	「情報科教育法 1」をベースにして、教科「情報」の授業を行うための実戦的なスキルを身に付けることを目指す。毎回授業後に課題（学習指導案や模擬授業の準備等）が与えられる。期日までに仕上げ、その内容を授業中に発表することが課される。そのため課題は短時間で簡単に終わるものではない。		
授業の到達目標	来年度行う教育実習において授業を行う上で、必要とされる総合力をつける。特に、模擬授業を通して、授業を受ける生徒を想定し、円滑なコミュニケーションがとれるような自己表現力を身につける。模擬授業を振り返ることで、自己分析力も鍛える。		
授 業 計 画	1回 オリエンテーション 2回 言語活動の意義 3回 言語活動を意識した学習指導案の作成 4回 言語活動を意識した模擬授業 5回 協働学習の意義 6回 協働学習を意識した学習指導案の作成 7回 協働学習を意識した模擬授業 8回 情報モラルに関する学習指導案の作成 9回 情報モラルに関する模擬授業 10回 情報の科学的な理解に関する学習指導案の作成 11回 情報の科学的な理解に関する模擬授業 12回 評価について 13回 教育実習に向けて 1 14回 教育実習に向けて 2 15回 まとめ		
評 価 方 法	授業への参加姿勢、課題・レポートによって総合的に評価する。試験ではなくレポートで評価する。		
テ キ ス ト	必要な資料は授業で配布する		
参 考 文 献	高等学校学習指導要領情報編		
備 考	授業についての連絡等に電子メールを利用する。		

授 業 科 目	情報教育概論		担 当 教 員	篠崎 健一	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	土曜1時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	進路支援科目群 資格科目（教職に関する科目）				
対 象 資 格	高等学校教諭一種免許状（情報）				
キ ー ワ ー ド	問題発見力/問題解決力, 情報スキル				
履 修 条 件	特になし。				
授 業 概 要	文部科学省が提唱する「情報化への対応」の中で、「コンピュータやインターネットを活用し、情報社会に主体的に対応できる「情報活用能力」を育成する。」としており、各学校では従来の「情報処理教育」を展開してきました。しかし、近年、インターネットの普及により様々な情報がシステム、企業そして国境を越えて流通するようになってきた現在、教育現場においてもネットワーク・映像メディアを統合した新分野へ対応した学校運営、教科指導ができる教員が求められています。そこで、本講座では現状を分析し、様々な情報ツールを活用し、情報収集・分析できる基礎的な実践力の定着を目指します。茨城県内の小中高校での現状についても研究する。				
授業の到達目標	（１）教科「情報」の設定された社会的背景、および必要性を理解する。（２）教科「情報」の教育目標を理解する。（３）教科「情報」の具体的な内容について説明ができるようにする。				
授 業 計 画	1回 オリエンテーション 2回 高等学校学習指導要領「情報」（普通教育）について 3回 新設教科「情報」における指導の在り方に関する研究 4回 日本の情報教育について考える（１） 5回 日本の情報教育について考える（２） 6回 茨城県の情報教育の現状について考える（１） 7回 茨城県の情報教育の現状について考える（２） 8回 茨城県の情報教育の現状について考える（３） 9回 高等学校学習指導要領「情報」（専門教育）について（１） 10回 高等学校学習指導要領「情報」（専門教育）について（２） 11回 教科指導 「コンピュータデザイン」, 「図形と画像の処理」, 「マルチメディア表現」のポイント(1) 12回 教科指導 「コンピュータデザイン」, 「図形と画像の処理」, 「マルチメディア表現」のポイント(2) 13回 情報教育と学校外活動（１） 14回 情報教育と学校外活動（２） 15回 研究発表・まとめ				
評 価 方 法	出席状況、授業への取り組み方、模擬授業の内容、レポートなどの結果を総合的に判断し評価する				
テ キ ス ト	なし				
参 考 文 献	高等学校学習指導要領解説 情報編、他				
備 考					

授 業 科 目	道徳教育	担 当 教 員	菊地 かおり
授 業 ナンバリング		授 業 形 態	単 位 数 2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	火曜2時限 科目等履修 受入可
科 目 区 分	進路支援科目群 資格科目(教職に関する科目)		
対 象 資 格	中学校教諭一種免許状(英語),高等学校教諭一種免許状(英語),高等学校教諭一種免許状(情報)		
キ ー ワ ー ド	自己表現力/実行分析力,問題発見力/問題解決力,実行力/チャレンジ精神,言語運用力		
履 修 条 件	特になし。		
授 業 概 要	この授業では、学校における道徳教育について多角的に検討し、これからの道徳教育のあり方について考察を深めることを目的とする。学校における道徳教育の法制度上の位置づけや歴史的経緯を確認し、諸外国の事例を参照することによって、道徳教育をめぐる議論及びその論点について検討する。また、学習指導案を作成し、実践者として授業を構想する力を身につける。		
授 業 の 到 達 目 標	①学習指導要領に示された道徳教育の内容について説明できる。／②学校における道徳教育の歴史的経緯を踏まえ、それをめぐる論点について理解できる。／③道徳教育について自分なりの考えをもつことができる。／④学習指導案を作成することができる。		
授 業 計 画	<p>1回 ガイダンス/道徳教育について考える……◆予習：これまで受けてきた道徳の授業を振り返っておく。◇復習：道徳をどのように学んできたのかを振り返る。</p> <p>2回 道徳教育の現状と課題……◆予習：文部科学省の道徳教育のHPに目を通しておく。◇復習：道徳の授業の課題を整理する。</p> <p>3回 教育基本法改正と学習指導要領改訂……◆予習：教育基本法に目を通しておく。◇復習：教育基本法改正と学習指導要領改訂との関係を押さえる。</p> <p>4回 学習指導要領にみる道徳教育……◆予習：『学習指導要領解説』〔第3章、付録〕に目を通しておく。◇復習：教育関係法令における道徳の位置づけを整理する。</p> <p>5回 道徳教育の目標……◆予習：『学習指導要領解説』〔第2章〕に目を通しておく。◇復習：道徳教育の目標について説明できる。</p> <p>6回 道徳の教科化をめぐる議論……◆予習：文部科学省の審議会情報のHPに目を通しておく。◇復習：道徳の教科化をめぐる論点について整理する。</p> <p>7回 道徳教育の歴史—教育勅語と修身……◆予習：教育勅語に目を通しておく。◇復習：戦前の道徳教育における教育勅語の影響を理解する。</p> <p>8回 道徳教育の歴史—戦前の教科書の検討……◆予習：戦前の教育について関心のある資料を読んでおく。◇復習：戦前の教科書の変遷を理解する。</p> <p>9回 道徳教育の歴史—特設道徳への転換……◆予習：『学習指導要領解説』〔第1章〕に目を通しておく。◇復習：これまでの学習内容について一通り復習する。</p> <p>10回 授業内小テスト/学習指導案の作成に向けて……◆予習：道徳の授業の構想を練り始めておく。◇復習：道徳の授業で使えるような素材を探す。</p> <p>11回 学習指導案作成のポイント……◆予習：『学習指導要領解説』〔第4章、第5章、第8章〕に目を通しておく。◇復習：授業の構想を具体化し始める。</p> <p>12回 道徳性の発達理論と道徳の授業理論……◆予習：『学習指導要領解説』〔第1章、第6章、第7章〕に目を通しておく。◇復習：どのような授業理論があるのかを調べる。</p> <p>13回 諸外国の道徳教育……◆予習：諸外国の教育事情について関心のある資料を読んでおく。◇復習：諸外国の道徳教育の特徴について整理する。</p> <p>14回 授業の構想発表—学習指導案の検討……◆予習：授業の構想をまとめておく。◇復習：学習指導案を改善する。</p> <p>15回 模擬授業……◆予習：学習指導案を完成させておく。◇復習：授業で学んだ内容について総括する。</p>		
評 価 方 法	授業内に行う小テスト、レポート課題、学習指導案の作成、授業への貢献をもとに総合的に評価する。ただし、出席日数が2/3に満たない場合は単位を認定しない。		
テ キ ス ト	文部科学省『中学校学習指導要領解説 道徳編』日本文教出版、2008年。／文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』文部科学省、2015年。		
参 考 文 献	松下良平『道徳教育はホントに道徳的か?：「生きづらさ」の背景を探る』日本図書センター、2011年。／福田弘、吉田武男編『道徳教育の理論と実践』協同出版、2013年。／文部科学省HP・道徳教育 (http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/index.htm)／その他、授業中に適宜紹介する。		
備 考	なぜ学校では道徳を教えるのでしょうか。この授業では、学校における道徳教育について、制度的・歴史的に、また他国における状況も踏まえつつ、多角的に検討していきます。また現在、道徳教育をめぐる何が論点となっているのか、一緒に考えていきたいと思えます。受講生のみなさんには知的好奇心をもった参加、授業中の積極的な発言を期待しています。		

授 業 科 目	視聴覚教育法		担 当 教 員	本田 敏明	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義	単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	集中科目	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	進路支援科目群 資格科目（教職に関する科目）				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 情報スキル				
履 修 条 件	実習を伴う集中講義であるので、必ず全出席すること。				
授 業 概 要	人間の五感に働きかけ、教育の最大限の効果を発揮しようとするのが視聴覚教育のねらいである。このような意図に着目した教育は16世紀の時代から始まっているが、今日では情報化社会の本格的な到来を迎え、視聴覚教育のあり方、したがって学校教育の授業のあり方も大きな変化を見せている。本講義では、このような視聴覚教育の変化を踏まえ、学校教育の授業内容・方法との関連で、今日求められる視聴覚教育について理解を深める。事前に「視聴覚教育」のキーワードで予習しておくこと。集中講義であるので、一日終了に指示する当日の復習を翌日までに実施しておくこと。				
授業の到達目標	視聴覚教育の定義を実例を通して理解できること。また、情報教育との異同を比較して、今日の視聴覚教育の特徴を理解し、視聴覚的なプレゼンテーションコンテンツの作成と利用ができること。（問題発見力/問題解決力）（情報スキル）				
授 業 計 画	1回 1 視聴覚教育とは何か 2回 2 視聴覚メディアとは何か 3回 3 視聴覚教育の歴史 4回 4 視聴覚教育と情報教育 5回 5 視聴覚メディアの実際—OHPからPPT— 6回 6 視聴覚メディアの実際—インターネット— 7回 7 視聴覚メディアとプレゼンテーション 8回 8 プレゼンテーション技法（1）情報の発信と受信 9回 9 プレゼンテーション技法（2）情報の加工とメディア 10回 10 プレゼンテーション実習 自己紹介をプレゼンテーション（ノート&メモ） 11回 11 プレゼンテーション実習 自己紹介をプレゼンテーション（PPT） 12回 12 プレゼンテーション実習 自己紹介をプレゼンテーション（PPT）スライド作成 13回 13 プレゼンテーション実習 自由課題をプレゼンテーション（PPT）スライド作成 14回 14 プレゼンテーション実習 自由課題をプレゼンテーション（PPT）プレゼンの仕方 15回 15 情報化社会と視聴覚教育—今後の課題—				
評 価 方 法	平常点30点、作品の提出30点、試験40点				
テ キ ス ト	講義時に指定する				
参 考 文 献	参考文献、参考インターネットウェブサイト等については講義中に紹介する。				
備 考	卒業に必要な単位には含まれません				

授 業 科 目	教育方法論		担 当 教 員	久保田 善彦	
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2単位
学 期	後期	曜 日 時 限	月曜5時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	進路支援科目群 資格科目（教職に関する科目）				
対 象 資 格					
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	構成主義の観点から、学びと教えを捉え直す。その捉えをベースに、学習者の学びを促進させる教育方法、評価方法を学ぶ。また、授業研究を通して授業の見方や指導方を学ぶとともに、学び続ける教師の意味について考察する。各回とも、活動や討論をしながら授業を進める。				
授業の到達目標	(1)学ぶことと教えることについて、構成主義の視点から理解し、説明できる。(2)思考の可視化、協同学習、ゲーム教材など、様々な学習方法を体験を通して、その教育的意義と手法を理解することができる。(3)学習をオーセンティックに評価する方法について理解し、説明できる。(4)ビデオによる授業参観と授業検討会を体験することで、授業研究の方法と意義を理解できる。				
授 業 計 画	1回 学ぶとは何か、教えるとは何か①(学習者の知識構造) 2回 学ぶとは何か、教えるとは何か②(学習者の既有概念と授業構成) 3回 学習における思考の可視化法①(外化の意味と概念地図法) 4回 学習における思考の可視化法②(運勢ライン法他) 5回 21世紀型学力(生きる力, キー・コンピテンシー, 21世紀スキル他) 6回 学習の評価①(評価の目的, ポートフォリオ評価) 7回 学習の評価②(パフォーマンス評価) 8回 協働学習の方法①(情報の共有とリフレクション) 9回 協働学習の方法②(ジグソー学習法) 10回 学習意欲とは(学習意欲の種類と教師の支援) 11回 学習ゲーム(ゲーム教材, ゲーミフィケーション他) 12回 授業研究①(指導案と授業) 13回 授業研究②(ワークショップ型授業研究) 14回 授業研究③(テクノロジーの活用および協働学習と個別学習) 15回 求められる教師の力量				
評 価 方 法	講義内容について、各回小テストを行う。				
テ キ ス ト	特に指定しない。				
参 考 文 献	講義内で適宜紹介する。				
備 考	第1回講義にて、授業の進め方および小テストの実施方法、評価方法について説明する。履修者は必ず出席すること。各回の授業において欠席する場合は、担当教員にメールにて連絡をすること。				

授 業 科 目	教育相談	担 当 教 員	佐野 司
授業ナンバリング		授 業 形 態	講義
学 期	前期	曜 日 時 限	金曜 5 時限
		単 位 数	2 単位
科 目 区 分	進路支援科目群 資格科目（教職に関する科目）		
対 象 資 格	中学校教諭一種免許状（英語），高等学校教諭一種免許状（英語），高等学校教諭一種免許状（情報）		
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 自己表現力/実行分析力, 問題発見力/問題解決力, 言語運用力		
履 修 条 件	2年次以降		
授 業 概 要	近年、学校教育の現場において児童生徒の心の問題に対する知識は必要不可欠なものとなっている。本講義では、教育相談の理論の学習を通して不登校、いじめ、非行などの教育相談の実際について考察を行う。また、理論だけでなく問題への対応やその発見、予防のための実習も行う。教育相談における児童生徒理解の重要性、また、支援する側の自己理解の重要性を認識できる講義としたい。		
授業の到達目標	学校教育の現場における教育相談の意義・役割を理解し、教育現場において問題となっている児童生徒の苦戦状況や不適応の状態についての理解と対応について、将来教員として職務を遂行する上で必要な知識と技能を身につける。		
授 業 計 画	1回 1 学校教育における教育相談とは① 2回 2 学校教育における教育相談とは② 3回 3 子どもの抱える問題の理解 4回 4 不登校 5回 5 非社会的行動 6回 6 いじめ 7回 7 非行・反社会的行動 8回 8 精神障害 9回 9 発達障害 10回 10 虐待 11回 11 子ども支援の方法①（カウンセリングの理論と技法） 12回 12 子ども支援の方法②（連携・協働・チーム援助） 13回 13 子ども援助の方法③（予防・開発的な教育相談） 14回 14 支援者の自己理解 15回 15 まとめ		
評 価 方 法	出席、授業への参加状況、課題提出		
テ キ ス ト	なし		
参 考 文 献	授業の中で紹介します		
備 考	卒業に必要な単位には含まれません		

授 業 科 目	情報科教材研究		担 当 教 員	篠崎 健一	
授業ナンバリング		授 業 形 態		単 位 数	2単位
学 期	前期	曜 日 時 限	土曜1時限	科 目 等 履 修	受入可
科 目 区 分	進路支援科目群 資格科目（教職に関する科目）				
対 象 資 格	高等学校教諭一種免許状（情報）				
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション能力/協調性, 問題発見力/問題解決力, 情報スキル				
履 修 条 件	特になし				
授 業 概 要	教材とは何かについて学び、特に「情報科」教育で使う具体的な教材の作成及び検討方法を学ぶ。高校現場で現在実際に使われている教材の事例を研究し、実際に、いくつかのテーマに従って教材開発(MSパワーポイント, MS VBA, MS PhotoStory)を体験する。茨城県内の小中高校での現状についても研究する。				
授業の到達目標	(1) 教材とは何かを理解する。(2) 普通教科「情報」で使用されている教材の具体的な内容について研究する。(3) 効果的かつ充実した教育実践を行うための「教材」を作成する。				
授 業 計 画	1回 オリエンテーション 2回 教材とは何かを概説し、教材をイメージする 3回 学習指導要領に従って教科「情報」のそれぞれの分野の目標と内容について復習する 4回 教科書や事例集を比較しながら教材研究1 5回 教科書や事例集を比較しながら教材研究2 6回 テーマを決め教材作成のための準備、設計 7回 各自決めたテーマに従い教材化1（教材作成） 8回 各自決めたテーマに従い教材化2（教材作成） 9回 各自決めたテーマに従い教材化3（教材作成） 10回 各自決めたテーマに従い教材化4（教材作成） 11回 各自の教材に関する報告書作成1 12回 各自の教材に関する報告書作成2 13回 教材発表会 14回 教材発表会 15回 まとめ				
評 価 方 法	出席状況、授業への取り組み方、模擬授業の内容、レポートなどの結果を総合的に判断し評価する				
テ キ ス ト	なし				
参 考 文 献	各種出版社の教科情報の教科書、高等学校学習指導要領解説 情報編、他				
備 考					